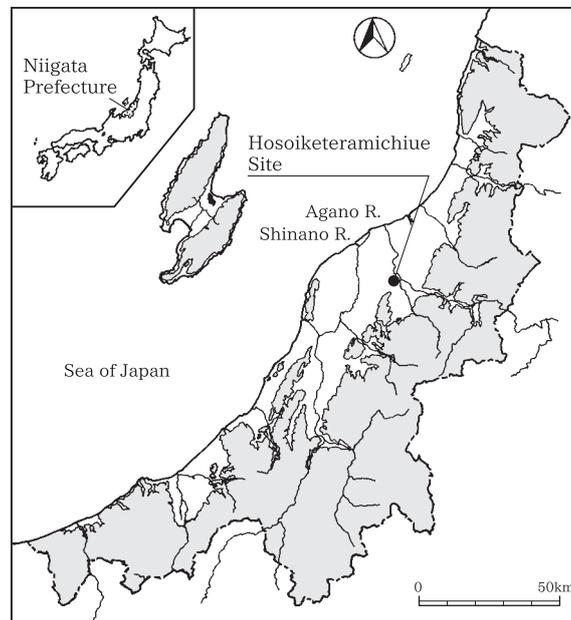


ほそ いけ てら みち うえ  
細池寺道上遺跡Ⅳ 第43次調査

— 市道大安寺第5号大関線改良工事に伴う細池寺道上遺跡第3次発掘調査報告書 —



2015

新潟市教育委員会

## 例 言

- 1 本書は新潟県新潟市秋葉区大安寺 693-3 地先に所在する細池寺道上遺跡（新潟市遺跡番号 151）の発掘調査記録である。書名は旧新潟市教育委員会および新潟市教育委員会刊行の発掘調査報告書〔北村・菊池<sup>ほか</sup> 2004、潮田 2014、立木<sup>ほか</sup> 2014〕に続く 4 冊目の報告書であることから『細池寺道上遺跡Ⅳ 第 43 次調査』とした。
- 2 調査は新潟市秋葉区建設課が実施する市道大安寺第 5 号大関線改良工事に伴い、新潟市教育委員会（以下、市教委という）が調査主体となり、新潟市文化スポーツ部文化財センター（以下、市文化財センターという）が補助執行した。
- 3 平成 26 年度に発掘調査と整理作業、報告書刊行を行った。発掘調査と整理作業の体制は第Ⅲ章に記した。
- 4 発掘調査、出土品<sup>ほか</sup>の整理作業および報告書刊行作業の支援業務は株式会社イビソク新潟支店に、調査に伴う測量業務は株式会社オリスに委託した。
- 5 出土遺物及び調査・整理作業に係る記録類は、一括して市文化財センターが保管・管理している。
- 6 本書の作成・執筆・編集は遠藤恭雄（市文化財センター）と青木 誠（株式会社イビソク）が行った。
- 7 執筆は第Ⅰ章・第Ⅲ章を遠藤が、第Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅶ章第 1・2 節を青木が、第Ⅶ章第 3 節を遠藤・青木が行った。なお、第Ⅵ章第 1 節～第 3 節を(株)火山灰考古学研究所、第Ⅵ章第 4 節・第 5 節を(株)加速器分析研究所に委託した。  
第Ⅰ章第 1 節・第 2 節第 1 表、第Ⅱ章第 1 節・第 2 節を『中谷内遺跡発掘調査報告書Ⅱ』（渡邊<sup>ほか</sup> 2002）および『細池寺道上遺跡Ⅲ』（立木・相澤（高野）<sup>ほか</sup> 2014）から引用・一部加筆した。
- 8 本書で用いた写真は、遺跡写真は青木・日聖祐輔（株式会社イビソク）・遠藤が、遺物写真は青木が撮影した。ただし、写真図版 1 は米軍（国土地理院発行）が撮影したものを使用した。
- 9 遺構図のトレースと各種図版作成・編集に関しては、有限会社不二出版に委託してデジタルトレースと DTP ソフトによる編集を実施し、完成データを印刷業者へ入稿して印刷した。
- 10 調査から本書の作成に至るまで下記の方々・機関より御指導・御協力を賜った。ここに記して厚く御礼申し上げる。  
伊藤秀和・笹沢正史・細井佳浩・新潟県新潟地域振興局新津農業振興部・新潟県教育庁文化行政課・  
（公財）新潟県埋蔵文化財調査事業団・新津郷土地改良区  
（所属・敬称略、五十音順）

## 凡 例

- 1 本書は本文・別表と巻末図版（図面図版・写真図版）からなる。
- 2 本書で示す方位は全て真北である。磁北は真北から西偏約7度である。掲載図面のうち、既存の地形図等を使用したものは、原図の作成者・作成年を示した。
- 3 図版2は「新津町外二ヶ村開田耕地整理組合現形図」1922年（新津郷土地改良区所蔵）、「新津郷耕地整理組合現形図」1940年頃（新津郷土地改良区所蔵）を縮小し、「新津市都市計画図」1995年（旧新津市）と重ね合わせたものである。
- 4 本文中の注は各章の末尾に記した。引用文献は著者と発行年（西暦）を〔 〕中に示し、巻末に一括して掲載した（但し、第IV章は各節の末尾に記した）。
- 5 遺構番号は現場で付したものをを用いた。番号は遺構の種別ごとに付さず、通し番号とした。
- 6 土層の土色および遺物の色調観察は『新版 標準土色帖』（小山・竹原1967）1998年版を用いた。
- 7 土器実測図の断面は、須恵器を黒塗り、それ以外を白抜きとした。トーンについてはその都度図版中に提示した。
- 8 土器実測図では全周の1/12以下のような遺存率の低いものについては、誤差があるための中軸線の両側に空白を設けた。
- 9 遺物の注記は細池寺道上遺跡の略記号「市道細池寺道上」とし、出土地点や層位を続けて記した。略記号の前には「14」を付し2014年を表した。
- 10 遺物番号は土器・陶磁器・鉄製品・石製品を含めて通し番とし、本文および観察表・写真図版の番号は同一番号とした。
- 11 遺構・遺物観察表中における（ ）付きの値は、推定値を意味する。
- 12 遺構平面図での切り合い関係のある遺構の上端・下端の表現について、切られている遺構の場合、上端の復元が可能ならば破線、下端は切っている遺構より深度が深ければ実線、浅くても復元が可能であれば破線で示した。
- 13 別表1遺構計測表では、遺構の重複関係を表現する際に「<」「>」「=」を用いた。>…切る・<…切られる・=…不明を表わす。

# 目 次

第I章 序 章	1
第1節 遺跡概観	1
第2節 発掘調査に至る経緯	2
第II章 遺跡の位置と環境	4
第1節 遺跡の位置と地理的環境	4
第2節 周辺の遺跡	4
第3節 歴史的環境	10
第III章 調査の概要	12
第1節 試掘・確認調査	12
第2節 本発掘調査	12
A 調査方法	12
1) グリッドの設定	12
2) 調査方法	13
B 調査経過	13
C 調査体制	14
第3節 整理作業	14
A 整理方法	14
1) 遺 物	14
2) 遺 構	14
B 整理経過	14
第IV章 遺 跡	15
第1節 概 要	15
第2節 層 序	15
第3節 遺 構	16
第V章 遺 物	24
第1節 概 要	24
第2節 遺構出土遺物	24
第3節 遺構外出土遺物	25
第VI章 自然科学分析	26
第1節 細池寺道上遺跡の土層	26
第2節 細池寺道上遺跡における植物珪酸体（プラント・オパール）分析	27
第3節 細池寺道上遺跡における花粉分析	31

第4節	細池寺道上遺跡出土種実同定	34
第5節	細池寺道上遺跡出土試料(種実)のAMS法による放射性炭素年代測定	45
第Ⅶ章	総括	48
第1節	細池寺道上遺跡の出土遺物について	48
第2節	細池寺道上遺跡の遺構について	48
第3節	まとめ	50
	引用・参考文献	53
	別表	56
	報告書抄録・奥付	巻末

### 挿図目次

第1図	細池寺道上遺跡周辺地形分類図(1/150,000)	5	第8図	細池寺道上遺跡における花粉組成ダイヤグラム	33
第2図	周辺の遺跡分布図(1/125,000)	6	第9図	細池寺道上遺跡の花粉・胞子	33
第3図	細池寺道上遺跡試掘・確認調査土層柱状図(1/80)	12	第10図	細池寺道上遺跡の種実出土状況	36
第4図	遺構形態模式図	16	第11図	細池寺道上遺跡の種実遺体写真	44
第5図	細池寺道上遺跡の土層柱状図①～⑤	26	第12図	細池寺道上遺跡の暦年較正年代グラフ(参考)	46
第6図	細池寺道上遺跡における植物珪酸体組成ダイヤグラム	29	第13図	細池寺道上遺跡遺構変遷図	51
第7図	細池寺道上遺跡における植物珪酸体(プラント・オパール)の顕微鏡写真	29			

### 表目次

第1表	細池寺道上遺跡調査履歴(1)・(2)	2・3	第7表	細池寺道上遺跡における主な炭化種実の計測値(1)・(2)	42・43
第2表	周辺の遺跡一覧表	7	第8表	細池寺道上遺跡における放射性炭素年代測定結果( $\delta^{13}\text{C}$ 補正值)	46
第3表	細池寺道上遺跡における植物珪酸体分析結果	28	第9表	細池寺道上遺跡における放射性炭素年代測定結果( $\delta^{13}\text{C}$ 未補正值、暦年較正用 $^{14}\text{C}$ 年代、較正年代)	46
第4表	細池寺道上遺跡における花粉分析結果	32			
第5表	細池寺道上遺跡SE46・263・300・SD137の種実同定結果(1)～(5)	37～41			
第6表	細池寺道上遺跡における種実出土状況	41			

### 別表目次

別表1	細池寺道上遺跡遺構計測表	56	別表3	細池寺道上遺跡石製品観察表	57
別表2	細池寺道上遺跡土器・陶磁器観察表	57	別表4	細池寺道上遺跡鍛冶関連遺物観察表	57

## 図版目次

図版 1	周辺の旧地形図 (1/25,000)	図版 14	遺構実測図1 (1/40)
図版 2	周辺の旧地割図 (1/10,000)	図版 15	遺構実測図2 (1/40)
図版 3	市道大安寺第5号大関線改良工事にかかる 確認調査位置図 (1/5,000)	図版 16	遺構実測図3 (1/40)
図版 4	細池寺道上遺跡第25・26・29・43次調査 位置図 (1/5,000)	図版 17	遺構実測図4 (1/40)
図版 5	遺構全体図 (1/1,000・1/500)	図版 18	遺構実測図5 (1/40)
図版 6	遺構部分図1 (1/80)	図版 19	遺構実測図6 (1/40)
図版 7	遺構部分図2 (1/80)	図版 20	遺構実測図7 (1/40・1/80)
図版 8	遺構部分図3 (1/80)	図版 21	遺構実測図8 (1/40)
図版 9	遺構部分図4 (1/80)	図版 22	遺構実測図9 (1/40)
図版 10	遺構部分図5 (1/80)	図版 23	出土遺物 1 遺構出土土器・陶磁器 1
図版 11	遺構部分図6 (1/80)	図版 24	出土遺物 2 遺構出土土器・陶磁器 2 包含層出 土土器・陶磁器 1
図版 12	遺構部分図7 (1/80)	図版 25	出土遺物 3 包含層出土土器・陶磁器 2 石製品 鍛冶関連遺物
図版 13	基本層序図 (1/40)		

## 写真図版目次

写真図版 1	細池寺道上遺跡周辺空中写真	SK130 土層断面・完掘状況	
写真図版 2	調査区周辺空中写真 調査区遠景空中写真	SK174・SK265 土層断面 SK174・SK265 完掘状況	
写真図版 3	調査区遠景空中写真	SK186・SK270 土層断面	
写真図版 4	調査区中央 調査区全景	SK186・SK270 完掘状況	
写真図版 5	調査区南端 調査区全景	SK200・SK201 完掘状況	
写真図版 6	調査区全景 調査区中央	写真図版 13	SK268 土層断面・完掘状況
写真図版 7	第26次調査2区・第43次調査合成写真	SD170・SK286 土層断面・完掘状況	
写真図版 8	道路状遺構 1 (SD137・SD142) 全景 道路状遺構 1 (SD137・SD142) 土層断面	SK294 土層断面・完掘状況 SK334 土層断面・完掘状況	
写真図版 9	着手前 基本層序 A 基本層序 B 基本層序 C 基本層序 D 基本層序 E 基本層序 F	SD3 土層断面 SD3 完掘状況 SD40 土層断面・完掘状況 SD117・Pit118・Pit119 土層断面・ 完掘状況	
写真図版 10	基本層序 G SE12 土層断面・完掘状況 SE46 土層断面 SE46 完掘状況 SE77・Pit76 土層断面・完掘状況 SE77 土層断面・完掘状況 SE169 土層断面・完掘状況 SE178 土層断面・完掘状況	写真図版 14	SD122・SD123 土層断面・完掘状況 SD137 土層断面① SD137 土層断面② SD137 土層断面③ SD137 土層断面④ SD137 土層断面⑤
写真図版 11	SE189 完掘状況 SE208 土層断面・完掘状況 SE262 土層断面 SE262 完掘状況 SE263 土層断面・完掘状況 SE300 土層断面・完掘状況 SK20 土層断面 SK20 完掘状況	SD142 土層断面① SD142 土層断面②	
写真図版 12	SK49 土層断面・完掘状況 SK127・SK128 土層断面・完掘状況	写真図版 15	SD144 土層断面・完掘状況 SD148 土層断面・完掘状況 SD150・SD151 土層断面・完掘状況 SD153 土層断面・完掘状況 SD154 土層断面・完掘状況 SD158 土層断面・完掘状況

SD162 土層断面・完掘状況  
SD170・SK286 土層断面・完掘状況  
写真図版 16 SD173 土層断面・完掘状況  
SD199 土層断面・完掘状況  
SD199 土層断面・完掘状況  
SD219 土層断面・完掘状況  
SD237 土層断面・完掘状況  
SD239・SD240 土層断面・完掘状況  
SD256 土層断面 SD256 完掘状況

写真図版 17 SD272・SD273 土層断面・完掘状況  
SD309 土層断面・完掘状況  
SD316 土層断面  
SD316 土層断面・完掘状況  
Pit106 完掘状況  
Pit315 完掘状況  
調査区南端完掘状況  
写真図版 18 出土遺物

# 第 I 章 序 章

## 第 1 節 遺 跡 概 観 (第 1 表)

細池寺道上遺跡は昭和 60 年 8 月に行われた新潟県教育委員会（以下、県教委という）主催の遺跡詳細分布調査の折に、寺道上遺跡（旧新津市遺跡番号 28）から平安時代の須恵器甕・坏、縄文時代後・晩期とされる土器が採集され、古代を中心とした遺跡として登録された。その後、今回の調査を含めて通算 43 回の本発掘調査および確認調査が行われている（第 1 表）。平成元年に刊行された『新津市史資料編第 1 巻 原始・古代・中世編』では後に細池寺道上遺跡に統合された木津橋遺跡（旧新津市遺跡番号 63）のみが報告され、平安時代の土師器長甕、須恵器大甕が紹介されており〔川上・木村・鈴木 1989〕、その後に遺跡登録されている。平成 2 年に行われた「磐越自動車道建設」に伴う県教委が行った試掘・確認調査により、金屋集落横が寺道上遺跡の地点と異なることから新遺跡、細池遺跡（旧新津市遺跡番号 68）とした。さらに、寺道上遺跡の範囲は拡大した。その後の平成 3・4 年に新潟県による細池遺跡と寺道上遺跡の調査が行われ〔小池ほか 1994〕、平成 8・9 年には新津市による市道建設に伴う本発掘調査が細池遺跡で行われた〔立木・渡邊ほか 1998〕。平成 11 年には新津市による同原因の調査が寺道上遺跡で行われた〔渡邊ほか 2001〕。平成 13 年に行われた両新地区ほ場整備事業に伴う確認調査（図版 3）の結果、遺跡範囲がさらに拡大し、細池・寺道上遺跡の両遺跡と木津橋遺跡を含めた範囲を「細池寺道上遺跡」（旧新津市遺跡番号 28、新潟市遺跡番号 151）として寺道上遺跡の番号を用いて、再登録された。それに伴う処置として、細池・木津橋遺跡の遺跡番号は欠番として扱われた。これ以降の遺跡名は「細池寺道上遺跡」の名称を用いる。合わせて、土手外遺跡（旧新津市遺跡番号 89）が細池寺道上遺跡の東側で古代・中世の遺跡として新発見され、遺跡登録されたが、平成 14 年に行われた両新地区ほ場整備に伴う確認調査の結果、細池寺道上遺跡の範囲拡大により同遺跡に統一された。それに伴い土手外遺跡の遺跡番号は欠番となった。

細池寺道上遺跡における既往の本発掘調査については、平成 3・4 年度にかけて県教委が磐越自動車道建設に伴い「細池遺跡」19,960m<sup>2</sup>、「寺道上遺跡」14,660m<sup>2</sup>の計 34,620m<sup>2</sup>の調査を実施している。その結果、微高地上に古代から中世に至る集落跡・ほ場跡などが検出されている〔小池ほか 1994〕。平成 8・9 年度に行われた市道建設に伴う「細池遺跡」の本発掘調査〔立木・渡邊ほか 1998〕では、2,848m<sup>2</sup>が調査され、平安時代の遺構・遺物が検出された。平成 11 年には市道建設に伴い、843.78m<sup>2</sup>が調査され、「都保一口」と刻書された短頸壺に代表される 9 世紀第 2 四半期のまとまった土器群が確認され、短期間に営まれた集落跡で遺物の出土状況も良好であり、古代土器編年研究に重要な調査例となった〔渡邊ほか 2001〕。平成 15 年度には、東北電力（株）の「平成 15 年度東北電力西新潟線鉄塔建替工事」に伴う本発掘調査をほ場整備事業対象範囲で実施し、細池寺道上遺跡の一部 412.4m<sup>2</sup>を調査した結果、古代の旧河跡と仏鉢形土器など特殊な土器を含む 9 世紀後半の土器が出土している〔北村・菊池ほか 2004〕。

平成 19 年度から細池寺道上遺跡範囲内で本格的にほ場整備に伴う本発掘調査が開始され、当年度は 8,952.7m<sup>2</sup>が調査された。区画溝で区切られた中世の集落が確認された〔潮田 2014〕。平成 20 年度には 2,912.0m<sup>2</sup>が調査され鎌倉・室町時代の集落跡が確認された。14 世紀後半に位置付けられる集落間を結ぶ「道路」が確認されている〔立木・相澤（高野）ほか 2014〕。平成 21 年度には 2,346m<sup>2</sup>を調査し、旧河道に沿って古代・中世の集落域が確認された〔朝岡 2010〕。平成 22 年度には 4,464.2m<sup>2</sup>を調査し、古代・中世の集落跡を確認し、中世の井戸中から農耕具の柄振・田下駄などの木製品が井戸側に再利用された状態で出土して注目された〔遠藤 2011〕。平成 24 年度は 4,715m<sup>2</sup>を調査し、旧河道に沿って古代・中世の農地などが確認された〔前山 2013〕。

平成25年度には2,814m<sup>2</sup>を調査し、古代・中世の集落と中世の水田跡が注目される〔立木2014〕。

## 第2節 発掘調査に至る経緯

「市道大安寺第5号大関線改良工事」は、平成17年の新潟市と旧新潟市の合併に伴う合併建設計画として策定された。平成24年度に既設道路を全長約640mにわたり拡幅する計画が秋葉区建設課から歴史文化課に示された。事業対象地が細池寺道上遺跡範囲内にあることから、秋葉区建設課から調査の依頼（平成24年6月19日付け新秋建第297号の2）をうけ、平成24年7月3日から4日まで確認調査（着手届平成24年7月3日付け新歴B第55号の4）を実施した。確認調査の結果（終了報告平成24年12月3日付け新歴B第55号の5）、遺構・遺物とも発見されず、事業は実施された。

平成25年度には前年度の北側、全長約340mの拡幅工事計画が示された。事業対象地が細池寺道上遺跡範囲内にあり、平成20年度に両新地区ほ場整備事業に伴い本調査を行った範囲にも隣接することから、秋葉区建設課から調査の依頼（平成25年5月21日付け新秋建第209号）をうけ、平成25年11月18日から11月22日まで確認調査（着手届平成25年11月13日付け新歴B第56号の4）を実施した。確認調査の結果（終了報告平成25年12月13日付け新歴B第56号の5）、事業対象地のほぼ全域で遺構を検出し、遺跡範囲の広がりが確認された。これを受けて新潟県教育委員会は、新潟市に対し平成26年2月10日付け教文第1361号の2で発掘調査実施の通知を行った。その後、秋葉区建設課と歴史文化課で協議を重ね、平成26年度に本発掘調査を行うことで合意した。

平成26年3月10日付で秋葉区建設課から調査の依頼（平成26年3月10日付け新秋建第209号の2）をうけ、平成26年6月20日付け新歴F第77号で新潟県教育委員会教育長あてに文化財保護法第99条の規定による埋蔵文化財発掘調査の通知を行い、6月20日から10月7日までの予定で本発掘調査を実施することとなった。調査対象は、道路拡幅部分平均幅2.5m、延長352m、面積880m<sup>2</sup>である。

第1表 細池寺道上遺跡調査履歴（1）

通算調査回数	市道大安寺第5号大関線道路改良工事に伴う調査回数	調査年次	調査種別	調査原因	調査主体	担当	調査面積	文献	旧遺跡名	備考
		S60年(1985)8.4	分布調査	新潟県遺跡詳細分布調査	新潟県	県文化行政課 横山勝栄				
		H1年(1989)	分布調査	「新潟市史資料編第1巻 原始・古代・中世」に伴う調査	新潟市	川上貞雄		〔川上ほか1989〕		市史に古代の遺跡として掲載され、一般に周知される。
1次		H2年(1990)10.1～10.18	確認調査	磐越自動車道	新潟県	県文化行政課 小池義人	958㎡	〔小池ほか1994〕	細池	
2次		H2年(1990)10.1～10.18	確認調査	磐越自動車道	新潟県	県文化行政課 小池義人	820㎡	〔小池ほか1994〕	寺道上	
3次		H3年(1991)4.15～12.7	本発掘調査	磐越自動車道	新潟県	県文化行政課 小池義人	34,320㎡ (細池遺跡19,960㎡、 寺道上遺跡14,660㎡)	〔小池ほか1994〕	細池	古代・中世の集落跡の一部および中世の広範囲なほ場が確認された。奈良・平安時代の遺物は9世紀が主体で、新津丘陵産および佐渡産須恵器が確認されている。
4次		H3年(1991)7.8～12.7	本発掘調査	磐越自動車道	新潟県	県文化行政課 小池義人			寺道上	
5次		H4年(1992)4.8～8.7	本発掘調査	磐越自動車道	新潟県	県文化行政課 小池義人			細池	
6次		H4年(1992)4.24～5.28	本発掘調査	磐越自動車道	新潟県	県文化行政課 小池義人			寺道上	
7次		H7年(1995)11.6～11.10	確認調査	農道拡幅	新潟市	新潟市教育委員会 渡邊朋和	97㎡		細池	
8次		H8年(1996)7.22～7.23	確認調査	農道拡幅	新潟市	新潟市教育委員会 渡邊朋和	53㎡		寺道上	
9次		H8年(1996)10.17～12.13	本発掘調査	農道拡幅	新潟市	新潟市教育委員会 渡邊朋和	1,429㎡	〔立木・渡邊ほか1998〕	細池	古代の集落跡の一部および中世のほ場が確認された。
10次		H9年(1997)10.7～11.25	本発掘調査	農道拡幅	新潟市	新潟市教育委員会 立木宏明	1,419㎡		細池	
11次		H9年(1997)10.30	確認調査	農道拡幅	新潟市	新潟市教育委員会 渡邊朋和	9㎡		寺道上	
12次		H11年(1999)10.1～12.15	本発掘調査	農道拡幅	新潟市	新潟市教育委員会 渡邊朋和	843.78㎡	〔渡邊ほか2001〕	寺道上	古代の溝などを検出した。「都保一口」とヘラ書きされた須恵器短頸壺が出土した。

第1表 細池寺道上遺跡調査履歴(2)

通算調査回数	市道大安寺第5号大関線道路改良工事に伴う調査回数	調査年次	調査種別	調査原因	調査主体	担当	調査面積	文献	旧遺跡名	備考
13次		H13年(2001)10.15~11.8	確認調査	両新地区ほ場整備事業	新津市	新津市教育委員会 渡邊朋和	1,147㎡		寺道上	細池・寺道上・木津橋遺跡を統合し細池寺道上とする。
14次		H13年(2001)10.15~11.8	確認調査	両新地区ほ場整備事業	新津市	新津市教育委員会 渡邊朋和		木津橋		
15次		H13年(2001)10.15~11.8	確認調査	両新地区ほ場整備事業	新津市	新津市教育委員会 渡邊朋和		細池		
16次		H13年(2001)10.15~11.8	確認調査	両新地区ほ場整備事業	新津市	新津市教育委員会 渡邊朋和		土手外		
17次		H14年(2002)10.16~10.24	確認調査	鉄塔建設	新津市	新津市教育委員会 立木宏明	86.4㎡			
18次		H14年(2002)10.16~11.15	確認調査	両新地区ほ場整備事業	新津市	新津市教育委員会 渡邊朋和	1,701㎡			土手外遺跡を統合。
19次		H14年(2002)10.16~11.15	確認調査	両新地区ほ場整備事業	新津市	新津市教育委員会 渡邊朋和		土手外		
20次		H15年(2003)9.5~12.19	本発掘調査	鉄塔建設	新津市	シン技術コンサル 北村 淳	412.4㎡	〔北村ほか2004〕		古代の旧河道が検出され、覆土中に土師器・須恵器の食器類が多出土した。「川相」と墨書きされた墨書土器が出土した。
21次		H15年(2003)11.17~12.1	確認調査	両新地区ほ場整備事業	新津市	新津市教育委員会 渡邊朋和	490.5㎡			
22次		H16年(2004)10.4~11.5	確認調査	両新地区ほ場整備事業	新津市	新津市教育委員会 渡邊朋和	40.1㎡			
23次		H17年(2005)10.11~10.26	確認調査	両新地区ほ場整備事業	新潟市	新潟市埋蔵文化財センター 渡邊ますみ	154.5㎡			
24次		H18年(2006)11.30	確認調査	両新地区ほ場整備事業	新潟市	県文化行政課 沢田 敦	24㎡			
25次		H19年(2007)6.11~12.11	本発掘調査	両新地区ほ場整備事業	新潟市	新潟市埋蔵文化財センター 諏山えりか	8,952.7㎡	〔潮田2014〕		古代・中世の集落跡が確認された。主体は中世(13C末~14C初頭)で、溝で区画された中に掘立柱建物や井戸を構築し、居住域としている。
26次		H20年(2008)6.10~9.27	本発掘調査	両新地区ほ場整備事業	新潟市	新潟市埋蔵文化財センター 立木宏明	2,912㎡	〔立木ほか2014〕		中世の集落跡。掘立柱建物20棟、井戸30基、土坑121基、Pit1300基以上など遺構密度が高い。道路状遺構や橋状構造物などの土木構造物が確認されている。遺物は鎌倉・室町時代の珠洲焼、青磁、白磁、瀬戸・美濃焼などが出土している。
27次		H20年(2008)10.14~10.16	確認調査	農道建設	新潟市	新潟市埋蔵文化財センター 今井さやか	117㎡			
28次		H21年(2009)5.28	確認調査	作業所	新潟市	新潟市埋蔵文化財センター 諏山えりか	3㎡			
29次		H21年(2009)6.15~10.17	本発掘調査	両新地区ほ場整備事業	新潟市	新潟市埋蔵文化財センター 朝岡政康	2,346㎡	〔朝岡2010〕		古代・中世の集落跡が確認された。掘立柱建物5棟以上、井戸6基、土坑127基、溝58条、ピット1000基以上、河5跡本が確認されている。遺物は平安時代では須恵器・土師器が出土し、鎌倉・室町時代では瀬戸・美濃焼、珠洲焼、青磁、白磁などが出土している。各時代共に水辺に集落を営んだ様子がうかがえる。
30次		H22年(2010)5.11	確認調査	放送局舎建築	新潟市	新潟市埋蔵文化財センター 立木宏明	3㎡			
31次		H22年(2010)6.21~12.1	本発掘調査	両新地区ほ場整備事業	新潟市	新潟市埋蔵文化財センター 遠藤泰雄	4,464.2㎡	〔遠藤2011〕		古代・中世の集落跡が確認された。掘立柱建物7棟以上、井戸28基、土坑96基、溝208条、ピット2234基、河跡8条が確認されている。遺物は平安時代では須恵器・土師器、鎌倉・室町時代では珠洲焼、中世は磁器、鍛冶関連遺物、農具を転用した井戸側板などが出土している。平安時代には主に農地として利用され、鎌倉・室町時代には居住域として利用されたものと考えられる。
32次		H23年(2011)7.25~8.25	本発掘調査	両新地区ほ場整備事業	新潟市	新潟市文化財センター 前山精明	224㎡			古代のピット2基、近世以降の流路2条、水田の一部と考えられる畦3条が確認された。遺物は古代の土師器・須恵器、鎌倉・室町時代の珠洲焼、流路1から磁石転用の唐津焼が出土した。近世以降の地形改変が著しく、古代~中世の遺構・包含層は南地区南端部に限定された。
33次		H23年(2011)8.03~8.4	確認調査	農道建設	新潟市	新潟市文化財センター 廣野耕造	90㎡			
34次		H23年(2011)10.28	確認調査	農道整備	新潟市	新潟市文化財センター 廣野耕造	48㎡			
35次		H24年(2012)5.29~5.29	確認調査	農道建設	新潟市	新潟市文化財センター 前山精明	206.7㎡			
36次	1次	H24年(2012)7.3~7.4	確認調査	道路改良	新潟市	新潟市文化財センター 廣野耕造	84㎡			
37次		H24年(2012)7.13	確認調査	庫裡改築	新潟市	新潟市文化財センター 廣野耕造	6㎡			
38次		H24年(2012)07.23~H25年(2013)1.10	本発掘調査	両新地区ほ場整備事業	新潟市	新潟市文化財センター 前山精明	4,715.17㎡	〔前山2013〕		古代・中世の農地。遺構は水田2面、井戸1基、テラス状遺構、木道1基、土坑・ピット217基、溝79条、河跡1本が確認されている。遺物は平安時代の須恵器、土師器、盤や斎申などの木製品、鎌倉・室町時代の珠洲焼が出土している。各時代とも水辺に営まれた農地と考えられる。
39次		H24年(2012)10.16	確認調査	墓地造成	新潟市	新潟市文化財センター 諏山えりか	11.2㎡			
40次		H25年(2013)2.22~H25年(2013)2.22	確認調査	避雷針設置	新潟市	新潟市文化財センター 渡邊ますみ	9.3㎡			
41次		H25年(2013)07.25~H25年(2013)12.27	本発掘調査	両新地区ほ場整備事業	新潟市	新潟市文化財センター 立木宏明	2,814.55㎡	〔立木2014〕		古代・中世の集落と、中世の耕作地。遺構は掘立柱建物11棟、水田跡13基、井戸1基、杭列8基、溝33条、土坑17基、ピット594基が確認された。遺物は平安時代では須恵器・土師器が中心で、鎌倉・室町時代では珠洲焼等が出土している。1区は平安時代では集落、鎌倉・室町時代では集落とそれに隣接する水田跡が確認できた。2・3区は調査区が狭小であるが、古代・中世の遺跡が広がることが確認できた。
42次	2次	H25年(2013)11.18~H25年(2013)11.22	確認調査	市道改良	新潟市	新潟市文化財センター 朝岡政康	51.4㎡			
43次	3次	H26年(2014)6.20~H26年(2014)10.10	本発掘調査	市道改良	新潟市	新潟市文化財センター 遠藤泰雄	557.28㎡			【本書】
44次		H26年(2014)7.16~H26年(2014)12.26	本発掘調査	両新地区ほ場整備事業	新潟市	新潟市文化財センター 立木宏明	5,547.6㎡	〔立木2015〕		古代・中世の拠点集落。遺構は掘立柱建物29棟、竪穴遺構11基、井戸49基、土坑190基、溝148条、土坑17基、ピット2760基、道路状遺構2か所などが確認された。遺物は平安時代では須恵器・土師器が中心で、鎌倉・室町時代では珠洲焼や青磁焼、そのほかに井戸側板・曲物・漆器といった木製品などが出土している。

## 第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

### 第1節 遺跡の位置と地理的環境（第1図、図版1・2）

新潟市は平成17年に行われた周辺市町村（新津市・白根市・豊栄市・小須戸町・横越町・亀田町・西川町・巻町・味方村・潟東村・月潟村・中之口村）との合併により、海岸部を含む越後平野の大部分と信濃川を挟んで対峙する弥彦・角田山塊と新津丘陵が含まれる総面積726.45km<sup>2</sup>の広大な面積を有する市となった。

遺跡のある新潟市秋葉区（以下、秋葉区という）は越後平野のほぼ中央に位置し、新津丘陵を中心として東に阿賀野川、西に信濃川が北流する。享保年間には加治川が阿賀野川に、阿賀野川が新潟港で信濃川に合流する状況で、度々水害に見舞われていたため、享保15年(1730)に新発田藩が松ヶ崎放水路を開削し、現阿賀野川の河口となった。下新付近で、五泉市域を北流してきた早出川が阿賀野川に合流する。また、七日町付近では阿賀野川から分岐した小阿賀野川が西流し、覚路津付近で信濃川に合流する。新津丘陵東縁を北流する能代川は、太平洋戦争後に水害対策の河川改修が行われた。これにより五泉市千原～秋葉区大関間の蛇行部分が直線化し、秋葉区新津地区の市街地を貫流していた本来の流路から分流が東方に作られ、現在の新津川・能代川となっている。この能代川と新津川は下興野付近で再び合流し、荻島付近で小阿賀野川に注いでいる。

秋葉区付近の地形は丘陵とその縁辺の段丘、沖積地から成っている。南南西～北北東に走る新津丘陵は加茂川を南限に標高278mの高立山が最も高く、北に行くに従い標高を下げ北端で70～80mとなり、その周囲には段丘が標高10～70m間に4段見られる。沖積地は信濃川・阿賀野川の二大河川により形成され、自然堤防や旧河道・後背湿地・三角州などの地形が見られる。阿賀野川が流路を東遷させてきた結果、秋葉区域では新津丘陵北端～小阿賀野川間に自然堤防が形成され、現在起伏の極少ない微高地として断続的に存在している。遺跡は阿賀野川左岸、早出川合流地点の北西約1.5kmに位置し、この微高地上に存在する。

遺跡では調査直前まで水田として利用されているが、遺跡周辺の旧景観については既にまとめられている（小池ほか1994）。それによれば現在の遺跡周辺は水田地帯であるが、これは大正末年～昭和20年代に行われた耕地整理事業によって形成されたものであり、整理事業以前の状況からは当該地域の微地形を反映した土地利用が行われていた様子が窺えるとする。つまり低地は方形区画の水田に、微高地は畑地に、微高地周縁は畑地と微高地を水田化するため開発された畑を囲む水田「堀田」が混在するという土地利用が見られるとしている。

### 第2節 周辺の遺跡（第2表、第2図）

時代別の遺跡の分布は旧石器時代では丘陵部に限定される。縄文・弥生時代では丘陵・段丘上および砂丘地に集中し、古墳時代には丘陵や段丘の縁辺部や平野部微高地・砂丘地、奈良・平安時代になるとさらに平野部微高地に多くの分布が見られるようになる。具体的には古代までは丘陵上に弥生時代後期の環濠集落・円墳などが展開し、丘陵裾部には奈良・平安時代の製鉄・須恵器（土師器）窯などの生産遺跡が集中している。そして細池寺道上遺跡は、古代・中世の複合遺跡として周知されている。

合併後の遺跡数は市域で731か所（平成27年3月現在）である。以下に時代ごとに解説を加える。

**旧石器時代の遺跡** 市内で3遺跡確認されている。新津丘陵に2か所、角田山麓に1か所ある。当該期の遺跡は、風化火山灰層（ローム層）の上部に包含される場合が多い。新津丘陵沿いでは古津八幡山遺跡（297）〔渡邊・立木ほか2001・2004〕や、草水町2丁目窯跡（253）でナイフ形石器・石刃などが散発的に出土している。角



新潟県『土地分類基本調査 新潟・新津』1972・1974年より作成 (1/150,000)

第1図 細池寺道上遺跡周辺地形分類図



第2図 周辺の遺跡分布図

第2表 周辺の遺跡一覧表

No.	名称	時代	No.	名称	時代	No.	名称	時代	No.	名称	時代	No.	名称	時代
1	東海太郎代	奈~平	133	松山回山	平	265	腰籠	室・安	397	浄栄寺の石造物	中世	529	新瀬	縄・平
2	出山	奈~平・鎌・江	134	松山	縄・中世	266	諏訪神社石仏	中世	398	土居内	中世	530	大瀬	南北朝~室
3	マノ古墳前	奈~平	135	直ノ山A	平	267	野澤	平	399	土山田	平	531	野瀬	平~南北朝
4	横土臣A	縄	136	直ノ山B	平	268	小戸ノ組	平・鎌~室	400	羽雲場	中世	532	赤坂山B	縄
5	山興野	縄	137	小丸山	縄・古墳・平・中世・近世	269	西宮	平	401	善四郎谷内C	平・中世	533	赤坂山A	縄
6	横土臣B	縄	138	東開	縄・赤・古墳	270	長左門沼	平	402	轟	平・中世	534	官林	縄
7	居山A	縄	139	茗荷谷墓地	平	271	川根	古代~中世	403	土居内西	平・中世	535	萩野	縄
8	居山B	縄	140	茗荷谷	古代	272	浦興野	古代	404	千刈	平	536	渡馬赤坂A	縄
9	浦ノA	縄・平	141	藤山	平・鎌	273	下梅ノ木	平・鎌~南	405	野林要書跡	室	537	渡馬赤坂B	縄
10	切尾A	縄・平	142	上ノ山	平	274	曾根	平	406	山島敷	古墳・古代・中世	538	野瀬	縄・赤
11	切尾B	縄・平	143	駒込丸丸山	縄・赤・古代	275	中根	平	407	善四郎谷内	平	539	馬ノ橋場	縄
12	浦ノB	縄	144	丸山	平	276	古通	平	408	大洞	中世	540	六ヶ寺遺跡	平
13	切尾C	縄	145	北山	平	277	山崎	縄	409	福山	赤	541	宮ノ浦	平
14	内島見A	縄	146	清水が丘	平	278	城見山	縄・古代・中世	410	曾根前	中世	542	高山石造物群	南
15	引越	赤	147	大道外	平・中世	279	原	縄	411	村下	中世	543	桑山石仏	中世
16	世ノD	平	148	彦七山	古代	280	東島城跡	平	412	下谷地	平	544	福古証北地その	中世
17	世ノB	縄	149	駒込居浦郷	古代	281	大坪	縄	413	曾根	平	545	福古証北地その	中世
18	世ノA	縄	150	駒込郷	古代	282	平林	縄	414	城館跡	平	546	下真山	縄・赤・古代
19	上舟橋	平	151	山ノ家	赤・古代	283	山崎	縄・赤・江	415	木田裏	中世	547	下野山	縄
20	世ノC	縄	152	山ノ家	縄・赤・古代	284	東島太道下	古墳・古代・鎌・室	416	町道上	中世	548	山崎齋	奈
21	あかしやだん	平	153	湖山	縄・奈~室	285	山崎	古墳・平	417	山口	縄・赤・古代・鎌・室	549	賢ノ下	古代
22	内島見B	平	154	砂岡	縄・古代	286	森田	赤・古墳・平・中世	418	柳目本	古代・中世	550	村付	古代
23	内島見C	室	155	砂岡前郷	縄・平・江	287	西島館跡	中世	419	清水家石仏	中世	551	中野	古代
24	大池	古墳	156	砂岡上ノ山	古代	288	板大井	中世	420	下ノ橋館跡	室	552	玉泉城跡	室
25	松影A	古墳	157	上野山	古代	289	寺中谷内	古代	421	組ノ橋	中世	553	野瀬	縄・赤・古代
26	松影C	古墳	158	浦ノ山	平	290	舟戸	赤・古墳・古代	422	村前東A	中世	554	櫻表南	縄~南
27	松影D	縄・古墳	159	塚山	縄・古代	291	塚守	赤・古墳・古代・中世	423	藤の木	室	555	丸田	平
28	上黒山	古墳	160	前山	古墳	292	高矢C	古墳	424	諏訪神社	中世	556	丸田館跡	平
29	松影A	縄・赤・古墳・平・中世	161	塚ノ山	平	293	高矢A	縄	425	三辺橋	古代・中世	557	堤	縄
30	城山館跡	室	162	資津回山	縄	294	高矢B	縄	426	細田	平	558	善之内西宮印塔	中世
31	新五兵衛山	平	163	砂岡	平	295	三ツ刈	縄・古代	427	久勢部の庚申籠	室	559	道倉	古代
32	太田城山	縄・平	164	江原	平	296	下谷地	縄	428	野林城跡	室	560	柳ノ川	不明
33	越山	縄~平	165	小杉中洲	古墳	297	吉田八幡山古墳	縄	429	久勢添	縄・平	561	栗平	不明
34	名山C	奈~平	166	松園寺	平	298	吉津越北	古代	430	市野山大坪	平	562	土居内製鉄	不明
35	名山B	縄	167	居山A	平~室	299	吉津初越A	古代	431	大坪南	平	563	城	不明
36	越C	赤・古墳・古代	168	山のハサバ	平	300	吉津八幡山	旧・縄・赤・古墳・平	432	原	南・室	564	下ノ橋	不明
37	居山A	奈~平	169	所島前	縄・古代~近世	301	金津初越B	古代	433	七ツ塚	南	565	掛ノ下	不明
38	法華島屋C	奈~平	170	小杉上野	縄・古代	302	金津初越A	古代	434	土橋	縄・平	566	七島館跡	不明
39	法華島屋B	奈~平	171	江原	平	303	大	古代	435	大	縄	567	柳ノ川	古
40	法華島屋A	縄・赤・奈~平	172	野田郷	平	304	島(打)場	縄	436	石籠戸	中世	568	黒山	縄
41	法華島屋A	縄・古代	173	宮原郷	古代	305	神田	縄・古代	437	中瀬明宮の石仏	室	569	黒山	中世
42	尊塚	古墳	174	下郷	平	306	居村A	平	438	中瀬の龍首塚石仏	室	570	松影E	不明
43	甲山	平	175	下郷経塚	安	307	居村B	赤・古代	439	天神林の石仏	室	571	九ツ塚	不明
44	正尺B	古墳	176	曾我墓所	平	308	居村C	縄・赤・古代	440	小河原	中世	572	三沢塚	不明
45	下大川	古墳	177	橋越館跡	古代	309	十ヶ沢	赤	441	嘉瀬島諏訪	中世	573	居村B	不明
46	下大川	古墳	178	上野山	平	310	十ヶ沢	縄	442	石ノ宮	室	574	居村C	不明
47	正尺A	古墳・平・近世	179	橋越館跡	古墳・平安	311	十ヶ沢	縄	443	了六ノツキ	平	575	下郷津	縄
48	藤井	平	180	上郷C	平	312	坪が	縄	444	川端B	縄	576	藤井山	古墳
49	正尺D	古墳	181	川根谷内墓所	平・室・近世	313	了尊寺跡	中世	445	川端A	縄	577	山木戸居付	赤・平安・中世
50	正尺C	古墳	182	川根谷内	古代	314	西善寺石仏	中世	446	風吹沢	平	578	江先	縄
51	島屋	縄	183	上沼	古代	315	三沢B	平	447	上小中山	縄	579	小丸山東	平安
52	みやしき	縄・古墳・鎌~室	184	園田	平	316	三沢A	縄	448	下里B	縄	580	山三賀ノ下	赤・平安
53	尾山A	平	185	三上	平・中世	317	三沢A	室	449	下里A	先	581	一本松原	縄・赤・古墳・古代
54	尾山B	平	186	島田山B	南・江	318	本島館跡	室	450	大島城跡	平	582	連野ノ	縄・赤・古墳・古代
55	藤塚	江	187	齊加山	縄・赤・古代	319	東原野	奈	451	大室	縄	583	湯尻	縄
56	尾山C	平	188	尾山城山A	縄・赤・古代	320	大沢谷内北	縄・赤・古代・中世	452	王ヶ峯	縄	584	上曾根	古代・中世
57	尾ノA	縄	189	牛道	平	321	大沢谷内	縄・赤・飛・古代・中世	453	山王田	平	585	吹吹	古代
58	尾ノA	縄	190	市助塚	平・鎌	322	横川築堤外地	縄・平~室	454	十二神	縄	586	六反谷内C	古代
59	横山	平	191	川西	平・鎌	323	東巻島塚	平	455	貝喰	縄	587	赤坂山野塚	不明
60	向山	平	192	狐山	古代	324	下新田	平	456	貝喰	縄	588	赤坂山野塚	中世
61	神倉山	古代	193	貝塚	古代	325	下	平	457	鶴岡	平・室	589	八ヶ寺平山城跡	不明
62	横山C	縄	194	落木前	縄・平・中世	326	上板	縄・平	458	上板	南	590	仁・徳北寺跡	不明
63	寺ノ山	平	195	中ノ山	古代	327	連野II	縄	459	大室堤下	平	591	後野野	不明
64	築土山	平	196	手代北	平・中世	328	坊土山	縄	460	堀越館跡	室	592	火除土手	江
65	新瀬	古代	197	手代山	古墳・古代・鎌	329	御山下	古代	461	法塔塚	室	593	下篋田	不明
66	藤下古蹟出土地	平・室	198	日本南	縄・赤・古墳・古代・室	330	正蔵I	平	462	中山	縄	594	岩野B	不明
67	藤下古蹟出土地	平	199	日本	古代	331	正蔵II	平	463	丸山	縄	595	上野林H	不明
68	高森	平	200	日本南	縄・赤・平	332	正蔵III	平	464	保田新瀬	縄	596	上野林D	不明
69	高森	平	201	藤下	平	333	道山	平	465	石ノ宮	縄	597	上野林C	不明
70	上土地龜A	古墳・平	202	武左衛門裏	縄・赤・古墳・古代	334	道山	縄・平	466	畷田中山	縄	598	源流屋敷跡	不明
71	上土地龜B	古墳・古代	203	八幡前	赤・平	335	二本松	縄・赤	467	家添	縄	599	上野林F	不明
72	浦木	平	204	養海山	縄・赤・古墳・平	336	轟	縄	468	家裏	縄	600	藤越館跡	不明
73	村下	古代	205	大蔵	古代	337	伊勢宮山遺跡	平	469	手代山製鉄跡	平	601	六九塚跡	不明
74	内沼浦	古代	206	西郷	赤・古代	338	佐々丸山	古墳~奈良	470	手城山	縄	602	物見山野塚	不明
75	尊長長場	古墳・近世	207	肥後	平	339	藤倉	平	471	二本松	縄	603	子見屋敷跡	不明
76	尊長長場	奈~平	208	ト	古墳	340	曾根	縄・赤・古墳・平	472	大坪	縄	604	三ツ刈	不明
77	一本松	古代	209	鶴ノ子	平	341	中谷内	古墳~平	473	上野林B	縄	605	十ヶ沢緑	不明
78	五本柳B	古代	210	駒首沼	平	342	六反谷内A	平	474	上野林M	縄・平	606	村前	中世
79	藤津	平	211	早通前	平・鎌	343	原成塚	中世	475	上野林E	旧・縄	607	村前B	不明
80	川東	古代	212	西原郷	縄・古代	344	福島	古墳・平・中世	476	上野林J	旧・縄・平	608	善四郎谷内	不明
81	長場館跡	室	213	川原	中世	345	八幡野	古墳~平	477	上野林K	縄	609	康塚	古代・中世
82	中道A	古代	214	円通寺石仏	平	346	駒崎	縄・平	478	上野林L	縄・平	610	鴨塚北	古代・中世
83	中道B	古代	215	天守	平	347	曾根	縄・赤・古墳・古代・中世	479	上野林	縄	611	山崎	赤・中世
84	長場	平	216	八幡野	古墳	348	藤倉の鶴	縄	480	石ノ宮	縄	612	野瀬	古代・中世
85	城ノ島	平	217	長崎(城跡)	室	349	真木野	平	481	藤倉B	縄	613	藤木	古代・中世
86	五本柳A	奈~平	218	寺島	平・鎌	350	田中	古墳~奈	482	藤倉C	縄	614	石籠戸北	縄・中世・近世
87	狐川	奈~平	219	中新田久保	平	351	上高岡	平~室	483	藤倉D	縄	615	新町	平・鎌・室
88	上大月	奈~平	220	杉行塚	不明	352	腰籠	古墳~中世	484	藤倉E	旧	616	外輪橋	古代
89	居浦	古墳	221	無頭	平	353	高岡	平	485	行塚	縄	617	一本杉経塚	江
90	野瀬石仏	中世	222	A	平	354	未明	平	486	上野林O	縄	618	十ヶ	江
91	崎野山	平	223	上浦	平	355	上野根	平	487	上野林P	縄	619	山崎山	不明
92	里敷野	平	224	新久免の塚	室~江	356	榎木大割	縄	488	上野林N	縄	620	宮崎の塚	江
93	上堀田石仏C	中世	225	内野	平・中世	357	塚田B	平	489	岩野A	奈	621	江中	古代
94	上堀田石仏B	中世	226	中谷内	古墳・平・中世	358	塚田	平	490	雲雀田	古墳	622	龍代の家	不明
95	池田B	古代	227	沖ノ羽	古墳・古代・中世	359	沖ノ館	平	491	竜ノ	南北朝	623	福島	古代・中世
96	上堀田	平	228	結七島	古墳・古代	360	台田	平	492	安田城跡	室~江	624	新保北	平
97	池田A	古代	229	中田	古墳	361	中谷内	平	493	門前	室	625	五百地	古代
98	山敷野神田A	古代	230	宮内	平・中世・江	362	遊橋	平	494	宮ノ藤	平・鎌	626	藤倉B	古代
99	松野	古代	231	川口甲	平	363	元屋敷	平	495	出ノ下	赤	627	寺本北	不明
100	大夫妻根	平	232	川口乙	平	364	釜久	平	496	物見山	赤	628	寺本北	不明
101	山敷野神田B	古代	233	上浦B	古墳・古代	365	下福岡	平	497	藤倉	縄	629	赤坂	縄

田山麓ではケカチ堂遺跡〔小野 1994a〕から尖頭器（旧石器～縄文時代草創期）などの出土が確認されている。

**縄文時代の遺跡** 草創期～晩期の遺跡が確認されているが、土器の出土が確認されるのは早期後半以降である。市内の代表的な遺跡を網羅的に紹介すると、草創期の遺跡としては新津丘陵にある愛宕澤遺跡（254）で縄文時代草創期前半の石器（神子柴型の石斧・石核）が検出された〔立木・澤野ほか 2004a〕。角田山麓には御手洗遺跡、福井遺跡、新谷遺跡〔小野 1994b〕などで同期の石斧が出土している。遺跡は丘陵沿いに確認されている。続く、早期の確実な遺跡は確認されていない。前期以降になると山麓や砂丘上に多くの遺跡が残されている。砂丘上の遺跡として旧亀田町の砂崩遺跡（154）〔酒井・廣野 2002〕と角田山麓の布目遺跡〔小野・小熊 1987〕は前期前半の遺跡である。それに続く前期後半の新谷遺跡〔前山 1994a〕、重稲場遺跡群〔前山 1994b〕などが代表例である。中・後期には新津丘陵の丘陵平坦面に平遺跡（249）〔川上・遠藤 1983〕、原遺跡（279）（中～晩期）、秋葉遺跡（260）（中～後期）などが存在する。角田山麓には縄文時代の遺跡密度が高く、豊原遺跡〔小野・前山ほか 1988〕、大沢遺跡〔甘粕・古川ほか 1981、小野ほか 1982、前山 1990〕上ん原遺跡〔上原 1971〕などが代表例である。砂丘地・沖積地の遺跡には、大規模な集落を形成するような遺跡は確認されていない。出土状況が注目される例として、味方排水機場遺跡〔高浜・ト部・寺崎 2000〕の現地表下 19～20m から確認された中期後葉・後期前葉土器片がある。沖積地での縄文時代遺跡のあり方を考える上で非常に重要な例である。晩期の遺跡としては砂丘上や沖積地に立地する遺跡が多い。代表例として鳥屋遺跡（51）〔関ほか 1980〕、緒立遺跡〔金子ほか 1983〕、御井戸遺跡〔前山 1994c〕など県内を代表する遺跡が存在する。近年の調査では、採取した天然アスファルトの精製・加工を行ったと考えられる晩期中～後葉の大沢谷内遺跡〔細野・伊比ほか 2012〕や近隣の漆製品・木製品が出土した大沢谷内北遺跡〔前山・伊比ほか 2010〕などが注目される。

**弥生時代の遺跡** 弥生時代全時期をとおして遺跡が存在する。弥生時代前期の遺跡としては前述した緒立遺跡〔金子ほか 1983〕が代表例である。そのほか、砂丘上や沖積地に多くの遺跡が存在する。中期の遺跡としては旧横越町の駒込小丸山遺跡（143）〔家田 1987、酒井 2000a〕、山ノ家遺跡（151）〔川上 1993、酒井 2000b〕などがある。秋葉区新津地区では平成 15 年度の立会調査で秋葉遺跡から中期前半、塩辛遺跡（291）から中期後半の土器が出土している〔渡邊・立木ほか 2004〕。特に塩辛遺跡では、現地表下 2m の地点から出土しており、今後も台地と沖積地の境界から遺跡が検出される可能性があり、注意を要する。後期の遺跡としては新津丘陵沿いの古津八幡山遺跡〔川上 1994、渡邊 1994〕とその周辺の居村 C 遺跡（D・E 地点）（308）〔川上 1996、渡邊ほか 1997〕があり、いずれも弥生時代後期に属する。古津八幡山遺跡は一定期間定住していた拠点集落と見られる高地性環濠集落で、二重の環濠・竪穴住居・炉跡・方形周溝墓が確認されている。遺物は東北系と北陸系の弥生土器が出土しており、当該地域の弥生時代を考える上で重要な遺跡である。砂丘上の遺跡としては六地山遺跡〔寺村 1960、中村 1960〕、石動遺跡（112）〔廣野 1996〕がある。近年、江南区（旧亀田町）の砂丘および砂丘間低地に養海山遺跡（204）〔新潟市 2007〕や西郷遺跡〔土橋 2009〕などの前・中期の遺跡が確認されている。また角田山麓には山谷遺跡（山谷古墳下層）〔甘粕・小野ほか 1993〕、大沢遺跡〔甘粕・古川ほか 1981、小野ほか 1982〕、御井戸遺跡〔前山・相田 2004・2005〕などがある。

**古墳時代の遺跡** 前期の古墳としては、角田山麓の前方後方墳である山谷古墳〔甘粕・小野ほか 1993〕、前方後円墳である菖蒲塚古墳〔相田・前山 2003・2005〕がある。それに隣接して同期の南赤坂遺跡〔前山・相田 2002〕、御井戸遺跡〔前山・相田 2004・2005〕がある。砂丘上や沖積地には緒立 C 遺跡〔渡辺 1994〕や東園遺跡（138）〔朝岡・諫山 2003〕、日水遺跡（199）〔立木・細野ほか 2013〕、正尺 C 遺跡（50）〔土橋 2006〕などがある。新津丘陵の古津八幡山遺跡の北西端には古津八幡山古墳（297）が造営される（墳丘約 60m・円墳）〔甘粕・川村ほか 1992〕。古墳に隣接する舟戸遺跡（290）〔川上 1995〕・高矢 C 遺跡（292）は中期の遺跡であり、丘陵縁辺や端部に立地する。舟戸遺跡では中期頃の竪穴住居跡が検出され、古墳との関連が注目されている。また、中期以降の古墳は、これまで未発見であったが、東区で牡丹山諏訪神社古墳が新たに発見されている〔橋本 2014・2015〕。平野部の沖ノ羽遺跡（227）〔星野ほか 1996〕・上浦 A 遺跡（234）〔坂上 2003〕・結七島遺跡（228）〔田中・丹下ほか 2004〕では古

代の生活面より下から古墳時代前・中期の遺構・遺物が検出されている。近年沖積地の微高地から古墳時代の遺跡が多く見つかり、平野部への遺跡進出の様相が明らかになりつつある。

**古代の遺跡** 古代（飛鳥～平安時代）の遺跡は市内で348遺跡確認されている。平野部には集落遺跡が多く立地し、丘陵裾部には製鉄遺跡、須恵器・土師器窯跡などの生産遺跡が集中している。海岸近くの砂丘上には製塩遺跡もある。古代の遺跡については遺跡周辺の秋葉区に限定して記述する。新津丘陵窯跡群は新津丘陵北東斜面に分布し、七本松窯跡（256）〔中川・倉田1956〕、草水町2丁目窯跡、滝谷窯跡（255）〔川上・木村・鈴木1989〕などがある。平成18年度の下水道工事に伴う立会調査で七本松窯跡に隣接する地点で、新たに秋葉2丁目窯跡（257）（9世紀前半）が発見された。昭和27年に出版された『新津市誌』では新津丘陵に18か所の窯跡が存在すると記載されており〔小林1952〕、近隣に未知の窯跡がまだ多数存在すると考えられる。製鉄遺跡は新津丘陵西斜面に居村遺跡・大入C遺跡（303）などがあり、9世紀第2四半世紀以降とされる〔渡邊ほか1997〕。

次に、沖積地に立地する集落遺跡を古い時期から紹介する。長沼遺跡（236）は非ロクロの土師器や返りのある須恵器蓋が定量出土した、7世紀後半～8世紀の遺跡である〔渡邊1991〕。近年、秋葉区天ヶ沢地内の大沢谷内遺跡（321）からは7世紀後半の土器に伴出して県内最古と言われる「九九木簡」などの木製品や律令祭祀具などが出土している〔細野・伊比2012〕。両遺跡ともに、7世紀中葉の647年に造営されたとされる「淳足柵」と年代が近く、注目される。上浦A遺跡では掘立柱建物が発見され〔川上1997、坂上2003〕、円面硯や多量の墨書土器が出土している。上浦A遺跡の年代は出土遺物の年代観から7世紀末～10世紀と考えられ、存続期間の長い遺跡である。隣接する上浦B遺跡（233）〔新潟市国際文化部歴史文化課2007〕からは、周囲を溝で囲まれた総柱建物1基と掘立柱建物2基が方向を揃えて検出された。周囲には井戸や畑跡も検出されている。遺跡は9世紀後半の短期間に営まれている。希少なものとしては奈良三彩の小壺が1点出土している。

また、新津丘陵北側の満日地区には沖ノ羽遺跡〔石川ほか1994、星野ほか1996、細野ほか2002、春日2003a、北村・菊池ほか2004、立木・澤野ほか2005、立木ほか2008、遠藤・澤野ほか2014〕、山王浦遺跡（223）〔立木・澤野ほか2004b〕、中谷内遺跡（226）〔立木ほか1999、渡邊ほか2002〕、内野遺跡（225）〔立木・高野ほか2002〕、無頭遺跡（221）〔長澤ほか2002〕、大下遺跡（222）、中新田久保遺跡（220）など9世紀後半を中心とする遺跡が多く確認されている。沖ノ羽遺跡からは8世紀第3四半世紀から10世紀第1四半世紀までの遺構・遺物が連続的に確認されており、集落や生産域が時期的に移動する様相が明らかになりつつある。瓦塔や緑釉陶器香炉、同香炉蓋、土師器仏鉢形土器など特殊な遺物が出土した地点もあり、「村落内寺院」を持つ地域の中心的な集落である。山王浦遺跡からは9世紀後半の雨落溝を伴う掘立柱建物が3基検出されており、井戸や土坑など周辺施設が併設する建物小群がいくつか並存する「住耕一体型」の集落の一部と考えられる。中谷内遺跡からは平安時代の旧河道に沿って、集落の一部が確認された。旧河道の覆土中からは祭祀に伴う墨書土器が多数出土した。土器は上層と下層で様相を異にし、9世紀第3四半世紀からと第4四半世紀の概ね2～3時期に分けられる。緑釉陶器無台椀など希少品も出土している。内野遺跡からは溝・小土坑などが検出され、9世紀後半の集落の一部が確認された。無頭遺跡は狭小な調査区で不明な部分が多いが、9世紀後半の土器が少量出土している。

新津丘陵東側の両新地区では細池寺道上遺跡（244）〔小池ほか1994、立木・渡邊ほか1998、渡邊ほか2001、北村ほか2004、潮田2014〕、諏訪畑遺跡（250）〔潮田2008〕、小実山遺跡（546）〔山崎・遠藤1999〕など9～10世紀にかけての遺跡が確認されている。細池寺道上遺跡は、遺跡範囲が広範囲におよんでいるが9世紀代の遺物が主体的に確認されている。遺物の中には、「都保一口」と刻書された9世紀前半の須恵器短頸壺や土師器仏鉢形土器など特殊な遺物も出土している。諏訪畑遺跡からは9世紀後半から10世紀初頭の土師器長甕と鍋の一括資料が出土している。出土状況から畑跡遺構に伴うと考えられ貴重な例である。小実山遺跡は諏訪畑遺跡の能代川対岸の丘陵上に位置する。出土遺物は10世紀前半が主体である。緑釉陶器耳皿など特殊な遺物が出土している。

**中世の遺跡** 市内で215遺跡が確認されているが、秋葉区に限定して記述する。城館跡が10か所、山城として東島城跡（280）・金津城跡（311）〔横山・竹田ほか1987〕の2か所があり、館跡とされるものが5か所ある。

集落跡は平野部微高地に立地する。自然堤防上の遺跡の実態がよく分からなかったが、平成4年に調査された江内遺跡(230)〔春日ほか1996〕の発掘に伴い、14～15世紀の集落が発見された。また細池遺跡(現、細池寺道上遺跡)〔小池ほか1994〕では中世以降のほ場の各単位施設と思われる遺構が検出されている。沖ノ羽遺跡では12～13世紀の集落およびほ場の一部が確認された〔石川ほか1994、星野ほか1996、春日2003a〕。出土遺物の中には県内初出土となる烏帽子が出土している。沖ノ羽遺跡の北東にある内野遺跡の調査では14～15世紀の自然堤防上の集落の様相が明らかとなった〔立木・高野ほか2002〕。遺構としては掘立柱建物・井戸・溝があり、遺物は珠洲焼甕・壺類、青磁、白磁、瀬戸美濃焼などが確認された。さらにそれらの陶磁器とともに井戸内より鉄鍋が出土した。リサイクルを基本とする当時の社会で鉄製品が残ったということは、祭祀行為等で埋納されたと考えられる例である。そのほかに井戸底から大型犬の骨の一部が検出され、食用の可能性が指摘されており、中世の食文化を考える上で貴重である。

**近世の遺跡** 市内で50遺跡が確認されている。集落跡は中世と同じ平野部微高地に立地しており、現在の住宅地が存続して立地することが多く実態は不明な点が多い。発掘調査例も少ないが、秋葉区では江内遺跡で17世紀前半からの集落の一部が明らかにされている〔春日ほか1996〕。近年、湊町新潟の「近世新潟町跡」〔佐藤ほか2008〕が調査され、幾層も重なる生活面を確認した。肥前系を中心とする各地の陶磁器が多量に出土した。部分的な調査ではあるが、17～19世紀の町屋の実態に迫る重要な調査例である。

## 第3節 歴史的環境

古墳時代の越後国については文献資料では不明な点が多い。越後平野に立地する古墳は秋葉区の古津八幡山古墳をはじめ、西蒲区の菖蒲塚古墳・山谷古墳、西区の緒立神社古墳や三条市の保内三王山古墳などいずれも前期のもので、5世紀代は越後平野での古墳の実態は不明瞭である。5世紀後半以降は高田平野・魚野川流域に造営されるようになる。

越後の領域については第1段階(3～4世紀)は旧越前国(越前・加賀・能登)、第2段階(5～6世紀)は旧越中国(頸城・古志・魚沼・蒲原4郡まで含む)まで、第3段階(7世紀～)は淳足・磐舟柵までとし、次第に北上していく様が窺える〔米沢1965・1980〕。『続日本紀』大宝2年(702)3月条には、越中国4郡を割いて越後国に編入するとあり、頸城・古志・魚沼・蒲原の4郡がこれに当たるとされ、これにより越中国の領域が確定した。最終的に越後国の領域が確定するのは、和銅5年(712)にそれまで越後国に属していた出羽群を分割して出羽国を建国したことによる。

古代の秋葉区域は蒲原郡に属し、その郡域は概ね三条市以北阿賀野川以西の越後平野と推定され、中世南北朝期に蒲原郡の郡域が旧沼垂郡を含む領域に拡大されるまでは大幅な変更はないと思われる。7世紀段階には旧越中国の淳足柵に属する領域として整備され、8世紀には蒲原郡として成立したとみられる。蒲原郡内には10世紀成立の『和名類聚抄』に日置・桜井・勇礼・青海・小伏の5郷が見られる。秋葉区域の郷域は現段階では不明である。

宝亀11年(780)の「西大寺資財流記帳」(『寧楽遺文』中巻)には、西大寺の荘園として蒲原郡に鶺鴒橋庄・槐田庄が見られる。同資料に「越後国水田并墾田地帳景雲三年」とあることから、成立はいずれもそれ以前の8世紀中葉と見られる。所在地については式内社名から、鶺鴒橋庄は五泉市橋田、槐田庄は三条市周辺とされている。これらの荘園に秋葉区域が含まれていたのかは不明である。

新津丘陵における須恵器生産は、早ければ7世紀後半には始まり、8世紀前半～9世紀中頃が主な操業時期である。これは越後国内の他地域の須恵器生産動向とほぼ一致しており、いわゆる「一郡一窯体制」であった。しかし9世紀前半～中葉には、佐渡小泊窯の製品が越後国全域に流通するという画期的変化が生じる〔坂井1996〕一方、金津丘陵製鉄遺跡群は新津丘陵北西側の金津地区にあり、窯跡と近接するのは燃料が薪や木炭と

共通するためである。古代の秋葉区域の産業は新津丘陵の製鉄・窯跡群が中心で、低湿地や潟湖が大部分を占めていた越後平野の中で新津丘陵は重要な位置にあったと思われる、文献史料上は確認できないが、沼垂柵や国府津である蒲原津とも何らかの関係があった可能性がある。

11世紀後半に各地で成立し始めた公領のひとつである金津保は、秋葉区域に所在したとされる。金津保の初見は建武3年(1336)11月18日「羽黒義成軍忠状写」で、「同二日、引籠于金津保新津城、对于小国政光以下御敵等、到散々合戦畢」(『新潟県史』資料編4-1935〔新潟県1983〕)とあり、北朝方である三浦和田(羽黒)義成は金津保にあった新津城に籠り、南朝方の小国政光らと戦ったとある。この史料によって金津保には新津城が含まれていたことがわかり、この新津城とは新津城・程島館・東島城のいずれであろうとされる〔木村1989〕。また天正5年(1577)「三条衆給分帳」に「金津保之内遊川」(『新潟県史』資料編5-2704〔新潟県1984〕)とあり、遊川は田上町湯川とみられ、さらに天文13年(1544)10月10日「上杉玄清定実知行宛行状」・同「長尾晴景副状」(『新潟県史』資料編4-1495・1496〔新潟県1983〕)に「金津保下条村」とあるのは、五泉市下条に当たるとされる。以上のことから金津保の領域は年代によって若干の違いがあった可能性はあるが、秋葉区～田上町北部と新津丘陵の五泉市側までを含む範囲であったと推定する。

院政期～鎌倉初期には建仁元年(1201)3月4日に「城四郎長茂并伴類新津四郎已下、於吉野奥被誅畢」(『吾妻鏡』)とあり、新津四郎はおそらく金津保に何らかの関連を持つ人物と見られるが、阿賀野川以北に勢力を持ち国衛勢力と対峙する城長茂と行動をともにしている。このことから公領である金津保は国衛勢力と城氏との間で不安定な状況であったことが予想される。また南北朝動乱期には阿賀野川以北の北朝方佐々木加地景綱らと、刈羽・魚沼地域に勢力を置く南朝方の小国氏らの蒲原津をめぐる攻防が続き、阿賀野川流域である金津保(つまり秋葉区域)は、その中で拠点の一つとして注目されていた。その後も越後守護となった上杉氏・守護代長尾氏にとって、その支配に抵抗する阿賀野川以北の国人層や本庄・色部・中条・佐々木加地氏らを統制するために金津保は地理的に極めて重要な拠点であった。そのため金津保は国衛領として守護の支配下に置かれることとなる。

天正6年(1578)3月上杉謙信が死去し、養子である景勝・景虎の間で後継者争い「御館の乱」がおこる。この乱に景勝方として参戦した新津氏は、以降それまで金津保の勢力であった平賀氏に替わり領主となった。そして慶長3年(1598)景勝とともに会津へと国替えさせられるまで、新津氏が金津保を中心により発展することとなった。

中世における金津保を中心とした秋葉区域は、阿賀野川流域であり、蒲原津に近いという地理的環境や越後平野を一望することができるという新津丘陵の存在から、常に不安定な政治状況に置かれていた。先に金津保の領域に推定した範囲に、新津丘陵を中心に中世城館が常に置かれていたのはそのことを示しているのだろう。

近世に入り、越後平野では新発田藩によって新田開発に伴う治水工事が行われるようになった。また近世後期には町人請負による新田開発が盛んになり、潟の干拓が行われた。阿賀野川などの河川も水害対策のために堀割を掘削するなどの普請がなされた。

# 第Ⅲ章 調査の概要

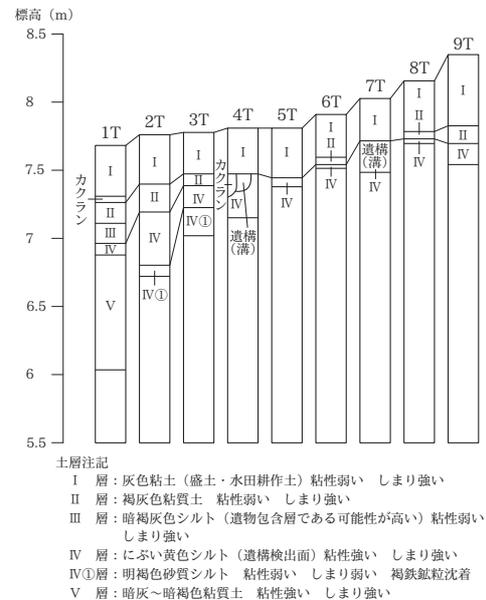
## 第1節 試掘・確認調査 (第3図、第1表、図版3)

市道大安寺第5号大関線改良工事(以下、市道改良)に伴う確認調査を2回(細池寺道上遺跡第36・42次調査、以下、第36次調査・第42次調査)実施している。

第36次調査は平成24年7月3日から4日の2日間、寺新田集落を挟む約640mの区間の水田部分を対象に実施した(市道改良第1次調査)。調査対象地は細池寺道上遺跡中央東寄りに含まれる。対象面積は6,400m<sup>2</sup>で、15か所のトレンチを設定した。調査の結果、表土から0.2～0.7mで遺物包含層の可能性が高い黒褐色シルト層が確認されたが、いずれの地点でも遺構・遺物は確認されなかった。

第42次調査は、平成25年11月18日から11月22日の5日間行った。調査対象地は細池寺道上遺跡北部に含まれる。道路と田の間の空闲地で、平成20年度に両新地区ほ場整備事業が行われる以前は水田であった。対象地中央部に接する範囲では、平成20年度にほ場整備事業に先立って細池寺道上遺跡第26次調査(以下、第26次調査)2区の本調査が行われており、道路状遺構や9棟の掘立柱建物跡などが検出されていることから、遺跡の広がりが見込まれた。確認調査対象面積は5,500m<sup>2</sup>で、9か所のトレンチを設定した。現地形は、南端の9Tにおいて標高8.3m程度と最も高く、北端の1Tで7.7mと南から北に向かって緩やかな下り勾配となっている。

調査の結果、いずれのトレンチからも遺物の出土はなく、遺物包含層の可能性が高い暗褐色シルト層(本調査Ⅲ層)は1Tで確認されたのみである。9か所のトレンチ中1・3Tを除く7か所で遺構が検出された。検出遺構は溝2条・土坑3基・ピット22基で、特に第26次調査2区に隣接する5～7Tで集中する傾向にある。これらの検出層位・標高、覆土は第26次調査で検出された遺構と近似することから、いずれも中世のものと判断され、道路新規拡幅部分の本調査を行うこととなった。



第3図 細池寺道上遺跡試掘・確認調査土層柱状図(1/80)

## 第2節 本発掘調査

### A 調査方法

#### 1) グリッドの設定(図版4)

当該地域については、平成19年度に県営両新地区ほ場整備事業に伴う調査実施のために、世界測地系(測地成果2000)を用いたグリッド設定が行われており、これをそのまま利用した。なお、当該地域では、平成23年の東日本大震災による地殻変動に対応するため、三角点位置および水準点標高の改定が行われているが(測地成果2011)、既往調査との整合をとるため特に断りがない場合には、測地成果2000による座標値を掲載している。

調査グリッドの基準点は、X座標：200400.000、Y座標：56900.000、緯度：37°48'15"14414、経度

139° 08' 46" 21710 (測地成果 2011 : X 座標 : 200399.790、Y 座標 : 56901.000、緯度 : 37° 48' 15" 13710、経度 139° 08' 46" 25792) を 1A-1A 杭とした。基準点に対し国土地理院の第 8 系座標軸を用いて 10m の方眼を組み、これを大グリッドとした。大グリッドの名称は北西隅の杭を基点として短軸方向をアラビア数字、長軸方向をアルファベットとし、この組み合わせによって表示した。大グリッドをさらに 2m 方眼に区分して 1 から 25 の小グリッドに分割し、「8O-4A12」のように呼称した。基準杭の打設は測量業者に委託した。

発掘調査区の座標は次のとおりである。

8O-4A (X 座標 : 199670.000、Y 座標 : 58300.000、Z 座標 : 7.967m、緯度 : 37° 47' 51" 14833、  
経度 : 139° 09' 43" 23785)

8O-4A 杭で長軸方向を座標北の 0 度 0 分 0 秒とし、座標北は真北に対し 0 度 20 分 20 秒 69 東偏し、磁北は真北に対し 8 度 10 分西偏する。

## 2) 調査方法

① 表土剥ぎ : 確認調査結果から、遺構確認面上面まで水田耕作による削平を受けていることが確認されたため、遺物包含層(Ⅲ層)上面まで、遺物の出土に注意しながら重機(バックホウ)により除去した。排土は一旦仮置場に集積した後、場外へ搬出した。法面は安全面を考慮して一分の勾配とした。また、湛水防止のために、表土剥ぎと並行して調査区の周囲に土側溝を掘り、2 時のポンプで強制排水を行った。土側溝は人力で掘削し、幅 20cm、深さ 20cm 程の溝で、壁面を垂直に掘ると崩壊する恐れがあるために緩く傾斜をつけた V 字の溝を掘削した。土側溝により遺構の破壊が考えられたが、湛水により調査が不能になることを防ぐ処置である。

② 包含層掘削・遺構検出・発掘 : 重機で掘削後、ジョレン等を用いて人力で精査を行い、包含層の掘削・遺構の検出にあたった。排土は人力で調査区外へ搬出した。

③ 実測・写真 : 実測図は断面図を 1/20 で作成した。平面図や各種測量点は測量業者に委託してトータルステーションを用いて作成し、あわせて俯瞰写真を撮影した。写真撮影は 35mm 版、6×7 版のフィルムカメラおよびデジタルカメラを用い、白黒フィルム・カラーポジフィルムを適宜併用した。

④ 遺物取り上げ : 包含層出土遺物は小グリッド単位として取り上げた。遺構出土遺物は点数が少ない地点が多く、層位・小グリッド単位ごとを一括で取り上げた。

⑤ 自然科学分析 : 土壌分析・植物珪酸体分析・花粉分析・種実同定・放射性炭素年代測定(AMS)の科学分析を行った。

## B 調査経過

平成 26 年 6 月 20 日から諸準備を開始した。農道乗り入れ、水田の使用等の協議を行い、準備工として、6 月 20 日に調査前草刈、6 月 26 日に調査前撮影、6 月 30 日に機材・重機、7 月 1 日に敷鉄板を搬入した。6 月 27 日～6 月 30 日に仮設準備作業を行い、7 月 4 日にプレハブ・休憩所・トイレなどを搬入・設置し、7 月 7 日に発掘機材の搬入を行った。

7 月 14 日から重機によって表土を除去する作業を調査区北側より開始。調査区南端までを 7 月 30 日まで行った。重機掘削と並行して作業員約 5 名で排水路掘削、法面仕上げおよび遺構検出準備作業を開始した。徐々に増員しながら、7 月 22 日より表土機械掘削班 5 名と遺構検出班 6 名の 2 班に分かれ、重機掘削の終了した調査区北側から包含層掘削および遺構検出作業を開始した。遺構の掘削・写真撮影・計測は 7 月 23 日より開始した。

9 月 11 日までにほぼ遺構の精査を終了し、空撮に備えた清掃作業を 9 月 12 日～9 月 18 日に行い、9 月 19 日にラジコンヘリコプターおよび高所作業車による調査区全体の撮影を行った。9 月 22 日にラジコンヘリコプターによる追加撮影を行った。全景撮影後は、9 月 22 日～24 日まで調査の補足を行うとともに現地説明会の準備作業を行った。

9 月 28 日に現地説明会を実施し、68 名の来場者があった。

### 第3節 整理作業

9月30日には(株)火山灰考古学研究所の早田勉氏に来跡頂き、1・2区の自然科学分析サンプリングを行った。

10月1日～9日まで機材搬出、撤収を行い、10月7日までにプレハブ・休憩所・トイレなどを撤去し、10月10日に秋葉区建設課と引き渡し協議を行ない、現地調査を終了した。

最終的な発掘調査面積は、合計面積は上端面積 557.28m<sup>2</sup>、下端面積 359.06m<sup>2</sup>である。

## C 調査体制

### 【平成25年度 第42次調査】

調査期間	平成25年11月18日～平成25年11月22日
調査主体	新潟市教育委員会（教育長 阿部愛子）
所管課・事務局	新潟市文化観光・スポーツ部歴史文化課（課長 倉地一則、課長補佐 拝野博一） 歴史文化課埋蔵文化財担当（主査 廣野耕造）
調査担当	朝岡政康（新潟市歴史文化課 主査）

### 【平成26年度 第43次調査】

調査・整理期間	平成26年6月20日～平成27年3月31日
調査主体	新潟市教育委員会（教育長 阿部愛子）
所管課・事務局	新潟市文化スポーツ部文化財センター （所長 中野俊一 所長補佐 福地康郎 主任 渡邊朋和 本間敏則 遠藤恭雄）
調査担当	遠藤恭雄（新潟市文化財センター 主任）
調査員	青木 誠 日聖祐輔（株式会社イビスク）

## 第3節 整理作業

### A 整理方法

#### 1) 遺物

遺物量はコンテナ（内径54.5×33.6×10.0cm）にして5箱である。平安・鎌倉・室町時代の土器・陶磁器・石製品・土製品・鍛冶関連遺物などの遺物がある。

遺物の整理作業は次の手順で行った。①洗浄。②注記。③包含層：グリッド別の種別の重量計測。④遺構：遺物の器種別の重量・個体数計測。⑤接合。⑥報告書掲載遺物の抽出。⑦実測図作成。観察表作成。⑧トレーズ図作成。⑨仮割付作成。⑩版下作成。このうち⑧と⑩は業者に委託してデジタル編集をした。

#### 2) 遺構

平面図を作成するにあたっては、まず測量業者に委託した1/20の遺構平面図と手取り断面図との校正作業を行った。報告書の1/80と1/40の遺構平面図は測量業者が作成し、デジタルデータとした。

### B 整理経過

発掘調査と並行して整理作業を行った。出土遺物の水洗・注記・計測・接合・実測作業と、写真・図面整理を行い、併せて測量業者に委託した遺構平面図の校正作業を行った。遺構平面図は測量業者作成のデジタルデータを用いた。職員および調査員は、遺物写真の撮影、図版のレイアウト、報告書の執筆・編集にあたり、平成26年度に報告書を刊行した。

## 第IV章 遺 跡

### 第1節 概 要

細池寺道上遺跡は阿賀野川の自然堤防上に立地する。標高は現水田面で8.5～8.2mを測り、南東から北西にかけて緩やかに下がっていく。遺構確認面でも同様に傾斜しており標高8.1～7.7mを測る。出土遺物は鎌倉・室町時代のうち13世紀から14世紀のものが主体を占め、平安時代の遺物は少量であり大半は後世の紛れ込みと見られる。

大部分の遺構は出土遺物の状況から鎌倉・室町時代に属する。調査区域全体が狭小なため遺構全体を調査できず、一部分の調査に限られているものが多い。

遺物量はコンテナ（内径54.5×33.6×10.0cm）換算で5箱となる。内訳は土器・陶磁器3箱、石製品・礫・鍛冶関連遺物1箱、木製品1箱である。

なお、本調査地（以下、本調査または第43次調査）は、2008年度ほ場整備に伴う調査地〔立木ほか2014〕（以下、第26次調査）2区に隣接する。

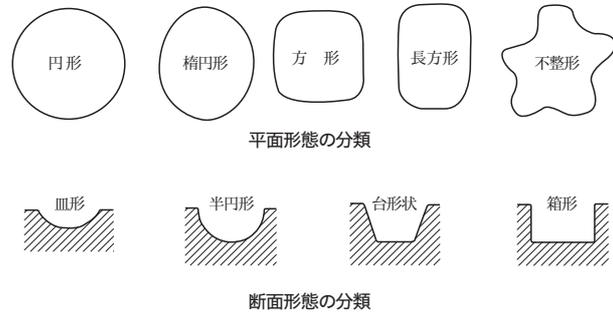
### 第2節 層 序（図版13、写真図版9・10）

基本層序は第26次調査を元にⅠ～Ⅳ層の4層に大別した。延長の長い調査区の記録をしているため、色調等に若干の相違が生じているが、共通の認識のもとに分層した。Ⅰ層は表土・盛土・現水田耕作土、Ⅱ層は現水田床土である。Ⅲ層は古代・中世の遺物包含層であるが、既に削平されているため、今回の調査ではごく一部の確認に留まる。Ⅳ層は遺構確認面となる。記録に際しては色調・土質、土色帖記号、粘性・しまり、混入物に着目した。調査区は大正末年から昭和20年代に行われた耕地整理による削平や耕作による攪乱および既存道路造成工事・埋設管敷設工事による攪乱を受けており、遺物包含層はほとんど消失している。遺構確認面までの深度は最も浅いところで0.5m、最も深いところで0.94mである。旧河川と推測される落ち込みは見られず、阿賀野川や早出川による洪水堆積層も確認できない。また、遺構確認面であるⅣ層は酸化しており長時間湛水することなく安定した土地だったことが窺える。

- Ⅰ 層 黒褐色（10YR3/1）土 粘性・しまりややあり。炭化物はほとんどなし。層厚0.4～0.8m。本調査区では畦を構築した時の盛土・整地土が主体。
- Ⅱ 層 褐灰色（10YR4/1）土 粘性あり、しまり非常にあり。炭化物はほとんどなし。層厚0.1～0.2m。水田耕作土・床土。色調等により細分は可能であったが、基本層として水田耕作土・床土と捉えられることから、今回の調査では分けていない。
- Ⅲ 層 黒褐色（10YR2/3）土 粘性ややあり、しまりあり。φ1mmの炭化物が少量入る。層厚0.06m。古代・中世の遺物包含層。今回の調査では既に削平されており、ごく一部の確認に留まる。
- Ⅳ 層 暗褐色（10YR3/4）土 粘性ややあり、しまりあり。炭化物はほとんどなし。地山、一部遺構確認面。

## 第3節 遺 構 (図版5～22)

遺構番号は調査区ごとに遺構の種別に関わらず通し番号を付したが、遺構ではないと判断したものについては欠番とした。説明は種別ごとにし、井戸 (SE)、土坑 (SK)、溝 (SD)、小土坑 (Pit)、道路状遺構の順に順次記す。遺跡全体で検出された遺構数は道路状遺構 2 基、SE10 基、SK16 基、SD28 基、小土坑 (Pit) 191 基である。遺構の形態分類は SE・SK・SD については大まかに円形・楕円形・方形・長方形・不整形の 5 種類に、断面形は皿形・半円形・台形状・箱形の 4 種類に分類し (第 4 図)、調査区外へ延びる遺構については可能な限り推測して記した。遺構の計測値等は別表 1 に記し、詳細な説明は一部省略している。



第 4 図 遺構形態模式図  
〔北村ほか 2004〕から転載・一部改変

調査区内は標高 7.70～8.10m を測り、遺構は 8.00m 以上の範囲に集中しており地形の低い北側では遺構密度が希薄となる。調査面積は上端面積 557.28m<sup>2</sup>、下端面積 359.06m<sup>2</sup> である。

### a 井 戸 (SE)

SE12 (図版 8・13・14、写真図版 9・10)

7N-10H9・10・14・15 に位置する素掘りの井戸である。Pit324 を切る。遺構の半分は調査区東側に延びている。平面形は長方形と推定され、断面形は台形状である。確認面での深さ 0.76m を測る。覆土は 4 層に分けられ、2 層は IV 層由来の黄褐色土ブロックを含む人為的な埋め戻し土である。遺物は出土していない。

SE46 (図版 8・14、写真図版 10)

8N-2J11・16 に位置する素掘りの井戸である。平面形は不整形で、断面形は台形状である。確認面での深さ 0.85m を測る。覆土は 4 層に分けられ、3 層以上は IV 層由来の黄褐色土ブロックを含む人為的な埋め戻し土である。珠洲焼片口鉢、砥石が出土している (図版 23・25)。

2 層より出土した種実 (コムギ胚乳) の放射性炭素年代測定の結果、14 世紀初頭～15 世紀初頭の年代が得られている。

SE77 (図版 8・13・14・22、写真図版 10)

8N-3J14 に位置する素掘りの井戸である。遺構の半分は調査区東側に延びている。確認面で深さ 0.51m を測る。平面形は楕円形と推定され、断面形は箱形である。覆土は 5 層に分けられ、3 層以上は IV 層由来の黄褐色土ブロックを含む人為的な埋め戻し土である。珠洲焼甕が出土している (図版 23)。

SE169 (図版 10・15、写真図版 10)

8O-9D23 に位置する素掘りの井戸である。SK286 の西側を切る。遺構の半分は調査区西側に延びている。平面形は楕円形と推定され、断面形は皿形である。確認面で深さ 1.12m を測る。覆土は 5 層に分けられ、全体が IV 層由来の黄褐色土ブロックを含む人為的な埋め戻し土である。中世土師器皿小片が出土している。

SE178 (図版 11・14、写真図版 10)

9O-1E1・2・6・7 に位置する素掘りの井戸である。Pit180 に切られる。遺構の半分は調査区東側に延びている。平面形は楕円形と推定され、断面形は台形状である。確認面で深さ 1.05m を測る。覆土は 5 層に分けられ、3 層以上は IV 層由来の黄褐色土ブロックを含む人為的な埋め戻し土である。青磁椀、鉄釘、鉄滓が出土している (図版 23)。

**SE189** (図版 11・16、写真図版 11)

9O-2E15・20 に位置する素掘りの井戸である。西側上面を攪乱により切られる。平面形は楕円形で、断面形は箱形である。確認面で深さ 0.90m を測る。白磁碗、軽石製石製品が出土している (図版 23)。

**SE208** (図版 12・15、写真図版 11)

9O-6H2・7・8・12 に位置する素掘りの井戸である。SD293 の東側と SD309 の西側を切る。調査区東側に延びており、遺構全体の 3/4 の確認に留まる。平面形は円形と推定され、断面形は台形状である。確認面で深さ 1.04m を測る。覆土は 6 層に分けられる。珠洲焼片口鉢・中世土師器皿小片・須恵器壺が出土している (図版 23)。

**SE262** (図版 9・16、写真図版 11)

8O-4A22・23 に位置する素掘りの井戸である。SD256 に北側を切られる。調査区西側に延びており、遺構全体の 3/4 の確認に留まる。平面形は楕円形であり、断面形は箱形である。確認面で深さ 0.85m を測る。覆土は 2 層に分けられ、いずれも IV 層由来の黄褐色土ブロックを含む堆積であり、短期間に人為的に埋められたことがわかる。須恵器無台坏が出土している。

**SE263** (図版 10・16・20、写真図版 11)

8O-7B15・7C11 に位置する素掘りの井戸である。SD142 の東側を切る。遺構の大半は調査外に延びている。平面形は円形で、断面形は台形状である。確認面で深さ 1.41m を測る。覆土は 3 層に分けられる。珠洲焼片口鉢、珠洲焼甕、土師器、鉄滓、礫が出土している (図版 23)。3 層より出土した種実 (イネ胚乳) の放射性炭素年代測定の結果、13 世紀後葉～14 世紀後葉の年代が得られている。

**SE300** (図版 12・15、写真図版 11)

9O-6H1・2 に位置する素掘りの井戸である。南側を SD293 と Pit209、西側を Pit205 に切られる。調査区東側に延びており、遺構全体の 3/4 の確認に留まる。平面形は円形と推定され、断面形は台形状である。確認面で深さ 1.06m を測る。覆土は 4 層に分けられる。青磁碗、珠洲焼片口鉢、珠洲焼甕、軽石製石製品が出土している (図版 23～25)。4 層より出土した種実 (コムギ胚乳) の放射性炭素年代測定の結果、13 世紀後葉の年代が得られている。

**b 土 坑 (SK)****SK20** (図版 8・16、写真図版 11)

7N-10H20・25、10I16・21 に位置する。西側を攪乱に切られる。平面形は不整形、断面形は皿形である。確認面で長軸 1.58m、深さ 0.15m を測る。覆土は単層であり、黄褐色土ブロックを含む。遺物は出土していない。

**SK38** (図版 8・16)

8N-1I23・24 に位置する。遺構の半分は調査区東側に延びている。Pit249 の上面を切る。平面形は楕円形、断面形は半円形である。確認面で現存長軸 0.85m・短軸 0.74m・深さ 0.20m を測る。覆土は単層であり、黄褐色土ブロックを含む。中世土師器小片が出土している。

**SK49** (図版 8・17、写真図版 12)

8N-2J17・22 に位置する。Pit48・58 に切られる。遺構の半分は調査区東側に延びている。平面形は不整形、断面形は皿形である。確認面で長軸 1.56m・現存短軸 0.34m・深さ 0.50m を測る。覆土は 2 層に分けられ、3 層以上は IV 層由来の黄褐色土ブロックを含む人為的な埋め戻し土である。断面形状からは柱穴の可能性もあるが、判然としない。遺物は出土していない。

**SK127** (図版 9・13・17、写真図版 9・12)

8O-5A15 に位置する。遺構の半分は調査区東側に延びている。西側は SK128 を切る。平面形は長方形と思われ、断面形は台形状である。確認面で現存長軸 1.02m・現存短軸 0.41m・深さ 0.51m を測る。覆土は 7 層に分けられ、III 層由来の黒褐色土ブロック・IV 層由来の黄褐色土ブロックを含む人為的な埋め戻し土である。遺

物は出土していない。

SK128 (図版9・17、写真図版9・12)

8O-5A14・15に位置する。東側をSK127、上面をPit125に切られる。平面形は楕円形と推定され、断面形は台形状である。確認面で現存長軸0.73m・短軸0.50m・深さ0.45mを測る。遺物は出土していない。形状からは溝の可能性はある。

SK130 (図版9・17、写真図版12)

8O-5A20に位置する。遺構の半分は調査区東側に延びている。西側をPit129に切られる。平面形は楕円形と推定され、断面形は半円形である。確認面で長軸0.64m・現存短軸0.38m・深さ0.18mを測る。覆土は単層である。土師器長甕・小甕小片が出土している。

SK174 (図版10・18、写真図版12)

8O-10D20に位置する。調査区西側に延びており、遺構全体の1/4のみの確認に留まる。南側をSK265に切られる。平面形は円形と推定され、断面形は皿形である。確認面で現存長軸0.45m・現存短軸0.40m・深さ0.13mを測る。黄褐色土ブロックを含む。遺物は出土していない。

SK186 (図版11・18、写真図版12)

9O-2E2・3に位置する。遺構の半分は調査区西側に延びている。南側のSK270を切る。平面形は楕円形と推定され、断面形は一段を有する皿形である。確認面で長軸0.80m・現存短軸0.30m・深さ0.11mを測る。遺物は出土していない。堆積土の状況から井戸の可能性はあるが、西壁際のため詳細は不明である。

SK200 (図版12・18、写真図版12)

9O-5G3・8に位置する。遺構の半分は調査区東側に延びている。西側はSK201に切られる。平面形は楕円形と推定され、断面形は台形状である。確認面で長軸1.02m・現存短軸0.50m・深さ0.10mを測る。覆土は2層であり、黄褐色土ブロックを含む。遺物は出土していない。

SK201 (図版12・18・21、写真図版12)

9O-5G3・8に位置する。遺構の大半は調査区西側に延びている。東側のSK200と西側のSD199を切る。平面形は楕円形と推定され、断面形は台形状である。確認面で長軸0.95m・現存短軸0.19m・深さ0.08mを測る。覆土に黄褐色土ブロックを含む。遺物は出土していない。

SK265 (図版10・18、写真図版12)

8O-10D20に位置する。遺構の半分は調査区西側に延びている。南側でSK174を切る。平面形は楕円形と推定され、断面形は皿形である。確認面で長軸0.60m・現存短軸0.65m・深さ0.06mを測る。覆土に黄褐色土ブロックを含む。遺物は出土していない。

SK268 (図版11・18、写真図版13)

9O-1E12・13・17・18に位置する。遺構の大半は調査区東側に延びている。平面形は不整形、断面形は台形状である。確認面で長軸1.89m・現存短軸0.50m・深さ0.36mを測る。覆土は3層であり、黄褐色土ブロックを含む。坑底面には粘質の黒色シルトが見られる。須恵器瓶類底部片が出土している(図版24)。堆積土の状況から井戸の可能性はある。

SK270 (図版11・18、写真図版12)

9O-2E4に位置する。遺構の半分は調査区西側に延びている。北側をSK186に切られる。平面形は方形、断面形は半円形である。確認面で現存長軸0.36m・現存短軸0.26m・深さ0.16mを測る。覆土に黄褐色土ブロックを含む。遺物は出土していない。坑底面南側に杭状の痕跡と北側に緩やかな段差を有し、Pitの可能性はあるが、全容を確認できていないため、詳細は不明である。

SK286 (図版10・18、写真図版13・15)

8O-9D23に位置する。遺構の大半は調査区外に延びている。北側をSE169に切られ、南側のSD170を切る。

平面形は不明、断面形は台形状である。確認面で長軸 0.70m・現存短軸 0.65m・深さ 0.43m を測る。覆土は単層であり、黒色土が主体である。遺物は出土していない。断面の形態、堆積土の状況から溝の可能性はある。

SK294 (図版 12・19・22、写真図版 13)

9O-6H13・14・18・19 に位置する。遺構の半分は調査区東側に延びている。北側の Pit305・310・311、南側の Pit304 を切る。平面形は楕円形と推定され、断面形は半円形である。確認面で現存長軸 1.93m・現存短軸 0.68m・深さ 0.53m を測る。覆土は 4 層であり、黒色土が主体である。遺物は出土していない。形状、堆積土の状況から井戸の可能性はある。

SK334 (図版 12・13・19、写真図版 10・13)

9O-7H5・10、7I1・6 に位置する。遺構の大半は調査区外に延びているため、全体の 1/4 の確認に留まる。平面形は楕円形と推定され、断面形は台形状である。確認面で現存長軸 1.10m・現存短軸 0.89m・深さ 0.38m を測る。覆土は 3 層である。遺物は出土していない。形状、堆積土の状況から井戸の可能性はある。

### C 溝 (SD)

SD3 (図版 7・19、写真図版 13)

7N-6G17・22・23、7G3・8 に位置する。主軸方位は N38° W で南北は調査区外へ延びる。断面形は皿形である。確認面で現存幅 0.75m、掘り込み面からの深さ 0.15m を測る。覆土は 2 層である。遺物は土師器小片が出土している。堆積土は黒色土であるがしまりが弱く、新しい時期のものである可能性が高い。

SD40 (図版 8・13・19、写真図版 9・13)

8N-2I4・5・9・10 に位置する。南側で Pit41 を切る。主軸方位は N58° E で東西は調査区外へ延びる。断面形は台形状である。確認面で幅 1.98m、深さ 0.58m を測る。覆土は 5 層に分けられる。遺物は出土していない。

SD117 (図版 9・13・17、写真図版 13)

8O-5A3・4・8・9 に位置する。主軸方位は N81° E で東西は調査区外へ延びる。断面形は台形状である。確認面での幅 0.70m、掘り込み面からの深さ 0.37m を測る。覆土は 3 層に分けられる。珠洲焼片口鉢、土師器小片、鉄滓が出土している (図版 24)。SD316 とセットで道路状遺構 3 を構成する。

SD122 (図版 9・13・17、写真図版 14)

8O-5A9・14 に位置する。南側を SD123 に切られる。主軸方位は N72° E で東西は調査区外へ延びる。断面形は緩やかな段を持つ半円形である。確認面での幅 0.68m、掘り込み面からの深さ 0.34m を測る。覆土は 3 層に分けられ、黄褐色土ブロックを含む。遺物は出土していない。

SD123 (図版 9・13・17、写真図版 14)

8O-5A14・15 に位置する。北側の SD122 を切る。主軸方位は N72° E で東西は調査区外へ延びる。断面形は台形状である。確認面での幅 0.42m、掘り込み面からの深さ 0.22m を測る。覆土は 2 層に分けられ、黄褐色土ブロックを含む。土師器長甕の小片 6 点が出土している

SD137 (図版 9・20、写真図版 8・14)

8O-6B7・12・13・18・23・24 に位置する。少なくとも 3 時期の溝を含み、第 26 次調査 2 区で確認された道路状遺構 1 の西側を構成する SD78・79 の南側延長にあたりと考えられる。主軸方位は北側が N3° W、南側が N5° W で、南北は調査区外へ延びる。切り合いがあり不明瞭であるが、北側で断面形半円状、確認面での現存幅 0.86m、掘り込みからの深さ 0.49m を測り、覆土は 3 層に分けられる。南側では断面台形状、確認面での現存幅 1.00m、掘り込みからの深さ 0.57m を測る。覆土は 4 層である。南北の 2 条の溝はほぼ同軸であることから、同一の機能を持つ溝が造り直されたものとする。また、北側の溝の断面を見ると、異なる深度の部分が発見されており、これは掘り直した痕跡と考えられる。これらのことから、少なくとも 3 時期の掘り直しが行われたと推定される。須恵器長頸壺頸部片・中世土師器皿、珠洲焼甕が出土している (図版 24)。南側の坑底面には工具痕が残る。南側 3 層より出土した種実 (イネ胚乳) の放射性炭素年代測定の結果、11 世紀半ば～13

世紀初頭の年代が得られている。

SD142 (図版9・10・20、写真図版8・14)

8O-7B4・5・9・10・15に位置する。第26次調査2区で確認された道路状遺構1の東側を構成するSD767・768の南側延長にあたると思われる。主軸方位はN11°Wで、断面形は半円形、確認面での現存幅0.85m・掘り込み面からの深さ0.67mを測るが、南北は調査区外へ延びるため、全容は不明である。覆土は3層である。遺物は出土していない。断面の観察からSD137同様、異なる深度の部分が検出されており、少なくとも2時期は存在する。

SD144 (図版10・21、写真図版15)

8O-7C16に位置する。主軸方位はN82°Eで東西は調査区外へ延びる。断面形は台形状である。確認面での幅0.48m、掘り込み面からの深さ0.27mを測る。覆土は2層に分けられ、IV層由来の黄褐色土ブロックを含む人為的な埋め戻し土である。鉄滓が出土している。

SD148 (図版10・21、写真図版15)

8O-7C22、8C2に位置する。北側をPit145に切られる。主軸方位はN8°Eで南北は調査区外へ延びる。断面形は皿形である。確認面での短軸0.68m、掘り込み面からの深さ0.14mを測る。覆土は2層に分けられ、IV層由来の黄褐色土ブロックを微量含む堆積土である。遺物は出土していない。

SD150 (図版10・21、写真図版15)

8O-8C8に位置する。南側のSD151を切る。主軸方位はN59°Eで東西は調査区外へ延びる。断面形は台形状である。確認面での幅0.88m、掘り込み面からの深さ0.41mを測る。覆土は単層で、IV層由来の黄褐色土ブロックを含む人為的な埋め戻し土である。遺物は出土していない。

SD151 (図版10・21、写真図版15)

8O-8C8に位置する。北側をSD150に切られる。主軸方位はN73°Eで東西は調査区外へ延びる。断面形は半円形である。確認面での幅0.58m、掘り込み面からの深さ0.32mを測る。覆土は単層で、IV層由来の黄褐色土ブロックを含む人為的な埋め戻し土である。珠洲焼片口鉢が出土している。

SD153 (図版10・21、写真図版15)

8O-8C9・13・14に位置する。主軸方位はN70°Eで東西は調査区外へ延びる。断面形は皿形である。確認面での幅1.19m、掘り込み面からの深さ0.16mを測る。覆土は単層で、IV層由来の黄褐色土ブロックを含む人為的な埋め戻し土である。遺物は出土していない。

SD154 (図版10・21、写真図版15)

8O-8C14・19に位置する。主軸方位はN54°Eで東西は調査区外へ延びる。断面形は台形状である。確認面での幅0.63m、掘り込み面からの深さ0.35mを測る。覆土は3層に分けられ、III層由来の黒褐色土ブロックとIV層由来の黄褐色土ブロックを含む人為的な埋め戻し土である。特に2層は黒色土の割合が高い。遺物は出土していない。

SD158 (図版10・21、写真図版15)

8O-9D1・6に位置する。主軸方位はN70°Eで東西は調査区外へ延びる。断面形は台形状である。確認面での幅1.22m、掘り込み面からの深さ0.58mを測る。覆土は5層に分けられ、III層由来の黒褐色土ブロックとIV層由来の黄褐色土ブロックを含む人為的な埋め戻し土である。特に5層は黒色土の割合が高い。遺物は出土していない。

SD162 (図版10・21、写真図版15)

8O-9D12・17に位置する。主軸方位はN65°Eで東西は調査区外へ延びる。断面形は台形状である。確認面での幅1.00m、掘り込み面からの深さ0.57mを測る。覆土は5層に分けられ、III層由来の黒褐色土ブロックとIV層由来の黄褐色土ブロックを含む人為的な埋め戻し土である。特に3・4層は黒色土の割合が高い。遺物は珠

洲焼甕、軽石製石製品、焼礫、礫が出土している（図版24）。

**SD170**（図版10・18、写真図版13・15）

8O-9D23、10D3・4に位置する。西側をSK286に切られる。主軸方位はN64°Eで東西は調査区外へ延びる。断面形は台形状である。確認面での幅1.60m、掘り込み面からの深さ0.64mを測る。覆土は4層に分けられ、Ⅲ層由来の黒褐色土ブロックとⅣ層由来の黄褐色土ブロックを含む人為的な埋め戻し土である。特に3層は黒色土の割合が高い。擦石が出土している

**SD173**（図版10・21、写真図版16）

8O-10D9に位置する。西側でPit172を切る。主軸方位はN79°Eで東西は調査区外へ延びる。断面形は台形状である。確認面での幅0.76m、掘り込み面からの深さ0.51mを測る。覆土は5層に分けられ、2～4層はⅢ層由来の黒褐色土ブロックとⅣ層由来の黄褐色土ブロックを含む人為的な埋め戻し土である。特に5層は黒色土の割合が高い。須恵器小片が出土している。南側のテラスは掘り直しの可能性がある。

**SD199**（図版12・21、写真図版16）

9O-4G22・23、5G2・3に位置する。東側をSK201に切られる。主軸方位はN9°Eで南北は調査区外へ延びる。断面形は台形状である。確認面での幅0.89m、掘り込み面からの深さ0.65mを測る。覆土は4層に分けられ、2～4層はⅢ層由来の黒褐色土ブロックとⅣ層由来の黄褐色土ブロックを含む堆積土である。特に下層は粘性が高い。遺物は出土していない。

**SD219**（図版12・13・22、写真図版9・16）

9O-6H25、7H5、7I1に位置する。Pit320に切られる。主軸方位はN21°Eで南北は調査区外へ延びる。断面形は皿形である。確認面での短軸0.70m、掘り込み面からの深さ0.10mを測る。覆土は単層であり、Ⅲ層由来の黒褐色土とⅣ層由来の黄褐色土ブロックを含む堆積土である。遺物は出土していない。

**SD237**（図版8・13・19、写真図版16）

8N-1I24、2I4に位置する。主軸方位はN65°Eで東西は調査区外へ延びる。断面形は皿形である。確認面での短軸0.40m、掘り込み面からの深さ0.06mを測る。覆土は2層に分けられ、1層はⅢ層由来の黒褐色土ブロック、2層はⅣ層由来の黄褐色土ブロックを含む堆積土である。遺物は出土していない。

**SD239**（図版8・13・22、写真図版9・16）

8N-3J2・3に位置する。主軸方位はN76°Eで東西は調査区外へ延びる。断面形は半円形である。確認面での幅0.42m、掘り込み面からの深さ0.14mを測る。覆土は2層に分けられ、1層はⅡ層由来の灰褐色土ブロック、2層はⅣ層由来の黄褐色土ブロックを含む堆積土である。1層は水田耕作時に掘り返されて、混入したと考えられる。遺物は出土していない。SD240とセットで第26次調査2区道路状遺構2の西側延長部と考えられる。

**SD240**（図版8・13・22、写真図版9・16）

8N-3J3・7・8に位置する。主軸方位はN78°Eで東西は調査区外へ延びる。断面形は半円形である。確認面での幅0.40m、掘り込み面からの深さ0.20mを測る。覆土は2層に分けられ、1層はⅡ層由来の灰褐色土とⅣ層由来の黄褐色土ブロック、2層はⅣ層由来の黄褐色土ブロックを含む堆積土である。1層は水田耕作時に掘り返されて、混入したと考えられる。遺物は出土していない。SD239とセットで第26次調査2区道路状遺構2の西側延長部と考えられる。

**SD256**（図版9・22、写真図版16）

8O-4A17・18・23に位置する。溝に土坑状の落ち込みが伴う遺構である。主軸方位はN12°Wで北は調査区外へ延びる。溝部分は断面半円形で、確認面での幅0.26m、掘り込み面からの深さ0.22mを測る。覆土は5層に分けられ、Ⅲ層由来の黒褐色土とⅣ層由来の黄褐色土ブロックを含む堆積土である。1・2層は溝を造り替えている可能性が高い。遺物は出土していない。

SD272 (図版10・21、写真図版17)

8O-10D9・14に位置する。主軸方位はN65°Eで東西は調査区外へ延びる。断面形は皿形である。確認面での幅0.62m、掘り込み面からの深さ0.06mを測る。覆土は単層であり、IV層由来の黄褐色土ブロックを含む人為的な埋め戻し土である。遺物は出土していない。

SD273 (図版10・21、写真図版17)

8O-10D14・15に位置する。主軸方位はN63°Eで東西は調査区外へ延びる。断面形は皿形である。確認面での幅0.58m、掘り込み面からの深さ0.09mを測る。覆土は単層であり、IV層由来の黄褐色土ブロックを含む人為的な埋め戻し土である。遺物は出土していない。

SD293 (図版12・22)

9O-6H1・6・7に位置する。主軸方位はN38°Wで東側をSE208に切られる。北西は調査区西壁外へ延びる。断面形は台形状である。確認面で現存幅0.21m、掘り込み面からの深さ0.11mを測る。遺物は出土していない。

SD309 (図版12・22、写真図版17)

9O-6H7・8・12・13に位置する。主軸方位はN6°Eで北側をSE208に切れ、南側のPit312を切る。南北は調査区外へ延びる。断面形は台形状である。確認面で幅0.70m、掘り込み面からの深さ0.41mを測る。覆土は3層に分けられ、III層由来の黒褐色土とIV層由来の黄褐色土ブロックを含む堆積土で、黒褐色土度が主体である。珠洲焼片口鉢、珠洲焼甕が出土している(図版24)。

SD316 (図版9・22、写真図版17)

8O-4A23、5A3に位置する。主軸方位はN70°Eで南側の一部をPit116に切られる。東西は調査区外へ延びる。断面形は台形状である。確認面で幅1.00m、掘り込み面からの深さ0.55mを測る。覆土は4層に分けられ、IV層由来の黄褐色土ブロックを含む堆積土である。覆土の堆積の様相から、掘り直しが行われた可能性が考えられる。遺物は出土していない。SD117とセットで道路状遺構3を構成し、第26次調査2区SD882の西側延長部と考えられる。

d 小 土 坑 (Pit)

調査区の幅が狭小で南北に長いので、検出した小土坑は調査区に点在する状況であり、調査範囲内では建物としての配列は確認できなかった。しかし、掘立柱建物などの検討が必要と考えられるため、個別ではなく覆土の状況と性格で群として概要を述べる。

遺構覆土については、黒色土が中世遺物包含層(III層)由来と考えられ、明確な黒色土が堆積しているもの、性格については堆積状況から柱穴と考えられるものを抽出した。本調査の遺構覆土の観察で明らかになった黒色土の堆積が見られるものは、Pit106・184・301・303で、覆土の状況・断面形態から、柱穴と考えられるものはPit35・100・106・176・281・284・292・310・311・315・329・333である。特にPit100・106は第26次調査2区の掘立柱建物SB990の延長と捉えられ、Pit100はPit656、Pit106はPit667の西側延長部に位置すると考えられる。その他の柱穴は、Pit35・315・329・333は第26次調査区隣接、Pit176・281・284は道路状遺構1と本調査地南端との間、Pit292・310・311は本調査地南端に位置し、大きく3群のまとまりを有する。これらの柱穴は、周囲に掘立柱建物が展開する可能性があるが、本調査の範囲内では建物あるいは柱列としての配置は認められなかった。しかし、これらの柱穴検出地点は、規模の差はあるものの柱穴以外に溝あるいは道路状遺構と井戸がまとまっており、遺構のセット関係からも居住域の一部である可能性が考えられる。

e 道路状遺構 (図版5・8～10・13・17・19・20・22、写真図版8・9・13・17)

道路状遺構1

8O-6B7・12・13・18・19・23・24・7B4・5・9・10・15に位置し、第26次調査2区で検出された道路状遺構1の南側延長にあたる。西側の側溝はSD137、東側の側溝はSD142で構成される。前述のように

SD137は少なくとも3時期、SD142は2時期の掘り直しが認められ、継続的に維持管理されていたことが窺える。溝に挟まれた遺構密度の低い空間が路面として機能していたと推測されるが、路面に稀に見られる硬化面や波板状遺構は確認されなかった。検出範囲からの想定模式図(図版20)によれば、側溝を含む幅は5.44m(路面幅1.84m)である。路面部分における主軸方向はN5°W～N3°Eで、第26次調査道路状遺構1が主軸をN30°Wにとるのに比し、上流(南側)に向けて西寄りに屈曲する。第26次調査2区SD78・SD79がSD137に、SD768・SD767がSD142の延長にあたると思われる。

#### 道路状遺構2

8N-3J2・3・7・8に位置し、第26次調査2区道路状遺構2の西側延長にあたる。主軸方向はN80°EでSD239を北側、SD240を南側の側溝とし、側溝を含む幅は1.20m、路面幅0.40mで、西側は調査区外へと延びる。第26次調査2区SD154は調査範囲西壁まで延びてはいないが、位置関係・軸方向からSD239が連続し、第26次調査2区SD155はSD240に連続すると想定される。第26次調査道路状遺構1と道路状遺構2はほぼ直交する。

#### 道路状遺構3

8O-4A23・5A3・4・8・9に位置する。同じ軸方向で隣接するSD117とともに道路状遺構3とした。側溝を含む幅は3.30m、路面幅1.60mで、東西は調査区外へと延びる。主軸方向はN74°Eで、第26次調査2区SD882がSD316の延長上にある。調査範囲外のため不明確であるが、第26次調査道路状遺構1とほぼ直角の位置関係にある。

# 第V章 遺 物

## 第1節 概 要

細池寺道上遺跡からは古代、中世の遺物が出土している。遺物出土総量は、コンテナ（内法54.5×33.6×10.0cm）に5箱である。遺物の内容は、土器・陶磁器3箱、石製品・鉄製品・鍛冶関連遺物・礫1箱、木製品1箱である。

調査区を第26次調査2区隣接部より北側の7Nグリッド（以下、北部）、隣接する8N・8Oグリッド（以下、中央部）、南側の9Oグリッド（以下、南部）の3地区に分けて古代・中世の土器・陶磁器の出土状況を概観する。なお、調査区内は包含層（Ⅲ層）が部分的にしか残存せず、遺物の出土量も少なかったため、遺物点数については遺構の内外・出土層位を考慮していない。

古代の土器では、土師器が41点、須恵器が10点、合計51点出土している。中央部で38点、全体の74.5%を占め、北部で7点、南部で6点、それぞれ10%強の出土である。小片が多いが、概ね9世紀代のものと推定され、中央部に集中する傾向である。中世の土器・陶磁器類は、白磁1点、青磁5点、中世土師器11点、瀬戸美濃焼1点、珠洲焼42点、合計60点が出土している。出土状況は北部で4点、6.9%、中央部で25点、43.1%、南部で27点、46.6%、一括としたものが2点、3.4%ある。中央部と南部での出土数が多い。このほか、鍛冶関連遺物として中央部で7点、108.5g、南部で1点、19g、合計8点、127.5gの鉄滓、中央部のPit106で鞆の羽口1点が出土している。

出土遺物の記述については、土器・陶磁器、鍛冶関連遺物、石製品の順とし、さらに遺構内出土種別順（井戸SE・土坑SK・溝SD・小土坑Pit）、遺構外の順で行う。土器・陶磁器の分類・名称及び編年については、珠洲焼は吉岡康暢の研究〔吉岡1994〕、白磁・青磁は山本信夫の研究〔山本2000〕を参考とした。

## 第2節 遺構出土遺物（図版23～25、別表2～4）

SE46（図版23・25、写真図版18）

珠洲焼片口鉢（1）が出土している。口縁部の破片で口縁端部は方頭形を呈する。ロクロ成形と思われ、内面に卸目が1目残る。卸目が少ないことからⅢ～Ⅳ期と考えられる。

凝灰岩製の砥石（39）が出土している。上端部を含め6面に砥面が残る、長さ12.6cmの手持ち砥石である。

SE77（図版23、写真図版18）

珠洲焼甕（2）が出土している。胴部の破片である。外面にはタタキメが残る。

SE178（図版23、写真図版18）

青磁碗（3）の胴部片が出土している。内面に草花文が見られる。ほかに鉄滓片が出土している。

SE189（図版23、写真図版18）

白磁碗（4）が出土している。口縁部の破片である。V-4a類またはⅧ-1類でD期（Ⅳ～Ⅴ期、12世紀中頃～後半）に相当する。

SE208（図版23、写真図版18）

珠洲焼片口鉢（5・6）が出土している。5は口縁部の破片である。内面に卸目は見られないが、方頭形を呈することからⅣ2・3期に相当すると考えられる。6は胴部の破片である。ロクロ成形と思われる。7目以上の卸目が施される。口縁部が欠損するが、卸目が充填されていないことからⅣ期に相当すると考えられる。

## SE263 (図版 23、写真図版 18)

珠洲焼片口鉢 (7)、珠洲焼甕 (8・9) が出土している。7 は胴部から底部の破片である。内面に 1 単位 9 目の卸目が施される。卸目がやや密に施されることから IV 期に相当すると考えられる。8・9 はいずれも胴部の破片である。外面にはタタキメが残る。ほかに鉄滓片 2 点が出土している。

## SE300 (図版 23～25、写真図版 18)

青磁碗 (10)、珠洲焼片口鉢 (11～13)、珠洲焼甕 (14～17)、軽石製石製品 (40) が出土している。10 は青磁碗高台部の破片である。高台内面は釉を剥ぎ取っている。11～13 は珠洲焼片口鉢である。11 は口縁部から胴部の破片で、ロクロ成形と思われる。内面に卸目が 1 単位 6 目残る。口縁外端部が嘴状にやや張り出すことから IV 期と考えられる。12 は口縁部から胴部の破片である。被熱によるものか、内面がやや変色している。内面に 1 単位 10 目～11 目の卸目が施される。口縁端部が方頭形を呈することから IV 期と考えられる。13 は底部の破片である。内・外面に煤状の付着物が見られる。残存部内面は素文であるが、周辺状況から IV 期と考えられる。14～17 は珠洲焼甕胴部の破片である。外面にはタタキメが残る。40 は楕円形の軽石製石製品で、顕著な加工痕・使用痕は見られない。何らかの素材として持ち込まれた可能性がある。

## SK268 (図版 24、写真図版 18)

18 は須恵器瓶類の底部と推定される。貼り付けの高台が残る。見込みに摩滅した使用痕が残ることから硯に転用した可能性もある。

## SD117 (図版 24、写真図版 18)

珠洲焼片口鉢 (19) が出土している。底部の破片である。内面には 1 単位 11 目の卸目が放射状に施される。時期は IV 期に相当すると考えられる。

## SD137 (図版 24、写真図版 18)

中世土師器皿 (20) の口縁部片が出土している。ロクロ成形で厚手の作りである。ほかに須恵器長頸壺頸部片が出土している。

## SD162 (図版 24、写真図版 18)

珠洲焼甕 (21) が出土している。胴部の破片である。外面にはタタキメが残る。

## SD309 (図版 24、写真図版 18)

珠洲焼片口鉢 (22)、珠洲焼甕 (23・24) が出土している。22 は珠洲焼片口鉢胴部の破片である。現状で観察できる卸目は 3 目である。卸目が充填されていないことから IV 期に相当すると考えられる。23・24 は胴部の破片である。外面にはタタキメが残る。

## P180 (図版 25、写真図版 18)

凝灰岩製の砥石 (41) が出土している。上端部を含め 5 面に砥面が残る長さ 4.4cm の手持ち砥石である。

## P314 (図版 25、写真図版 18)

鞆の羽口 (44) が出土している。大部分を欠損しており、わずかに外面と内面の被熱部が残る。

### 第 3 節 遺構外出土遺物 (図版 24・25、別表 2・3)

珠洲焼甕 (25・26・28～30・32・33・35・36・38)、珠洲焼壺 R 種 (27)・T 種 (34)、珠洲焼片口鉢 (34・37)、石製品 (42・43) が出土している。25・26・28～30・32・33・35・36・38 は珠洲焼甕胴部片であり、外面にはタタキメが残る。27 は壺の肩部で、外面に波状文が施される。34 は壺の頸部で外面に自然釉がみられる。34 は片口鉢の胴部片で、第 26 次調査 2 区で類似する破片 (報告 No.53) が出土している。37 は片口鉢の胴部から底部の破片である。断面の一部に煤状の付着物が見られる。内面には卸目がなく、素文であるが、周辺状況から IV 期と考えられる。42 は砥石である。端部を少し欠損するものの、4 面の砥面が見られる。43 は磨石である。大部分を欠損しており使用面は 1 面のみ確認できる。

# 第VI章 自然科学分析

## 第1節 細池寺道上遺跡の土層

細池寺道上遺跡では、溝状遺構の覆土を対象に、溝周辺の土地利用をはじめとする当時の人々の生活の様式や植生の復元を目的とする、微化石分析（植物珪酸体分析・花粉分析）が実施された。分析に先立って試料採取を兼ねて行われた地質調査の結果、明らかになった分析対象溝状遺構覆土の土層層序は、次のとおりである。

### 1) SD40

中世の遺構と推定されているSD40の基底には、下位より黄色シルト層（層厚5cm以上、IV層）、灰褐色土（層厚12cm、III層）が認められる（第5図①）。

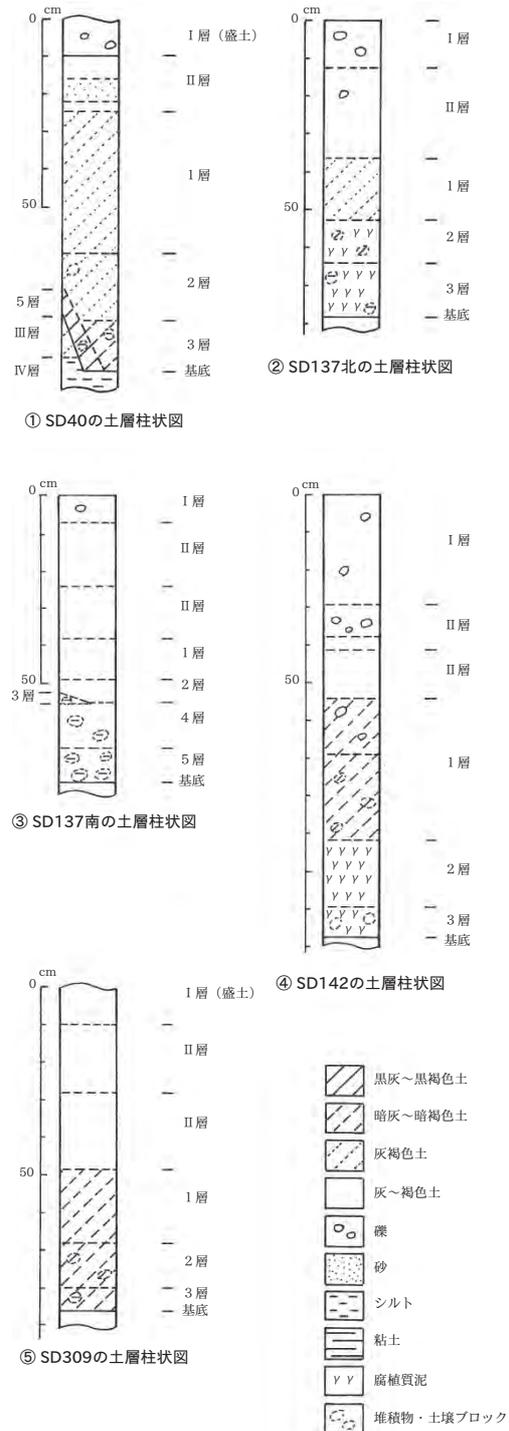
一方、SD40の覆土は、下位より黄色シルトブロック混じりでやや色調が明るい黒灰褐色土（層厚22cm、5層）、黄色シルトや黒色土をブロック状に含むやや褐色がかった灰色土（層厚10cm、4層）、黄色シルトブロック混じり暗灰色土（層厚13cm、3層）、灰褐色土（層厚38cm、1層）、やや灰色がかった褐色土（層厚2cm）、砂混じり灰色土（層厚6cm）、灰色土（層厚6cm、以上II層）、亜円礫混じりでやや黄色がかった褐色盛土（層厚32cm、I層）からなる。

### 2) SD137北地点

SD40より古い遺構と推定されているSD137の覆土は、SD137北地点において、下位より黄色シルトブロック混じり灰色土（層厚14cm、3層）、黒色土ブロック混じり灰色土（層厚12cm、2層）、やや暗い灰褐色土（層厚15cm、1層）、マンガンや鉄の粒子を多く含む灰色土（層厚23cm、II層）、亜円礫混じり灰色土（層厚12cm、I層）からなる（第5図②）。

### 3) SD137南地点

SD137南地点におけるSD137の覆土は、下位より灰色がかった黄色シルトブロックに富む灰色土（層厚9cm、5層）、灰色がかった黄色シルトブロックを少し含む灰色土（層厚12cm、4層）、灰色がかった黄色シルトブロック層（層厚3cm、3層）、黄色シルトブロック混じり灰色土（層厚6cm、2層）、褐色がかった灰色土（層厚12cm、1層）、やや暗い灰色土（層厚14cm）、灰色土（層厚17cm、以上II層）、亜円礫混じりで褐色がかった灰色土（層厚7cm、礫の最大径29mm、I層）から



第5図 細池寺道上遺跡の土層柱状図

なる（第5図③）。

#### 4) SD142

SD142の覆土は、下位より灰色がかった黄色シルトと黒色土のブロック層（層厚8cm, 基底部）、灰色がかった黄色シルトブロックを少し含む青灰色泥層（層厚9cm, 3層）、やや暗い青灰色泥層（層厚18cm, 2層）、やや明るい黒灰褐色土ブロックを少し含む暗灰褐色土（層厚23cm）、黄色がかった灰色シルトブロックを少し含む暗褐色土（層厚15cm, 以上1層）、マンガン粒子を多く含むやや暗い灰色土（層厚13cm）、灰色土（層厚3cm）、亜円礫を含む青みがかった灰色土（層厚9cm, 礫の最大径23mm, 以上II層）、亜円礫混じりで灰色がかった褐色土（層厚29cm, 礫の最大径28mm, I層）からなる（第5図④）。

#### 5) SD309

SD309の覆土は、下位より黄色がかった灰色シルトブロック混じり暗灰色土（層厚6cm, 3層）、黒灰色土ブロック混じり暗灰色土（層厚12cm, 2層）、暗灰色土（層厚20cm, 1層）、やや暗い灰色土（層厚21cm）、灰色土（層厚18cm, 以上II層）、盛土（層厚45cm I層）からなる（第5図⑤）。

## 第2節 細池寺道上遺跡における植物珪酸体（プラント・オパール）分析

### A はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内に珪酸（ $\text{SiO}_2$ ）が蓄積したもので、植物が枯れたあともガラス質の微化石（プラント・オパール）となって土壤中に半永久的に残っている。植物珪酸体分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出して同定・定量する方法であり、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生・古環境の推定などに応用されている〔杉山2000〕。また、イネの消長を検討することで埋蔵水田跡の検証や探査も可能である〔藤原・杉山1984〕。

### B 試料

分析試料は、SD40、SD137北、SD137南、SD142、SD309から採取された計7点である。試料採取層位を分析結果の柱状図に示す。

### C 分析法

植物珪酸体の抽出と定量は、ガラスビーズ法〔藤原1976〕を用いて次の手順で行った。

- 1) 試料を105℃で24時間乾燥（絶乾）。
- 2) 試料約1gに対し直径約40 $\mu\text{m}$ のガラスビーズを約0.02g添加（0.1mgの精度で秤量）。
- 3) 電気炉灰化法（550℃・6時間）による脱有機物処理。
- 4) 超音波水中照射（300W・42KHz・10分間）による分散。
- 5) 沈底法による20 $\mu\text{m}$ 以下の微粒子除去。
- 6) 封入剤（オイキット）中に分散してプレパラート作成。
- 7) 検鏡・計数。

同定は、400倍の偏光顕微鏡下で、おもにイネ科植物の機動細胞に由来する植物珪酸体を対象として行った。計数は、ガラスビーズ個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート1枚分の精査に相当する。試料1gあたりのガラスビーズ個数に、計数された植物珪酸体とガラスビーズ個数の比率をかけて、試料1g中の植物珪酸体個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重（1.0と仮定）と各植物の換算係数（機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重）をかけて、単位面積で層厚1cmあたりの植物体生産量を算出した。これにより、各植物の繁

茂状況や植物間の占有割合などを具体的にとらえることができる（杉山 2000）。タケ亜科については、植物体生産量の推定値から各分類群の比率を求めた。

## D 分析結果

### 1) 分類群

検出された植物珪酸体の分類群は次のとおりである。これらの分類群について定量を行い、その結果を第3表および第6図に示した。主要な分類群について顕微鏡写真を示す。

〔イネ科〕

イネ、イネ（穎の表皮細胞由来）、ヨシ属、キビ族型、ススキ属型（おもにススキ属）、ウシクサ族 A（チガヤ属など）

〔イネ科－タケ亜科〕

チマキザサ節型（ササ属チマキザサ節・チシマザサ節など）、ミヤコザサ節型（ササ属ミヤコザサ節など）、未分類等

〔イネ科－その他〕

表皮毛起源、棒状珪酸体（おもに結合組織細胞由来）、未分類等

〔樹木〕

その他

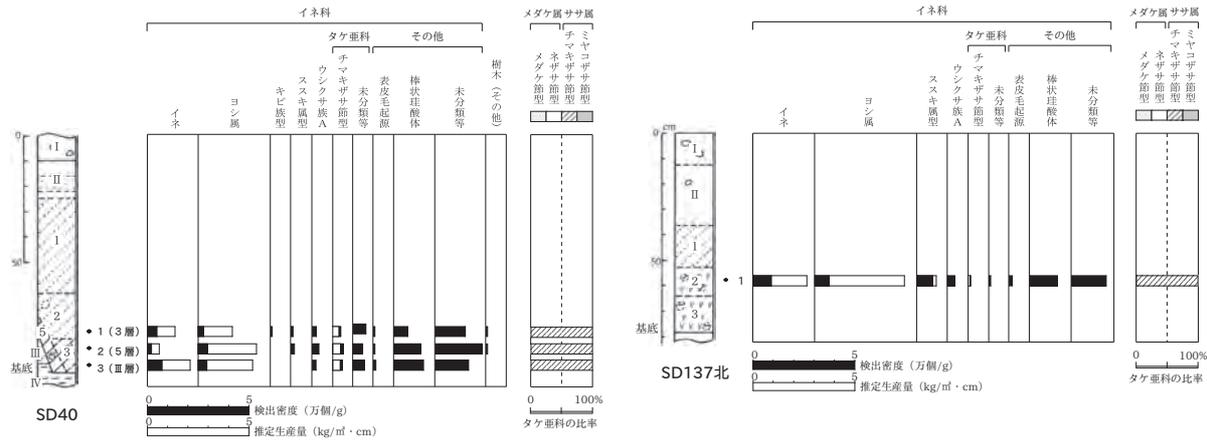
### 2) 植物珪酸体の検出状況

#### 1) SD40

Ⅲ層（試料3）では、イネが多く検出され、ヨシ属、ススキ属型、ウシクサ族 A、チマキザサ節型なども認められた。イネの密度は 7,300 個/g と高い値で、稲作跡の検証や探査を行う場合の判断基準としている 5,000 個/g（状況により 3,000 個/g とする場合もある）を上回っている。溝内堆積物の3層（試料1）と5層（試料2）でも、おおむね同様の結果で、ススキ属型、樹木（その他）も認められた。イネの密度は、3層（試料1）で 4,700 個/g と

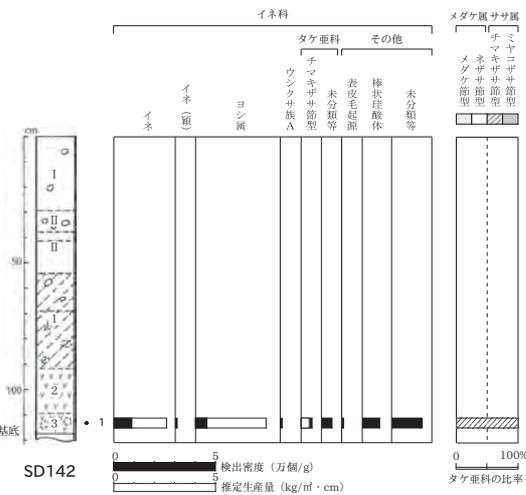
第3表 細池寺道上遺跡における植物珪酸体分析結果

検出密度（単位：×100個/g）		地点・試料			SD40		SD137北	SD137南	SD142	SD309
分類群	学名	1	2	3	1	1	1	1	1	
イネ科	Gramineae									
イネ	<i>Oryza sativa</i>	47	20	73	92	48	90	27		
イネ籾殻（穎の表皮細胞）	<i>Oryza sativa</i> (husk Phytolith)						7	14		
ヨシ属	<i>Phragmites</i>	27	46	43	71	7	56	7		
キビ族型	Paniceae type	7								
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> type	7	13		78					
ウシクサ族A	Andropogoneae A type	20	33	18	35	7	7	14		
タケ亜科	Bambusoideae									
チマキザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Sasa</i> etc.	40	53	49	14	48	56	48		
ミヤコザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Crassinodi</i>							7		
未分類等	Others	60	46	55	7	62	49	48		
その他のイネ科	Others									
表皮毛起源	Husk hair origin	7	7	12	14	21	7	20		
棒状珪酸体	Rodshaped	67	132	146	134	82	83	204		
未分類等	Others	148	230	164	169	192	146	150		
樹木起源	Arboreal									
その他	Others	7	7			7				
植物珪酸体総数	Total	436	586	560	614	474	500	538		
おもな分類群の推定生産量（単位：kg/m <sup>2</sup> ・cm）：試料の仮比重を1.0と仮定して算出										
イネ	<i>Oryza sativa</i>	1.38	0.58	2.15	2.70	1.41	2.65	0.80		
ヨシ属	<i>Phragmites</i>	1.69	2.91	2.69	4.45	0.43	3.50	0.43		
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> type	0.08	0.16		0.96					
チマキザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Sasa</i> etc.	0.30	0.40	0.37	0.11	0.36	0.42	0.36		
ミヤコザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Crassinodi</i>							0.02		
タケ亜科の比率（%）										
チマキザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Sasa</i> etc.	100	100	100	100	100	100	95		
ミヤコザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Crassinodi</i>							5		
メダケ率	Medake ratio	0	0	0	0	0	0	0		

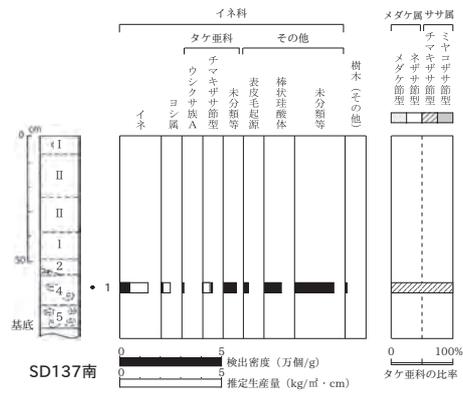


SD40

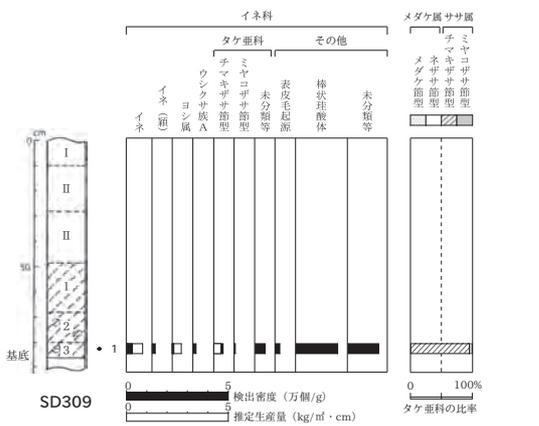
SD137北



SD142

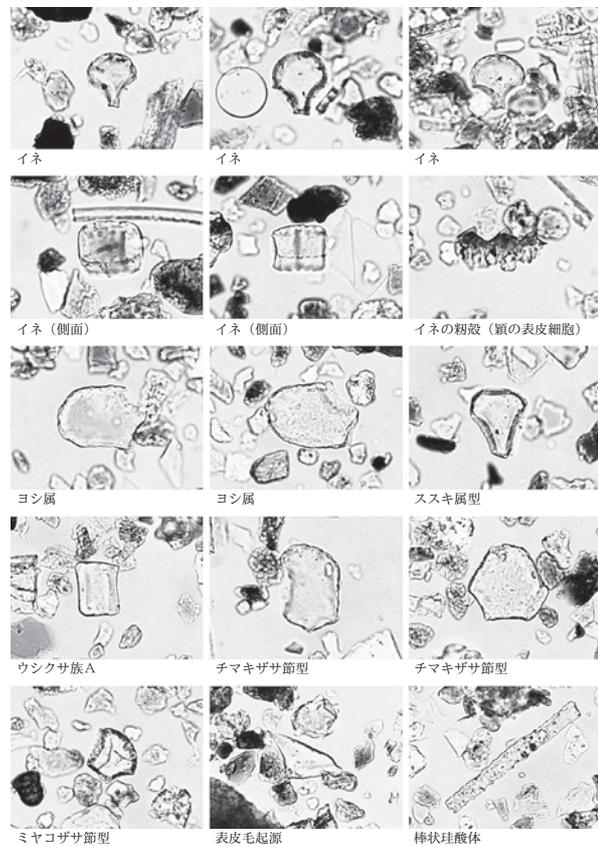


SD137南



SD309

第6図 細池寺道上遺跡における植物珪酸体組成ダイヤグラム



第7図 細池寺道上遺跡における植物珪酸体(プラント・オパール)の顕微鏡写真

比較的高い値であり、5層（試料2）で2,000個/gと比較的低い値である。おもな分類群の推定生産量によると、おおむねヨシ属が優勢で、Ⅲ層と3層ではイネも多くなっている。

#### 2) SD137北

溝内堆積物の2層（試料1）では、イネ、ヨシ属、ススキ属型が多く検出され、ウシクサ族A、チマキザサ節型なども認められた。イネの密度は9,200個/gと高い値である。おもな分類群の推定生産量によると、イネとヨシ属が優勢となっている。

#### 3) SD137南

溝内堆積物の4層（試料1）では、イネが多く検出され、ヨシ属、ウシクサ族A、チマキザサ節型、樹木（その他）なども認められた。イネの密度は4,800個/gと比較的高い値である。おもな分類群の推定生産量によると、イネが優勢となっている。

#### 4) SD142

溝内堆積物の3層（試料1）では、イネ、ヨシ属が多く検出され、イネの籾殻（穎の表皮細胞）、ウシクサ族A、チマキザサ節型なども認められた。イネの密度は9,000個/gと高い値である。おもな分類群の推定生産量によると、イネとヨシ属が優勢となっている。

#### 5) SD309

溝内堆積物の3層（試料1）では、イネ、イネの籾殻（穎の表皮細胞）、ヨシ属、ウシクサ族A、チマキザサ節型、ミヤコザサ節型などが検出された。イネの密度は2,700個/gと比較的低い値である。

### E 植物珪酸体分析から推定される植生と環境

SD40、SD137北、SD137南、SD142、SD309から採取された計7点について分析を行った結果、すべての試料からイネが検出された。このうち、SD137北の2層とSD142の3層では密度が9,200個/gおよび9,000個/gと高い値で、SD40の3層とSD137南の4層でも4,700個/gおよび4,800個/gと比較的高い値である。これらの試料は溝内堆積物であることから、当時は周辺で稲作が行われており、そこから何らかの形で溝内にイネの植物珪酸体が混入したと推定される。また、SD40のⅢ層ではイネの密度が7,300個/gと高い値で、稲作が行われていた可能性が高いと判断される。

各層準の堆積当時は、ヨシ属が生育するような湿潤な環境であったと考えられ、周辺の比較的乾燥したところにはススキ属、ウシクサ族、ササ属（おもにチマキザサ節）などが生育していたと推定される。また、遺跡周辺には何らかの樹木が生育していたと考えられる。

### 文 献

- 杉山真二・藤原宏志（1986）機動細胞珪酸体の形態によるタケ亜科植物の同定—古環境推定の基礎資料として—。考古学と自然科学，no.19，p.69-84.
- 杉山真二（2000）植物珪酸体（プラント・オパール）。辻 誠一郎編「考古学と植物学」。同成社，p.189-213.
- 藤原宏志（1976）プラント・オパール分析法の基礎的研究（1）—数種イネ科植物の珪酸体標本と定量分析法—。考古学と自然科学，no.9，p.15-29.
- 藤原宏志・杉山真二（1984）プラント・オパール分析法の基礎的研究（5）—プラント・オパール分析による水田址の探査—。考古学と自然科学，no.17，p.73-85.

### 第3節 細池寺道上遺跡における花粉分析

#### A はじめに

花粉分析は、一般に低湿地の堆積物を対象とした比較的広域な植生・環境の復原に応用されており、遺跡調査においては遺構内の堆積物などを対象とした局地的な植生の推定も試みられている。花粉などの有機質遺体は、水成堆積物では保存状況が良好であるが、乾燥的な環境下の堆積物では分解されて残存していない場合もある。

#### B 試料

分析試料は、植物珪酸体分析に用いられたものと同じの計7点である。試料採取層位を分析結果の柱状図に示す。

#### C 方法

花粉の分離抽出は、中村〔1967〕の方法をもとに次下の手順で行った。

- 1) 試料から 1cm<sup>3</sup> を秤量。
- 2) 0.5% リン酸三ナトリウム (12 水) 溶液を加えて 15 分間湯煎。
- 3) 水洗処理の後、0.5mm の篩で礫などの大きな粒子を取り除き、沈澱法で砂粒を除去。
- 4) 25% フッ化水素酸溶液を加えて 30 分放置。
- 5) 水洗処理の後、氷酢酸によって脱水し、アセトリシス処理 (無水酢酸 9 : 濃硫酸 1 のエルドマン氏液を加え 1 分間湯煎) を施す。
- 6) 再び氷酢酸を加えて水洗処理。
- 7) 沈渣に石炭酸フクシンを加えて染色し、グリセリンゼリーで封入してプレパラート作成。
- 8) 検鏡・計数。

検鏡は、生物顕微鏡によって 300 ~ 1000 倍で行った。花粉の同定は、島倉〔1973〕および中村〔1980〕をアトラスとして、所有の現生標本との対比で行った。結果は同定レベルによって、科、亜科、属、亜属、節および種の階級で分類し、複数の分類群にまたがるものはハイフン ( - ) で結んで示した。イネ属については、中村〔1974, 1977〕を参考にして、現生標本の表面模様・大きさ・孔・表層断面の特徴と対比して同定しているが、個体変化や類似種もあることからイネ属型とした。

#### D 結果

##### 1) 分類群

検出された分類群は、樹木花粉 11、樹木花粉と草本花粉を含むもの 1、草本花粉 13、シダ植物孢子 2 形態の計 27 である。分析結果を第 4 表に示し、花粉数が 100 個以上計数された試料については花粉総数を基数とする花粉ダイアグラムを示した。主要な分類群について顕微鏡写真を示す。次に出現した分類群を記載する。

〔樹木花粉〕

トウヒ属、マツ属複雑管束亜属、スギ、イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科、ヤナギ属、ハンノキ属、カバノキ属、クリ、コナラ属コナラ亜属、モチノキ属、トチノキ

〔樹木花粉と草本花粉を含むもの〕

クワ科-イラクサ科

〔草本花粉〕

ガマ属-ミクリ属、イネ科、イネ属型、カヤツリグサ科、ソバ属、アカザ科-ヒユ科、ナデシコ科、アブラナ

科、セリ亜科、オオバコ属、タンポポ亜科、キク亜科、ヨモギ属

[シダ植物孢子]

単条溝孢子、三条溝孢子

2) 花粉群集の特徴

1) SD40

3層(試料1)では、草本花粉の占める割合が65%と高い。草本花粉では、ヨモギ属、アブラナ科、イネ科(イネ属型を含む)、アカザ科-ヒユ科が優勢で、カヤツリグサ科、タンポポ亜科などが伴われる。また、樹木・草本花粉のクワ科-イラクサ科(ここではカラムシ、カナムグラと考えられる)も多い。樹木花粉では、クリやハンノキ属などが低密度に認められた。5層(試料2)とⅢ層(試料3)では、花粉密度が低く、草本花粉のイネ科が増加し、樹木・草本花粉のクワ科-イラクサ科は減少している。樹木花粉では、ハンノキ属やスギなどが認められた。

2) SD137北

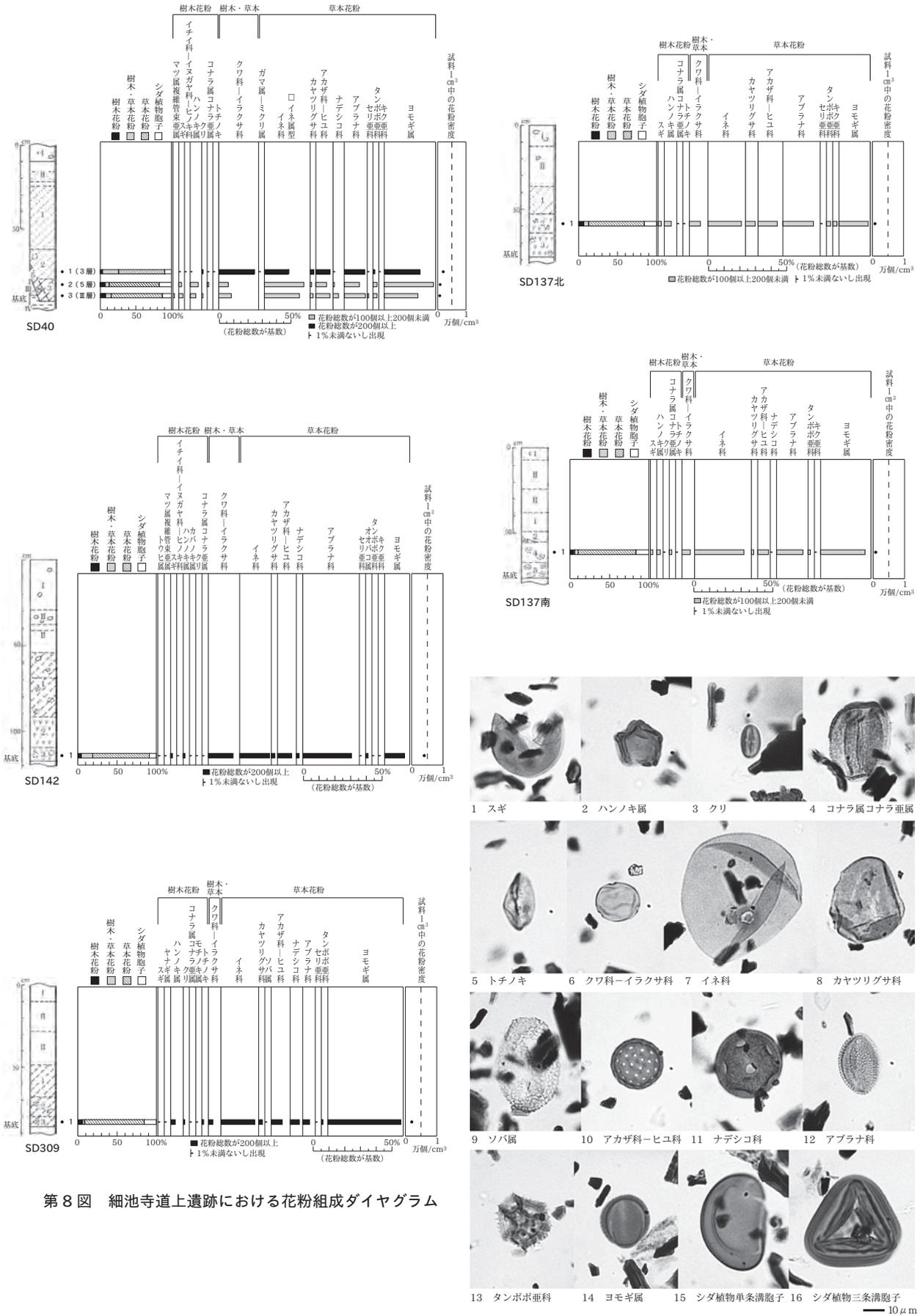
2層(試料1)では、花粉密度が低く、草本花粉の占める割合が70%以上と高い。草本花粉では、イネ科、アブラナ科、ヨモギ属、アカザ科-ヒユ科が優勢で、カヤツリグサ科、タンポポ亜科、キク亜科などが伴われる。樹木花粉では、ハンノキ属やスギなどが認められた。

3) SD137南

4層(試料1)では、花粉密度が低く、草本花粉の占める割合が70%以上と高い。草本花粉では、ヨモギ属、イネ科、

第4表 細池寺道上遺跡における花粉分析結果

分類群		SD40			SD137北	SD137南	SD142	SD309
学名	和名	1	2	3	1	1	1	1
Arboreal pollen	樹木花粉							
<i>Picea</i>	トウヒ属						1	
<i>Pinus</i> subgen. <i>Diploxylon</i>	マツ属複雑管束亜属			1			1	
<i>Cryptomeria japonica</i>	スギ	2	2	3	2	2	4	1
Taxaceae-Cephalotaxaceae-Cupressaceae	イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科	1					2	
<i>Salix</i>	ヤナギ属							1
<i>Alnus</i>	ハンノキ属	2	6	4	5	3	4	6
<i>Betula</i>	カバノキ属						1	
<i>Castanea crenata</i>	クリ	3		1		1	2	2
<i>Quercus</i> subgen. <i>Lepidobalanus</i>	コナラ属コナラ亜属	1	1		1	2	2	1
<i>Ilex</i>	モチノキ属							1
<i>Aesculus turbinata</i>	トチノキ	1			1	1		2
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉							
Moraceae-Urticaceae	クワ科-イラクサ科	78	7	9	8	7	53	6
Nonarboreal pollen	草本花粉							
<i>Typha-Sparganium</i>	ガマ属-ミクリ属	1						
Gramineae	イネ科	52	29	25	24	41	63	43
<i>Oryza</i> type	イネ属型	2						
Cyperaceae	カヤツリグサ科	8	1	2	7	2	8	5
<i>Fagopyrum</i>	ソバ属							1
Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科	31	8	10	14	9	30	14
Caryophyllaceae	ナデシコ科	1	1	4		1	6	12
Cruciferae	アブラナ科	44	11	15	22	22	104	9
Apiioideae	セリ亜科	1		1	1		2	1
<i>Plantago</i>	オオバコ属						5	
Lactucoideae	タンポポ亜科	4	3	3	3	2	3	2
Asteroidaeae	キク亜科	2			3	1	2	
<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	77	36	24	21	37	43	93
Fern spore	シダ植物孢子							
Monolate type spore	単条溝孢子	18	17	11	16	21	21	31
Trilate type spore	三条溝孢子	15	5	4	5	5	12	6
Arboreal pollen	樹木花粉	10	9	9	9	9	17	14
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	78	7	9	8	7	53	6
Nonarboreal pollen	草本花粉	223	89	84	95	115	266	180
Total pollen	花粉総数	311	105	102	112	131	336	200
Pollen frequencies of 1cm <sup>3</sup>	試料1cm <sup>3</sup> 中の花粉密度	0.2 ×10 <sup>4</sup>	0.7 ×10 <sup>3</sup>	0.8 ×10 <sup>3</sup>	0.8 ×10 <sup>3</sup>	0.8 ×10 <sup>3</sup>	0.4 ×10 <sup>4</sup>	0.2 ×10 <sup>4</sup>
Unknown pollen	未同定花粉	7	1	9	3	3	8	6
Fern spore	シダ植物孢子	33	22	15	21	26	33	37
Helminth eggs	寄生虫卵	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
Stone cell	石細胞	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
Digestion rimeins	明らかな消化残渣	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
Charcoal・woods fragments	微細炭化物・微細木片	(+)	(+)	(+)	(++)	(++)	(+)	(++)



アブラナ科が優勢で、アカザ科ーヒユ科などが伴われる。樹木花粉では、ハンノキ属、スギ、コナラ属コナラ亜属などが低率に認められた。

#### 4) SD142

3層（試料1）では、草本花粉の占める割合が70%以上と高い。草本花粉では、アブラナ科、イネ科、ヨモギ属が優勢で、アカザ科ーヒユ科などが伴われる。また、樹木・草本花粉のクワ科ーイラクサ科も多い。樹木花粉では、スギ、ハンノキ属などが低率に認められた。

#### 5) SD309

3層（試料1）では、草本花粉の占める割合が75%以上と高い。草本花粉では、ヨモギ属、イネ科が優勢で、アカザ科ーヒユ科、ナデシコ科、アブラナ科、カヤツリグサ科などが伴われる。樹木花粉では、ハンノキ属、クリ、トチノキなどが認められた。

### D 花粉分析から推定される植生と環境

各層準の堆積当時は、溝内はイネ科（ヨシ属など）やカヤツリグサ科が生育するような湿潤な環境であったと考えられ、周辺の比較的乾燥したところにはヨモギ属やイネ科をはじめ、アブラナ科、アカザ科ーヒユ科、タンポポ亜科、クワ科ーイラクサ科（カラムシ、カナムグラ）などの草本類が分布していたと推定される。また、部分的にイネ属型やソバ属の花粉が検出されることから、周辺でイネやソバなどの栽培が行われていた可能性が考えられ、アブラナ科が栽培されていた可能性も認められた。アブラナ科にはアブラナ（ナタネ）、ダイコン、ハクサイなど多くの栽培植物が含まれている。

遺跡周辺に森林は少なく、周辺地域にハンノキ属、スギ、ナラ類（コナラ属コナラ亜属）、クリなどが分布していたと推定される。

#### 文 献

金原正明（1993）花粉分析法による古環境復原．木下正史編「新版古代の日本 第10巻 古代資料研究の方法」，角川書店，p.248-262.

島倉巳三郎（1973）日本植物の花粉形態．大阪市立自然科学博物館収蔵目録，第5集，60p.

中村 純（1967）「花粉分析」．古今書院，p.82-110.

中村 純（1974）イネ科花粉について、とくにイネ（*Oryza sativa*）を中心として．第四紀研究，13，p.187-193.

中村 純（1977）稲作とイネ花粉．考古学と自然科学，第10号，p.21-30.

中村 純（1980）日本産花粉の標徴．大阪自然史博物館収蔵目録，第13集，91p.

## 第4節 細池寺道上遺跡出土種実同定

### はじめに

今回の分析調査では、細池寺道上遺跡（新潟県新潟市秋葉区大安寺地内所在）の遺構覆土の篩水洗選別で検出された種実遺体の同定を実施し、当時の植物利用や植生に関する資料を作成する。

### A 試 料

試料は、SE46の2層（種子①）、SD137の3層（種子②）、SE263の3層（種子③）、SE300の4層（種子④）より採取された土壌の篩水洗選別で検出された、種実遺体4遺構25点である。水洗選別は、新潟市文化財センターにより実施され、試料は湿った状態で篩の粒径別（2.0mm、1.4mm、1.0mm、0.85mm）にポリ袋に入っていた。各試料の詳細は、同定結果と共に第5表（1）～（3）に示す。

## B 分析方法

試料を粒径別に双眼実体顕微鏡下で観察し、ピンセットを用いて、同定が可能な種実遺体を抽出する。

種実遺体の同定は、現生標本および笠原〔1982〕、石川〔1994〕、中山ほか〔2000〕、谷城〔2007〕、小畑〔2008; 2011〕、鈴木ほか〔2012〕等を参考に実施し、部位・状態別の個数を数えて、結果を一覧表と図で示す。実体顕微鏡下による区別が困難な複数種間は、ハイフオンで結んで表示する。また、保存状態が良好で、栽培種などの主な種実遺体を対象として、デジタルノギスで長さ、幅、厚さを計測した結果を一覧表に併記する。分析後は、種実遺体を自然乾燥後、分類群毎に容器に収納する。

なお、SE46より同定されたコムギの胚乳10個0.043g(第11図-1, 2)、SD137より同定されたイネの胚乳7個0.054g(穎が残存するものを含む。第11図-3, 4)、SE263より同定されたイネの胚乳7個0.056g(第11図-5, 6)、SE300より同定されたコムギの胚乳10個0.052g(第11図-7, 8, 9)の中から、遺構ごとに各1個を放射性炭素年代測定対象試料とする。第5・7表に対象試料を記載している(測定結果の詳細については第5節年代測定報告参照)。

## C 結果

同定結果を第5表に、種実出土状況を第6表、第10図に示す。また、種実遺体各分類群の写真を第11図、主な種実遺体の計測値を第5表、特に栽培種の計測値を第7表に示して同定根拠とする。

全試料を通じて、被子植物22分類群(イネ、オオムギ、コムギ、アワ、アワーキビ、ヒエ近似種、ミクリ属、スゲ属、コシンジユガヤ、ウキヤガラ、ホタルイ属、アサ?、イヌタデ近似種、ヤナギタデ近似種、タデ属(ボントクタデ近似種?)、ダイズ類、アズキ類、マメ科(ヤブツルアズキ?、野生種、他)、シソ属(エゴマ)、シソ属)の計438個の種実が同定された。なお、これらの他、59個は炭化した種実と考えられるが、状態不良のため同定ができなかった。種実以外では、木材、炭化材、炭化茎(イネ科稈?)、炭化地下茎(スギナ?)、岩片、土粒、無機物などが、計210個確認された。以上の同定された種実遺体と不明、種実以外の合計個数は、707個である。

種類が同定された種実遺体の出土個数は、SE263が293個と最も多く(全体の66.9%)、SE300の4層が59個、SD137の3層が48個、SE46の2層が38個と次ぐ。栽培種は、イネが218個、オオムギが17個、オオムギーコムギが3個、コムギが93個、アワが21個、アワーキビが1個と、栽培種の可能性が高いヒエ近似種が32個、アサ?が2個、ダイズ類が2個、アズキ類が4個、シソ属(エゴマ)が1個、シソ属が2個の、計396個が確認され、全体の90.4%を占める。

栽培種とその可能性を含む分類群は、アサ?1個以外は全て炭化している。また、イネの穎1個は灰化しており(第11図-11)、穎の一部を生物顕微鏡下で観察した結果、イネ属穎珪酸体が確認された。

炭化種実の保存状態は比較的良好で、イネ、オオムギ、コムギ、アワ、ヒエ近似種には、表面に穎(粉)が残る胚乳(第11図-10, 13~15, 17, 18)が、オオムギーコムギには穂軸(第11図-12)などが確認された。

栽培種とその可能性があるものを除いた分類群は、水湿地生草本のミクリ属が1個、コシンジユガヤが8個、ウキヤガラが1個、ホタルイ属が6個、タデ属(ボントクタデ?)が1個、ヤナギタデ近似種が4個と、中生草本のスゲ属が1個、イヌタデ近似種が14個、マメ科(ヤブツルアズキ?)が1個、マメ科が1個、マメ科(野生種)が4個の計42個が確認された。このうち、ミクリ属(SE263)、スゲ属(SE46)、ホタルイ属(SE46)、ボントクタデ?(SE46)、ヤブツルアズキ?(SE46)、マメ科(SE46)各1個の計6個が炭化していた。SD137、SE263、SE300では、栽培種以外の種実はほぼ炭化していないのに対して、SE46は全ての種実が炭化している(第10図)。以下に、遺構別出土状況等を述べる。

### ・SE46 2層(種子①)

栽培種のイネの胚乳が6個、オオムギの胚乳が1個、オオムギーコムギの穂軸が1個、コムギの胚乳が17個、

アワの穎・胚乳が1個、胚乳が7個と、抽水性草本のホタルイ属が1個、湿生草本のタデ属(ポントクタデ?)が1個、中生草本のスゲ属が1個、マメ科(ヤブツルアズキ?)が1個、マメ科が1個の計38個が確認され、全て炭化している。なお、状態が良好なイネ胚乳(炭化米)の粒形(長さ/幅)、粒大(長さ×幅)〔佐藤1988〕は、短粒極小型が2個と、長粒極小型が2個確認された(第7表)。また、コムギ胚乳1個の<sup>14</sup>C年代は、590±20BPであった。

・SD137 3層(種子②)

栽培種のイネの胚乳が20個、オオムギの胚乳が1個、コムギの穎・胚乳が1個、胚乳が8個、アワの胚乳が1個と、湿生草本のヤナギタデ近似種が4個、中生草本のイヌタデ近似種が12個の計48個が確認され、栽培種は全て炭化している。なお、イネ胚乳1個の<sup>14</sup>C年代は880±20BPであった。

・SE263 3層(種子③)

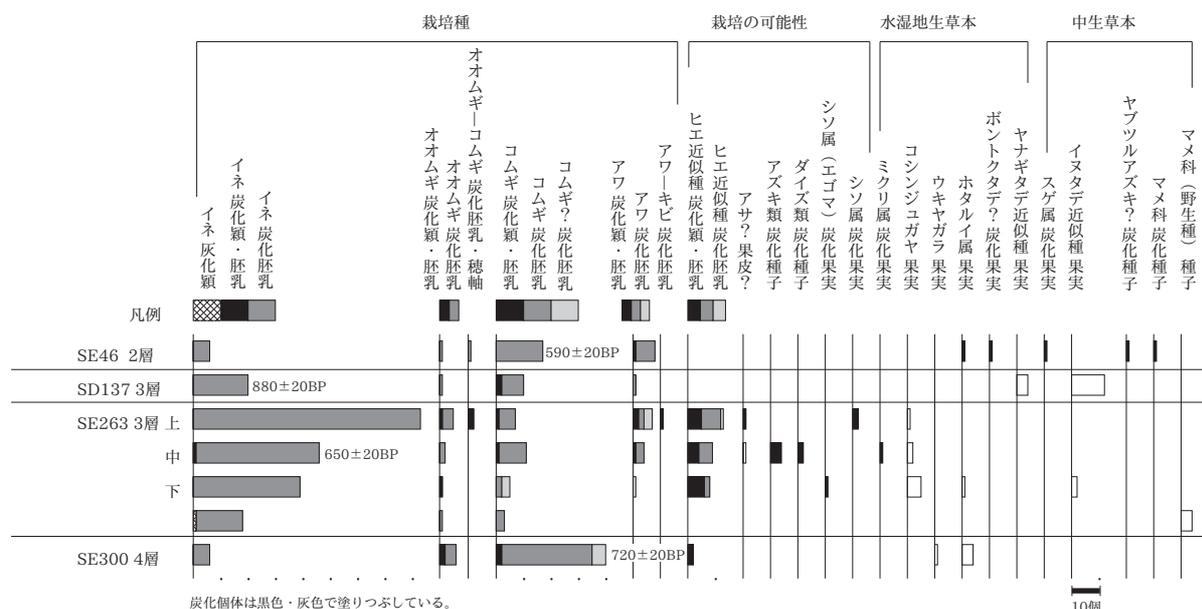
試料は、上位、中位、下位に細分された試料の他に、細分が未記載の試料がある。

上位試料からは、栽培種のイネの胚乳が83個(短粒極小型6個、小型2個、長粒極々小型1個、極小型4個を含む)、オオムギの穎・胚乳が1個、胚乳が4個、オオムギーコムギの胚乳が2個、コムギの穎・胚乳が1個、胚乳が6個、アワの穎・胚乳が2個、胚乳が5個、アワキビが1個、栽培種の可能性があるヒエ近似種の穎・胚乳が5個、胚乳が8個、アサ?が1個、シソ属が2個と、湿生草本のコシンジュガヤが1個の計122個が確認され、栽培種(その可能性があるものを含む)は全て炭化している。

中位試料からは、栽培種のイネの穎・胚乳が1個(短粒小型)、胚乳が45個(短粒極々小型1個、極小型1個、小型3個、長粒極々小型1個を含む)、オオムギの胚乳が2個、コムギの穎・胚乳が1個、胚乳が10個、アワの穎・胚乳が1個、胚乳が3個、栽培種の可能性があるヒエ近似種の穎・胚乳が4個、胚乳が5個、アサ?が1個、ダイズ類が2個、アズキ類が4個と、抽水性草本のミクリ属が1個、湿生草本のコシンジュガヤが2個の計82個が確認され、アサ?とミクリ属以外の81個が炭化している。なお、イネの胚乳1個の<sup>14</sup>C年代は、650±20BPであった。

下位試料からは、栽培種のイネの胚乳が39個(長粒極小型1個を含む)、オオムギの穎・胚乳が1個、コムギの胚乳が5個、アワ?の胚乳が1個、栽培種の可能性があるヒエ近似種の穎・胚乳が6個、胚乳が2個、シソ属(エゴマ)が1個と、抽水性草本のホタルイ属が1個、湿生草本のコシンジュガヤが5個、中生草本のイヌタデ近似種が1個の計63個が確認され、栽培種(その可能性があるものを含む)は全て炭化している。

細分未記載試料からは、栽培種のイネの穎が1個、胚乳が17個(短粒極小型1個、小型1個を含む)、オオムギ



第10図 細池寺道上遺跡の種実出土状況

の胚乳が1個、コムギの胚乳が3個と、中生草本のマメ科が4個の計26個が確認された。栽培種は全て炭化しており、イネの類は灰化している。

・SE300 4層（種子④）

栽培種のイネの胚乳が6個、オオムギの類・胚乳が2個、胚乳が4個、コムギの類・胚乳が2個、胚乳が38個、栽培種の可能性があるヒエ近似種の類・胚乳が2個と、抽水性草本のウキヤガラが1個、ホタルイ属が4個の計59個が確認され、栽培種（その可能性があるものを含む）は全て炭化している。なお、コムギの胚乳1個の<sup>14</sup>C年代は、720±20BPであった。

## D 考 察

SE46、SD137、SE263、SE300より得られた種実遺体群は、炭化した栽培種とその可能性が高い分類群が、全体の9割を占める組成を示した。

栽培種は、穀類のイネ（短粒極小～小型主体）やコムギをはじめ、オオムギ、アワ、アワーキビの他に、栽培種の可能性が高い穀類のヒエ（近似種）や、食用や油料、繊維等に利用されるアサ（?）、食用や油料等に利用されるエゴマ（シソ属）、アズキ類やダイズ類の特徴をもつ少なくとも2系統のマメ科が確認された。

また、SE263、SD137ではイネが多く、SE46、SE300ではコムギが多い傾向が認められた。このうち、各遺構から同定された炭化胚乳の<sup>14</sup>C年代に基づく較正年代は、SE46の2層のコムギは14世紀初頭～15世紀初頭頃、SD137の3層のイネは11世紀半ば～13世紀初頭頃、SE263の3層（中）のイネは、13世紀後葉～14世紀後葉頃、SE300の4層のコムギは13世紀後葉頃の値を示した。

これらの栽培種（その可能性があるものを含む）は、当時の細池寺道上遺跡周辺で栽培されていたか、近辺より持ち込まれたかは不明であるが、当時利用された植物質食料等であることが示唆され、遺構内への投棄などの生活行為に由来する可能性がある。また、ほぼ全ての種実が炭化しており、イネ、オオムギ、コムギ、アワ、ヒエ近似種には表面に類（粉）が残る状態も確認されることから、粉がついた生の状態で食用されずに火を受けたと推定される。

栽培種とその可能性があるものを除いた分類群は、水湿地生草本のミクリ属、コシンジュガヤ、ウキヤガラ、ホタルイ属、タデ属（ポントクタデ?）、ヤナギタデ近似種や、やや乾いた場所にも生育可能な中生草本のスゲ属、イヌタデ近似種、マメ科（ヤブツルアズキ?やその他の野生種）などが確認された。木本類は確認されず、明るく開けた場所に生育する、いわゆる人里植物に属する分類群を主体とすることから、当時の調査区周辺は、開発が進んだ草地環境であったと考えられ、抽水植物のミクリ属やウキヤガラ、ホタルイ属が生育可能な水深1m以内の水湿地の存在も推定される。また、SE46は他の3遺構とは異なり、栽培種以外も全て炭化していることから、埋積過程の違い等を反映している可能性がある。

第5表 細池寺道上遺跡 SE46・263・300・SD137の種実同定結果（1）

試料名	遺構	層位	篩の粒径	分類群	部位	状態	個数	枝番	長さ	幅	厚さ	備考	図版番号
種子①	SE46	2層	1.4mm	イネ	胚乳	炭化 完形	1	—	2.8 +	1.6	1.4	基部、側面欠損	—
種子①	SE46	2層	1.4mm	イネ	胚乳	炭化 破片	1	—	—	—	—	—	—
種子①	SE46	2層	1.4mm	コムギ	胚乳	炭化 完形	2	1	3.1	1.6	1.2	—	—
種子①	SE46	2層	1.4mm	コムギ	胚乳	炭化 完形	—	2	—	—	—	表面摩耗	—
種子①	SE46	2層	1.4mm	アワ	穎・胚乳	炭化 完形	1	—	1.3	1.5	1.2	穎：側面残存	—
種子①	SE46	2層	1.4mm	アワ	胚乳	炭化 完形	1	—	—	—	—	両側面、腹面欠損	—
種子①	SE46	2層	1.4mm	タデ属（ポントクタデ?）	果実	炭化 完形	1	—	—	—	—	三稜状広卵体、表面網目模様、焼き膨れている	26
種子①	SE46	2層	1.00mm	オオムギ・コムギ	穂軸	炭化 破片	1	—	2.3 +	—	—	—	12
種子①	SE46	2層	1.00mm	アワ	胚乳	炭化 完形	2	1	1.4	1.4	1.1	—	—
種子①	SE46	2層	1.00mm	アワ	胚乳	炭化 完形	—	2	1.4	1.5	1.1	—	—
種子①	SE46	2層	1.00mm	スゲ属	果実	炭化 完形	1	—	—	—	—	—	20
種子①	SE46	2層	1.00mm	ホタルイ属	果実	炭化? 完形	1	—	—	—	—	花被片欠損	—
種子①	SE46	2層	0.85mm	アワ	胚乳	炭化 完形	4	1	1.1	1.2	1.0	—	—
種子①	SE46	2層	0.85mm	アワ	胚乳	炭化 完形	—	2	1.2	1.2	1.1	—	—
種子①	SE46	2層	0.85mm	アワ	胚乳	炭化 完形	—	3	1.5	1.3	1.1	背面摩耗	—
種子①	SE46	2層	0.85mm	アワ	胚乳	炭化 完形	—	4	—	—	—	表面摩耗	—
種子①	SE46	2層	0.85mm	不明		炭化 完形	1	—	1.6	1.4	—	直方体状偏球体	—
種子①	SE46	2層	(1) 2.00mm	イネ	胚乳	炭化 完形	4	1	4.5	2.3	1.8	—	—
種子①	SE46	2層	(1) 2.00mm	イネ	胚乳	炭化 完形	—	2	4.3	2.7	2.4	—	—
種子①	SE46	2層	(1) 2.00mm	イネ	胚乳	炭化 完形	—	3	4.3	2.0	2.0	—	—

第4節 細池寺道上遺跡出土種実同定

第5表 細池寺道上遺跡 SE46・263・300・SD137 の種実同定結果 (2)

試料名	遺構	層位	篩の粒径	分類群	部位	状態	個数	枝番	長さ	幅	厚さ	備考	図版番号	
種子①	SE46	2層	(1) 2.00mm	イネ	胚乳	炭化	完形	—	4	4.2	2.2	2.0	—	
種子①	SE46	2層	(1) 2.00mm	オオムギ	胚乳	炭化	完形	1	—	6.2	3.5	2.7	状態良好	—
種子①	SE46	2層	(1) 2.00mm	コムギ	胚乳	炭化	完形	10	1	3.9	2.9	2.5	年代測定試料「種子①」(注2)	1
種子①	SE46	2層	(1) 2.00mm	コムギ	胚乳	炭化	完形	—	2	3.5	2.4	2.1	年代測定試料「種子①」(注2)	1
種子①	SE46	2層	(1) 2.00mm	コムギ	胚乳	炭化	完形	—	3	3.5	2.4	2.2	側面窪む, 年代測定試料「種子①」(注2)	1
種子①	SE46	2層	(1) 2.00mm	コムギ	胚乳	炭化	完形	—	4	2.9	2.5	2.1	年代測定試料「種子①」(注2)	1
種子①	SE46	2層	(1) 2.00mm	コムギ	胚乳	炭化	完形	—	5	3.4	2.1	2.0	年代測定試料「種子①」(注2)	1
種子①	SE46	2層	(1) 2.00mm	コムギ	胚乳	炭化	完形	—	6	2.6	2.1	2.1	年代測定試料「種子①」(注2)	1
種子①	SE46	2層	(1) 2.00mm	コムギ	胚乳	炭化	完形	—	7	3.9	2.1	2.0	年代測定試料「種子①」(注2)	2
種子①	SE46	2層	(1) 2.00mm	コムギ	胚乳	炭化	完形	—	8	3.2	2.4	2.0	年代測定試料「種子①」(注2)	2
種子①	SE46	2層	(1) 2.00mm	コムギ	胚乳	炭化	完形	—	9	2.7	2.3	1.6	年代測定試料「種子①」(注2)	2
種子①	SE46	2層	(1) 2.00mm	コムギ	胚乳	炭化	完形	—	10	2.8	2.1	2.4	側面窪む, 年代測定試料「種子①」(注2)	2
種子①	SE46	2層	(1) 2.00mm	コムギ	胚乳	炭化	完形	4	1	3.8 +	2.2 +	2.0	—	—
種子①	SE46	2層	(1) 2.00mm	コムギ	胚乳	炭化	完形	—	2	3.1 +	2.4	1.5 +	—	—
種子①	SE46	2層	(1) 2.00mm	コムギ	胚乳	炭化	完形	—	3	3.9 +	2.2 +	1.8	—	—
種子①	SE46	2層	(1) 2.00mm	コムギ	胚乳	炭化	完形	—	4	2.9 +	2.3	1.9	—	—
種子①	SE46	2層	(1) 2.00mm	マメ科	種子	炭化	完形	1	—	2.2 +	2.6 +	2.4	表面摩耗, 臍: 残存長0.8mm, 幅0.4mm	30
種子①	SE46	2層	(1) 2.00mm	不明		炭化	完形	1	—	4.3	2.5	2.5	楕円体	—
種子①	SE46	2層	(1) 2.00mm	種実ではない(炭化材)				1	—	—	—	—	—	—
種子①	SE46	2層	(2) 2.00mm	コムギ	胚乳	炭化	完形	1	—	3.1	2.3	1.7	—	—
種子①	SE46	2層	(2) 2.00mm	マメ科(ヤブツルアズキ?)	種子	炭化	完形	1	—	2.5	1.8	2.0	直方体状楕円体, 臍欠損	29
種子①	SE46	2層	(2) 2.00mm	種実ではない(木材)				1	—	—	—	—	一部炭化	—
種子②	SD137	3層	2.00mm	イネ	胚乳	炭化	完形	3	1	5.0	2.9	2.3	年代測定試料「種子②」(注2)	3
種子②	SD137	3層	2.00mm	イネ	胚乳	炭化	完形	—	2	4.4	2.5	2.7 *	焼き膨れている, 年代測定試料「種子②」(注2)	3
種子②	SD137	3層	2.00mm	イネ	胚乳	炭化	完形	—	3	3.4 +	2.5	2.0	両端欠損, 年代測定試料「種子②」(注2)	3
種子②	SD137	3層	2.00mm	イネ	胚乳	炭化	完形	2	1	—	—	—	状態不良	—
種子②	SD137	3層	2.00mm	イネ	胚乳	炭化	完形	—	2	4.0	1.9 +	1.7	側面欠損	—
種子②	SD137	3層	2.00mm	オオムギ	胚乳	炭化	完形	1	—	4.1 +	2.8 +	2.0	両端欠損	—
種子②	SD137	3層	2.00mm	コムギ	胚乳	炭化	完形	2	1	3.8	2.6 +	1.7 +	表面摩耗	—
種子②	SD137	3層	2.00mm	コムギ	胚乳	炭化	完形	—	2	3.1	1.9 +	1.6 +	表面摩耗	—
種子②	SD137	3層	2.00mm	ヤナギタデ近似種	果実		完形	1	—	—	—	—	—	—
種子②	SD137	3層	2.00mm	種実ではない(炭化材)				1	—	—	—	—	—	—
種子②	SD137	3層	2.00mm	種実ではない(土粒)				3	—	—	—	—	—	—
種子②	SD137	3層	1.4mm	イネ	胚乳	炭化	完形	4	1	4.5	1.7 +	2.0	側面欠損, 年代測定試料「種子②」(注2)	4
種子②	SD137	3層	1.4mm	イネ	胚乳	炭化	完形	—	2	3.8	2.1	1.5	頂部欠損, 年代測定試料「種子②」(注2)	4
種子②	SD137	3層	1.4mm	イネ	胚乳	炭化	完形	—	3	3.1 +	1.9 +	1.9 +	表面摩耗, 年代測定試料「種子②」(注2)	4
種子②	SD137	3層	1.4mm	イネ	胚乳	炭化	完形	—	4	3.5 +	1.7 +	1.7	表面摩耗, 焼き膨れている, 年代測定試料「種子②」(注2)	4
種子②	SD137	3層	1.4mm	イネ	胚乳	炭化	破片	8	—	—	—	—	—	—
種子②	SD137	3層	1.4mm	コムギ	胚乳	炭化	完形	1	—	2.8	—	—	状態不良, 表面欠損	—
種子②	SD137	3層	1.4mm	イヌタデ近似種	果実		完形	2	—	—	—	—	花被残存	—
種子②	SD137	3層	1.4mm	不明		炭化	破片	4	—	—	—	—	—	—
種子②	SD137	3層	1.4mm	種実ではない(炭化材)				16	—	—	—	—	—	—
種子②	SD137	3層	1.4mm	種実ではない(土粒)				7	—	—	—	—	—	—
種子②	SD137	3層	1.4mm	種実ではない(岩片)				1	—	—	—	—	—	—
種子②	SD137	3層	1.00mm	イネ	胚乳	炭化	破片	1	—	—	—	—	—	—
種子②	SD137	3層	1.00mm	アワ	胚乳	炭化	完形	1	—	1.4	1.0	1.2	—	—
種子②	SD137	3層	1.00mm	ヤナギタデ近似種	果実		破片	1	—	—	—	—	半分	—
種子②	SD137	3層	1.00mm	イヌタデ近似種	果実		完形	6	—	—	—	—	—	25
種子②	SD137	3層	1.00mm	イヌタデ近似種	果実		破片	1	—	—	—	—	1/3片	—
種子②	SD137	3層	1.00mm	不明		炭化	破片	4	—	—	—	—	—	—
種子②	SD137	3層	1.00mm	種実ではない(炭化材)				20	—	—	—	—	—	—
種子②	SD137	3層	1.00mm	種実ではない(土粒)				11	—	—	—	—	—	—
種子②	SD137	3層	1.00mm	種実ではない(岩片)				3	—	—	—	—	—	—
種子②	SD137	3層	0.85mm	イネ	胚乳	炭化	破片	2	—	—	—	—	—	—
種子②	SD137	3層	0.85mm	コムギ	穎・胚乳	炭化	破片	2	—	—	—	—	穎: 腹面正中線上に残存	—
種子②	SD137	3層	0.85mm	コムギ	胚乳	炭化	破片	5	—	—	—	—	—	—
種子②	SD137	3層	0.85mm	ヤナギタデ近似種	果実		完形	2	—	—	—	—	—	27
種子②	SD137	3層	0.85mm	イヌタデ近似種	果実		完形	3	—	—	—	—	—	—
種子②	SD137	3層	0.85mm	不明		炭化	破片	3	—	—	—	—	—	—
種子②	SD137	3層	0.85mm	種実ではない(炭化材)				23	—	—	—	—	—	—
種子②	SD137	3層	0.85mm	種実ではない(土粒)				10	—	—	—	—	—	—
種子②	SD137	3層	0.85mm	種実ではない(岩片)				1	—	—	—	—	—	—
種子③	SE263	3層	2.00mm	イネ	穎	灰化	破片	1	—	1.3 +	—	—	イネ属穎粒酸体確認	11
種子③	SE263	3層	2.00mm	イネ	胚乳	炭化	完形	15	1	4.1	2.5	1.9	—	—
種子③	SE263	3層	2.00mm	イネ	胚乳	炭化	破片	2	—	—	—	—	—	—
種子③	SE263	3層	2.00mm	オオムギ	胚乳	炭化	完形	1	—	4.7 +	2.6 +	2.4	側面欠損	—
種子③	SE263	3層	2.00mm	コムギ	胚乳	炭化	完形	3	1	3.6	2.2	2.1 +	—	—
種子③	SE263	3層	2.00mm	コムギ	胚乳	炭化	完形	—	2	3.6 +	2.2	1.4 +	—	—
種子③	SE263	3層	2.00mm	コムギ	胚乳	炭化	完形	—	3	3.1	2.0	2.5	—	—
種子③	SE263	3層	2.00mm	マメ科(野生種)	種子		完形	4	—	3.3	2.9	1.8	臍長0.8mm, 大きく湾入	28
種子③	SE263	3層	2.00mm	種実ではない(炭化地下茎(スギナ?))				3	—	—	—	—	—	—
種子③	SE263	3層	2.00mm	種実ではない(炭化材)				7	—	—	—	—	—	—
種子③	SE263	3層	2.00mm	種実ではない(炭化茎(イネ科?))				1	—	—	—	—	—	—
種子③	SE263	3層	2.00mm	種実ではない(土粒)				3	—	—	—	—	—	—
種子③	SE263	3層	上 2.00mm	イネ	胚乳	炭化	完形	24	1	4.1	2.1	2.0	—	—
種子③	SE263	3層	上 2.00mm	イネ	胚乳	炭化	完形	—	2	4.4	2.3	1.7	—	—
種子③	SE263	3層	上 2.00mm	イネ	胚乳	炭化	完形	—	3	3.5 +	2.1	1.7	—	—
種子③	SE263	3層	上 2.00mm	イネ	胚乳	炭化	完形	—	4	3.8	2.6	1.8	—	—
種子③	SE263	3層	上 2.00mm	イネ	胚乳	炭化	完形	—	5	4.4	2.6	2.0	—	—
種子③	SE263	3層	上 2.00mm	イネ	胚乳	炭化	完形	—	6	5.0	2.7	2.0	—	—

第5表 細池寺道上遺跡 SE46・263・300・SD137 の種実同定結果 (3)

試料名	遺構	層位	篩の粒径	分類群	部位	状態	個数	枝番	長さ	幅	厚さ	備考	図版番号
種子③	SE263	3層	上	2.00mm	イネ	胚乳 炭化	完形	—	7	4.8	2.6	1.9 +	—
種子③	SE263	3層	上	2.00mm	イネ	胚乳 炭化	完形	—	8	4.8	2.2	2.0	—
種子③	SE263	3層	上	2.00mm	イネ	胚乳 炭化	完形	—	9	4.1	2.6	1.3	—
種子③	SE263	3層	上	2.00mm	イネ	胚乳 炭化	破片	5	—	—	—	—	—
種子③	SE263	3層	上	2.00mm	オオムギ	穎・胚乳 炭化	完形	1	—	5.2	2.3	1.9	穎：基部残存
種子③	SE263	3層	上	2.00mm	オオムギ	胚乳 炭化	完形	3	1	4.8	2.5	2.3	—
種子③	SE263	3層	上	2.00mm	オオムギ	胚乳 炭化	完形	—	2	3.9 +	2.2	1.8	—
種子③	SE263	3層	上	2.00mm	オオムギ	胚乳 炭化	完形	—	3	4.3 +	2.6	2.2	—
種子③	SE263	3層	上	2.00mm	オオムギーコムギ	胚乳 炭化	完形	2	—	—	—	—	両端欠損, 状態不良
種子③	SE263	3層	上	2.00mm	コムギ	胚乳 炭化	完形	4	1	4.4	3.4	3.2	—
種子③	SE263	3層	上	2.00mm	コムギ	胚乳 炭化	完形	—	2	4.3	3.0	2.2	—
種子③	SE263	3層	上	2.00mm	種実ではない (炭化地下茎 (スギナ?))			9	—	—	—	—	—
種子③	SE263	3層	上	2.00mm	種実ではない (炭化材)			21	—	—	—	—	—
種子③	SE263	3層	上	2.00mm	種実ではない (炭化茎 (イネ科?))			1	—	—	—	—	—
種子③	SE263	3層	上	2.00mm	種実ではない (土粒)			11	—	—	—	—	—
種子③	SE263	3層	上	1.4mm	イネ	胚乳 炭化	完形	13	1	3.5 +	2.0	1.6 +	—
種子③	SE263	3層	上	1.4mm	イネ	胚乳 炭化	完形	—	2	4.4	2.2	1.9 +	—
種子③	SE263	3層	上	1.4mm	イネ	胚乳 炭化	完形	—	3	4.0	2.1	1.8	—
種子③	SE263	3層	上	1.4mm	イネ	胚乳 炭化	完形	—	4	4.6	2.1	1.4 +	—
種子③	SE263	3層	上	1.4mm	イネ	胚乳 炭化	完形	—	5	3.9 +	2.0 +	1.5	—
種子③	SE263	3層	上	1.4mm	イネ	胚乳 炭化	完形	—	6	4.4	1.7	1.8	—
種子③	SE263	3層	上	1.4mm	イネ	胚乳 炭化	完形	—	7	4.2	2.0	1.7 +	—
種子③	SE263	3層	上	1.4mm	イネ	胚乳 炭化	完形	—	8	3.1 +	1.7	1.5 +	—
種子③	SE263	3層	上	1.4mm	イネ	胚乳 炭化	破片	26	—	—	—	—	—
種子③	SE263	3層	上	1.4mm	オオムギ	胚乳 炭化	破片	1	—	—	—	—	頂部残存
種子③	SE263	3層	上	1.4mm	コムギ	穎・胚乳 炭化	完形	1	—	3.1	2.1 +	1.8	—
種子③	SE263	3層	上	1.4mm	コムギ	胚乳 炭化	破片	2	—	—	—	—	—
種子③	SE263	3層	上	1.4mm	アワ?	胚乳 炭化	完形	2	1	1.8	1.5	1.1	胚長1.3mm
種子③	SE263	3層	上	1.4mm	アワ?	胚乳 炭化	完形	—	2	2.0	1.6	1.2	胚長1.3mm
種子③	SE263	3層	上	1.4mm	アワキビ	胚乳 炭化	完形	1	—	1.6	1.7	1.3	胚長0.4mm
種子③	SE263	3層	上	1.4mm	ヒエ近似種	胚乳 炭化	完形	2	1	1.9	1.5	1.0	胚長1.6mm
種子③	SE263	3層	上	1.4mm	ヒエ近似種	胚乳 炭化	完形	—	2	1.9	1.6 +	1.1	胚長1.3mm
種子③	SE263	3層	上	1.4mm	コシジユガヤ	果実	完形	1	—	—	—	—	—
種子③	SE263	3層	上	1.4mm	シソ属	果実	完形	2	—	2.0	1.8	1.5	表面不明瞭
種子③	SE263	3層	上	1.4mm	不明	炭化	破片	5	—	—	—	—	—
種子③	SE263	3層	上	1.4mm	種実ではない (炭化材)			4	—	—	—	—	—
種子③	SE263	3層	上	1.4mm	種実ではない (土粒)			1	—	—	—	—	—
種子③	SE263	3層	上	1.4mm	種実ではない (岩片)			1	—	—	—	—	—
種子③	SE263	3層	上	1.00mm	イネ	胚乳 炭化	完形	1	—	—	—	—	側面・基部欠損
種子③	SE263	3層	上	1.00mm	イネ	胚乳 炭化	破片	3	—	—	—	—	—
種子③	SE263	3層	上	1.00mm	アワ	胚乳 炭化	完形	2	1	1.2	1.1	1.1	—
種子③	SE263	3層	上	1.00mm	アワ	胚乳 炭化	完形	—	2	1.0 +	1.1	1.1 +	—
種子③	SE263	3層	上	1.00mm	ヒエ近似種	穎・胚乳 炭化	完形	2	1	2.0	1.5	1.1	—
種子③	SE263	3層	上	1.00mm	ヒエ近似種	穎・胚乳 炭化	完形	—	2	2.0	1.3	0.9	—
種子③	SE263	3層	上	1.00mm	ヒエ近似種	胚乳 炭化	完形	1	—	1.6	1.2	0.7 +	—
種子③	SE263	3層	上	1.00mm	ヒエ近似種?	胚乳 炭化	完形	1	—	1.1 +	1.2	0.6	—
種子③	SE263	3層	上	1.00mm	アサ?	果皮?	炭化	破片	1	—	1.7 +	—	—
種子③	SE263	3層	上	1.00mm	不明	炭化	破片	5	—	—	—	—	—
種子③	SE263	3層	上	1.00mm	種実ではない (炭化材)			2	—	—	—	—	—
種子③	SE263	3層	上	1.00mm	種実ではない (土粒)			1	—	—	—	—	—
種子③	SE263	3層	上	0.85mm	イネ	胚乳 炭化	破片	11	—	—	—	—	—
種子③	SE263	3層	上	0.85mm	アワ	穎・胚乳 炭化	完形	2	1	1.2	1.3	1.1	—
種子③	SE263	3層	上	0.85mm	アワ	穎・胚乳 炭化	完形	—	2	1.2	1.3	1.1	—
種子③	SE263	3層	上	0.85mm	アワ?	胚乳 炭化	完形	1	—	—	—	—	状態不良
種子③	SE263	3層	上	0.85mm	ヒエ近似種	穎・胚乳 炭化	完形	3	1	1.7	1.3	0.9 +	—
種子③	SE263	3層	上	0.85mm	ヒエ近似種	穎・胚乳 炭化	完形	—	2	1.5 +	1.2	0.9	—
種子③	SE263	3層	上	0.85mm	ヒエ近似種	胚乳 炭化	完形	4	—	—	—	—	状態不良
種子③	SE263	3層	上	0.85mm	不明	炭化	破片	4	—	—	—	—	—
種子③	SE263	3層	上	0.85mm	種実ではない (炭化材)			4	—	—	—	—	—
種子③	SE263	3層	上	0.85mm	種実ではない (土粒)			3	—	—	—	—	—
種子③	SE263	3層	中	2.00mm	イネ	胚乳 炭化	完形	7	1	5.2	2.8	2.1	年代測定試料「種子③」(注2)
種子③	SE263	3層	中	2.00mm	イネ	胚乳 炭化	完形	—	2	5.1	2.9	2.4	年代測定試料「種子③」(注2)
種子③	SE263	3層	中	2.00mm	イネ	胚乳 炭化	完形	—	3	4.8	2.5	2.0	年代測定試料「種子③」(注2)
種子③	SE263	3層	中	2.00mm	イネ	胚乳 炭化	完形	—	4	4.3 +	2.9	1.9	基部欠損, 年代測定試料「種子③」(注2)
種子③	SE263	3層	中	2.00mm	イネ	胚乳 炭化	完形	—	5	4.5 +	2.3 +	2.1	基部欠損, 年代測定試料「種子③」(注2)
種子③	SE263	3層	中	2.00mm	イネ	胚乳 炭化	完形	—	6	3.2 +	2.4	1.6	基部欠損, 年代測定試料「種子③」(注2)
種子③	SE263	3層	中	2.00mm	イネ	穎・胚乳 炭化	完形	—	7	4.7	2.7	2.0	年代測定試料「種子③」(注2)
種子③	SE263	3層	中	2.00mm	イネ	胚乳 炭化	完形	11	—	—	—	—	—
種子③	SE263	3層	中	2.00mm	イネ	胚乳 炭化	破片	4	—	—	—	—	—
種子③	SE263	3層	中	2.00mm	オオムギ	胚乳 炭化	完形	—	2	4.2	2.2	1.8	—
種子③	SE263	3層	中	2.00mm	オオムギ	胚乳 炭化	完形	2	1	3.8 +	2.0 +	1.9	頂部欠損
種子③	SE263	3層	中	2.00mm	コムギ	穎・胚乳 炭化	完形	1	—	4.4	2.4	2.1	—
種子③	SE263	3層	中	2.00mm	コムギ	胚乳 炭化	完形	3	1	3.5	2.7	2.3	—
種子③	SE263	3層	中	2.00mm	コムギ	胚乳 炭化	完形	—	2	4.2	2.1	1.9	—
種子③	SE263	3層	中	2.00mm	コムギ	胚乳 炭化	完形	—	3	3.6 +	2.6 +	2.5	—
種子③	SE263	3層	中	2.00mm	コムギ	胚乳 炭化	破片	1	—	—	—	—	—
種子③	SE263	3層	中	2.00mm	ミクリ属	果実	完形	1	—	—	—	—	基部欠損
種子③	SE263	3層	中	2.00mm	アズキ類	種子 炭化	完形	3	1	5.3	3.7	3.7	臍：長さ2.2mm, 幅0.9mm
種子③	SE263	3層	中	2.00mm	アズキ類	種子 炭化	破片	1	—	—	—	—	—
種子③	SE263	3層	中	2.00mm	ダイズ類	種子 炭化	完形	2	1	8.3	4.5 +	3.6 +	臍欠損

第4節 細池寺道上遺跡出土種実同定

第5表 細池寺道上遺跡 SE46・263・300・SD137 の種実同定結果 (4)

試料名	遺構	層位	篩の粒径	分類群	部位	状態	個数	枝番	長さ	幅	厚さ	備考	図版番号		
種子③	SE263	3層	中	2.00mm	ダイズ類	種子	炭化	完形	—	2	8.1 +	5.4 +	3.5 +	臍欠損	—
種子③	SE263	3層	中	2.00mm	不明		炭化	破片	3	—	—	—	—		—
種子③	SE263	3層	中	2.00mm	種実ではない(炭化地下茎(スギナ?))				9	—	—	—	—		—
種子③	SE263	3層	中	2.00mm	種実ではない(炭化材)				4	—	—	—	—		—
種子③	SE263	3層	中	1.4mm	イネ	胚乳	炭化	完形	7	1	4.1	1.9	1.5		—
種子③	SE263	3層	中	1.4mm	イネ	胚乳	炭化	破片	7	—	—	—	—		—
種子③	SE263	3層	中	1.4mm	コムギ	胚乳	炭化	完形	2	—	—	—	—	つぶれている。状態不良	—
種子③	SE263	3層	中	1.4mm	コムギ	胚乳	炭化	破片	1	—	—	—	—	つぶれている。状態不良	—
種子③	SE263	3層	中	1.4mm	ヒエ近似種	胚乳	炭化	完形	3	1	2.0	1.4	0.9 +		—
種子③	SE263	3層	中	1.4mm	ヒエ近似種	胚乳	炭化	完形	—	2	1.8	1.4	1.2		—
種子③	SE263	3層	中	1.4mm	ヒエ近似種	胚乳	炭化	完形	—	3	1.7	1.1	1.2		—
種子③	SE263	3層	中	1.4mm	コシジユガヤ	果実		完形	1	—	—	—	—		—
種子③	SE263	3層	中	1.4mm	不明		炭化	破片	1	—	—	—	—		—
種子③	SE263	3層	中	1.00mm	イネ	胚乳	炭化	完形	5	1	3.9	2.1	1.5		—
種子③	SE263	3層	中	1.00mm	イネ	胚乳	炭化	完形	—	2	3.6	2.0	1.3		—
種子③	SE263	3層	中	1.00mm	イネ	胚乳	炭化	破片	2	—	—	—	—		—
種子③	SE263	3層	中	1.00mm	コムギ	胚乳	炭化	完形	2	1	3.3 +	2.0	1.8		—
種子③	SE263	3層	中	1.00mm	コムギ	胚乳	炭化	破片	1	—	—	—	—		—
種子③	SE263	3層	中	1.00mm	アワ	穎・胚乳	炭化	完形	1	—	1.4	1.2	1.1	穎：腹面残存	15
種子③	SE263	3層	中	1.00mm	アワ	胚乳	炭化	完形	3	—	—	—	—		—
種子③	SE263	3層	中	1.00mm	ヒエ近似種	穎・胚乳	炭化	完形	2	1	1.9	1.2	0.8		—
種子③	SE263	3層	中	1.00mm	ヒエ近似種	穎・胚乳	炭化	完形	—	2	1.9	1.5 +	1.1		—
種子③	SE263	3層	中	1.00mm	ヒエ近似種	胚乳	炭化	完形	1	—	—	—	—		—
種子③	SE263	3層	中	1.00mm	コシジユガヤ	果実		完形	1	—	—	—	—		—
種子③	SE263	3層	中	1.00mm	不明		炭化	破片	5	—	—	—	—		—
種子③	SE263	3層	中	1.00mm	種実ではない(炭化材)				2	—	—	—	—		—
種子③	SE263	3層	中	0.85mm	イネ	胚乳	炭化	破片	3	—	—	—	—		—
種子③	SE263	3層	中	0.85mm	ヒエ近似種	穎・胚乳	炭化	完形	2	—	—	—	—		—
種子③	SE263	3層	中	0.85mm	ヒエ近似種	胚乳	炭化	完形	1	—	—	—	—		—
種子③	SE263	3層	中	0.85mm	アサ?	果皮?		破片	1	—	2.9 +	—	—		24
種子③	SE263	3層	中	0.85mm	不明		炭化	破片	3	—	—	—	—		—
種子③	SE263	3層	下	1.4mm	イネ	胚乳	炭化	完形	3	1	4.0	1.9 +	1.8		—
種子③	SE263	3層	下	1.4mm	イネ	胚乳	炭化	完形	—	2	3.0 +	1.6	1.4		—
種子③	SE263	3層	下	1.4mm	イネ	胚乳	炭化	破片	14	—	—	—	—		—
種子③	SE263	3層	下	1.4mm	コムギ?	胚乳	炭化	破片	2	—	—	—	—		—
種子③	SE263	3層	下	1.4mm	コシジユガヤ	果実		完形	1	—	—	—	—		21
種子③	SE263	3層	下	1.4mm	不明		炭化	破片	4	—	—	—	—		—
種子③	SE263	3層	下	1.4mm	種実ではない(炭化材)				4	—	—	—	—		—
種子③	SE263	3層	下	1.4mm	種実ではない(土粒)				1	—	—	—	—		—
種子③	SE263	3層	下	1.4mm	種実ではない(岩片)				2	—	—	—	—		—
種子③	SE263	3層	下	1.00mm	イネ	胚乳	炭化	完形	2	1	4.3	1.9	1.2		—
種子③	SE263	3層	下	1.00mm	イネ	胚乳	炭化	破片	17	—	—	—	—		—
種子③	SE263	3層	下	1.00mm	コムギ	胚乳	炭化	完形	1	—	—	—	—	状態不良	—
種子③	SE263	3層	下	1.00mm	コムギ	胚乳	炭化	破片	1	—	—	—	—		—
種子③	SE263	3層	下	1.00mm	アワ?	胚乳	炭化	完形	1	—	1.5	1.8	1.1		—
種子③	SE263	3層	下	1.00mm	ヒエ近似種	穎・胚乳	炭化	完形	5	1	3.0	1.6	1.1	穎：背面・頂部残存	17
種子③	SE263	3層	下	1.00mm	ヒエ近似種	胚乳	炭化	完形	1	—	—	—	—	状態不良	—
種子③	SE263	3層	下	1.00mm	コシジユガヤ	果実		完形	1	—	—	—	—		—
種子③	SE263	3層	下	1.00mm	コシジユガヤ	果実		破片	3	—	—	—	—		—
種子③	SE263	3層	下	1.00mm	シソ属(エゴマ)	果実		完形	1	—	2.1	1.8	1.5	状態良好	33
種子③	SE263	3層	下	1.00mm	不明		炭化	破片	10	—	—	—	—		—
種子③	SE263	3層	下	1.00mm	種実ではない(炭化材)				4	—	—	—	—		—
種子③	SE263	3層	下	1.00mm	種実ではない(岩片)				4	—	—	—	—		—
種子③	SE263	3層	下	0.85mm	イネ	胚乳	炭化	破片	3	—	—	—	—		—
種子③	SE263	3層	下	0.85mm	オオムギ	穎・胚乳	炭化	完形	1	—	4.6	2.4 +	2.4	状態良好	—
種子③	SE263	3層	下	0.85mm	コムギ?	胚乳	炭化	破片	1	—	—	—	—		—
種子③	SE263	3層	下	0.85mm	ヒエ近似種	穎・胚乳	炭化	完形	1	—	—	—	—	状態不良	—
種子③	SE263	3層	下	0.85mm	ヒエ近似種	胚乳	炭化	完形	1	—	—	—	—	状態不良	—
種子③	SE263	3層	下	0.85mm	ホタルイ属	果実		完形	1	—	—	—	—		—
種子③	SE263	3層	下	0.85mm	イヌタデ近似種	果実		完形	2	—	—	—	—		—
種子③	SE263	3層	下	0.85mm	種実ではない(土粒)				1	—	—	—	—		—
種子③	SE263	3層	下	0.85mm	種実ではない(岩片)				3	—	—	—	—		—
種子④	SE300	4層		2.00mm	オオムギ	胚乳	炭化	完形	1	—	7.0	3.1	2.3	状態良好	—
種子④	SE300	4層		2.00mm	コムギ	胚乳	炭化	完形	10	1	4.4	2.9	2.6	年代測定試料「種子④」(注2)	9
種子④	SE300	4層		2.00mm	コムギ	胚乳	炭化	完形	—	2	4.0	2.7 +	2.3 +	側面窪む、背面摩耗、年代測定試料「種子④」(注2)	9
種子④	SE300	4層		2.00mm	コムギ	胚乳	炭化	完形	—	3	3.6	2.4	2.1	年代測定試料「種子④」(注2)	9
種子④	SE300	4層		2.00mm	コムギ	胚乳	炭化	完形	—	4	3.3	2.5	2.2	年代測定試料「種子④」(注2)	7
種子④	SE300	4層		2.00mm	コムギ	胚乳	炭化	完形	—	5	3.4	2.2	2.3	年代測定試料「種子④」(注2)	7
種子④	SE300	4層		2.00mm	コムギ	胚乳	炭化	完形	—	6	3.2	2.0	1.8	年代測定試料「種子④」(注2)	7
種子④	SE300	4層		2.00mm	コムギ	胚乳	炭化	完形	—	7	2.5	1.9	1.7	年代測定試料「種子④」(注2)	7
種子④	SE300	4層		2.00mm	コムギ	胚乳	炭化	完形	—	8	3.3	2.0	1.6	年代測定試料「種子④」(注2)	8
種子④	SE300	4層		2.00mm	コムギ	胚乳	炭化	完形	—	9	3.1	1.9 +	2.1	側面窪む、年代測定試料「種子④」(注2)	8
種子④	SE300	4層		2.00mm	コムギ	胚乳	炭化	完形	—	10	3.2	2.0	2.1	年代測定試料「種子④」(注2)	8
種子④	SE300	4層		2.00mm	コムギ	胚乳	炭化	完形	4	1	2.9	2.0	1.8		—
種子④	SE300	4層		2.00mm	コムギ	胚乳	炭化	完形	—	2	3.3	1.7	1.8		—
種子④	SE300	4層		2.00mm	コムギ	胚乳	炭化	完形	—	3	3.4	2.1	1.7		—
種子④	SE300	4層		2.00mm	コムギ	胚乳	炭化	完形	—	4	3.4	1.9 +	1.8 +		—
種子④	SE300	4層		1.4mm	イネ	胚乳	炭化	完形	2	1	4.4	2.6	1.9 +		—
種子④	SE300	4層		1.4mm	イネ	胚乳	炭化	完形	—	2	3.8 +	2.5	1.8	基部欠損	—
種子④	SE300	4層		1.4mm	イネ	胚乳	炭化	破片	2	—	—	—	—	頂部残存	—
種子④	SE300	4層		1.4mm	オオムギ	穎・胚乳	炭化	完形	2	1	5.8	2.8	2.3		14
種子④	SE300	4層		1.4mm	オオムギ	穎・胚乳	炭化	完形	—	2	4.9	1.8	1.2		—

第5表 細池寺道上遺跡 SE46・263・300・SD137 の種実同定結果 (5)

試料名	遺構	層位	篩の粒径	分類群	部位	状態	個数	枝番	長さ	幅	厚さ	備考	図版番号	
種子④	SE300	4層	1.4mm	オオムギ	胚乳	炭化 完形	3	1	5.0	2.7	2.1		—	
種子④	SE300	4層	1.4mm	オオムギ	胚乳	炭化 完形	—	2	5.3	2.7	1.9		—	
種子④	SE300	4層	1.4mm	オオムギ	胚乳	炭化 完形	—	3	3.9 +	2.4	1.7	両端欠損	—	
種子④	SE300	4層	1.4mm	コムギ	穎・胚乳	炭化 完形	2	1	3.6	2.5	2.0	穎：側面残存	—	
種子④	SE300	4層	1.4mm	コムギ	穎・胚乳	炭化 完形	—	2	3.2 +	2.1	1.8	穎：腹面縫合線上残存	—	
種子④	SE300	4層	1.4mm	コムギ	胚乳	炭化 完形	17	1	3.5	2.2	1.7		—	
種子④	SE300	4層	1.4mm	コムギ	胚乳	炭化 完形	—	2	3.3	2.0	2.4		—	
種子④	SE300	4層	1.4mm	コムギ	胚乳	炭化 完形	—	3	3.8	2.0	1.6		—	
種子④	SE300	4層	1.4mm	コムギ	胚乳	炭化 完形	—	4	3.2	2.1	1.9		—	
種子④	SE300	4層	1.4mm	コムギ	胚乳	炭化 完形	—	5	2.9	1.9 +	2.0		—	
種子④	SE300	4層	1.4mm	コムギ	胚乳	炭化 完形	—	6	3.5 +	2.4	1.8		—	
種子④	SE300	4層	1.4mm	コムギ	胚乳	炭化 完形	—	7	3.2	2.1	2.0		—	
種子④	SE300	4層	1.4mm	コムギ	胚乳	炭化 完形	—	8	3.2	2.2 +	2.1		—	
種子④	SE300	4層	1.4mm	コムギ	胚乳	炭化 完形	—	9	2.8	2.0	1.8		—	
種子④	SE300	4層	1.4mm	コムギ	胚乳	炭化 完形	—	10	3.4	2.4	1.8		—	
種子④	SE300	4層	1.4mm	コムギ	胚乳	炭化 完形	—	11	3.1	2.1 +	2.1		—	
種子④	SE300	4層	1.4mm	コムギ	胚乳	炭化 完形	—	12	2.8 +	2.0 +	1.5		—	
種子④	SE300	4層	1.4mm	コムギ	胚乳	炭化 完形	—	13	3.4	1.9 +	2.1		—	
種子④	SE300	4層	1.4mm	コムギ	胚乳	炭化 完形	—	14	3.0	2.0 +	2.5		—	
種子④	SE300	4層	1.4mm	コムギ	胚乳	炭化 完形	—	15	3.2	1.8	1.8		—	
種子④	SE300	4層	1.4mm	コムギ	胚乳	炭化 完形	—	16	4.3	2.2	1.9		—	
種子④	SE300	4層	1.4mm	コムギ	胚乳	炭化 完形	—	17	2.5 +	2.5 +	2.3		—	
種子④	SE300	4層	1.4mm	コムギ	胚乳	炭化 破片	2	—	—	—	—	基部(胚)	—	
種子④	SE300	4層	1.4mm	コムギ?	胚乳	炭化 破片	5	—	—	—	—		—	
種子④	SE300	4層	1.4mm	ウキヤガラ	果実	完形	1	—	—	—	—		23	
種子④	SE300	4層	1.4mm	種実ではない(炭化材)			1	—	—	—	—		—	
種子④	SE300	4層	1.4mm	種実ではない(土粒)			1	—	—	—	—		—	
種子④	SE300	4層	1.00mm	イネ	胚乳	炭化 完形	1	—	2.6	1.3	0.8	小型(不熟?)	—	
種子④	SE300	4層	1.00mm	ホタルイ属	果実	完形	3	—	—	—	—		22	
種子④	SE300	4層	1.00mm	ホタルイ属	果実	破片	1	—	—	—	—		—	
種子④	SE300	4層	1.00mm	種実ではない(炭化材)			1	—	—	—	—		—	
種子④	SE300	4層	0.85mm	イネ	胚乳	炭化 破片	1	—	—	—	—		—	
種子④	SE300	4層	0.85mm	ヒエ近似種	穎・胚乳	炭化 完形	2	1	1.7	1.3	0.6		—	
種子④	SE300	4層	0.85mm	ヒエ近似種	穎・胚乳	炭化 完形	—	2	1.9	1.1	0.8		—	
種子④	SE300	4層	0.85mm	不明		炭化 破片	6	—	—	—	—		—	
種子④	SE300	4層	0.85mm	種実ではない(炭化材)			2	—	—	—	—		—	
種子④	SE300	4層	0.85mm	種実ではない(無機物)			1	—	—	—	—		—	
							種実合計	438						
							不明合計	59						
							種実ではない合計	210						
							合計	707						

注1) 計測値 (mm) はデジタルノギスによる。欠損部は残存値に「+」で示す。  
 注2) 年代測定試料は、種子①～④に属する複数の種実(備考に記載)の中から各1個を選んだ。

第6表 細池寺道上遺跡における種実出土状況

分類群	部位・状態	SE46	SD137	SE263			SE300	合計			
		2層	3層	上	中	下	4層				
栽培種											
イネ	炭化穎	破片	—	—	—	—	1	1			
	炭化穎・胚乳	完形	—	—	1	—	—	1			
	炭化胚乳	完形	5	9	38	29	5	15	3	104	
オオムギ	炭化穎・胚乳	破片	1	11	45	16	34	2	3	112	
	炭化胚乳	完形	—	—	1	—	1	—	2	4	
	炭化胚乳	完形	1	1	3	2	—	1	4	12	
	炭化胚乳	破片	—	—	1	—	—	—	—	1	
オオムギ・コムギ	炭化胚乳	完形	—	—	2	—	—	—	—	2	
	炭化穂軸	破片	1	—	—	—	—	—	—	1	
コムギ	炭化穎・胚乳	完形	—	—	1	1	—	—	—	2	4
	炭化胚乳	破片	—	2	—	—	—	—	—	2	2
	炭化胚乳	完形	17	3	4	7	1	3	31	66	
	炭化胚乳	破片	—	5	2	3	1	—	2	13	
コムギ?	炭化胚乳	破片	—	—	—	3	—	—	5	8	
アワ	炭化穎・胚乳	完形	1	—	2	1	—	—	—	4	
	炭化胚乳	完形	7	1	2	3	—	—	—	13	
アワ?	炭化胚乳	完形	—	—	3	—	1	—	—	4	
アワキビ	炭化胚乳	完形	—	—	1	—	—	—	—	1	
栽培種の可能性											
ヒエ近似種	炭化穎・胚乳	完形	—	—	5	4	6	—	—	2	17
	炭化胚乳	完形	—	—	7	5	2	—	—	—	14
ヒエ近似種?	炭化胚乳	完形	—	—	1	—	—	—	—	—	1
アサ?	炭化果皮?	破片	—	—	1	—	—	—	—	—	1
	果皮?	破片	—	—	—	1	—	—	—	—	1
アズキ類	炭化種子	完形	—	—	—	3	—	—	—	—	3
	破片	—	—	—	1	—	—	—	—	—	1
ダイズ類	炭化種子	完形	—	—	—	2	—	—	—	—	2
シソ属(エゴマ)	炭化果実	完形	—	—	—	—	1	—	—	—	1
シソ属	炭化果実	完形	—	—	2	—	—	—	—	—	2

分類群	部位・状態	SE46	SD137	SE263			SE300	合計			
		2層	3層	上	中	下	4層				
その他の草本類											
ミクリ属	炭化果実	完形	—	—	—	1	—	—	—	1	
スゲ属	炭化果実	完形	1	—	—	—	—	—	—	1	
コシジロガヤ	果実	完形	—	—	1	2	2	—	—	5	
	破片	—	—	—	—	3	—	—	—	3	
ウキヤガラ	果実	完形	—	—	—	—	—	—	1	1	
ホタルイ属	果実	完形	—	—	—	—	1	—	—	3	4
	破片	—	—	—	—	—	—	—	1	1	
	炭化?果実	完形	1	—	—	—	—	—	—	1	
タデ属(ボントクタデ?)	炭化果実	完形	1	—	—	—	—	—	—	1	
ヤナギタデ近似種	果実	完形	—	3	—	—	—	—	—	3	
	破片	—	1	—	—	—	—	—	—	1	
イヌタデ近似種	果実	完形	—	11	—	—	2	—	—	13	
	破片	—	1	—	—	—	—	—	—	1	
マメ科(ヤブツルアズキ?)	炭化種子	完形	1	—	—	—	—	—	—	1	
マメ科	炭化種子	完形	1	—	—	—	—	—	—	1	
マメ科(野生種)	種子	完形	—	—	—	—	4	—	—	4	
合計											
栽培種		33	32	105	63	46	22	52	353		
栽培種の可能性		—	—	16	16	9	—	2	43		
その他の草本類		5	16	1	3	8	4	5	42		
合計		38	48	122	82	63	26	59	438		

第4節 細池寺道上遺跡出土種実同定

第7表 細池寺道上遺跡における主な炭化種実の計測値(1)

試料名	遺構	層位	篩の粒径	分類群	部位	長さ	幅	厚さ	長さ×幅	長さ/幅	粒大	粒形	図版番号	備考	
種子①	SE46	2層	(1)	2.00mm	イネ	胚乳	4.3	2.7	2.4	11.6	1.6	極小	短粒	—	
種子①	SE46	2層	(1)	2.00mm	イネ	胚乳	4.2	2.2	2.0	9.5	1.9	極小	短粒	—	
種子①	SE46	2層	(1)	2.00mm	イネ	胚乳	4.5	2.3	1.8	10.3	2.0	極小	長粒	—	
種子①	SE46	2層	(1)	2.00mm	イネ	胚乳	4.3	2.0	2.0	8.6	2.2	極小	長粒	—	
種子②	SD137	3層		2.00mm	イネ	胚乳	5.0	2.9	2.3	14.5	1.7	小型	短粒	3	年代測定試料「種子②」(注2)
種子②	SD137	3層		2.00mm	イネ	胚乳	4.4	2.5	2.7	10.9	1.7	極小	短粒	3	焼き膨れている, 年代測定試料「種子②」(注2)
種子②	SD137	3層		1.4mm	イネ	胚乳	3.8	2.1	1.5	7.7	1.8	極々小	短粒	4	頂部欠損, 年代測定試料「種子②」(注2)
種子③	SE263	3層	上	2.00mm	イネ	胚乳	3.8	2.6	1.8	9.7	1.5	極小	短粒	—	
種子③	SE263	3層	上	2.00mm	イネ	胚乳	4.1	2.6	1.3	10.6	1.6	極小	短粒	—	
種子③	SE263	3層	上	2.00mm	イネ	胚乳	4.4	2.6	2.0	11.4	1.7	極小	短粒	—	
種子③	SE263	3層	上	2.00mm	イネ	胚乳	5.0	2.7	2.0	13.4	1.8	小型	短粒	—	
種子③	SE263	3層	上	2.00mm	イネ	胚乳	4.8	2.6	1.9	12.3	1.9	小型	短粒	—	
種子③	SE263	3層	上	2.00mm	イネ	胚乳	4.4	2.3	1.7	10.1	1.9	極小	短粒	—	
種子③	SE263	3層	上	2.00mm	イネ	胚乳	4.1	2.1	2.0	8.7	1.9	極小	短粒	—	
種子③	SE263	3層	上	2.00mm	イネ	胚乳	4.8	2.2	2.0	10.7	2.1	極小	長粒	—	
種子③	SE263	3層	上	1.4mm	イネ	胚乳	4.0	2.1	1.8	8.5	1.9	極小	短粒	—	
種子③	SE263	3層	上	1.4mm	イネ	胚乳	4.4	2.2	1.9	9.6	2.0	極小	長粒	—	
種子③	SE263	3層	上	1.4mm	イネ	胚乳	4.2	2.0	1.7	8.4	2.0	極小	長粒	—	
種子③	SE263	3層	上	1.4mm	イネ	胚乳	4.6	2.1	1.4	9.7	2.2	極小	長粒	—	
種子③	SE263	3層	上	1.4mm	イネ	胚乳	4.4	1.7	1.8	7.5	2.6	極々小	長粒	—	
種子③	SE263	3層	中	2.00mm	イネ	穎・胚乳	4.7	2.7	2.0	12.7	1.7	小型	短粒	6・10	年代測定試料「種子③」(注2)
種子③	SE263	3層	中	2.00mm	イネ	胚乳	5.1	2.9	2.4	14.5	1.8	小型	短粒	5	年代測定試料「種子③」(注2)
種子③	SE263	3層	中	2.00mm	イネ	胚乳	5.2	2.8	2.1	14.6	1.8	小型	短粒	5	年代測定試料「種子③」(注2)
種子③	SE263	3層	中	2.00mm	イネ	胚乳	4.8	2.5	2.0	12.2	1.9	小型	短粒	5	年代測定試料「種子③」(注2)
種子③	SE263	3層	中	1.4mm	イネ	胚乳	4.1	1.9	1.5	7.9	2.1	極々小	長粒	—	
種子③	SE263	3層	中	1.00mm	イネ	胚乳	3.6	2.0	1.3	7.0	1.8	極々小	短粒	—	
種子③	SE263	3層	中	1.00mm	イネ	胚乳	3.9	2.1	1.5	8.1	1.9	極小	短粒	—	
種子③	SE263	3層	下	1.00mm	イネ	胚乳	4.3	1.9	1.2	8.1	2.3	極小	長粒	—	
種子③	SE263	3層		2.00mm	イネ	胚乳	4.2	3.1	2.4	13.0	1.4	小型	短粒	—	
種子③	SE263	3層		2.00mm	イネ	胚乳	4.1	2.5	1.9	10.3	1.6	極小	短粒	—	
種子④	SE300	4層		1.4mm	イネ	胚乳	4.4	2.6	1.9	11.2	1.7	極小	短粒	—	
種子④	SE300	4層		1.00mm	イネ	胚乳	2.6	1.3	0.8	3.4	2.0	極々小	長粒	—	不熟?
						標本数	32	32	26						
						最小	2.6	1.3	0.8						
						最大	5.2	3.1	2.4						
						標準偏差	0.5	0.4	0.4						
						平均	4.3	2.3	1.8						
種子①	SE46	2層	(1)	2.00mm	コムギ	胚乳	3.9	2.9	2.5	11.4	1.4	—	—	1	年代測定試料「種子①」(注2)
種子①	SE46	2層	(1)	2.00mm	コムギ	胚乳	3.5	2.4	2.1	8.5	1.4	—	—	1	年代測定試料「種子①」(注2)
種子①	SE46	2層	(1)	2.00mm	コムギ	胚乳	2.9	2.5	2.1	7.3	1.1	—	—	1	年代測定試料「種子①」(注2)
種子①	SE46	2層	(1)	2.00mm	コムギ	胚乳	3.4	2.1	2.0	7.0	1.6	—	—	1	年代測定試料「種子①」(注2)
種子①	SE46	2層	(1)	2.00mm	コムギ	胚乳	2.6	2.1	2.1	5.4	1.2	—	—	1	年代測定試料「種子①」(注2)
種子①	SE46	2層	(1)	2.00mm	コムギ	胚乳	3.9	2.1	2.0	7.9	1.9	—	—	2	年代測定試料「種子①」(注2)
種子①	SE46	2層	(1)	2.00mm	コムギ	胚乳	3.2	2.4	2.0	7.7	1.3	—	—	2	年代測定試料「種子①」(注2)
種子①	SE46	2層	(1)	2.00mm	コムギ	胚乳	2.7	2.3	1.6	6.2	1.2	—	—	2	年代測定試料「種子①」(注2)
種子①	SE46	2層	(2)	2.00mm	コムギ	胚乳	3.1	2.3	1.7	7.0	1.4	—	—	—	
種子①	SE46	2層		1.4mm	コムギ	胚乳	3.1	1.6	1.2	4.8	1.9	—	—	—	
種子③	SE263	3層	上	2.00mm	コムギ	胚乳	4.4	3.4	3.2	14.7	1.3	—	—	—	
種子③	SE263	3層	上	2.00mm	コムギ	胚乳	4.3	3.0	2.2	13.0	1.4	—	—	—	
種子③	SE263	3層	中	2.00mm	コムギ	穎・胚乳	4.4	2.4	2.1	10.3	1.8	—	—	13	
種子③	SE263	3層	中	2.00mm	コムギ	胚乳	3.5	2.7	2.3	9.6	1.3	—	—	—	
種子③	SE263	3層	中	2.00mm	コムギ	胚乳	4.2	2.1	1.9	8.9	2.0	—	—	—	
種子③	SE263	3層		2.00mm	コムギ	胚乳	3.6	2.2	2.1	7.8	1.6	—	—	—	
種子③	SE263	3層		2.00mm	コムギ	胚乳	3.1	2.0	2.5	6.1	1.6	—	—	—	
種子④	SE300	4層		2.00mm	コムギ	胚乳	4.4	2.9	2.6	12.7	1.5	—	—	9	年代測定試料「種子④」(注2)
種子④	SE300	4層		2.00mm	コムギ	胚乳	3.6	2.4	2.1	8.7	1.5	—	—	9	年代測定試料「種子④」(注2)
種子④	SE300	4層		2.00mm	コムギ	胚乳	3.3	2.5	2.2	8.2	1.3	—	—	7	年代測定試料「種子④」(注2)
種子④	SE300	4層		2.00mm	コムギ	胚乳	3.4	2.2	2.3	7.6	1.5	—	—	7	年代測定試料「種子④」(注2)
種子④	SE300	4層		2.00mm	コムギ	胚乳	3.2	2.0	1.8	6.5	1.6	—	—	7	年代測定試料「種子④」(注2)
種子④	SE300	4層		2.00mm	コムギ	胚乳	2.5	1.9	1.7	4.6	1.3	—	—	7	年代測定試料「種子④」(注2)
種子④	SE300	4層		2.00mm	コムギ	胚乳	3.3	2.0	1.6	6.4	1.7	—	—	8	年代測定試料「種子④」(注2)
種子④	SE300	4層		2.00mm	コムギ	胚乳	3.2	2.0	2.1	6.5	1.6	—	—	8	年代測定試料「種子④」(注2)
種子④	SE300	4層		2.00mm	コムギ	胚乳	2.9	2.0	1.8	5.7	1.5	—	—	—	
種子④	SE300	4層		2.00mm	コムギ	胚乳	3.3	1.7	1.8	5.7	1.9	—	—	—	
種子④	SE300	4層		2.00mm	コムギ	胚乳	3.4	2.1	1.7	7.2	1.6	—	—	—	
種子④	SE300	4層		1.4mm	コムギ	穎・胚乳	3.6	2.5	2.0	8.8	1.5	—	—	—	穎: 側面残存
種子④	SE300	4層		1.4mm	コムギ	胚乳	3.5	2.2	1.7	7.5	1.6	—	—	—	
種子④	SE300	4層		1.4mm	コムギ	胚乳	3.3	2.0	2.4	6.7	1.6	—	—	—	
種子④	SE300	4層		1.4mm	コムギ	胚乳	3.8	2.0	1.6	7.7	1.8	—	—	—	
種子④	SE300	4層		1.4mm	コムギ	胚乳	3.2	2.1	1.9	6.6	1.6	—	—	—	
種子④	SE300	4層		1.4mm	コムギ	胚乳	3.2	2.1	2.0	6.7	1.5	—	—	—	
種子④	SE300	4層		1.4mm	コムギ	胚乳	2.8	2.0	1.8	5.6	1.4	—	—	—	
種子④	SE300	4層		1.4mm	コムギ	胚乳	3.4	2.4	1.8	8.2	1.4	—	—	—	
種子④	SE300	4層		1.4mm	コムギ	胚乳	3.2	1.8	1.8	5.7	1.7	—	—	—	
種子④	SE300	4層		1.4mm	コムギ	胚乳	4.3	2.2	1.9	9.7	1.9	—	—	—	
						標本数	38	38	37						
						最小	2.5	1.6	1.2						
						最大	4.4	3.4	3.2						
						標準偏差	0.5	0.4	0.4						
						平均	3.4	2.2	2.0						

第7表 細池寺道上遺跡における主な炭化種実の計測値(2)

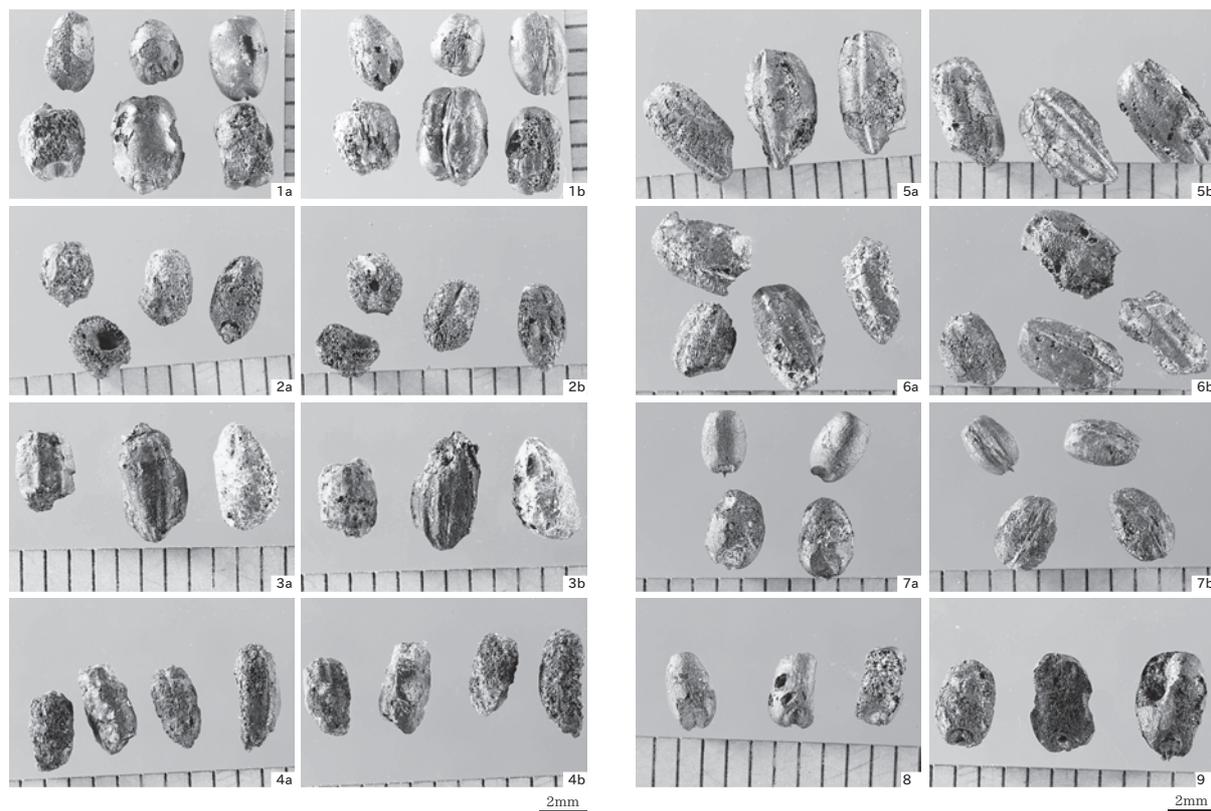
試料名	遺構	層位	篩の粒径	分類群	部位	長さ	幅	厚さ	長さ×幅	長さ/幅	粒大	粒形	図版番号	備考	
種子①	SE46	2層	(1)	2.00mm	オオムギ	胚乳	6.2	3.5	2.7	21.4	1.8	-	-	-	状態良好
種子③	SE263	3層	上	2.00mm	オオムギ	穎・胚乳	5.2	2.3	1.9	11.6	2.3	-	-	-	穎：基部残存
種子③	SE263	3層	上	2.00mm	オオムギ	胚乳	4.8	2.5	2.3	12.1	1.9	-	-	-	
種子③	SE263	3層	中	2.00mm	オオムギ	胚乳	4.2	2.2	1.8	9.0	1.9	-	-	-	
種子④	SE300	4層		2.00mm	オオムギ	胚乳	7.0	3.1	2.3	21.5	2.3	-	-	-	状態良好
種子④	SE300	4層		1.4mm	オオムギ	穎・胚乳	5.8	2.8	2.3	16.2	2.1	-	-	14	
種子④	SE300	4層		1.4mm	オオムギ	穎・胚乳	4.9	1.8	1.2	8.8	2.7	-	-	-	
種子④	SE300	4層		1.4mm	オオムギ	胚乳	5.0	2.7	2.1	13.6	1.8	-	-	-	
種子④	SE300	4層		1.4mm	オオムギ	胚乳	5.3	2.7	1.9	14.2	2.0	-	-	-	
種子①	SE46	2層		1.4mm	アワ	穎・胚乳	1.3	1.5	1.2	1.9	0.9	-	-	-	穎：側面残存
種子①	SE46	2層		1.00mm	アワ	胚乳	1.4	1.4	1.1	1.9	1.0	-	-	-	
種子①	SE46	2層		1.00mm	アワ	胚乳	1.4	1.5	1.1	2.1	0.9	-	-	-	
種子①	SE46	2層		0.85mm	アワ	胚乳	1.1	1.2	1.0	1.3	0.9	-	-	-	
種子①	SE46	2層		0.85mm	アワ	胚乳	1.2	1.2	1.1	1.4	1.0	-	-	-	
種子①	SE46	2層		0.85mm	アワ	胚乳	1.5	1.3	1.1	1.8	1.2	-	-	-	背面摩耗
種子②	SD137	3層		1.00mm	アワ	胚乳	1.4	1.0	1.2	1.4	1.3	-	-	-	
種子③	SE263	3層	上	1.00mm	アワ	胚乳	1.2	1.1	1.1	1.3	1.1	-	-	-	
種子③	SE263	3層	上	0.85mm	アワ	穎・胚乳	1.2	1.3	1.1	1.6	0.9	-	-	-	
種子③	SE263	3層	上	0.85mm	アワ	穎・胚乳	1.2	1.3	1.1	1.5	0.9	-	-	-	
種子③	SE263	3層	中	1.00mm	アワ	穎・胚乳	1.4	1.2	1.1	1.6	1.2	-	-	15	穎：腹面残存
種子③	SE263	3層	上	1.4mm	アワ?	胚乳	1.8	1.5	1.1	2.7	1.2	-	-	-	胚長1.3mm
種子③	SE263	3層	上	1.4mm	アワ?	胚乳	2.0	1.6	1.2	3.1	1.2	-	-	-	胚長1.3mm
種子③	SE263	3層	下	1.00mm	アワ?	胚乳	1.5	1.8	1.1	2.7	0.9	-	-	-	
種子③	SE263	3層	上	1.4mm	アワキビ	胚乳	1.6	1.7	1.3	2.7	0.9	-	-	16	胚長0.4mm
種子③	SE263	3層	上	1.4mm	ヒエ近似種	胚乳	1.9	1.5	1.0	2.8	1.3	-	-	-	胚長1.6mm
種子③	SE263	3層	上	0.85mm	ヒエ近似種	穎・胚乳	1.7	1.3	0.9 +	2.2	1.3	-	-	-	
種子③	SE263	3層	上	1.00mm	ヒエ近似種	穎・胚乳	2.0	1.5	1.1	2.9	1.3	-	-	18	
種子③	SE263	3層	上	1.00mm	ヒエ近似種	穎・胚乳	2.0	1.3	0.9	2.5	1.5	-	-	-	
種子③	SE263	3層	上	1.00mm	ヒエ近似種	胚乳	1.6	1.2	0.7 +	1.9	1.3	-	-	-	
種子③	SE263	3層	中	1.4mm	ヒエ近似種	胚乳	2.0	1.4	0.9 +	2.8	1.4	-	-	-	
種子③	SE263	3層	中	1.4mm	ヒエ近似種	胚乳	1.8	1.4	1.2	2.4	1.3	-	-	-	
種子③	SE263	3層	中	1.4mm	ヒエ近似種	胚乳	1.7	1.1	1.2	2.0	1.5	-	-	-	
種子③	SE263	3層	中	1.00mm	ヒエ近似種	穎・胚乳	1.9	1.2	0.8	2.3	1.5	-	-	-	
種子③	SE263	3層	下	1.00mm	ヒエ近似種	穎・胚乳	3.0	1.6	1.1	4.7	1.9	-	-	17	穎：背面・頂部残存
種子④	SE300	4層		0.85mm	ヒエ近似種	穎・胚乳	1.7	1.3	0.6	2.2	1.4	-	-	-	
種子④	SE300	4層		0.85mm	ヒエ近似種	穎・胚乳	1.9	1.1	0.8	2.1	1.6	-	-	-	
種子③	SE263	3層	中	2.00mm	ダイズ類	種子	8.3	4.5	3.6 +	37.4	1.9	-	-	32	臍欠損
種子③	SE263	3層	中	2.00mm	アズキ類	種子	5.3	3.7	3.7	19.8	1.4	-	-	31	臍：長さ2.2mm, 幅0.9mm
種子①	SE46	2層	(2)	2.00mm	マメ科(ヤブツルアズキ?)	種子	2.5	1.8	2.0	4.4	1.4	-	-	29	直方体状楕円体, 臍欠損
種子③	SE263	3層	下	1.00mm	シソ属(エゴマ)	果実	2.1	1.8	1.5	3.8	1.1	-	-	33	状態良好
種子③	SE263	3層	上	1.4mm	シソ属	果実	2.0	1.8	1.5	3.6	1.1	-	-	-	表面不明瞭

注) 計測値(mm)はデジタルノギスによる。炭化米の粒大(長さ×幅)、粒形(長さ/幅)は、佐藤〔1988〕の定義に従う。

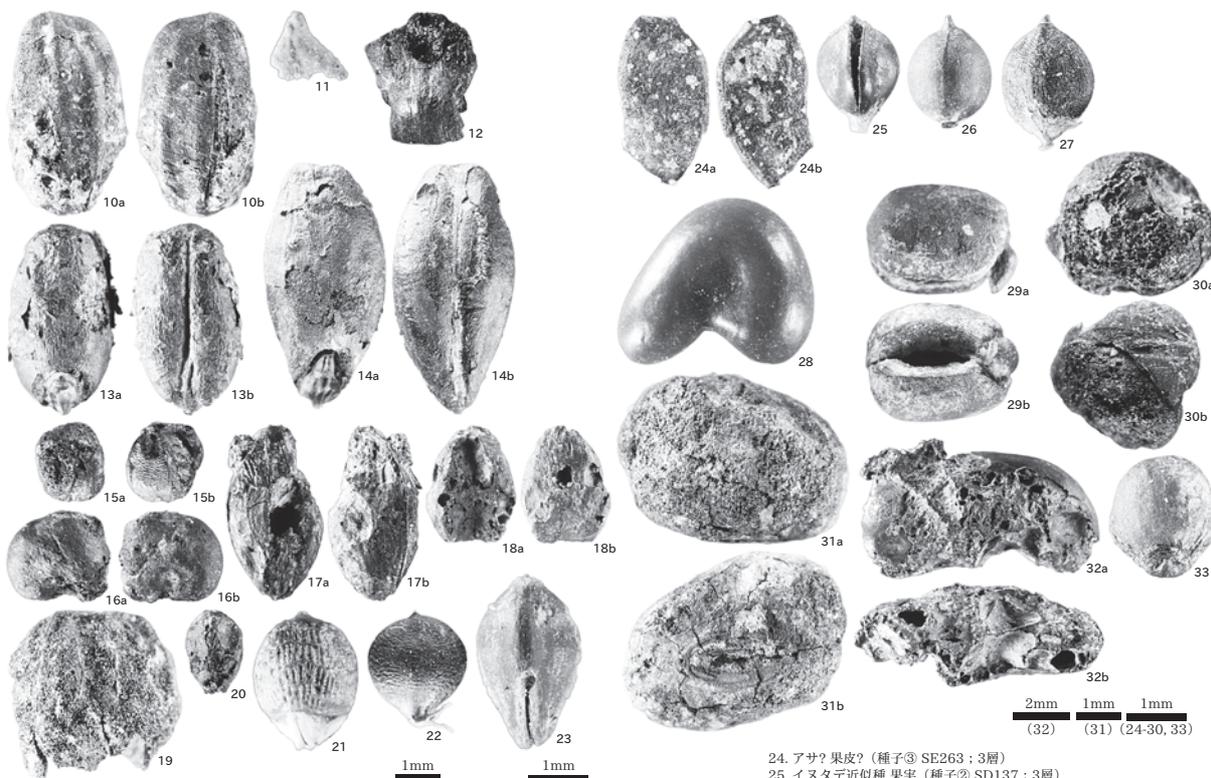
注2) 年代測定試料は、種子①～④に属する複数の種実(備考に記載。ただし表3に記載されていない個体があり、表1参照。)の中から各1個を選んだ。

## 文 献

- 石川茂雄, 1994, 原色日本植物種子写真図鑑. 石川茂雄図鑑刊行委員会, 328p.
- 笠原安夫, 1982, 鳥浜貝塚の植物種実の検出とエゴマ・シソ種実ターレット状塊について. 鳥浜貝塚 1980 年度発掘調査概報・研究の成果—縄文前期を主とする低湿地遺跡の調査 2—, 福井県教育委員会, 65-87.
- 小畑弘巳, 2008, マメ科種子同定法. 「極東先史古代の雑穀 3」, 日本学術振興会平成 16～19 年度科学研究費補助金(基盤 B-2)(課題番号 16320110)「雑穀資料からみた極東地域における農耕受容と拡散過程の実証的研究」研究成果報告書, 小畑弘巳編, 熊本大学埋蔵文化財調査室, 225-252.
- 小畑弘巳, 2011, 東北アジア古民族植物学と縄文農耕. 同成社, 309p.
- 佐藤敏也, 1988, 弥生のイネ. 弥生文化の研究 2 生業, 金関 怨・佐原 真編, 雄山閣, 97-111.
- 鈴木庸夫・高橋 冬・安延尚文, 2012, ネイチャーウォッチングガイドブック 草木の種子と果実—形態や大きさが一目でわかる植物の種子と果実 632 種—. 誠文堂新光社, 272p.
- 谷城勝弘, 2007, カヤツリグサ科入門図鑑. 全国農村教育協会, 247p.
- 中山至大・井之口希秀・南谷志志, 2000, 日本植物種子図鑑, 東北大学出版会, 642p.
- 吉崎昌一, 1992, 古代雑穀の検出. 月刊考古学ジャーナル, No.355, 2-14.



1. コムギ胚乳 (種子① SE46; 2層) 2. コムギ胚乳 (種子① SE46; 2層)  
 3. イネ胚乳 (種子② SD137; 3層) 4. イネ胚乳 (種子② SD137; 3層)  
 5. イネ胚乳 (種子③ SE263; 3層) 6. イネ胚乳 (種子③ SE263; 3層)  
 7. コムギ胚乳 (種子④ SE300; 4層) 8. コムギ胚乳 (種子④ SE300; 4層)  
 9. コムギ胚乳 (種子④ SE300; 4層)



10. イネ類・胚乳 (種子③ SE263; 3層) 11. イネ類 (種子③ SE263; 3層)  
 12. オオムギ・コムギ穂軸 (種子① SE46; 2層) 13. コムギ類・胚乳 (種子③ SE263; 3層)  
 14. オオムギ類・胚乳 (種子④ SE300; 4層) 15. アワ類・胚乳 (種子③ SE263; 3層)  
 16. アワキビ胚乳 (種子③ SE263; 3層) 17. ヒエ近似種類・胚乳 (種子③ SE263; 3層)  
 18. ヒエ近似種類・胚乳 (種子③ SE263; 3層) 19. ミクリ属果実 (種子③ SE263; 3層)  
 20. スゲ属果実 (種子① SE46; 2層) 21. コンジュコガヤ果実 (種子③ SE263; 3層)  
 22. ホタルイ属果実 (種子④ SE300; 4層) 23. ウキヤガラ果実 (種子④ SE300; 4層)  
 24. アサ? 果皮? (種子③ SE263; 3層) 25. イヌタデ近似種果実 (種子② SD137; 3層)  
 26. タデ属 (ボントクタデ?) 果実 (種子① SE46; 2層) 27. ヤナギタデ近似種果実 (種子② SD137; 3層)  
 28. マメ科 (野生種) 種子 (種子② SE263; 3層) 29. マメ科 (ヤブツルアズキ?) 種子 (種子① SE46; 2層)  
 30. マメ科種子 (種子① SE46; 2層) 31. アズキ類種子 (種子③ SE263; 3層)  
 32. ダイズ類種子 (種子③ SE263; 3層) 33. シソ属 (エゴマ) 果実 (種子③ SE263; 3層)

第11図 細池寺道上遺跡の種実遺体写真

## 第5節 細池寺道上遺跡出土試料(種実)のAMS法による放射性炭素年代測定

### A 測定対象試料

細池寺道上遺跡は、新潟県新潟市秋葉区大安寺地内に所在し、沖積地の自然堤防上に立地する。測定対象試料は、井戸跡から出土した植物の種実4点である(第8表)。これらの試料は、遺構埋土を水洗選別して検出された種実の一部で、種子①、④はコムギ胚乳、種子②、③はイネ胚乳に同定されている(第4節種実同定報告参照)。各々複数あるコムギ、イネ胚乳の中から各1点を使用した。

試料が出土した遺構の時期は中世と推定されている。

### B 測定の意義

試料が出土した遺構の年代を特定する。

### C 化学処理工程

- 1) メス・ピンセットを使い、根・土等の付着物を取り除く。
- 2) 酸-アルカリ-酸(AAA: Acid Alkali Acid)処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA処理における酸処理では、通常1mol/l(1M)の塩酸(HCl)を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム(NaOH)水溶液を用い、0.001Mから1Mまで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が1Mに達した時には「AAA」、1M未満の場合は「AaA」と表1に記載する。
- 3) 試料を燃焼させ、二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)を発生させる。
- 4) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。
- 5) 精製した二酸化炭素を鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト(C)を生成させる。
- 6) グラファイトを内径1mmのカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

### D 測定方法

加速器をベースとした<sup>14</sup>C-AMS専用装置(NEC社製)を使用し、<sup>14</sup>Cの計数、<sup>13</sup>C濃度(<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>C)、<sup>14</sup>C濃度(<sup>14</sup>C/<sup>12</sup>C)の測定を行う。測定では、米国国立標準局(NIST)から提供されたシユウ酸(HOx II)を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

### E 算出方法

- 1)  $\delta^{13}\text{C}$ は、試料炭素の<sup>13</sup>C濃度(<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>C)を測定し、基準試料からのずれを千分偏差(‰)で表した値である(第8表)。AMS装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。
- 2) <sup>14</sup>C年代(Libby Age: yrBP)は、過去の大気中<sup>14</sup>C濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年(0yrBP)として遡る年代である。年代値の算出には、Libbyの半減期(5568年)を使用する(Stuiver and Polach 1977)。<sup>14</sup>C年代は $\delta^{13}\text{C}$ によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を第8表に、補正していない値を参考値として第9表に示した。<sup>14</sup>C年代と誤差は、下1桁を丸めて10年単位で表示される。また、<sup>14</sup>C年代の誤差( $\pm 1\sigma$ )は、試料の<sup>14</sup>C年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。
- 3) pMC(percent Modern Carbon)は、標準現代炭素に対する試料炭素の<sup>14</sup>C濃度の割合である。pMCが

小さい ( $^{14}\text{C}$  が少ない) ほど古い年代を示し、pMC が 100 以上 ( $^{14}\text{C}$  の量が標準現代炭素と同等以上) の場合 Modern とする。この値も  $\delta^{13}\text{C}$  によって補正する必要があるため、補正した値を第 8 表に、補正していない値を参考値として第 9 表に示した。

4) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の  $^{14}\text{C}$  濃度をもとに描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の  $^{14}\text{C}$  濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、 $^{14}\text{C}$  年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1 標準偏差 ( $1\sigma=68.2\%$ ) あるいは 2 標準偏差 ( $2\sigma=95.4\%$ ) で表示される。グラフの縦軸が  $^{14}\text{C}$  年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、 $\delta^{13}\text{C}$  補正を行い、下 1 桁を丸めない  $^{14}\text{C}$  年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認

第 8 表 細池寺道上遺跡における放射性炭素年代測定結果 ( $\delta^{13}\text{C}$  補正值)

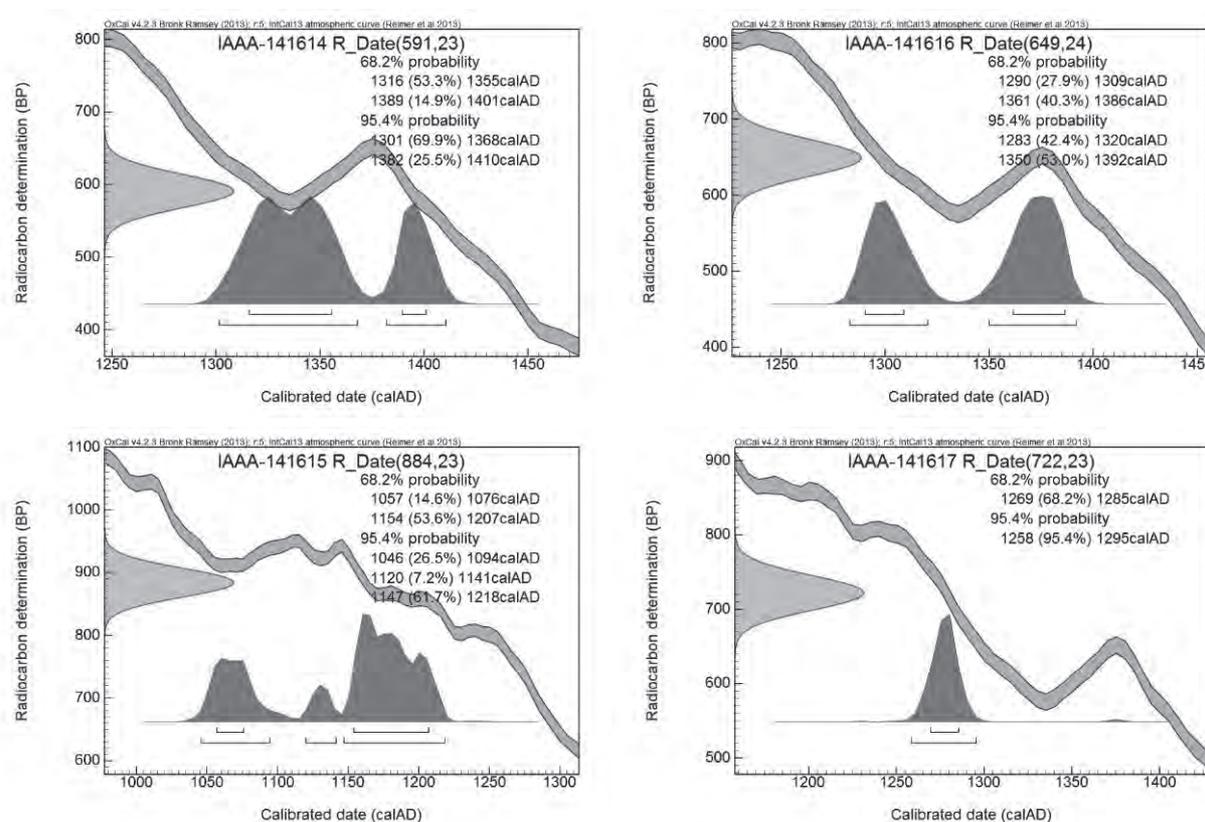
測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-141614	種子①	SE46 2層	種実 (コムギ胚乳)	AaA	-21.19 ± 0.36	590 ± 20	92.90 ± 0.27
IAAA-141615	種子②	SD137 3層	種実 (イネ胚乳)	AaA	-25.59 ± 0.40	880 ± 20	89.58 ± 0.26
IAAA-141616	種子③	SE263 3層	種実 (イネ胚乳)	AaA	-22.73 ± 0.44	650 ± 20	92.24 ± 0.28
IAAA-141617	種子④	SE300 4層	種実 (コムギ胚乳)	AaA	-22.69 ± 0.39	720 ± 20	91.40 ± 0.27

[#6895]

第 9 表 細池寺道上遺跡における放射性炭素年代測定結果 ( $\delta^{13}\text{C}$  未補正值、暦年較正用  $^{14}\text{C}$  年代、較正年代)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 $\sigma$ 暦年代範囲		2 $\sigma$ 暦年代範囲	
	Age (yrBP)	pMC (%)					
IAAA-141614	530 ± 20	93.63 ± 0.26	591 ± 23	1316calAD - 1355calAD (53.3%) 1389calAD - 1401calAD (14.9%)	1301calAD - 1368calAD (69.9%) 1382calAD - 1410calAD (25.5%)		
IAAA-141615	890 ± 20	89.47 ± 0.25	884 ± 23	1057calAD - 1076calAD (14.6%) 1154calAD - 1207calAD (53.6%)	1046calAD - 1094calAD (26.5%) 1120calAD - 1141calAD (7.2%) 1147calAD - 1218calAD (61.7%)		
IAAA-141616	610 ± 20	92.67 ± 0.27	649 ± 24	1290calAD - 1309calAD (27.9%) 1361calAD - 1386calAD (40.3%)	1283calAD - 1320calAD (42.4%) 1350calAD - 1392calAD (53.0%)		
IAAA-141617	680 ± 20	91.83 ± 0.26	722 ± 23	1269calAD - 1285calAD (68.2%)	1258calAD - 1295calAD (95.4%)		

(参考値)



第 12 図 細池寺道上遺跡の暦年較正年代グラフ (参考)

認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal13 データベース (Reimer et al. 2013) を用い、OxCalv4.2 較正プログラム (Bronk Ramsey 2009) を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表 2 に示した。暦年較正年代は、 $^{14}\text{C}$  年代に基づいて較正 (calibrate) された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」(または「cal BP」) という単位で表される。

## F 測定結果

測定結果を第 8・9 表に示す。

試料の  $^{14}\text{C}$  年代は、種子①が  $590 \pm 20\text{yrBP}$ 、種子②が  $880 \pm 20\text{yrBP}$ 、種子③が  $650 \pm 20\text{yrBP}$ 、種子④が  $720 \pm 20\text{yrBP}$  である。暦年較正年代 ( $1\sigma$ ) は、種子①が 1316 ~ 1401cal AD の間に 2 つの範囲、種子②が 1057 ~ 1207cal AD の間に 2 つの範囲、種子③が 1290 ~ 1386cal AD の間に 2 つの範囲、種子④が 1269 ~ 1285cal AD の範囲で示される。試料が出土した遺構の推定年代に対していずれも整合するが、種子②については若干古い可能性もある。

試料の炭素含有率はすべて 60% を超える十分な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

## 文献

Bronk Ramsey, C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, Radiocarbon 51 (1), 337-360

Reimer, P.J. et al. 2013 IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, Radiocarbon 55 (4), 1869-1887

Stuiver, M. and Polach, H.A. 1977 Discussion : Reporting of  $^{14}\text{C}$  data, Radiocarbon 19 (3), 355-363

## 第Ⅶ章 総 括

### 第 1 節 細池寺道上遺跡の出土遺物について

本調査では、水田造成や耕作の影響を受けて包含層が削平・消失したことにより遺物の全体出土量は少ない。ここでは中世遺物の大半を占める珠洲焼の片口鉢・甕について特徴を概観し、遺物の年代観を把握していきたい。珠洲焼の年代観は〔吉岡 1994〕にもとづく。細分は参考にとどめ、年代観の表記には「珠洲Ⅰ」などの表現を用いている。

出土した甕の胴部片のうち、幅 3cm 以内の叩打痕の打圧密度が観察できたものは以下のようになっている。

打圧密度は、7 目 (25)、8 目 (9、14、15、17、21、26、32、33、38)、9 目 (16)、10 目 (8)、11 目 (24、30)、12 目 (28、29)、14 目 (2、23) となっており、粗目な 8 目が主体を占めるが、やや細密な 14 目も見られる。叩打痕に綾杉文は認められず、外面に刻印も認められない。叩打痕の打圧密度の特徴からは、14 目 (2、23) に珠洲Ⅲ～Ⅳ期の要素が見られるが、この他は珠洲Ⅳ期と捉えることができる。

片口鉢のうち、卸目の条数が観察できたものは以下の通りである。6 目 (11)、7 目 (6)、9 目 (7)、11 目 (12、19) となっており、細目ないし中太の櫛歯原体を用いて直線的に施している。破片資料のため全体の条数は不明だが、12 は卸目間隔が 7cm を測り 8 条から 12 条、19 は卸目が放射状に 8 条から 12 条、7 は密に卸目が入る個体と捉えられる。口縁形態が確認できる個体は 1、5、11、12 である。11 のみ口縁外側端部が嘴状に摘み出されているほかは、いずれも方頭である。片口鉢の口縁形態と卸目の特徴からは、珠洲Ⅳ期が主体と捉えられ、卸目の密に入る 7 は珠洲Ⅳ～Ⅴ期の年代を推定することが可能である。なお、7 は SE263 出土であり、SE263 が道路状遺構の SD142 を切って掘り込まれていることも矛盾しない。また、SE77 の 2 と SD309 の 23 をⅢ～Ⅳ期とした場合にも掘立柱建物の消長と符合し、遺構の年代観を補完することができる。

以上の様相から、本調査における出土遺物の主体は、珠洲Ⅳ期 13 世紀後葉～14 世紀後葉の年代と捉えることができる。

### 第 2 節 細池寺道上遺跡の遺構について

#### A 小土坑 (Pit) について

建物跡としての遺構の配置は確認していないが、柱穴を検出している。P100・P106 は第 26 次調査 2 区の掘立柱建物 SB990 の延長であり、P100 は P656、P106 は P667 の西側に位置する。この他の柱穴は、第 43 次調査地では建物としての配列などは認められないが、周囲に掘立柱建物が展開する可能性が高い。これら柱穴の検出地点は、規模の差はあるものの溝や道路状遺構、井戸が集中しており、遺構のセット関係から集落域の一部と考えられる。

#### B 道路状遺構について

本調査地では、第 26 次調査で検出された道路状遺構の南東側延長を含めて 3 条の道路状遺構を検出している。SD137 と SD142 を側溝とする道路状遺構 1 は、第 26 次調査時には 4 時期が確認され、今回は SD137 で 3 期、SD142 で 2 期を確認している。現状での規模は、側溝含幅 5.6m (路面幅 1.8m) である。西側に位置する SD137 は、側溝が 2 条になっていることから造り替えたものと推測でき、これは第 26 次調査 2 区道路状遺構 1 の北側に

においても同じ状況を見ることができる。対して、SD142は、掘り直しの状況のみであり、これも第26次調査2区道路状遺構1と同じ状況である。しかし、道路状遺構1は直接的に連続していないため、具体的な状況については明らかではない。また、路面は上面が削平されているためか、硬化面や使用面などは確認しえなかった。

なお、植物珪酸体（プラント・オパール）の分析結果によれば、道路状遺構1の西側側溝であるSD137北の2層と東側側溝SD142で密度が9,200個/gおよび9,000個/gと高い値のイネのプラントオパールを検出している。周辺で稲作が行われていたと推定され、これが流れ込んだものと仮定すれば、これらの溝が道路側溝としてだけでなく用排水路として機能していた可能性が高い。

### C 自然科学分析結果について

本調査において各遺構を対象とした自然科学分析の結果についてまとめておく。

植物珪酸体（プラント・オパール）の分析結果では、SD40、SD137北、SD137南、SD142、SD309のすべての試料からイネが検出された。中でもSD137北とSD142で密度が高く、SD40、SD137南でも比較的高い密度を示しており、周辺で稲作が行われていたと推定される。また、ヨシ属、ススキ属、ウシクサ属、ササ属なども検出されており、調査地周辺の環境は、湿潤な環境と比較的乾燥した土地が混在していたと考えられる。

花粉分析結果からは、イネ、ソバなどの栽培種、栽培種に近いアブラナ科（ダイコン・ハクサイなど）が検出されている。また、ハンノキ属、スギ、ナラ属、クリなどの花粉も検出されていることから、調査地周辺では稲作・耕作が行われ、周辺地域には樹木も分布していたと推定される。

SE46、SD137、SE263、SE300より得られた種実の同定結果では、イネ、オオムギ、コムギ、アワ、ヒエなどの栽培種の他に、アサ、エゴマ、アズキ類、ダイズ類も確認されている。特にSE263、SD137ではイネが多く、SE46、SE300ではコムギが多い傾向が認められた。

炭化胚乳からは<sup>14</sup>C年代に基づき較正年代が得られており、珠洲焼の年代と照合すると以下ようになる。

SE46 コムギ：14世紀初頭～15世紀初頭頃（珠洲Ⅳ～Ⅴ期）

SD137 イネ：11世紀半ば～13世紀初頭頃（珠洲Ⅰ～Ⅱ期）

SE263 イネ：13世紀後葉～14世紀後葉頃（珠洲Ⅲ～Ⅳ、Ⅴ期）

SE300 コムギ：13世紀後葉頃（珠洲Ⅲ期）

科学分析を実施した遺構数は少ないが、いずれの結果からも本調査地周辺での稲作を裏付ける資料が得られた。また、<sup>14</sup>C年代と珠洲焼の年代からは、SD137・SD142の道路状遺構がSE263に切られる状況を補完する年代観を示す結果が得られている。

### D 調査地および周辺部の様相について

ここでは、本調査地を含む周辺遺構の基盤層・Ⅳ層上面の標高などを概観し、遺構の分布状況を把握する。本調査地では、南から南端部の遺構密集地の標高8.05m～8.1m、第26次調査2区に隣接する遺構密集地は7.85～8.0m、Ⅲ層の残るSD40付近で7.85m、遺構は少ないがⅣ層面を確認した北端部では7.7mとなっている。遺構確認面とした基盤層・Ⅳ層上面が、南東から北西に向かって緩やかに傾斜している傾向がうかがえ、その標高は7.85～8.1mと比高差は0.25mを測る。遺構の密度も標高8m前後を中心に位置しており、これより高い地点は既に削平された可能性が高く、逆に標高の低い地点は元から遺構が存在していなかったものと考えられる。

本調査地の東側一帯では、2007年度は場整備事業に伴う発掘調査〔潮田2014〕（以下、第25次調査）および第26次調査が行われ、報告を完了している（図版3）。これらの調査成果をもとに本調査地周辺の様相を概観する。

南から大まかに基盤層・Ⅳ層上面の標高を抜き出すと第25次調査2区・5区・7区で8.5～9.0m、1区・4区・6区で8.1～8.4m（河川跡含む）、3区・8区で7.8～8.1m（河川跡含む）、第26次調査2区（本調査隣接部）

で7.8～8.0m、1区で7.85～8.1m、3区で7.2～7.95m、4区で7.35～7.6mとなっており、最高所は対象範囲最南端の第25次調査7区で9.0mを測り、最も低い第26次調査4区北端部7.6mとの比高差は1.4mである。全ての標高値が基盤層・IV層上面の高さを維持しているとは考え難いが、概ね南東から北西にかけての傾斜と考えられる。

このうち、集落域と想定されるのは、第25次調査5区・7区の9m前後と第26次調査1区・2区・3区の一部の8m前後の地点と捉えられる。このほかの地点は、概ね7.5～8.0mの標高で推移し、南北および東西方向に主軸をもつ溝が検出され、水田などの生産域としての利用が推定される。時期としては第25次調査7区で比較的まとまって9世紀末～10世紀初頭の遺構・遺物が出土しているほかは、12世紀後半～15世紀前半のものと考えられる。

## E 細池寺道上遺跡の時期変遷について

これまで述べてきた、遺構の状況、遺物の年代、分析の結果と、過年度の調査結果を元にまとめてA群、B群、C群を設定し、第13図に図示した。A群、B群は第26次調査報告書の2区建物跡の分類を踏襲し、C群はB群に続く時期として再設定した。各群の概略は次の通りである。

A群：第26次調査の掘立柱建物跡を中心とした、12世紀後半～13世紀前半の時期である。珠洲焼の編年ではI～II期に該当する。SD137イネの<sup>14</sup>C測定結果から得られた11世紀中葉～13世紀初頭頃（珠洲I～II期）の年代観は覆土中からのサンプリングであることを考慮すれば、A群の掘立柱建物跡廃絶時に混入したとしても矛盾しない。ただし、本調査出土遺物には当該期の資料は確認できていない。

B群：掘立柱建物跡が減少し、南北に走る道路状遺構と東西に走る溝が構築される。13世紀末葉～14世紀中葉の時期である。珠洲焼の編年ではIV～V期に該当し、IV期は本調査出土遺物の主体をなしている。

第26次調査で確認された道路状遺構1は、出土遺物の年代から13世紀末葉から14世紀初頭の可能性が述べられているが、柱穴との切り合いから14世紀末葉と設定されている。本調査の道路状遺構1は西側側溝（SD137）の分析結果の年代観と、東側側溝（SD142）の井戸（SE263）との切り合い関係から、13世紀後葉～14世紀後葉の年代と考えられる。本調査地の南端をはじめとする集落範囲は、遺物の様相、分析結果からB群に該当すると考えられる。

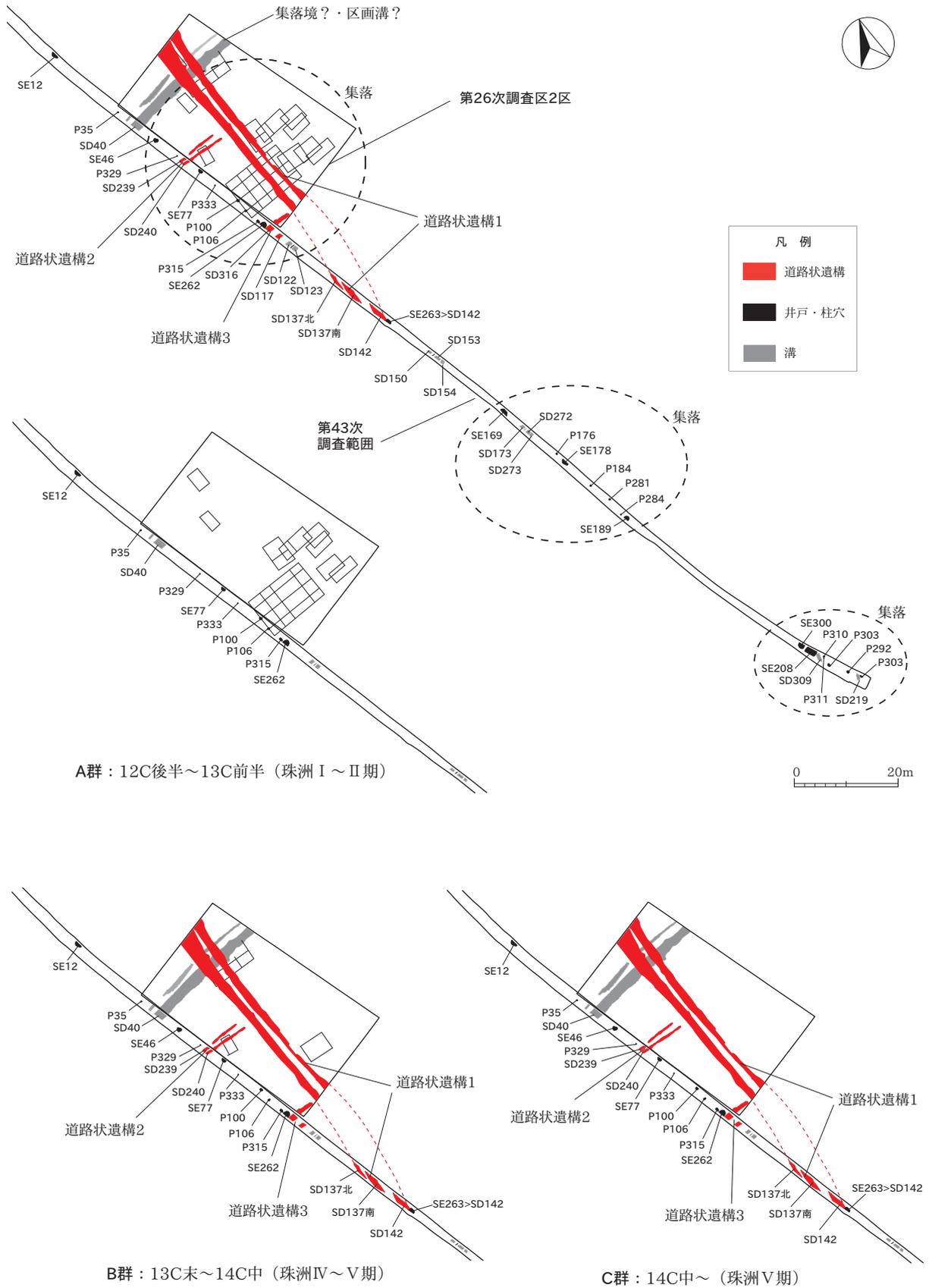
C群：道路状遺構と溝は残るが、A群・B群の主体であった掘立柱建物跡はほとんど見られなくなる。道路状遺構はSE263（IV～V期）に切られることから、この時期に縮小・移設・廃絶した可能性がある。C群以後、SE263のような井戸を伴う稲作などの田園風景が広がるものと思われる。14世紀中葉以後の時期であり、珠洲焼の編年ではV期に該当する。本調査出土遺物には明確な当該期の資料は確認できていないが、6（SE263）のような遺物がわずかに混入する。

基本的な変遷はA群→B群→C群の順となるが、道路状遺構に時期差があるように、各群の遺構が重複する時期があったことは想像に難くない。この結果、本調査地を中心とした地域は、掘立柱建物→道路状遺構→稲作・耕作地への緩やかな変遷と推定することができる。

## 第3節 ま と め

本調査地では遺構・遺物・分析の状況から主たる画期が珠洲IV期（13世紀後葉～14世紀後葉）に限定されるが、一部に珠洲III期・V期の存在と小規模集落の点在の可能性がみられた。また、周辺の過年度調査地の遺構との連続性は、第26次調査2区に限定されることと、調査地が小規模に点在していることから、道路状遺構と溝の平面的な変遷や掘立柱建物跡をはじめとする周辺集落の消長にまでは踏み込めなかった。

ここで13世紀～14世紀の中世における城館・集落の役割、社会情勢、周辺遺跡の様相について触れておきたい。



第13図 細池寺道上遺跡遺構変遷図

中世城館の役割の一つとしては交易拠点が挙げられる。日本海・北陸地域は潟湖を交易拠点として機能していたと考えられ、中世の日本海交易については〔吉岡 1994〕に詳しい。珠洲焼を代表とする指標遺物の存在から、主に 13 世紀～14 世紀に北日本・北海道まで分布・交易圏が見られる。当該期は鎌倉時代から室町時代にあたり、北日本では擦文土器文化が終焉を迎え、蝦夷からアイヌ、擦文土器から内耳土鍋・鉄鍋へ移行する時期である〔網野ほか 1989・財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構 2001〕。内耳土鍋・鉄鍋の使用は、カマドから炉へ煮炊き施設の変容であり、そこに珠洲焼などの新たな調理具・保存具の流入が見られるようになる。これらの遺構・遺物は、北は青森の十三湊〔青森県立郷土館 1998〕、北海道の勝山館・大川遺跡〔乾ほか 2001〕といった中世交易拠点からの出土を見ることができる。

一方細池寺道上遺跡周辺部においては、こうした交易拠点の存在は明らかでないが、阿賀野川流域では、山木戸遺跡〔諫山 2004〕・下前川原遺跡〔遠藤 2004〕・内野遺跡〔立木・高野ほか 2002〕といった鎌倉・室町時代の集落が知られる。いずれも珠洲焼だけでなく青磁・白磁などの貿易陶磁や瀬戸美濃焼など多彩な遺物が多量に出土しており、山木戸遺跡・下前川原遺跡については内水面交通や交易にかかわりのあった可能性が指摘されている。こうした遺跡と今回の細池寺道上遺跡を比較すると、遺物の種類・量ともに少なく交易との直接的な関わりは希薄であったと考えられる。

また、井戸などの覆土からはイネ、オオムギ、コムギ、アワ、ヒエなどの栽培種の他に、アサ、エゴマ、アズキ類、ダイズ類が確認され、自然科学分析の結果とあわせ、集落周辺の田・畑などでは稲作を主体とする多様な栽培植物が栽培されていたことがうかがえる。水田跡や畝跡といった遺構や農具などの直接的な遺物の出土はない。しかし、本調査および第 26 次調査では掘立柱建物跡→道路状遺構の変遷が確認され、道路については公的な性格を有していたと推定されることから、街道沿いの小規模な農村集落としての役割が想定される。

本調査地周辺において新田開発が盛んに行われ、村落が成立した記録が残るのは、17 世紀前半以降である〔斎藤 1986〕。15 世紀以降の状況は遺構・遺物ともに確認されていないため明らかではないが、図版 1（明治 44 年）にも見えるような道路に対して集落が点在して水田の広がる散村的農村の起源は、本調査において主体となる 13～14 世紀代に遡る可能性がある。

## 引用・参考文献

- ア 相田泰臣・前山精明 2003 『菖蒲塚古墳・隼人塚古墳－2002年度確認調査の概要－』 巻町教育委員会  
相田泰臣・前山精明 2005 『菖蒲塚古墳・隼人塚古墳Ⅱ－2003年度確認調査の概要－』 巻町教育委員会  
アイヌ文化振興・研究推進機構 2001 『よみがえる北の中・近世－掘り出されたアイヌ文化－』 北海道ウタリ協会  
青森県教育委員会 1998 『青森県文化観光立県宣言記念特別展 中世国際港湾都市 十三湊と安藤氏』  
朝岡政康・諫山えりか 2003 『東国遺跡 卸売市場建設に伴う市道東8-273建設事業用地内発掘調査報告書』 新潟市教育委員会  
朝岡政康 2010 『平成21年度 新潟市遺跡発掘調査速報会』 新潟市埋蔵文化財センター  
甘粕 健・小野 昭ほか 1993 『越後山谷古墳』 巻町教育委員会・新潟大学考古学研究会  
甘粕 健・川村浩司ほか 1992 『古津八幡山古墳Ⅰ 1991年測量調査報告書』 新潟市教育委員会  
甘粕 健・古川知明ほか 1981 『大沢遺跡B'・B地区の調査概報』 巻町・潟東村教育委員会  
網野善彦ほか 1989 『よみがえる中世4 北の中世 津軽・北海道』 平凡社
- イ 家田順一郎 1987 『小丸山遺跡（小丸山遺跡緊急発掘調査報告書）』 横越村教育委員会  
諫山えりか 2004 『新潟市山木戸遺跡 マンション等建設予定地内発掘調査報告書』 新潟市教育委員会  
石川智紀ほか 1994 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第58集 磐越自動車道関係発掘調査報告書 沖ノ羽遺跡Ⅰ（A地区）』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団  
稲場 明・木村 広・二宮俊策・稲場裕一 1976 「津川・野沢間の阿賀野川沿岸の第四系について」『研究報告』第9号 新潟県立教育センター  
乾 芳宏ほか 2001 『大川遺跡における考古学的調査Ⅳ 余市川改修事業に伴う1989～1994年度大川遺跡発掘調査報告書（総括編）』 余市町教育委員会
- ウ 上原甲子郎 1971 『上ノ原遺跡緊急調査事業報告書』 巻町  
潮田憲幸 2008 『諏訪畑遺跡 第3次調査－老人健康保険施設「秋葉の郷」建設にともなう発掘調査報告書－』 新潟市教育委員会  
潮田憲幸 2014 『細池寺道上遺跡Ⅱ 第25次調査－県営ほ場整備事業（担い手育成型）両新地区に伴う第11次発掘調査報告書－』 新潟市教育委員会
- エ 遠藤恭雄 2004 『下前川原遺跡 新潟県豊栄市下前川原遺跡発掘調査報告書』 豊栄市教育委員会  
遠藤恭雄 2011 『平成22年度 新潟市遺跡発掘調査速報会』 新潟市埋蔵文化財センター  
遠藤恭雄・澤野慶子ほか 2014 『沖ノ羽遺跡Ⅴ 第18・19次調査－県営ほ場整備事業（担い手育成型）満日地区に伴う沖ノ羽遺跡第11・12次発掘調査報告書－』 新潟市教育委員会
- オ 大矢雅彦・加藤泰彦 1984 『阿賀野川水害地形分類図』 建設省北陸地方建設局阿賀野川工事事務所  
小野 昭 1994a 「ケカチ堂遺跡」『巻町史』資料編1 考古 巻町  
小野 昭 1994b 「新谷遺跡」『巻町史』資料編1 考古 巻町  
小野 昭ほか 1982 『大沢遺跡Ⅱ－第3次調査概報－』 新潟大学考古学研究室  
小野 昭・小熊博史 1987 「巻町布目遺跡の調査」『巻町史研究』Ⅲ 巻町  
小野 昭・前山精明ほか 1988 『巻町豊原遺跡の調査』 巻町
- カ 春日真実ほか 1996 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第76集 磐越自動車道関係発掘調査報告書 江内遺跡』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団  
春日真実 2003 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第123集 磐越自動車道関係発掘調査報告書 沖ノ羽遺跡Ⅲ（C地区）』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団  
加藤 学・荒川隆史 1999 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第93集 上信越自動車道関係発掘調査報告書Ⅴ 和泉A遺跡』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団  
金子拓男 1987 「古代における信濃川・阿賀野川の河口と流路について」『研究集録』第15号 新潟県立新潟江南高等学校  
金子拓男ほか 1983 『緒立遺跡発掘調査報告書』 黒埼町教育委員会  
鴨井幸彦・田中里志・安井 賢 2006 「新潟平野における砂丘列の形成年代と発達史」『第四紀研究』第45巻 第2号 日本第四紀学会  
川上貞雄・遠藤孝司 1983 『平遺跡緊急発掘調査報告書』 新潟市教育委員会  
川上貞雄 1993 『横越村文化財調査報告2 山ノ家遺跡緊急発掘調査報告書』 横越村教育委員会

- 川上貞雄 1994 『八幡山遺跡Ⅰ 遺構編』 新津市教育委員会
- 川上貞雄 1995 『舟戸遺跡発掘調査報告書』 新津市教育委員会
- 川上貞雄 1996 『金津丘陵製鉄遺跡群 居村B・D地区』 新津市教育委員会
- 川上貞雄 1997 『上浦A遺跡 新津市工業団地第2期工事地内発掘調査報告書』 新津市教育委員会
- 川上貞雄・木村宗文・鈴木郁夫 1989 『新津市史』資料編 第1巻 原始・古代・中世 新津市
- キ 北村 淳・菊池康一郎ほか 2004 『中谷内遺跡Ⅲ・沖ノ羽遺跡Ⅱ・細池寺道上遺跡発掘調査報告書』 新津市教育委員会
- 木村宗文 1989 「資料解説 古代越後国と蒲原郡」『新津市史』資料編 第1巻 原始・古代・中世 新津市
- 木村宗文 1993 「初期荘園の成立」『新津市史』通史編 上巻 新津市
- コ 小池義人ほか 1994 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第59集 磐越自動車道関係発掘調査報告書 細池遺跡 寺道上遺跡』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 小林 存 1952 『新津市誌』 新津市
- 小山正忠・竹原秀雄 1967 『新版 標準土色帖』 農林水産省農林水産技術会議事務局・財団法人日本色彩研究所監修
- サ 斎藤義信 1986 「新津市」『日本歴史地名大系 15 新潟県の地名』 平凡社
- 酒井和男 2000a 「小丸山遺跡」『横越町史』資料編 横越町
- 酒井和男 2000b 「山ノ家遺跡」『横越町史』資料編 横越町
- 酒井和男・廣野耕造 2002 「新潟砂丘における居住の初源」『新潟考古』第13号 新潟県考古学会
- 坂井秀弥 1994 「庁と館、集落と屋敷—東国古代遺跡における館の形成」『城と館を掘る・読む—古代から中世へ—』 山川出版社
- 坂井秀弥 1996 「水辺の古代官衛遺跡 越後平野の内水面・舟運・漁業」『越と古代の北陸』 名著出版
- 坂上有紀 2003 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第118集 磐越自動車道関係発掘調査報告書 上浦遺跡』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 佐藤友子ほか 2008 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第187集 一般国道7号万代橋下流橋関係発掘調査報告書 近世 新潟町跡（広小路堀地点）』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- セ 関 雅之ほか 1980 『鳥屋遺跡Ⅰ』 豊栄市教育委員会
- タ 高浜信行・卜部厚志・寺崎裕助 2000 「排水機場遺跡」『味方村史』 味方村
- 田中一廣・丹下昌之ほか 2004 『結七島遺跡発掘調査報告書Ⅲ』 新津市教育委員会
- チ 地学団体研究会・新版地学事典編集委員会 1996 『新版 地学事典』 平凡社
- ツ 立木宏明・渡邊朋和ほか 1998 『細池遺跡発掘調査報告書』 新津市教育委員会
- 立木宏明ほか 1999 『中谷内遺跡発掘調査報告書』 新津市教育委員会
- 立木宏明・高野裕子ほか 2002 『内野遺跡発掘調査報告書』 新津市教育委員会
- 立木宏明・澤野慶子ほか 2004a 『愛宕澤遺跡発掘調査報告書』 新津教育委員会
- 立木宏明・澤野慶子ほか 2004b 『山王浦遺跡発掘調査報告書』 新津教育委員会
- 立木宏明・澤野慶子ほか 2005 『沖ノ羽遺跡発掘調査報告書Ⅲ』 新津市教育委員会
- 立木宏明・澤野慶子・八藤後智人ほか 2008 『沖ノ羽遺跡Ⅳ 第15次調査—県営ほ場整備事業（担い手育成型）満日地区に伴う沖ノ羽遺跡第8次発掘調査報告書—』 新潟市教育委員会
- 立木宏明・細野高伯ほか 2013 『日水遺跡Ⅱ 第6次調査—市道亀田300号線道路改良工事に伴う日水遺跡第2次発掘調査報告書—』 新潟市教育委員会
- 立木宏明・相澤（高野）裕子ほか 2014 『細池寺道上遺跡Ⅲ 第26次調査—県営ほ場整備事業（担い手育成型）両新地区に伴う第12次発掘調査報告書—』 新潟市教育委員会
- 立木宏明 2014 『平成25年度 新潟市遺跡発掘調査速報会』 新潟市文化財センター
- 立木宏明 2015 『平成26年度 新潟市遺跡発掘調査速報会』 新潟市文化財センター
- テ 寺村光晴 1960 「越後六地山遺跡」『上代文化』30 國學院大學考古学会
- ト 土橋由理子 2006 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第166集 日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書Ⅷ 馬見坂遺跡 正尺A遺跡 正尺C遺跡』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 土橋由理子 2009 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第200集 一般国道49号亀田バイパス関係発掘調査報告書Ⅱ 西郷遺跡 大蔵遺跡』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- ナ 中川成夫・倉田芳郎 1956 『新津田家七本松須恵器窯跡発掘調査報告書』 北方文化博物館
- 長澤展生ほか 2002 『無頭遺跡発掘調査報告書』 新津市教育委員会
- 中野三義 1976 「中蒲原郡の荘園・保」『かみくひむし』第21号 かみくひむしの会
- 中村孝三郎 1960 「西蒲原郡中野小屋村曾和弥生式六地山遺跡」『NKH』Vo.3 長岡市立科学博物館友の会
- ニ 新潟県 1983 『新潟県史 資料編4』中世二 文書編Ⅱ

- 新潟県 1984 『新潟県史 資料編 5』中世三 文書編Ⅲ  
 新潟市国際文化財部歴史文化課 2007 『新・新潟市歴史双書 2 新潟市の遺跡』新潟市  
 新潟市史編さん原始古代中世史会 1994 『新潟市史』資料編 1 原始 古代 中世 新潟市
- ハ 橋本博文 2015 「新潟市東区牡丹山諏訪神社古墳をめぐって」『平成 26 年度 新潟市遺跡発掘調査速報会資料集』新潟市文化財センター
- ヒ 廣野耕造 1996 『石動遺跡 平成 7 年度発掘調査概報』新潟市教育委員会
- フ 文化庁文化財部記念物課監修 2010 『発掘調査のてびき』文化庁文化財部記念物課
- ホ 星野信明ほか 1996 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第 80 集 磐越自動車道関係発掘調査報告書 沖ノ羽遺跡Ⅱ(B 地区)』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団  
 細野高伯ほか 2002 『沖ノ羽遺跡発掘調査報告書』新津市教育委員会  
 細野高伯・伊比博和ほか 2012 『大沢谷内遺跡Ⅱ 第 7・9・11・12・14 次調査—一般国道 403 号小須戸田上バイパス整備工事に伴う大沢谷内遺跡第 2・4・6・7・9 次発掘調査報告書—』新潟市教育委員会  
 本田祐二 2008 「越後・佐渡(新潟県)の様相」『北陸中世のみち』第 21 回北陸中世考古学研究会資料集 北陸中世考古学研究会
- マ 前山精明 1990 『大沢遺跡—縄文時代中期前葉を主とする集落跡の調査概要—』巻町教育委員会  
 前山精明 1994a 「新谷遺跡」『巻町史』資料編 1 考古 巻町  
 前山精明 1994b 「重稲場遺跡群」『巻町史』資料編 1 考古 巻町  
 前山精明 1994c 「御井戸遺跡」『巻町史』資料編 1 考古 巻町  
 前山精明・相田泰臣 2002 『南赤坂遺跡—縄文時代前期～中期・古墳時代前期を主とする集落跡の調査—』巻町教育委員会  
 前山精明・相田泰臣 2004 『御井戸遺跡Ⅱ—2003 年度確認調査の概要—』巻町教育委員会  
 前山精明・相田泰臣 2005 『御井戸遺跡Ⅲ—2004 年度確認調査の概要—』巻町教育委員会  
 前山精明・伊比博和ほか 2010 『大沢谷内北遺跡 第 3 次調査—(仮称)国道 403 号小須戸田上バイパス整備工事に伴う大沢谷内北遺跡第 3 次発掘調査報告書—』新潟市教育委員会  
 前山精明 2013 『平成 24 年度 新潟市遺跡発掘調査速報会』新潟市文化財センター
- ヤ 山崎 天・遠藤 佐 1999 『小実山遺跡』五泉市教育委員会  
 山元孝広 2003 「東北日本、沼沢火山の形成史：噴出物層序、噴出年代及びマグマ噴出量の再検討」『地質調査研究報告』第 54 巻 第 9/10 号  
 山本信夫 2000 『大宰府市の文化財 第 49 集 大宰府条坊跡 XV—陶磁器分類編—』大宰府市教育委員会
- ヨ 横山勝栄・竹田和夫ほか 1987 『新潟県中世城跡等分布調査報告書』新潟県教育委員会  
 吉岡康暢 1994 『中世須恵器の研究』吉川弘文館  
 米沢 康 1965 「文化前代における越の史的位位置」『信濃』17-1 信濃史学会  
 米沢 康 1980 「大宝二年の越中国四郡分割をめぐって」『信濃』32-6 信濃史学会
- ワ 渡邊朋和 1991 『長沼遺跡発掘調査報告書』新津市教育委員会  
 渡邊朋和 1994 『八幡山遺跡発掘調査報告書—平成 5 年度範囲確認調査—』新津市教育委員会  
 渡邊朋和ほか 1997 『金津丘陵製鉄遺跡群発掘調査報告書Ⅱ 居村遺跡 E・A・C 地点、大入遺跡 A 地点』新津市教育委員会  
 渡邊朋和ほか 2001 『寺道上遺跡発掘調査報告書』新津市教育委員会  
 渡邊朋和ほか 2002 『中谷内遺跡発掘調査報告書Ⅱ』新津市教育委員会  
 渡邊朋和・立木宏明ほか 2001 『八幡山遺跡発掘調査報告書』新津市教育委員会  
 渡邊朋和・立木宏明ほか 2004 『八幡山遺跡郡発掘調査報告書—第 11・12・13・14 次調査—』新津市教育委員会  
 渡辺ますみ 1994 『緒立 C 遺跡発掘調査報告書』黒埼町教育委員会

別表1 細池寺道上遺跡遺構計測表

図版No.	写真 図版 No.	遺構名	グリッド	時代	確認面	主軸方位	規模 (m)				底面 座標 (m)	形態		埋土	遺物の 有無	遺物 図版 No.	備 考
							上端		下端			平面	断面				
							長軸	短軸	長軸	短軸							
8・13・14	9・10	SE12	7N-10H9, 10, 14, 15	中世	IV	N-23°-W	1.43	(0.59)	0.44	0.08	0.76	7.21	長方形	台形状	4		SE12>Pit324
8・14	10	SE46	8N-2J11, 16	中世	IV	N-75°-W	0.95	0.75	0.25	0.24	0.85	7.12	不整形	台形状	4	○ 23・25	
8・13・14・22	10	SE77	8N-3J14	中世	IV	N-10°-W	0.89	(0.49)	0.60	(0.39)	0.51	7.52	楕円形	箱形	5	○ 23	
10・15	10	SE169	8O-9D23	中世	IV	N-20°-W	1.75	(0.68)	1.20	(0.41)	1.12	7.33	楕円形	皿形	5	○	SE169>SK286
11・14	10	SE178	9O-1E1, 2, 6, 7	中世	IV	N-15°-E	(1.20)	(0.96)	0.55	0.39	1.05	7.08	楕円形	台形状	5	○ 23	SE178>Pit180
11・16	11	SE189	9O-2E15, 20	中世	IV	N-59°-W	(0.96)	(0.75)	0.71	0.70	0.90	7.25	楕円形	箱形	-	○ 23	
12・15	11	SE208	9O-6H2, 7, 8, 12	中世	IV	N-32°-W	2.33	(1.20)	0.80	0.60	1.04	7.02	円形	台形状	6	○ 23	SE208>SD293・309
9・16	11	SE262	8O-4A22, 23	中世	IV	N-30°-W	1.25	(0.89)	0.89	(0.70)	0.85	7.11	楕円形	箱形	2	○	SE262>SD256
10・16・20	11	SE263	8O-7B15 8O-7C11	中世	IV	N-45°-W	1.15	(1.02)	0.69	(0.58)	1.41	6.68	円形	台形状	3	○ 23	SE263>SD142
12・15	11	SE300	9O-6H1, 2	中世	IV	N-40°-W	1.22	(0.83)	0.65	0.60	1.06	7.05	円形	台形状	4	○ 23~25	SE300>SD293・Pit205・209
8・16	11	SK20	7N-10H20, 25 7N-10I16, 21	中世	IV	N-24°-W	1.58	(0.51)	1.30	(0.30)	0.15	7.68	不整形	皿形	1		
8・16		SK38	8N-1I23, 24	中世	IV	N-86°-E	(0.85)	0.74	(0.68)	0.45	0.20	7.71	楕円形	半円形	1	○	SK38>Pit249
8・17	12	SK49	8N-2J17, 22	中世	IV	N-29°-W	1.56	(0.34)	1.40	(0.24)	0.50	7.50	不整形	皿形	2		SK49<Pit48・58
9・13・17	9・12	SK127	8O-5A15	中世	IV	N-28°-W	(1.02)	(0.41)	(0.65)	(0.34)	0.51	7.54	長方形	台形状	7		SK127>SK128
9・17	9・12	SK128	8O-5A14, 15	中世	IV	N-16°-W	(0.73)	0.50	(0.50)	0.32	0.45	7.58	楕円形	台形状	-		SK128>SK127・Pit125
9・17	12	SK130	8O-5A20	中世	IV	N-64°-W	0.64	(0.38)	0.45	(0.38)	0.18	7.91	楕円形	半円形	1	○	SK130>Pit129
10・18	12	SK174	8O-10D20	中世	IV	N-30°-W	(0.45)	(0.40)	(0.40)	(0.35)	0.13	7.95	円形	皿形	-		SK174>SK265
11・18	12	SK186	9O-2E3, 4	中世	IV	N-25°-W	0.80	(0.30)	0.60	(0.22)	0.11	8.03	楕円形	皿形	-		SK186>SK270
12・18	12	SK200	9O-5G3, 8	中世	IV	N-33°-W	1.02	(0.50)	0.92	(0.50)	0.10	8.05	楕円形	台形状	2		SK200>SK201
12・18・21	12	SK201	9O-5G3, 8	中世	IV	N-36°-W	0.95	(0.19)	0.77	(0.15)	0.08	8.04	楕円形	台形状	-		SK201>SK200・SD199
10・18	12	SK265	8O-10D20	中世	IV	N-44°-E	(0.60)	(0.65)	(0.52)	(0.55)	0.06	8.00	楕円形	皿形	-		SK265>SK174
11・18	13	SK268	9O-1E12, 13, 17, 18	中世	IV	N-28°-W	1.89	(0.50)	1.32	(0.25)	0.36	7.84	不整形	台形状	3	○ 24	
11・18	12	SK270	9O-2E4	中世	IV	N-52°-W	(0.36)	(0.26)	0.07	0.06	0.16	8.00	方形	半円形	-		SK270>SK186
10・18	13・15	SK286	8O-9D23	中世	IV	N-69°-E	0.70	(0.65)	(0.35)	0.20	0.43	7.70	?	台形状	1		SE169>SK286>SD170
12・19・22	13	SK294	9O-6H13, 14, 18, 19	中世	IV	N-40°-W	(1.93)	(0.68)	0.78	(0.20)	0.53	7.68	楕円形	半円形	4		SK294>Pit304・305・310・311
12・13・19	10・13	SK334	9O-7H5, 10 9O-7I1, 6	中世	IV	N-50°-E	(1.10)	(0.89)	(0.78)	(0.65)	0.38	7.72	楕円形	台形状	3		
7・19	13	SD3	7N-6G17, 22, 23 7N-7G3, 8	中世	IV	N-38°-W	(1.90)	(0.75)	(1.90)	(0.70)	0.15	7.75	-	皿形	2	○	
8・13・19	9・13	SD40	8N-2I4, 5, 9, 10	中世	IV	N-58°-E	(1.08)	(1.98)	(1.09)	(1.00)	0.58	7.79	-	台形状	5		SD40>Pit41
9・13・17	13	SD117	8O-5A3, 4, 8, 9	中世	IV	N-81°-E	(1.12)	0.70	(1.12)	0.35	0.37	7.70	-	台形状	3	○ 24	SD117<Pit118
9・13・17	14	SD122	8O-5A9, 14	中世	IV	N-72°-E	(1.00)	0.68	(1.00)	0.32	0.34	7.84	-	半円形	3		SD122>SD123
9・13・17	14	SD123	8O-5A14, 15	中世	IV	N-72°-E	(0.98)	0.42	(0.98)	0.29	0.22	7.92	-	台形状	2	○	SD123>SD122
9・20	8・14	SD137	8O-6B7, 12, 13, 18, 23, 24	中世	IV	N-3°-W	(1.70) (2.25)	(0.86) (1.00)	(2.20) (2.70)	(0.24) (0.48)	0.49 7.50 7.40	-	半円形 台形状	3 4	○ 24	道路状遺構1 SD137<Pit276・280 SD137<Pit138	
9・10・20	8・14	SD142	8O-7B4, 5, 9, 10, 15	中世	IV	N-11°-W	(1.90)	0.85	(1.00)	0.11	0.67	7.34	-	半円形	3		道路状遺構1 SD142<SE263
10・21	15	SD144	8O-7C16	中世	IV	N-82°-E	(0.88)	(0.48)	(0.88)	0.14	0.27	7.81	-	台形状	2	○	
10・21	15	SD148	8O-7C22 8O-8C2	中世	IV	N-8°-E	(1.00)	0.68	(1.00)	0.41	0.14	7.98	-	皿形	2		SD148<Pit145
10・21	15	SD150	8O-8C8	中世	IV	N-59°-E	(0.52)	(0.88)	(0.52)	(0.30)	0.41	7.70	-	台形状	1		SD150>SD151
10・21	15	SD151	8O-8C8	中世	IV	N-73°-E	(0.57)	(0.58)	(0.57)	0.19	0.32	7.84	-	半円形	1	○	SD151>SD150
10・21	15	SD153	8O-8C9, 13, 14	中世	IV	N-70°-E	(0.62)	(1.19)	(0.62)	(0.84)	0.16	7.96	-	皿形	1		
10・21	15	SD154	8O-8C14, 19	中世	IV	N-54°-E	(0.58)	(0.63)	(0.58)	0.43	0.35	7.80	-	台形状	3		
10・21	15	SD158	8O-9D1, 6	中世	IV	N-70°-E	(0.68)	(1.22)	(0.68)	0.45	0.58	7.59	-	台形状	5		
10・21	15	SD162	8O-9D12, 17	中世	IV	N-65°-E	(0.70)	(1.00)	(0.70)	0.36	0.57	7.54	-	台形状	5	○ 24	
10・18	13・15	SD170	8O-9D23 8O-10D3, 4	中世	IV	N-64°-E	(0.38)	(1.60)	0.30	(0.19)	0.64	7.54	-	台形状	4	○	SD170>SK286
10・21	16	SD173	8O-10D9	中世	IV	N-79°-E	(0.80)	(0.76)	(0.80)	0.34	0.51	7.72	-	台形状	5	○	SD173>Pit172
12・21	16	SD199	9O-4G22, 23 9O-5G2, 3	中世	IV	N-9°-E	(1.10)	(0.89)	(1.10)	-	0.65	7.54	-	台形状	4		SD199>SK201
12・13・22	9・16	SD219	9O-6H25 9O-7H5 9O-7I1	中世	IV	N-21°-E	(1.20)	0.70	(1.20)	6.00	0.10	8.04	-	皿形	1		SD219<Pit320
8・13・19	16	SD237	8N-1I24 8N-2I4	中世	IV	N-65°-E	(1.19)	0.40	(1.19)	0.30	0.06	7.86	-	皿形	2		
8・13・22	9・16	SD239	8N-3J2, 3	中世	IV	N-76°-E	(1.18)	0.42	(1.18)	0.27	0.14	7.92	-	半円形	2		道路状遺構2
8・13・22	9・16	SD240	8N-3J3, 7, 8	中世	IV	N-78°-E	(1.19)	0.40	(1.19)	0.25	0.20	7.88	-	半円形	2		道路状遺構2
9・22	16	SD256	8O-4A17, 18, 23	中世	IV	N-12°-W	(1.22)	0.26	(1.22)	0.11	0.22	7.71	-	半円形	5		
10・21	17	SD272	8O-10D9, 14	中世	IV	N-65°-E	0.79	(0.62)	(0.79)	0.60	0.06	8.07	-	皿形	1		
10・21	17	SD273	8O-10D14, 15	中世	IV	N-63°-E	(0.78)	0.58	(0.78)	0.45	0.09	8.02	-	皿形	1		
12・22		SD293	9O-6H1, 6, 7	中世	IV	N-38°-W	(1.26)	(0.21)	(1.10)	(0.11)	0.11	8.02	-	台形状	-		SD293<SE208
12・22	17	SD309	9O-6H7, 8, 12, 13	中世	IV	N-6°-E	(1.39)	0.70	(1.39)	0.37	0.41	7.71	-	台形状	3	○ 24	Pit312>SD309<SE208
9・22	17	SD316	8O-4A23 8O-5A3	中世	IV	N-70°-E	(1.00)	(1.00)	(0.31)	0.18	0.55	7.47	-	台形状	4		SD316<Pit116
9	17	Pit106	8O-4A11-12	中世	IV	N-81°-W	0.48	0.46	0.28	0.24	0.54	7.47	円形	台形状	2	○ 25	Pit106<Pit104 轆の羽口
9		Pit129	8O-5A20	中世	IV	N-30°-W	0.68	0.56	0.55	0.40	0.46	7.62	楕円形	半円形	2	○	須志器無台坏・土師器長囊・中世土師器皿
11		Pit180	9O-1E7	IV	N-48°-W	0.30	0.28	0.24	0.23	0.13	7.95	円形	箱形	1	○ 25	Pit180>SE178 磁石	
12		Pit214	9O-6H25	平安	IV	N-3°-W	(0.63)	0.36	(0.57)	0.16	0.17	7.93	楕円形	台形状	2	○	Pit214>Pit313 須志器壺片
9		Pit261	8O-4A17	平安	IV	N-45°-E	(0.26)	0.25	0.20	0.17	0.34	7.50	円形	箱形	1	○	須志器有台坏片
11		Pit269	9O-1E17・18	中世	IV	N-52°-W	0.30	0.28	0.16	0.19	0.38	7.74	楕円形	台形状	3	○	中世土師器皿片
12		Pit292	9O-6H25	中世	IV	N-47°-W	0.52	0.48	0.39	0.30	0.56	7.54	楕円形	台形状	1	○	Pit292>Pit313 中世土師器皿片

別表2 細池寺道上遺跡土器・陶磁器観察表

- 凡 例 1 出土位置 遺構名・グリッド名を記した。  
 2 器 種 第V章に記した。  
 3 法 量 口径・底径・器高を示す。括弧付の数値は遺存率の低いものである。  
 4 胎 土 胎土中に含まれる鉱物・小礫等について記した。「石」は石英粒、「長」は長石粒、「雲」は金雲母あるいは黒雲母、「チ」はチャート、「白」は白色凝灰岩、「角」は角閃石、「海」は海綿骨針を表す。  
 5 色 調 『新版標準土色帖』(小山・竹原 1967)の記号を記した。  
 6 焼 成 酸化炭焼成・還元炭焼成の区別を記した。  
 7 手 法 特徴的な手法のみを記し、網羅的な記載は行っていない。底部の「ヘラ切り」は回転台を用いたものである。  
 8 遺 存 率 分数表示で遺存割合を示した。  
 9 時 期 [吉岡 1994、山本 2000]を参考に判別可能なものを記した。

図版 No.	写真図版 No.	報告書 No.	出土位置		層位	種別	器種	法量 (cm)			胎土	色調		焼成	手法			遺存率		時期	備考	
			遺構名	グリッド				口径	底径	器高		状態	含有物		胎土	釉薬	外面	内面	底部			口縁部
23	18	1	SE46	8N-2J16	2層	珠洲焼	片口鉢	(28.4)			普通	石・雲・灰 (10Y6/1)		還元	ロクロナデ	ロクロナデ洗線			2/36	III~IV期	方頭形	
23	18	2	SE77	8N-3J14	1層	珠洲焼	甕				普通	石・白灰 (7.5Y6/1)		還元	タタキ					III~IV期		
23	18	3	SE178	9O-1E7	3層	青磁	椀				精	灰白 (5Y7/1)	浅黄 (5Y7/3)			草花文						
23	18	4	SE189	9O-2E15		白磁	椀	(16.0)			精	灰白 (5Y8/1)	灰白 (7.5Y7/1)							D期	白磁椀V-4aまたはVII-1類	
23	18	5	SE208	9O-6H7	2層	珠洲焼	片口鉢				普通	石・白	浅黄 (2.5Y7/3)		還元						IV期	方頭形
23	18	6	SE208	9O-6H7	2層	珠洲焼	片口鉢				普通	石・チ	浅黄 (2.5Y7/2)		還元	ロクロナデ	ロクロナデ 鈎目7目以上				IV期	
23	18	7	SE263	8O-7C11	1層	珠洲焼	片口鉢		(11.6)		粗	石・雲・灰 (10Y5/1)		還元	ロクロナデ	ロクロナデ 鈎目9目	静止系切り		3/36	IV期		
23	18	8	SE263	8O-7C11	3層	珠洲焼	甕				普通	石・雲・灰 (10Y6/1)		還元	タタキ						IV期	
23	18	9	SE263	8O-7C11	3層	珠洲焼	甕				普通	白・雲・灰 (10Y6/1)		還元	タタキ						IV期	
23	18	10	SE300	9O-6H2	2層	青磁	椀		(4.7)		精	灰白 (N7/0)	灰オリブ (5Y6/2)				ロクロケズリ					
23	18	11	SE300	9O-6H2	2層	珠洲焼	片口鉢	(24.8)			粗	石・雲・灰 (10Y5/1)		還元	ロクロナデ	ロクロナデ 鈎目6目			6/36	IV期	嘴状方頭形	
23	18	12	SE300	9O-6H2	2層	珠洲焼	片口鉢	(32.2)			粗	石・雲・灰 (10Y6/1)		還元	ロクロナデ	ロクロナデ 鈎目11目			14/36	IV期	方頭形	
23	18	13	SE300	9O-6H2	3層	珠洲焼	片口鉢		10.0		粗	石・雲・灰 (7.5Y5/1)		還元		素文				17/36	IV期	
23	18	14	SE300	9O-6H2	2層	珠洲焼	甕				普通	石・白・灰 (10Y5/1)		還元	タタキ						IV期	
24	18	15	SE300	9O-6H2	2層	珠洲焼	甕				普通	石・白・灰 (10Y6/1)		還元	タタキ						IV期	
24	18	16	SE300	9O-6H2	2層	珠洲焼	甕				普通	石・雲・灰 (7.5Y5/1)		還元	タタキ						IV期	
24	18	17	SE300	9O-6H2	2層	珠洲焼	甕				普通	石・白・灰 (10Y5/1)		還元	タタキ						IV期	
24	18	18	SK268	9O-1E13	2層	須恵器	瓶類		(13.3)		普通	石・角・灰 (7.5Y5/1)		還元			貼付高台			7/36		
24	18	19	SD117	8O-5A4	3層	珠洲焼	片口鉢		(11.4)		粗	石・白・灰 (10Y6/1)		還元	ロクロナデ	ロクロナデ 鈎目11目	静止系切り			6/36	IV期	
24	18	20	SD137	8O-6B18	2層	中世土師器	皿	(14.0)			普通	石・雲・赤・チ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			4/36			
24	18	21	SD162	8O-9D17	3層	珠洲焼	甕				普通	石・白・灰 (7.5Y5/1)		還元	タタキ						IV期	
24	18	22	SD309	9O-6H13	2層	珠洲焼	片口鉢				粗	石・白・灰 (10Y6/1)		還元	ロクロナデ	現状鈎目3目					IV期	
24	18	23	SD309	9O-6H13	2層	珠洲焼	甕				普通	白・雲・灰 (10Y5/1)		還元	タタキ						III~IV期	
24	18	24	SD309	9O-6H13	2層	珠洲焼	甕				普通	石・白・灰 (10Y6/1)	自然釉	還元	タタキ						IV期	
24	18	25		7N-2F16	1層	珠洲焼	甕				普通	石・白・灰 (7.5Y6/1)		還元	タタキ						IV期	
24	18	26		7N-2F16	III層	珠洲焼	甕				普通	石・白・灰 (10Y6/1)		還元	タタキ						IV期	
24	18	27		8N-2I10	III層	珠洲焼	壺R種				普通	石・白・灰 (10Y6/1)		還元	波状文	ロクロナデ					IV期	
24	18	28		8N-2I10	III層	珠洲焼	甕				普通	石・白・灰 (10Y6/1)		還元	タタキ						III~IV期	
24	18	29		8O-6B7	1層	珠洲焼	甕				普通	石・白・灰 (10Y6/1)		還元	タタキ						III~IV期	
24	18	30		8O-6B12	II層	珠洲焼	甕				普通	石・白・灰 (7.5Y6/1)		還元	タタキ						III~IV期	
25	18	31		8O-7B5	II層	珠洲焼	片口鉢				精	石・雲・海	にぶい橙 (7YR6/4)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ					III期	
25	18	32		9O-2E4	II層	珠洲焼	甕				普通	石・海・灰 (10Y5/1)		還元	タタキ						IV期	
25	18	33		9O-3F18	III層	珠洲焼	甕				普通	石・白・灰 (10Y6/1)		還元	タタキ						IV期	
25	18	34		9O-3F19	II層	珠洲焼	密T種?				精	石・長・雲	灰 (5Y6/1)	自然釉	還元							
25	18	35		9O-6H12	III層	珠洲焼	甕				普通	石・雲・灰 (7.5Y5/1)		還元	タタキ						IV期	
25	18	36		9O-7I	1層	珠洲焼	甕				普通	石・白・灰 (10Y5/1)		還元	タタキ						IV期	
25	18	37			1層	珠洲焼	片口鉢		10.1	(7.1)	普通	石・白・灰黄 (2.5Y7/2)		還元	ロクロナデ	ロクロナデ・素文	ヘラ切り			9/36	IV期	
25	18	38			1層	珠洲焼	甕				普通	石・白・灰 (7.5Y6/1)		還元	タタキ						IV期	

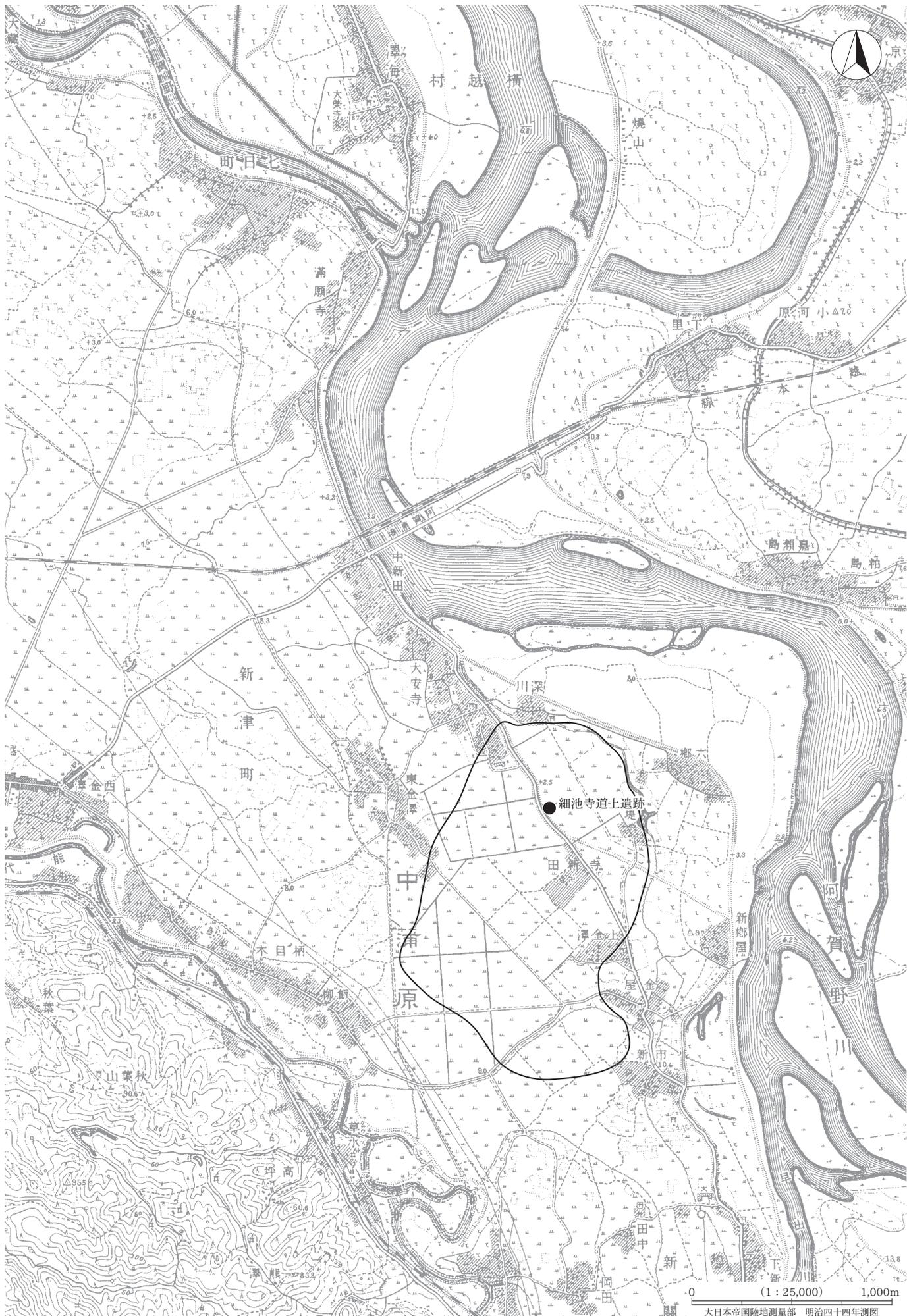
別表3 細池寺道上遺跡石製品観察表

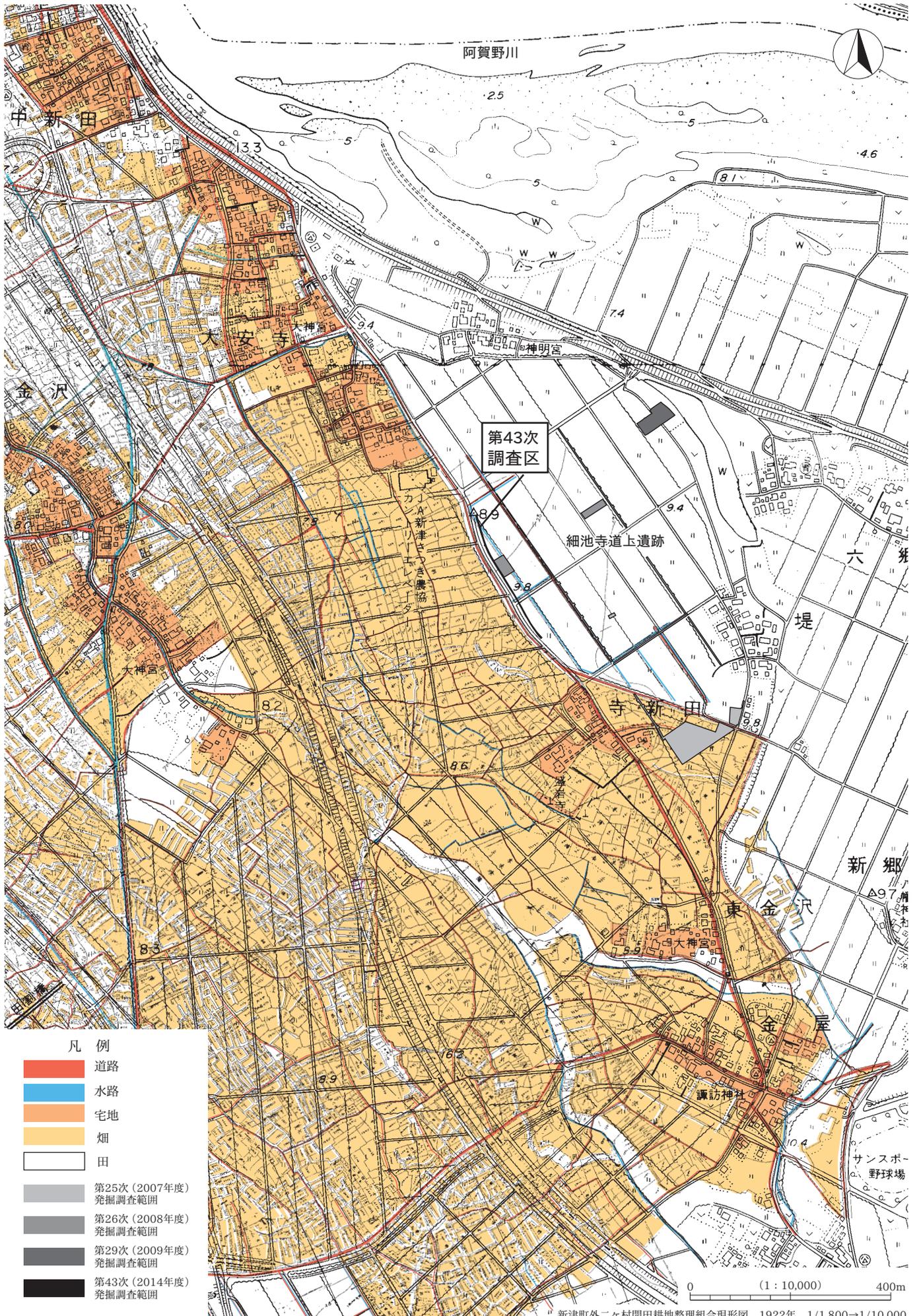
図版 No.	写真図版 No.	報告書 No.	出土位置			種別	分類	石材	法量 (mm, g)				時代	備考
			遺構	グリッド	層位				長さ	幅	厚さ	重量		
25	18	39	SE46	8N-2J16	1層	砥石	凝灰岩	126.0	66.0	28.0	227.52	中世	6面使用	
25	18	40	SE300	9O-6H1		軽石製石製品	軽石	86.0	46.0	39.0	67.48	中世		
25	18	41	P180	9O-1E7	1層	砥石	凝灰岩	(44.0)	30.0	14.0	21.67		5面使用、一部欠損	
25	18	42		7N-8H21	1層	砥石	凝灰岩	(37.0)	(33.0)	(13.0)	20.77		4面使用	
25	18	43		8N-2I10	1層	磨石	安山岩	(76.0)	(45.0)	(43.0)	158.16		1面のみ残存	

別表4 細池寺道上遺跡鍛冶関連遺物観察表

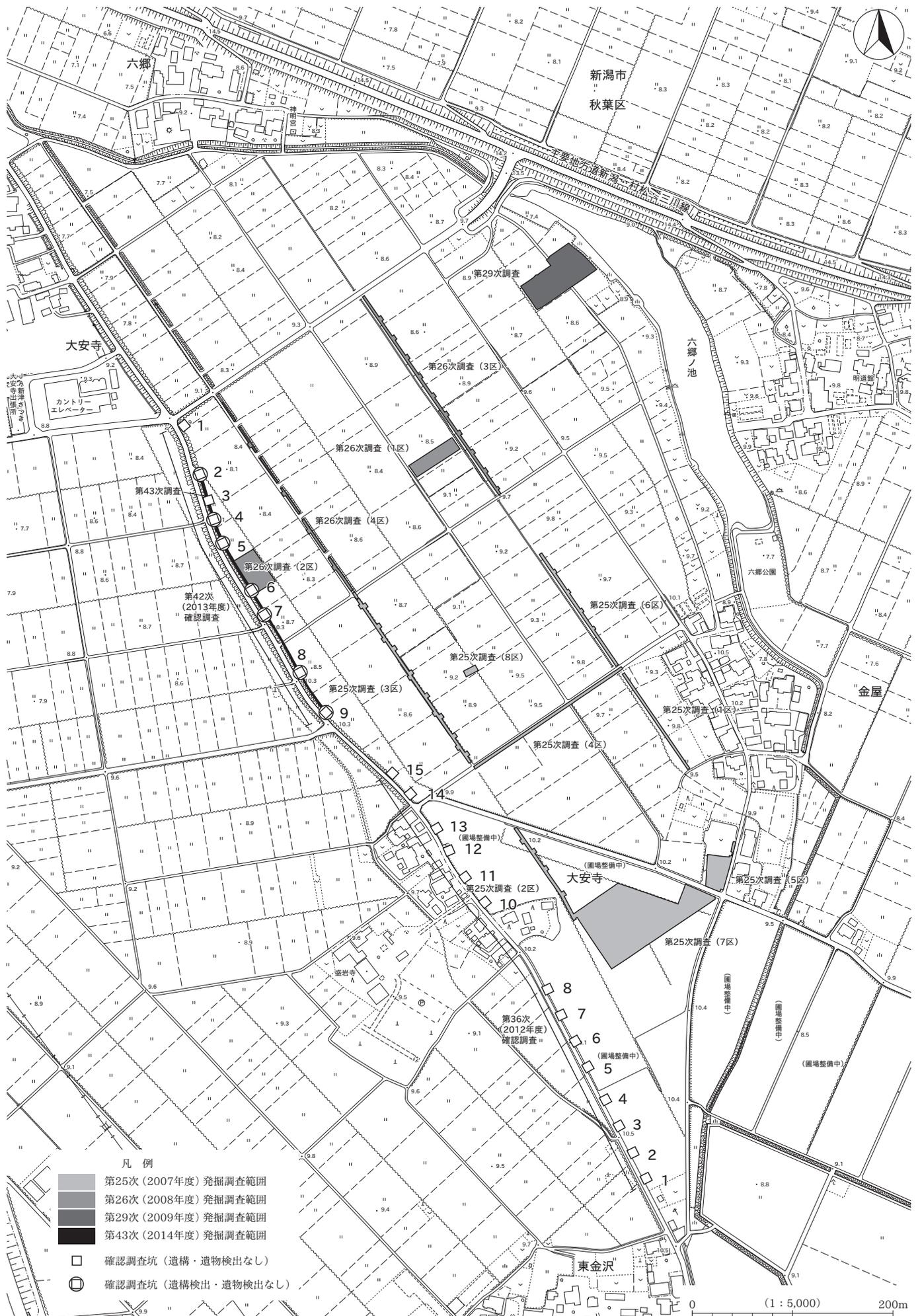
図版 No.	写真図版 No.	報告書 No.	出土位置			層位	器種	法量 (cm)				備考
			遺構名	グリッド	層位			長さ	幅	厚さ	重量 (g)	
25	18	44	P314	8O-4A11	1層	羽口	(3.5)	(1.9)	(2.2)	10.1		輪の羽口

# 圖 版





新津町外二ヶ村開田耕地整理組合現形図 1922年 1/1,800→1/10,000  
 新津町東部耕地整理組合現形図 1940年頃 1/1,800→1/10,000  
 新津市都市計画図 1995年 1/10,000



凡例

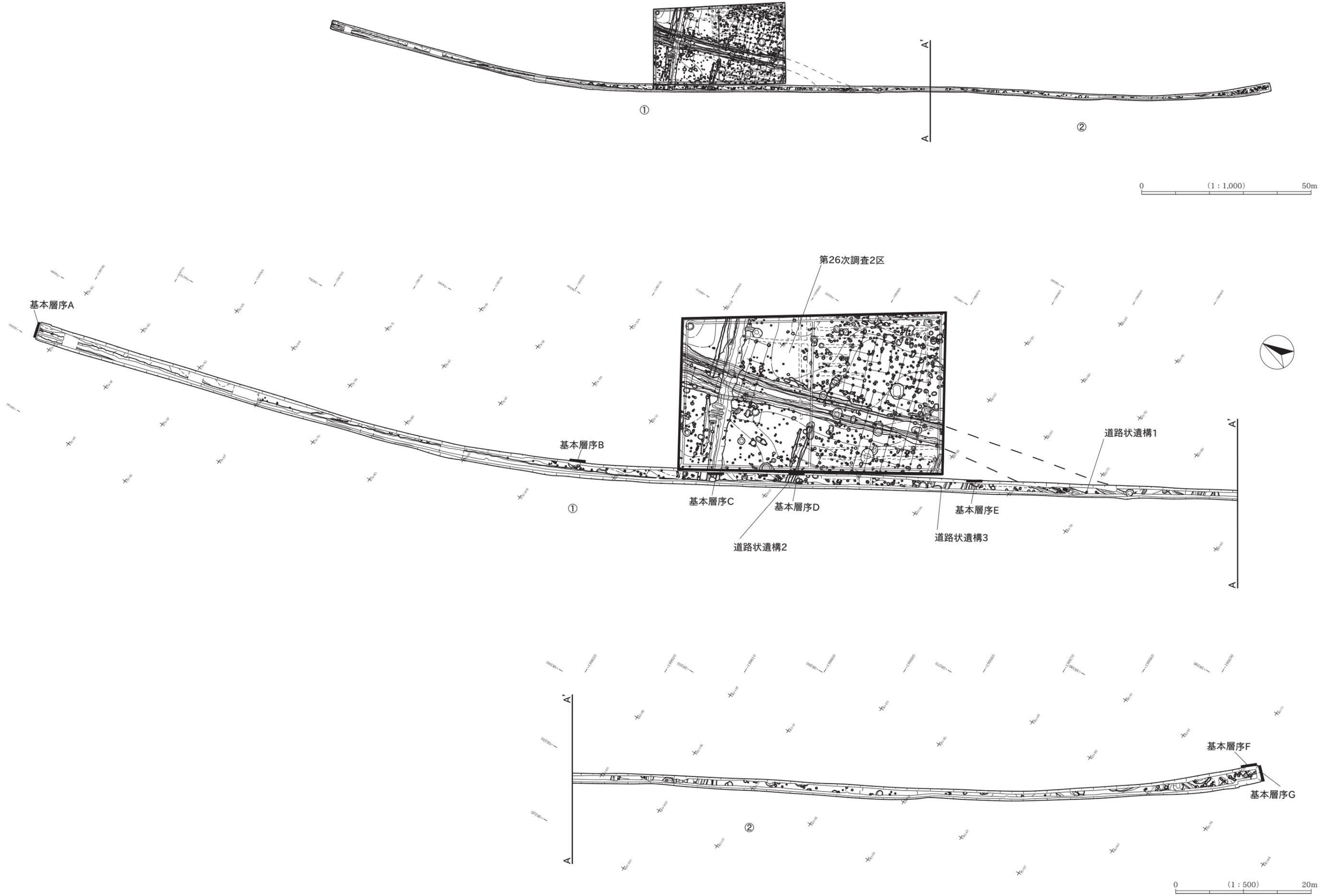
- 第25次 (2007年度) 発掘調査範囲
- 第26次 (2008年度) 発掘調査範囲
- 第29次 (2009年度) 発掘調査範囲
- 第43次 (2014年度) 発掘調査範囲

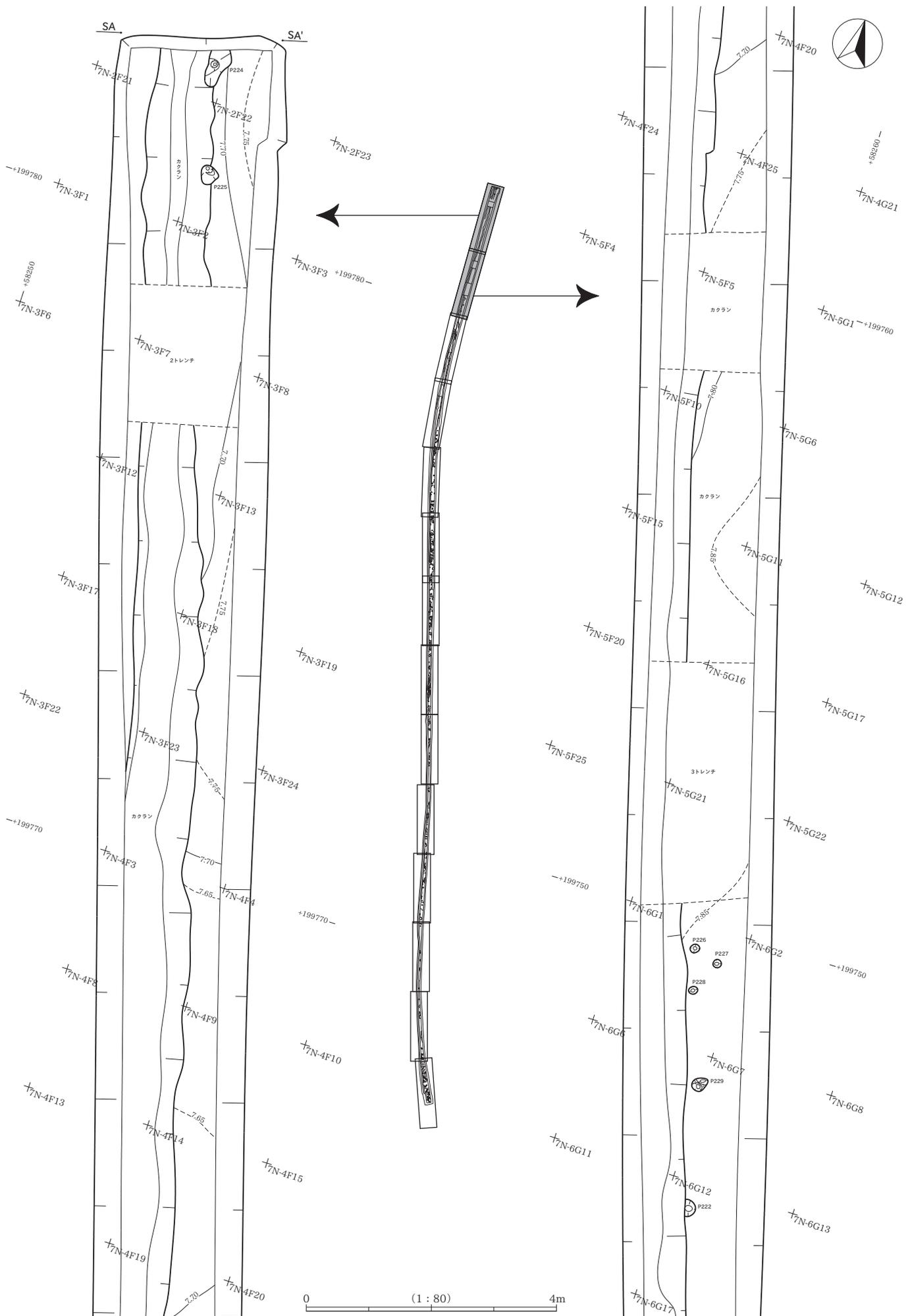
- 確認調査坑 (遺構・遺物検出なし)
- 確認調査坑 (遺構検出・遺物検出なし)

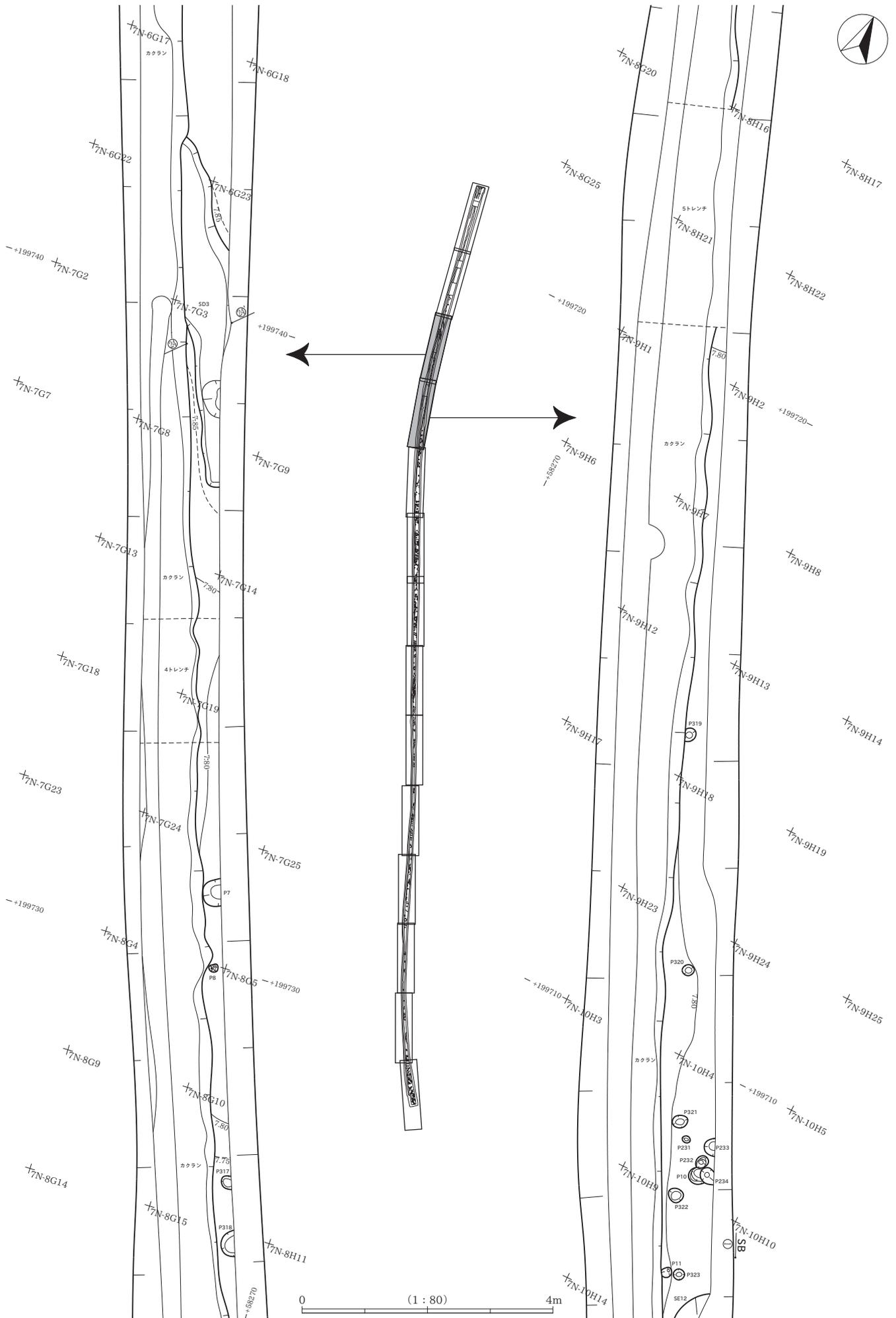
「平面直角座標値は世界測地系による。」  
 2005年発行「新潟市地形図 1:2,500」を加筆修正→1:5,000



「平面直角座標値は世界測地系による。」  
2005年発行「新潟市地形図 1:2,500」を加筆修正→1:5,000

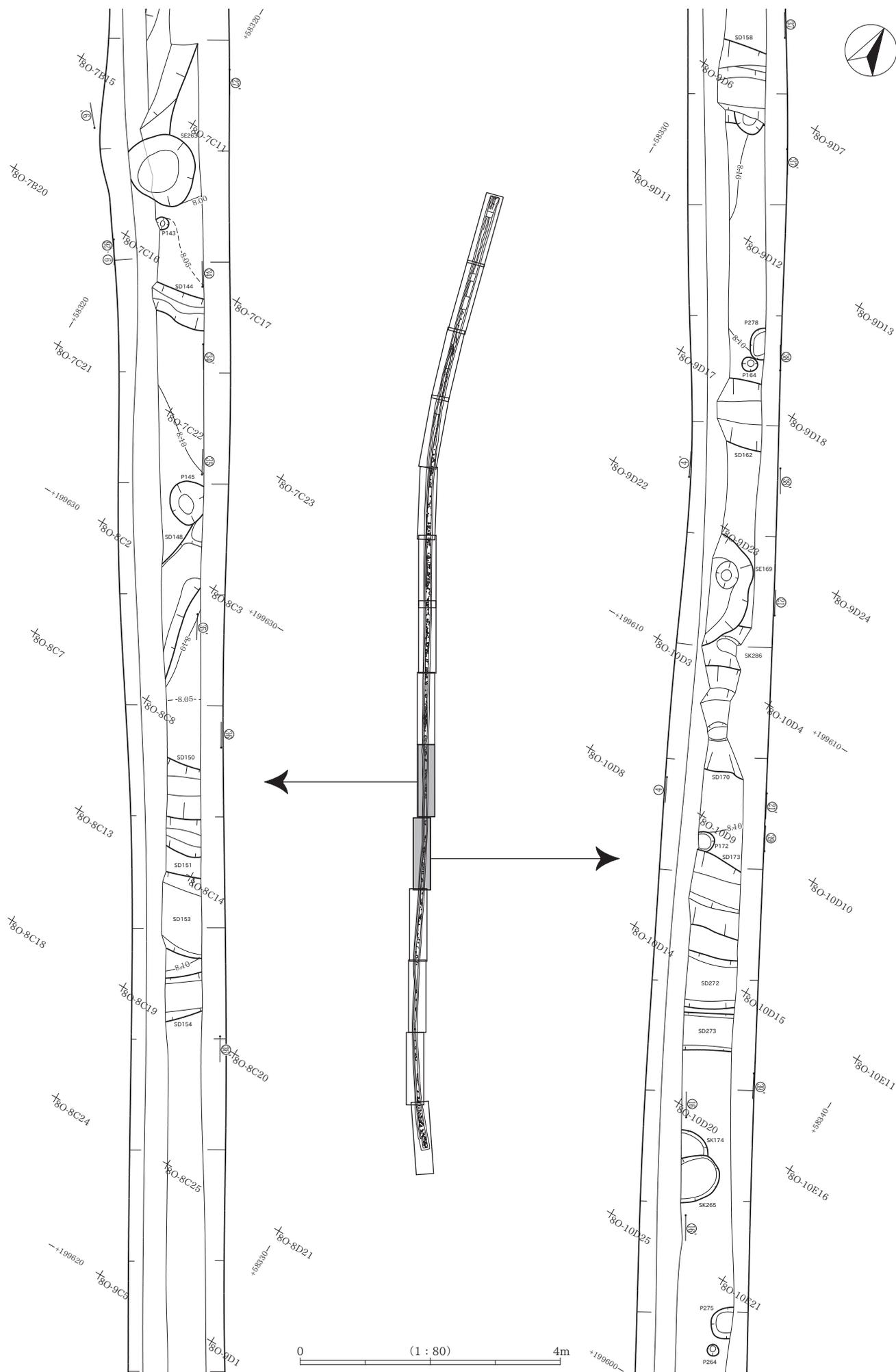




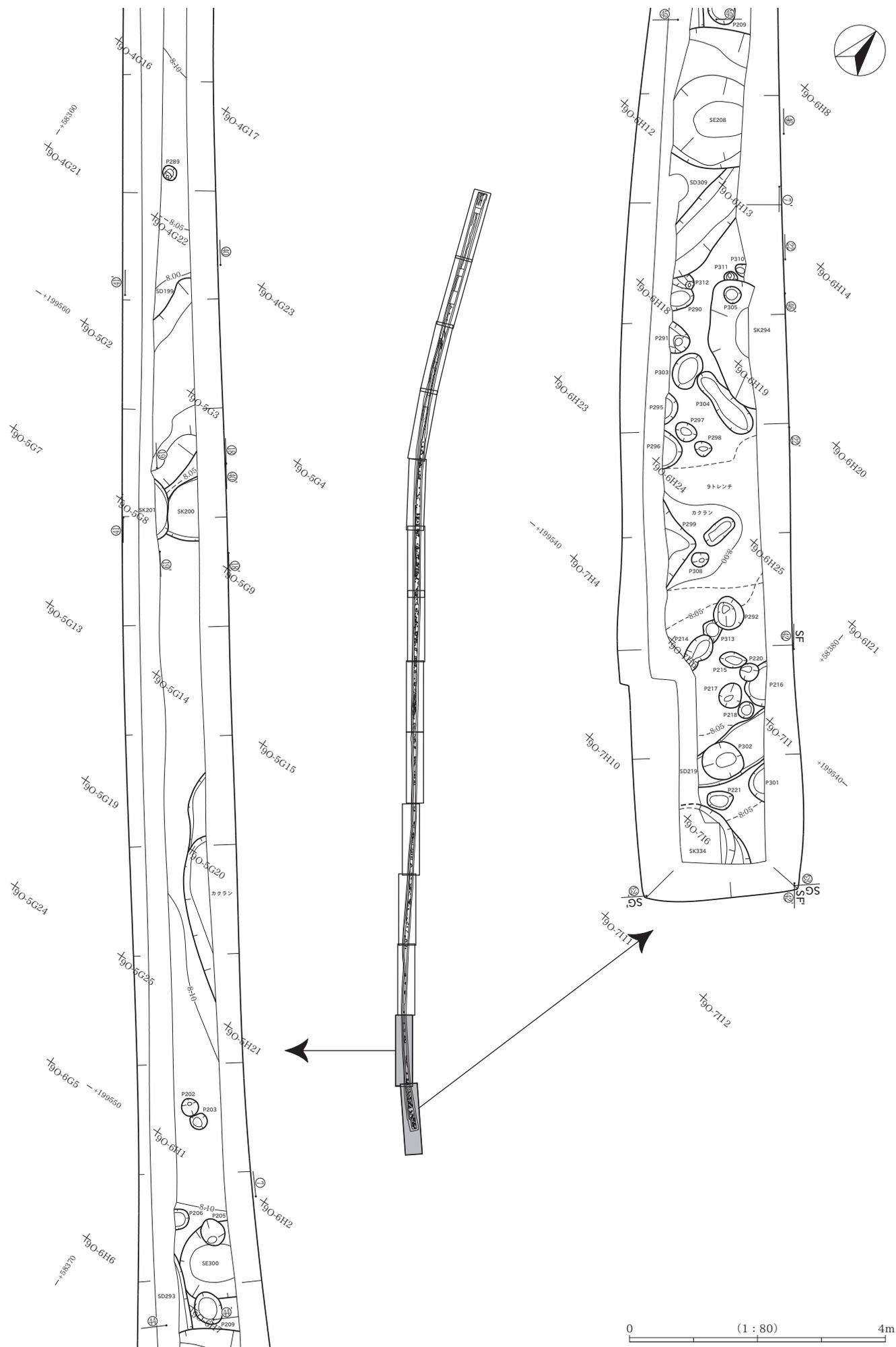




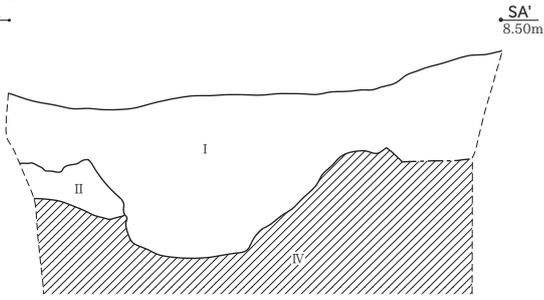




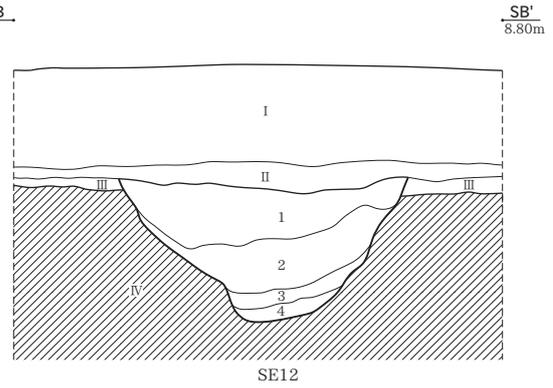




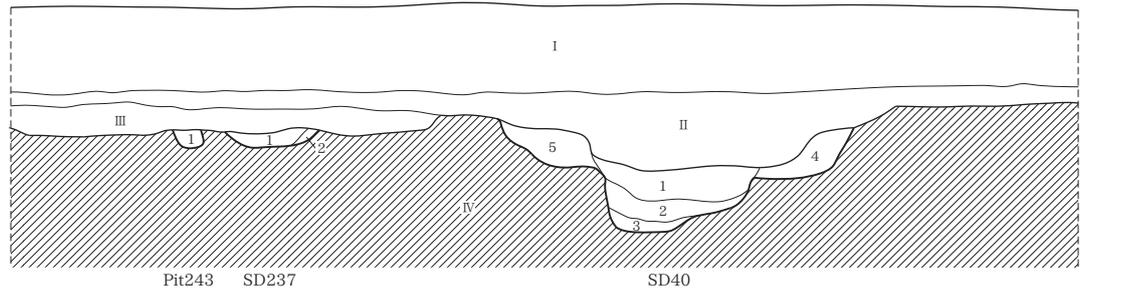
基本層序A  
SA



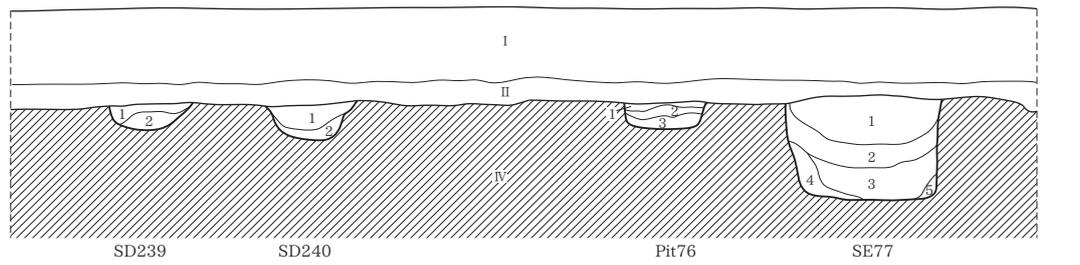
基本層序B  
SB



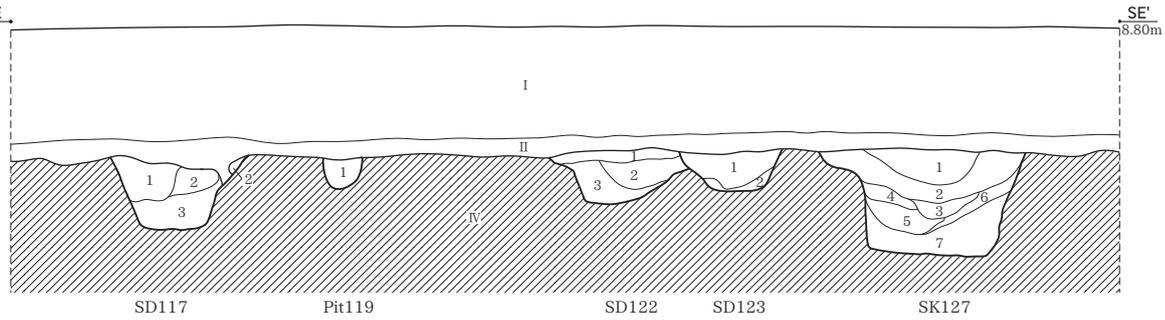
基本層序C  
SC



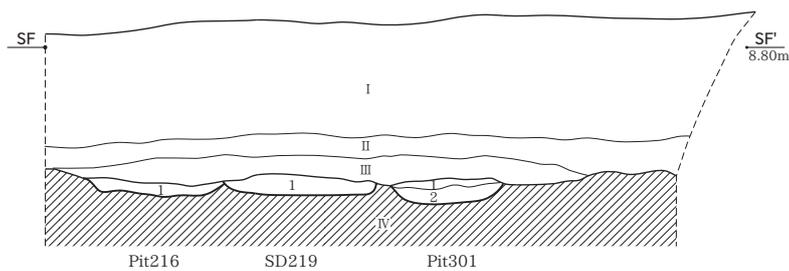
基本層序D  
SD



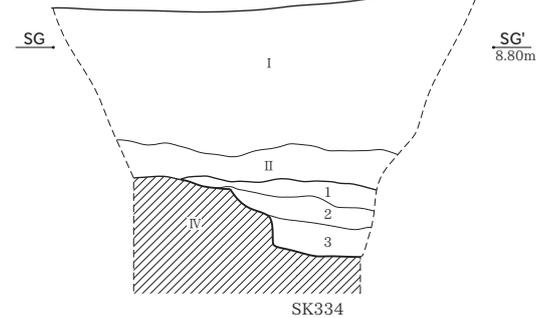
基本層序E  
SE



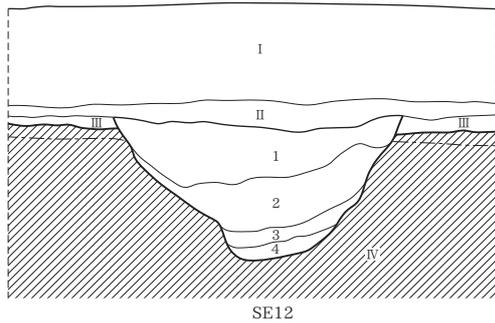
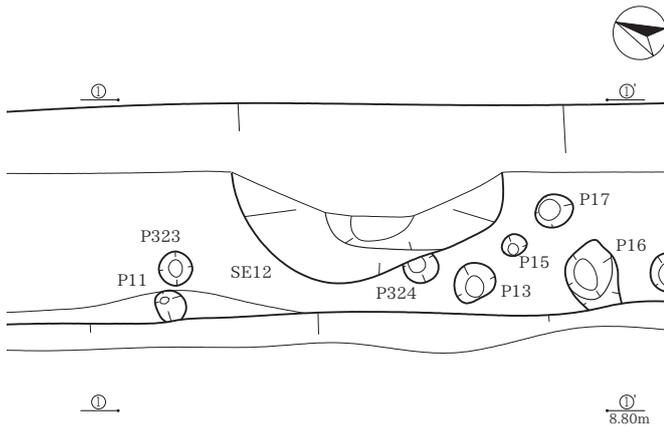
基本層序F



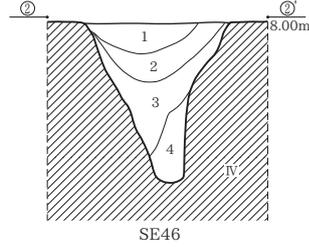
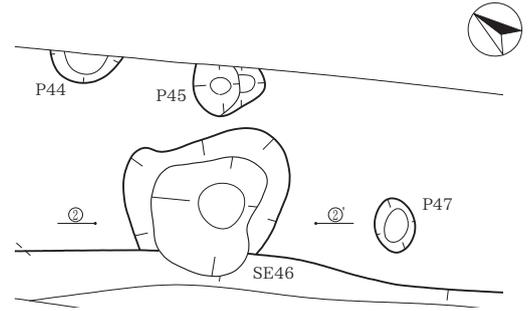
基本層序G



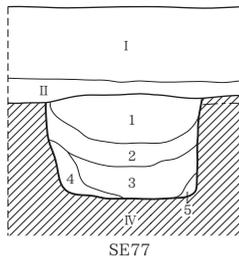
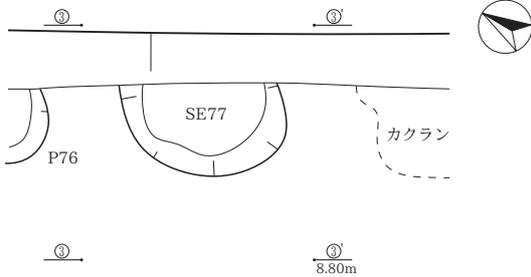
基本層序  
 I 灰黄褐色シルト (10YR4/2) しまり・粘性弱い。表土層。  
 II にぶい黄褐色シルト (10YR4/3) しまり・粘性弱い。酸化鉄を多量に含む、水田耕作土。  
 III 褐灰色シルト (10YR6/1) 灰白色粘土層。遺構確認面。  
 IV 褐灰色シルト (10YR4/1) しまり・粘性ややあり。一部にグライ化も見られる。



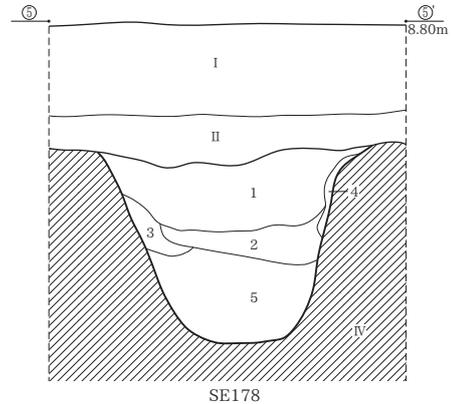
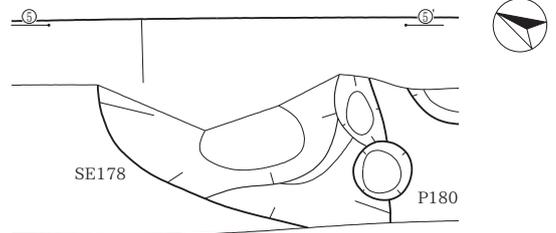
- SE12**
- 1 黒褐色シルト (10YR3/1) しまり・粘性弱い。径1cm以内の黒褐色土ブロック・黄褐色土ブロック微量含む。
  - 2 黒褐色シルト (10YR2/2) しまり・粘性弱い。径3cm以内の黄褐色土ブロック含む。
  - 3 黒褐色シルト (10YR1/3) しまり・粘性ややあり。
  - 4 黒色シルト (10YR2/1) しまり・粘性ややあり。 土壌サンプル採取。



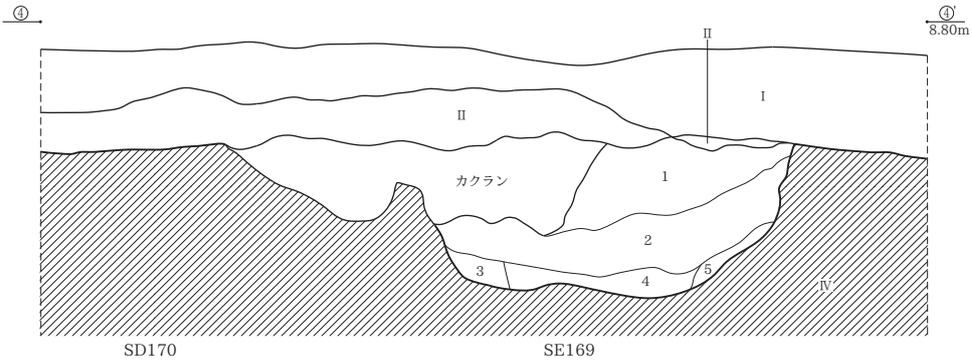
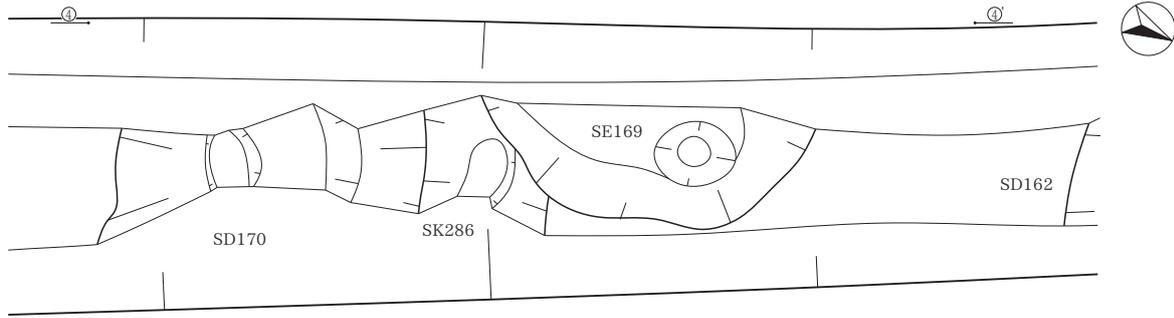
- SE46**
- 1 灰色シルト (N5/1) しまり・粘性あり。炭化物・橙褐色粒含む。
  - 2 暗灰黄色シルト (2.5Y5/2) しまり・粘性やや弱い。炭化物・黄褐色土ブロック含む。
  - 3 にぶい黄色シルト (2.5Y6/2) しまり・粘性ややあり。炭化物・黄褐色土ブロック・砂粒少量含む。
  - 4 黄灰色シルト (2.5Y4/1) しまり・粘性あり。黄褐色土ブロック・灰色粘土ブロック含む。種子。



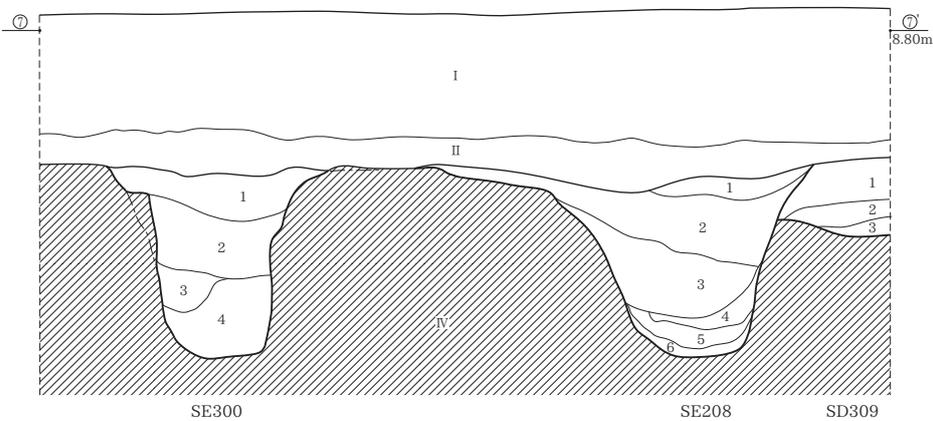
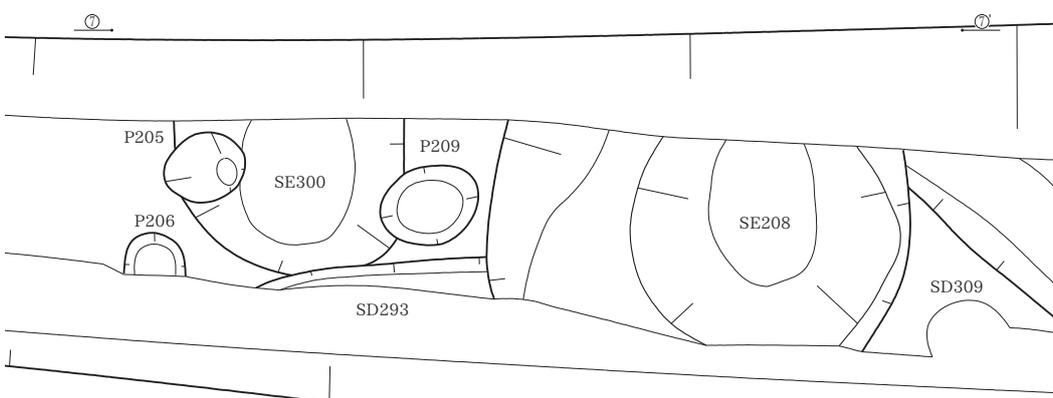
- SE77**
- 1 灰黄褐色シルト (10YR4/2) しまりややあり、粘性弱い。径3cm以内の黄褐色土ブロック少量含む。
  - 2 黒色シルト (10YR2/1) しまりやや弱い、粘性ややあり。径3cm以内の黄褐色土ブロック少量含む。
  - 3 黒褐色シルト (10YR2/2) しまり・粘性ややあり。径3cm以内の黄褐色土ブロック含む。
  - 4 黒褐色シルト (10YR3/1) しまりやや弱い、粘性あり。
  - 5 黒褐色シルト (10YR3/1) しまりやや弱い、粘性あり。



- SE178**
- 1 褐灰色シルト (10YR4/1) しまりややあり、粘性弱い。径1cm以内の黄褐色土ブロック微量含む。
  - 2 黒褐色シルト (10YR3/1) しまりややあり、粘性弱い。1cm以内の黄褐色土ブロック微量含む。
  - 3 黒褐色シルト (10YR3/1) しまり・粘性ややあり。径3cm以内の黄褐色土ブロック含む。
  - 4 褐灰色シルト (10YR2/1) しまり・粘性ややあり。
  - 5 黒色シルト (10YR2/1) しまりやや弱い、粘性あり。

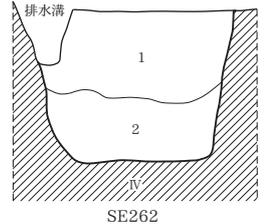
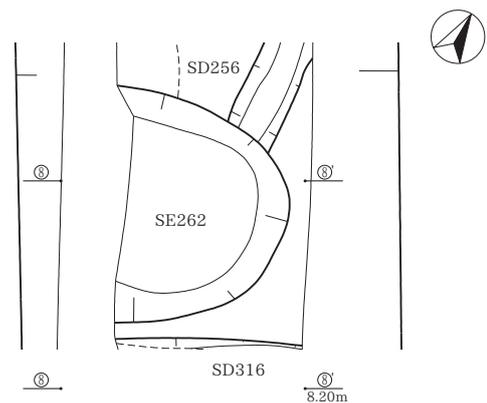
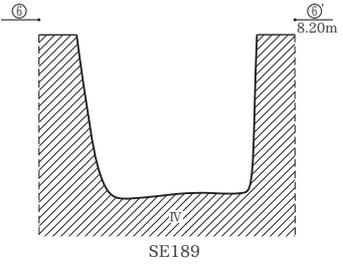
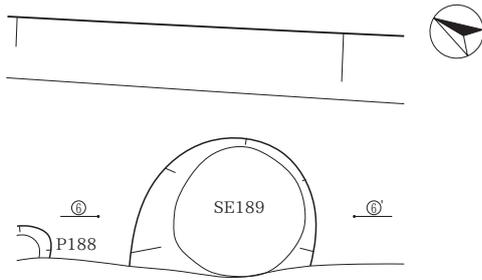


- SE169**
- 1 黒褐色シルト (10YR2/3) しまりややあり、粘性弱い、径3cm以内の黄褐色土ブロック含む。1層・2層はほぼ類似。
  - 2 黒褐色シルト (10YR2/2) しまりややあり、粘性弱い、径3cm以内の黄褐色土ブロック含む。
  - 3 黒褐色シルト (10YR3/1) しまりややあり、粘性あり。
  - 4 黒色シルト (10YR2/1) しまりややあり、粘性あり。
  - 5 黒色シルト (10YR2/1) しまり・粘性あり。

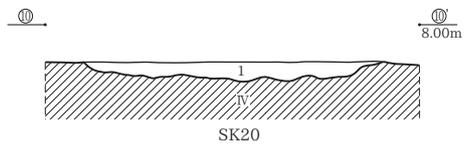
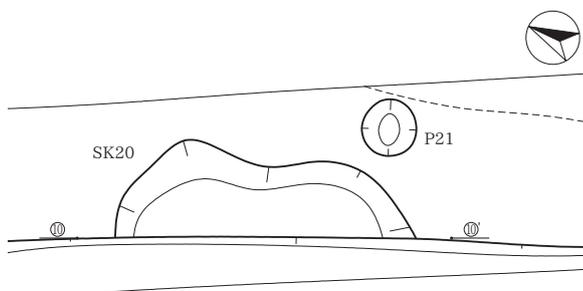


- SE300**
- 1 褐灰色シルト (10YR4/1) しまりややあり、粘性やや弱い。
  - 2 黒褐色シルト (10YR3/1) しまりやや弱い、粘性ややあり。
  - 3 褐灰色シルト (10YR4/1) しまりやや弱い、粘性あり。
  - 4 黒色シルト (10YR2/1) しまりややあり、粘性強い。種子。

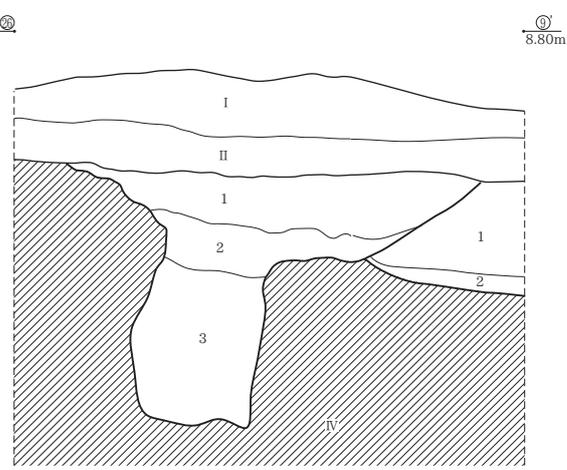
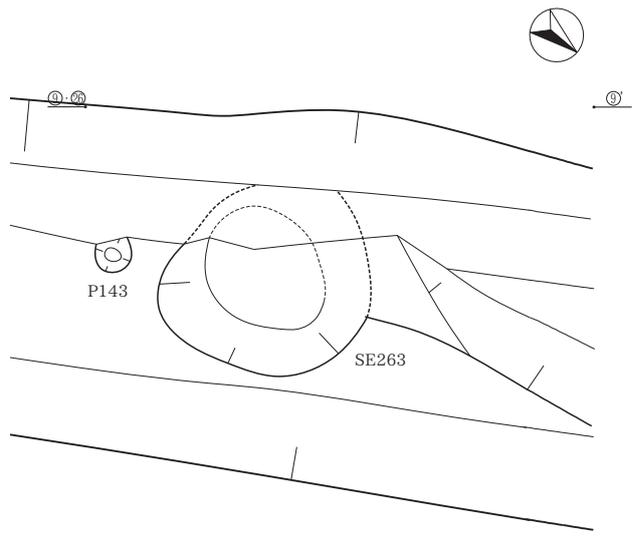
- SE208**
- 1 褐灰色シルト (10YR4/1) しまりややあり、粘性弱い。径1cm以内の黄褐色土ブロック微量含む。
  - 2 黒色シルト (10YR2/1) しまりやや弱い、粘性あり。径1cm以内の黄褐色土ブロック微量含む。
  - 3 黒褐色シルト (10YR2/2) しまりややあり、粘性あり。
  - 4 褐灰色シルト (10YR5/1) しまりやや弱い、粘性ややあり。
  - 5 黒褐色シルト (10YR3/1) しまりやや弱い、粘性ややあり。
  - 6 褐灰色シルト (10YR4/1) しまりやや弱い、粘性あり。



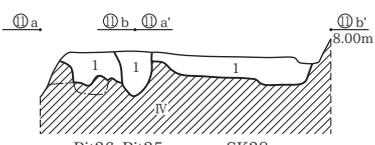
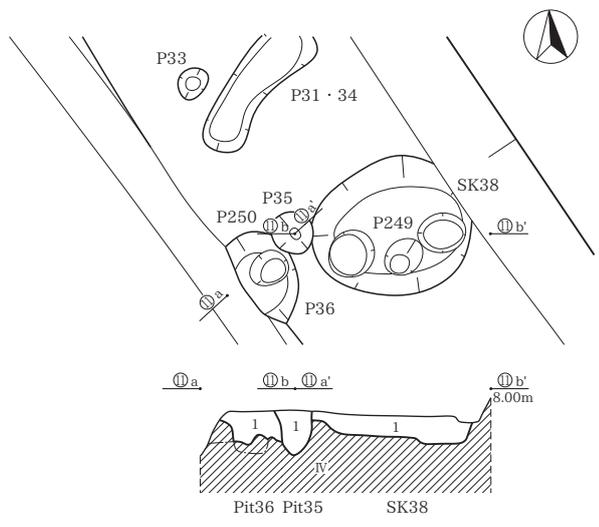
**SE262**  
 1 黒褐色シルト (10YR2/2) しまり・粘性ややあり。上部にII層含む。  
 2 灰オリブ粘土 (5Y5/2) しまりややあり、粘性あり。径3cm以内の暗褐色土ブロック含む。



**SK20**  
 1 黒褐色シルト (10YR3/1) しまり・粘性やや弱い。径5cm以内の黄褐色土ブロック・暗褐色土ブロック含む。炭化物微量含む。



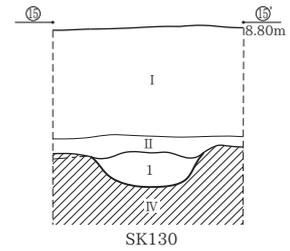
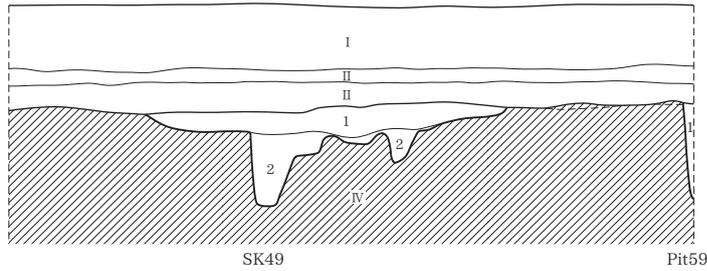
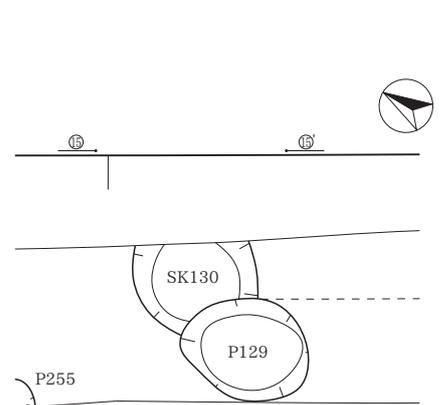
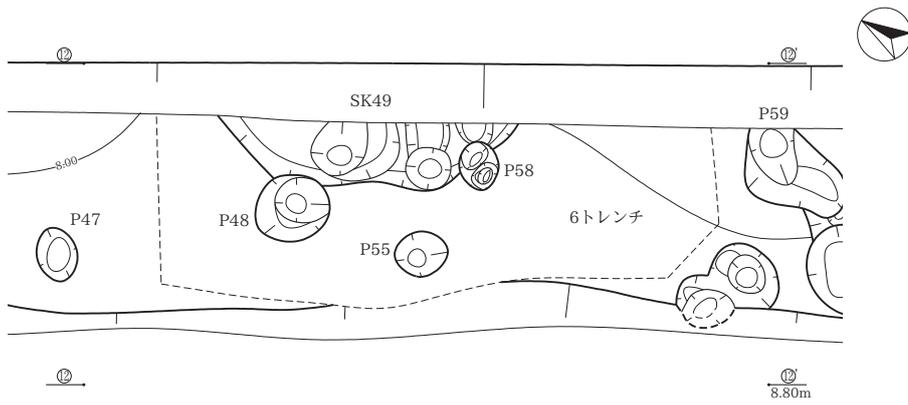
**SE263**  
 1 灰黄褐色シルト (10YR4/2) しまり・粘性ややあり。  
 2 黒褐色シルト (10YR3/2) しまりやや弱い、粘性あり。  
 3 黒色シルト (10YR2/1) しまりやや弱い、粘性強い。種子。



**SK38**  
 1 黒褐色シルト (10YR2/2) しまり・粘性ややあり。径3cm以内の黄褐色土ブロック多量含む。径1cm以内の黒色土ブロック少量含む。

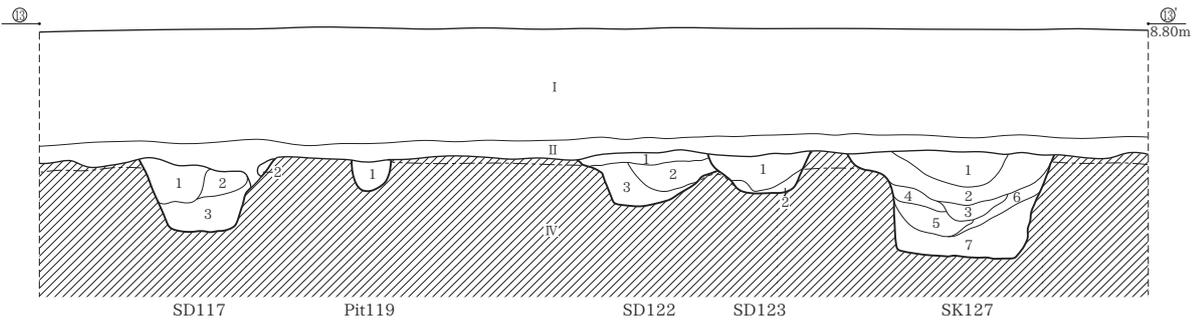
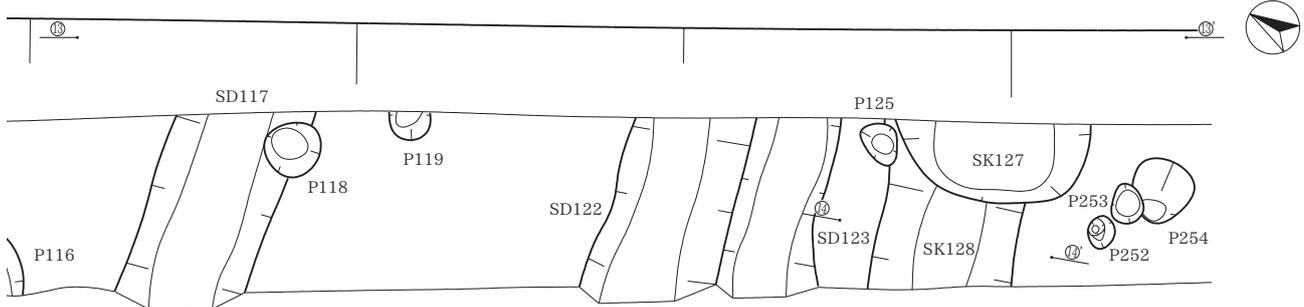
**Pit35**  
 1 黒褐色シルト (10YR3/2) しまり・粘性やや弱い。径1cm以内の黄褐色土ブロックを含む。

**Pit36**  
 1 黒褐色シルト (10YR2/2) しまり・粘性やや弱い。径3cm以内の黄褐色土ブロックを含む。



**SK49**  
 1 褐灰色シルト (10YR4/1) しまりややあり、粘性やや弱い、径5cm以内の黄褐色土ブロック少量含む。  
 2 にぶい黄褐色シルト (10YR5/3) しまり・粘性やや弱い、径3cm以内の暗褐色土ブロック含む。

**SK130**  
 1 にぶい黄褐色シルト (10YR4/3) しまり弱い、粘性ややあり。



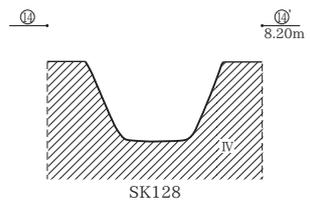
**SK127**  
 1 黒褐色シルト (10YR3/2) しまりややあり、粘性弱い、径1cm以内の黄褐色土ブロック少量含む。  
 2 褐色シルト (10YR4/4) しまり・粘性やや弱い、径1cm以内の黄褐色土ブロック少量含む。  
 3 黒褐色シルト (10YR3/2) しまりやや弱い、粘性ややあり。  
 4 黄褐色シルト (10YR5/8) しまり・粘性弱い。  
 5 灰黄褐色シルト (10YR4/2) しまりややあり、粘性弱い。  
 6 黒褐色シルト (10YR3/2) しまり・粘性弱い、径3cm以内の黄褐色土ブロック多量含む。崩落か?  
 7 暗褐色シルト (10YR3/3) しまりややあり、粘性弱い、径5cm以内の黄褐色土ブロック多量含む。崩落か?

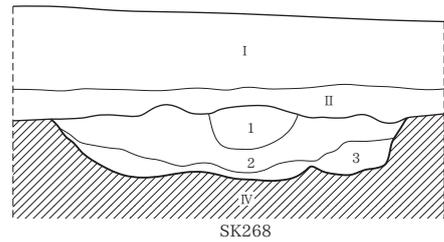
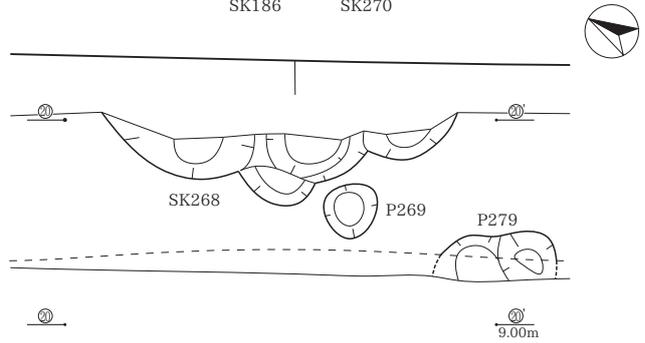
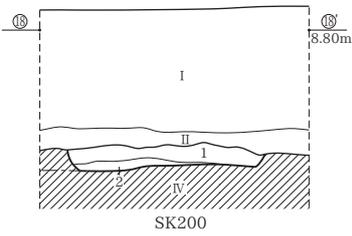
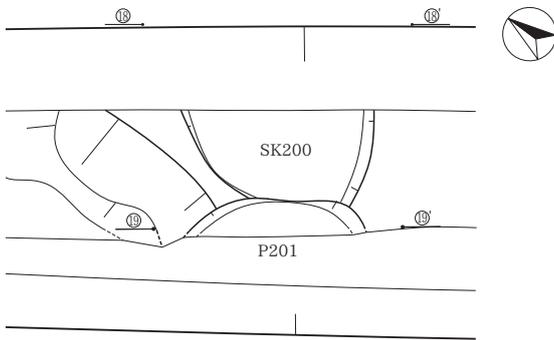
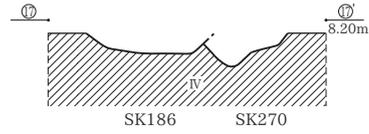
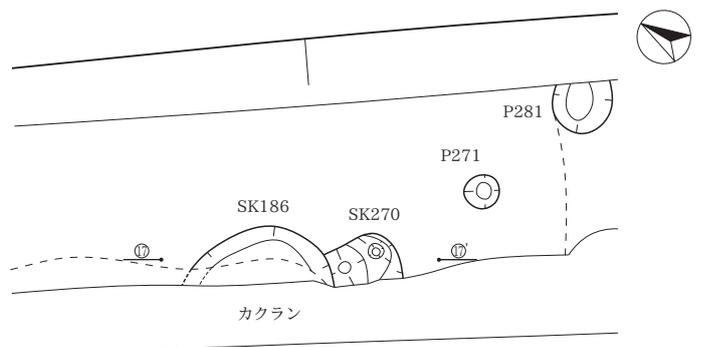
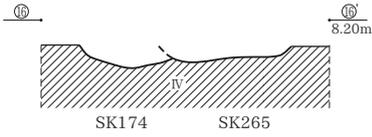
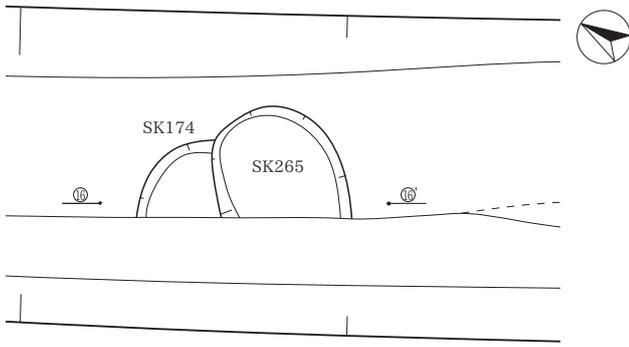
**SD117**  
 1 暗褐色シルト (10YR3/3) しまりややあり、粘性弱い、径1cm以内の黄褐色土ブロック少量含む。  
 2 暗褐色シルト (10YR3/4) しまりややあり、粘性あり、径3cm以内の暗褐色土ブロック含む。  
 3 褐色シルト (10YR4/4) しまりややあり、粘性弱い。一部暗褐色土に変色している。

**SD122**  
 1 暗褐色シルト (10YR3/3) しまりややあり、粘性弱い、径1cm以内の黄褐色土ブロック少量含む。  
 2 黒褐色シルト (10YR3/2) しまり・粘性やや弱い、径1cm以内の黄褐色土ブロック少量含む。  
 3 暗褐色シルト (10YR3/3) しまり・粘性ややあり、径1cm以内の黄褐色土ブロック多量含む。

**SD123**  
 1 黒褐色シルト (10YR3/2) しまり・粘性ややあり、径1cm以内の黄褐色土ブロック少量含む。  
 2 褐色シルト (10YR4/4) しまり・粘性やや弱い、径1cm以内の暗褐色土多量含む。

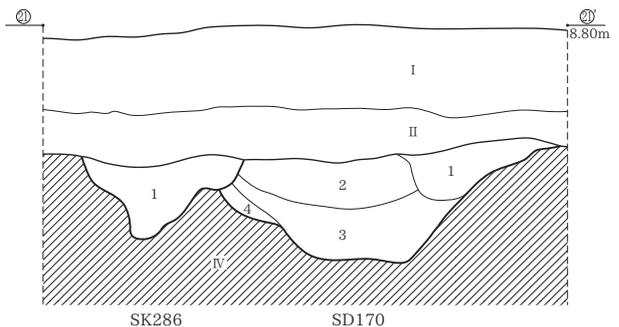
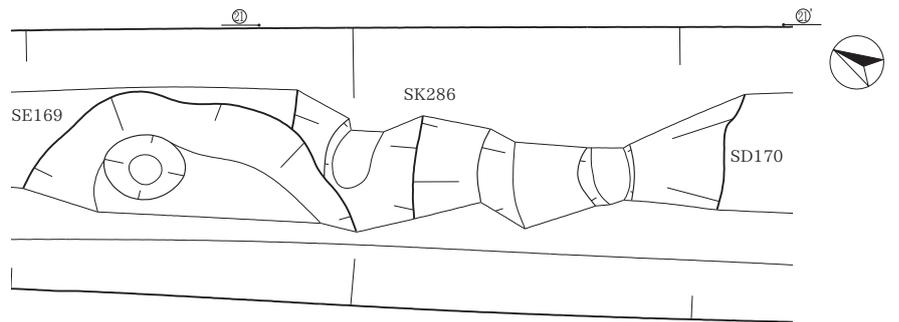
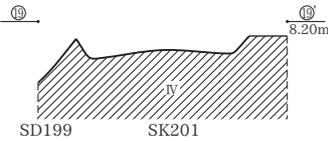
**Pit119**  
 1 黒褐色シルト (10YR3/2) しまり・粘性ややあり、径1cm以内の黄褐色土ブロックを含む。





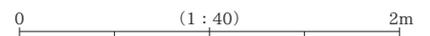
**SK200**  
 1 褐色シルト (10YR5/1) しまりややあり、粘性やや弱い。径1cm以内の黄褐色土ブロック少量含む。  
 2 にふい黄褐色シルト (10YR4/3) しまり・粘性やや弱い。径2cm以内の褐色土ブロック含む。

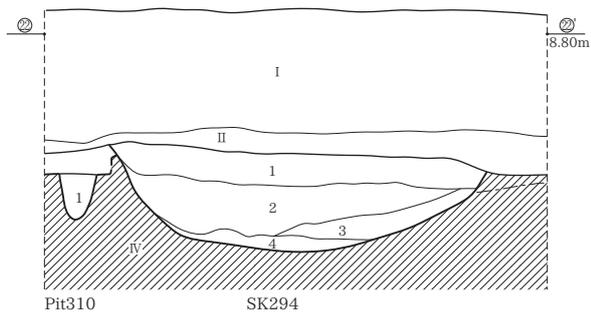
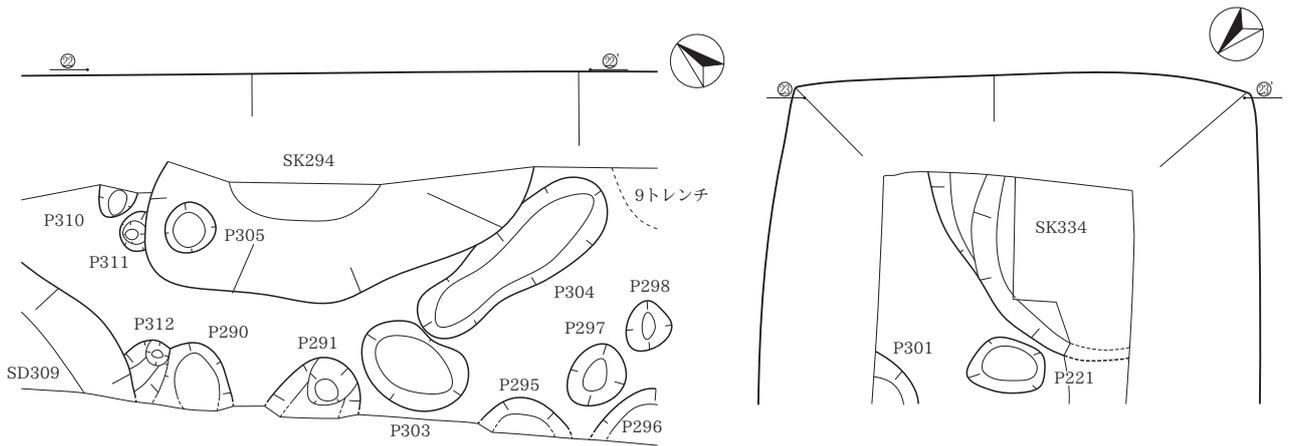
**SK268**  
 1 灰色シルト (10Y4/1) しまりややあり、粘性あり。径3cm以内の暗褐色土ブロック含む。  
 2 褐色シルト (10YR4/1) しまりややあり、粘性弱い。炭化物を微量含む。  
 3 にふい黄褐色シルト (10YR5/3) しまり・粘性弱い。径3cm以内の黒褐色土ブロック多量含む。



**SK286**  
 1 黒褐色シルト (10YR3/1) しまり・粘性ややあり。径3cm以内の黄褐色土ブロック少量含む。

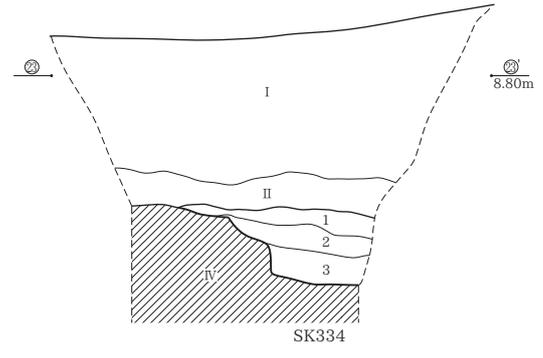
**SD170**  
 1 黒褐色シルト (10YR3/1) しまりややあり、粘性やや弱い。径1cm以内の黄褐色土ブロック微量含む。  
 2 褐色シルト (10YR4/1) しまり・粘性やや弱い。径1cm以内の黄褐色土ブロック含む。  
 3 黒色シルト (10YR2/1) しまり・粘性やや弱い。径1cm以内の黄褐色土ブロック微量含む。  
 4 灰黄褐色シルト (10YR4/2) しまりややあり、粘性やや弱い。径3cm以内の黄褐色土ブロック含む。



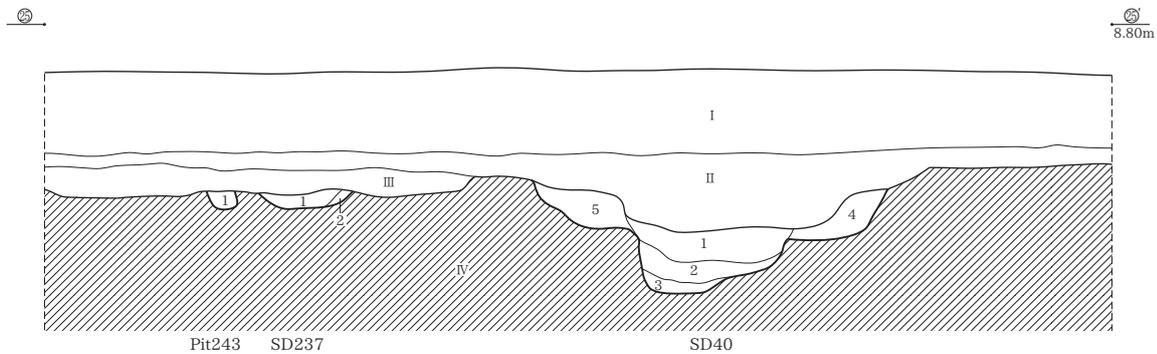


**SK294**  
 1 黒褐色シルト (10YR3/1) しまり・粘性やや弱い。  
 2 黒褐色シルト (10YR2/2) しまり・粘性やや弱い。径2cm以内の黄褐色土ブロック含む。  
 3 黒色シルト (10YR2/1) しまりやや弱い、粘性ややあり。  
 4 黒褐色シルト (10YR3/1) しまり・粘性ややあり。

**Pit310**  
 1 褐灰色シルト (10YR6/1) しまり・粘性ややあり。径3cm以内の黄褐色土ブロック含む。



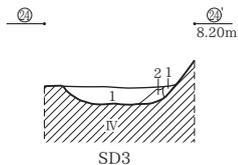
**SK334**  
 1 灰色シルト (5Y4/1) しまりややあり、粘性あり。  
 2 暗緑色シルト (10G3/1) しまり・粘性あり。径3cm以内の黄褐色土ブロック少量含む。  
 3 暗青色シルト (5BG3/1) しまりあり、粘性やや強い。



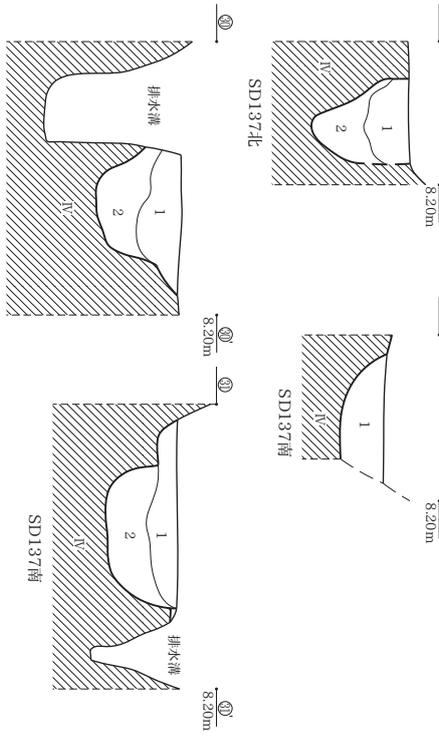
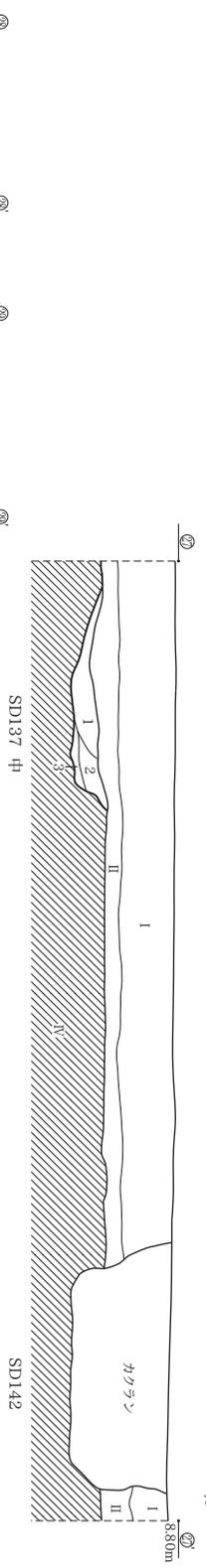
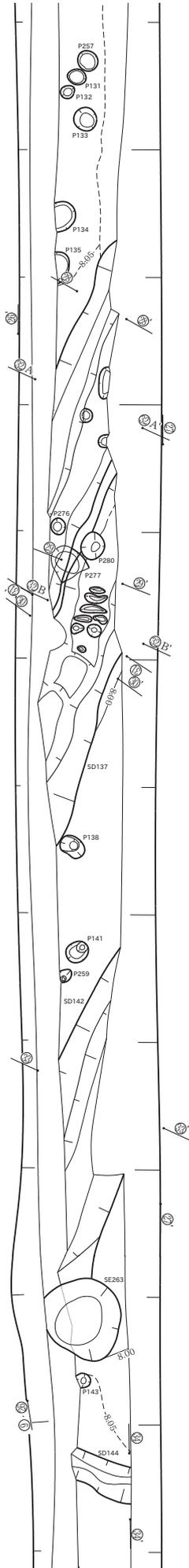
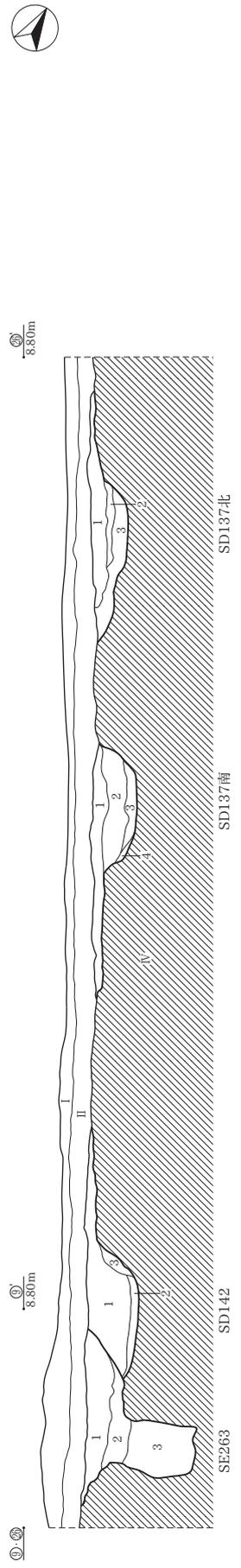
**SD237**  
 1 褐灰色シルト (10YR5/1) しまりややあり、粘性弱い。径1cm以内の黄褐色土ブロック微量含む。  
 2 灰黄褐色シルト (10YR4/2) しまり・粘性やや弱い。径1cm以内の黄褐色土ブロック含む。

**Pit243**  
 1 黒褐色シルト (10YR3/2) しまり・粘性やや弱い。径1cm以内の黄褐色土ブロック含む。

**SD40**  
 1 黒褐色シルト (10YR3/2) しまり・粘性やや弱い。径1cm以内の黄褐色土を少量含む。  
 2 黒褐色シルト (10YR3/1) しまりやや弱い、粘性ややあり。径3cm以内の黄褐色土ブロックを含む。  
 3 褐灰色粘質土 (10YR4/1) しまり・粘性あり。径3cm以内の黄褐色土を含む。  
 4 黒褐色シルト (10YR3/1) しまり・粘性弱い。径1cm以内の黄褐色土を含む。別遺構か。  
 5 黒褐色シルト (10YR3/2) しまり・粘性やや弱い。径1cm以内の黄褐色土ブロック、炭化物を含む。

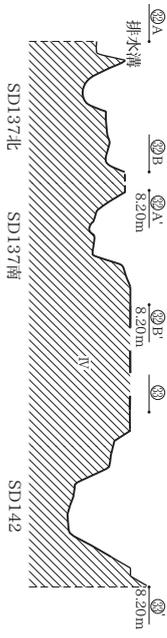


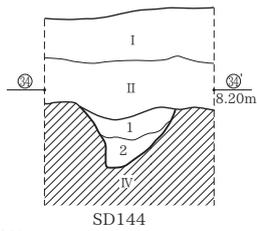
**SD3**  
 1 暗褐色シルト (10YR3/3) しまり・粘性弱い。遺物小片をわずかに含む。  
 2 褐色シルト (10YR4/4) しまり・粘性ややあり。根拠乱状の痕跡を含む。



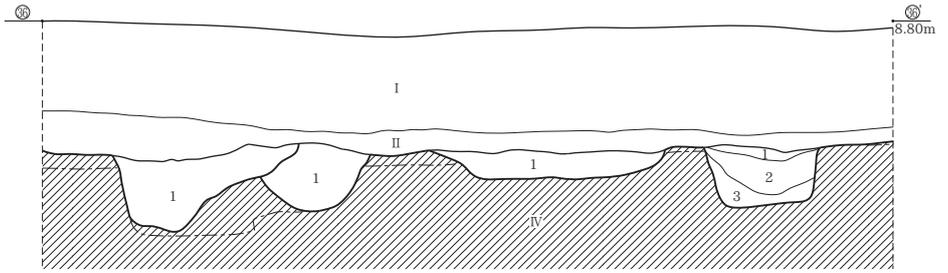
- SD137北**
- 1 前編色シルト (10YR3/4)
  - 2 黒褐色シルト (10YR2/2)
  - 3 褐色シルト (10YR4/4)
- SD137南**
- 1 前編色シルト (10YR3/4)
  - 2 2に乏しい黒褐色シルト (10YR4/3)
  - 3 黒褐色シルト (10YR2/2)
  - 4 褐色シルト (10YR4/4)
- SD142**
- 1 前編色シルト (10YR3/3)
  - 2 前編色シルト (10YR3/4)
  - 3 黒褐色シルト (10YR2/2)

道路状遺構断面模式図  
(SD137・SD142に見通し合成)



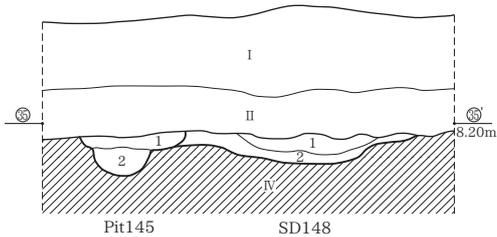


**SD144**  
 1 暗褐色シルト (10YR3/3) しまりややあり、粘性弱い、径1cm以内の黄褐色土ブロック少量含む。  
 2 黒褐色シルト (10YR3/2) しまり・粘性やや弱い、径1cm以内の黄褐色土ブロック含む。

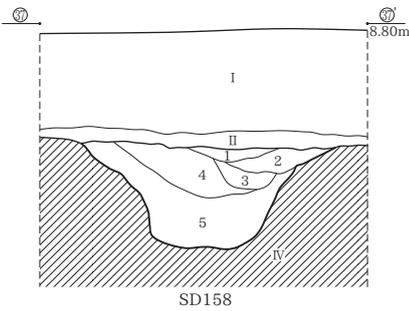
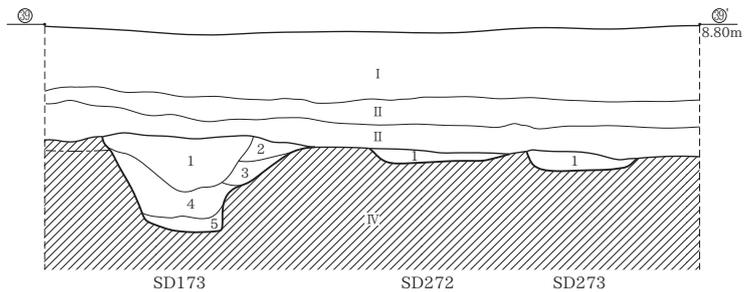


**SD150**  
 1 黒褐色シルト (10YR3/1) しまり・粘性やや弱い、径3cm以内の黄褐色土ブロック含む。  
**SD151**  
 1 暗褐色シルト (10YR3/3) しまり・粘性やや弱い、径3cm以内の黄褐色土ブロック含む。  
**SD153**  
 1 黒褐色シルト (10YR3/1) しまり・粘性やや弱い、径3cm以内の黄褐色土ブロック多量含む。

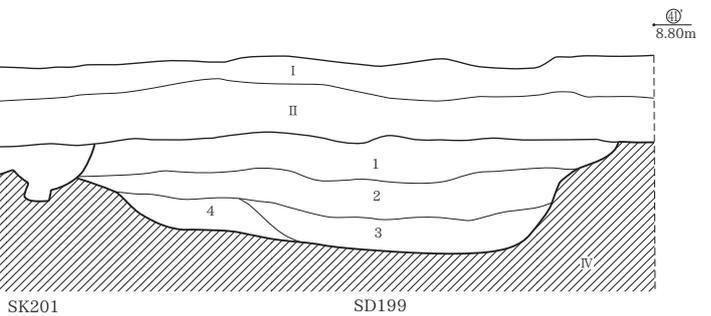
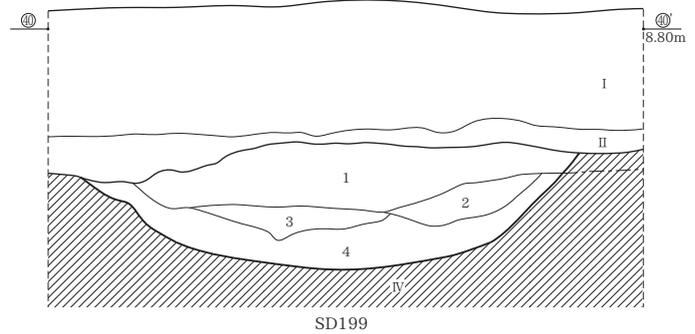
**SD154**  
 1 褐灰色シルト (10YR4/1) しまり・粘性やや弱い、径1cm以内の黄褐色土ブロック少量含む。  
 2 黒褐色シルト (10YR3/1) しまり・粘性やや弱い、径3cm以内の黄褐色土ブロック少量含む。  
 3 褐灰色シルト (10YR4/1) しまり・粘性やや弱い、径3cm以内の黄褐色土ブロック多量含む。



**SD148**  
 1 褐色シルト (10YR4/4) しまり・粘性やや弱い、径1cm以内の黄褐色土ブロックを微量含む。  
 2 にぶい黄褐色シルト (10YR4/3) しまりやや弱い、粘性ややあり、径3cm以内の黄褐色土ブロックを含む。  
**Pit145**  
 1 暗褐色シルト (10YR3/4) しまり・粘性やや弱い。  
 2 暗褐色シルト (10YR3/3) しまり・粘性やや弱い、径1cm以内の黄褐色土ブロックを少量含む。

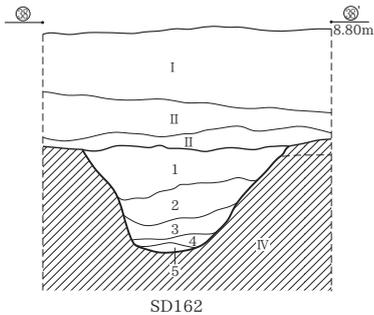


**SD158**  
 1 褐灰色シルト (10YR4/1) しまりややあり、粘性やや弱い。  
 2 褐灰色シルト (10YR6/1) しまりややあり、粘性やや弱い。  
 3 灰黄褐色シルト (10YR5/2) しまりややあり、粘性やや弱い、径3cm以内の黄褐色土ブロック少量含む。  
 4 褐灰色シルト (10YR4/1) しまりややあり、粘性やや弱い、径1cm以内の黄褐色土ブロック微量含む。  
 5 褐灰色シルト (10YR5/1) しまりややあり、粘性やや弱い、径3cm以内の褐灰色土ブロック・黄褐色土ブロック含む。



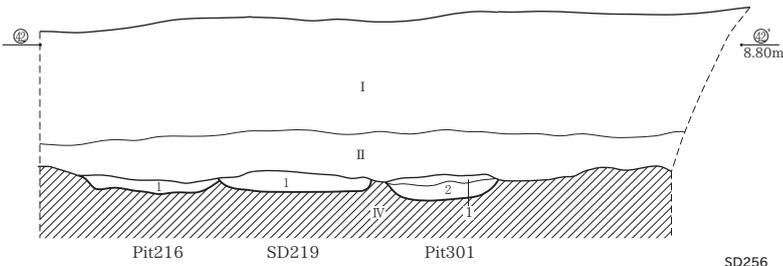
**SD173**  
 1 褐灰色シルト (10YR4/1) しまりややあり、粘性弱い、径1cm以内の黄褐色土ブロック微量含む。  
 2 灰黄褐色シルト (10YR4/2) しまりややあり、粘性弱い。  
 3 灰黄褐色シルト (10YR4/2) しまりややあり、粘性弱い、径3cm以内の黄褐色土ブロック含む。  
 4 褐色シルト (10YR4/4) しまりややあり、粘性やや弱い、径3cm以内の褐灰色土ブロック含む。  
 5 黒褐色シルト (10YR3/1) しまりやや弱い、粘性ややあり、径1cm以内の黄褐色土ブロック少量含む。

**SD272**  
 1 褐灰色シルト (10YR5/1) しまり・粘性やや弱い、径2cm以内の黄褐色土ブロック含む。  
**SD273**  
 1 灰黄褐色シルト (10YR5/2) しまりやや弱い、粘性ややあり、径2cm以内の暗褐色土ブロック含む。

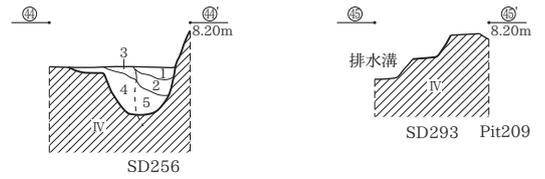


**SD162**  
 1 褐灰色シルト (10YR5/1) しまりややあり、粘性やや弱い、径3cm以内の褐灰色土ブロック・黄褐色土ブロック含む。  
 2 褐灰色シルト (10YR4/1) しまり・粘性やや弱い、径1cm以内の黄褐色土ブロック微量含む。  
 3 灰黄褐色シルト (10YR4/2) しまりややあり、粘性やや弱い、径1cm以内の黄褐色土ブロック微量含む。  
 4 灰黄褐色シルト (10YR4/2) しまり・粘性ややあり。  
 5 にぶい黄褐色シルト (10YR4/3) しまりやや弱い、粘性あり。

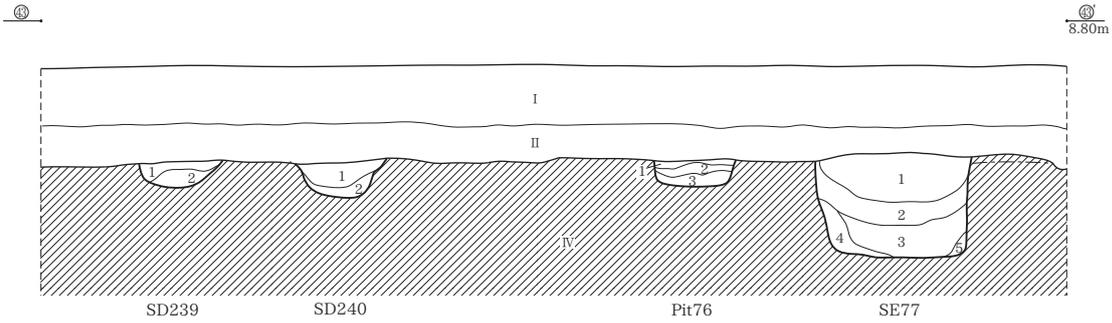
**SD199**  
 1 黒褐色シルト (10YR2/3) しまりややあり、粘性弱い、径3cm以内の黄褐色土ブロック少量含む。  
 2 褐灰色シルト (10YR4/1) しまりややあり、粘性弱い、径1cm以内の黄褐色土ブロック含む。  
 3 黒褐色シルト (10YR3/1) しまり・粘性やや弱い。  
 4 褐灰色シルト (10YR5/1) しまりややあり、粘性あり、径1cm以内の黄褐色土ブロック微量含む。



- SD219**  
 1 褐灰色シルト (10YR4/1) しまり・粘性弱い。褐灰色土ブロック多量含む。  
**Pit216**  
 1 灰黄褐色シルト (10YR4/2) しまり・粘性ややあり。径1cm以内の暗褐色土ブロック含む。  
**Pit301**  
 1 にぶい黄褐色シルト (10YR4/3) しまりややあり、粘性やや弱い。径3cm以内の黄褐色土ブロック多量含む。

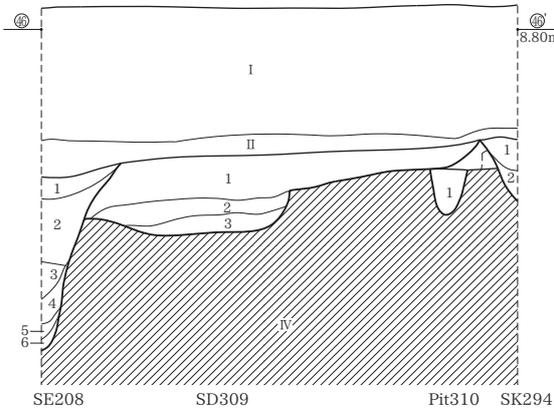


- SD256**  
 1 褐灰色シルト (10YR4/1) しまり・粘性やや弱い。径1cm以内の黄褐色土ブロック微量含む。  
 2 黒褐色シルト (10YR3/1) しまりやや弱い、粘性ややあり。径1cm以内の黄褐色土ブロック微量含む。  
 3 にぶい黄褐色シルト (10YR4/3) しまり・粘性やや弱い。径2cm以内の暗褐色土ブロック少量含む。  
 4 にぶい黄褐色シルト (10YR4/3) しまりやや弱い・粘性ややあり。径2cm以内の暗褐色土ブロック少量含む。  
 5 黒褐色シルト (10YR3/1) しまり・粘性ややあり。



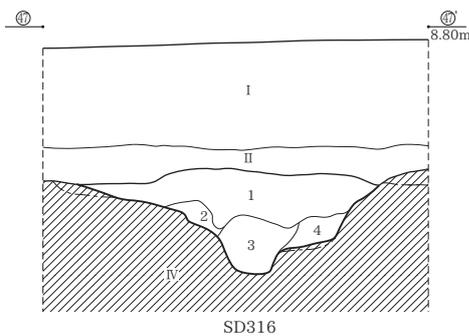
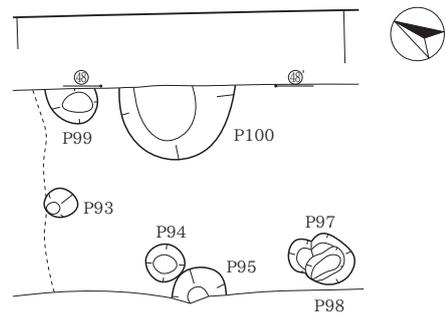
- SD239**  
 1 褐灰色シルト (10YR5/1) しまりややあり、粘性やや弱い。径1cm以内の黄褐色土ブロック微量含む。  
 2 にぶい黄褐色シルト (10YR5/3) しまり・粘性やや弱い。径3cm以内の暗褐色土ブロック含む。  
**SD240**  
 1 褐灰色シルト (10YR5/1) しまりややあり、粘性やや弱い。径2cm以内の黄褐色土ブロック微量含む。  
 2 にぶい黄褐色シルト (10YR5/3) しまり・粘性やや弱い。径3cm以内の暗褐色土ブロック含む。

- SE77**  
 1 灰黄褐色シルト (10YR4/2) しまりややあり、粘性弱い。径3cm以内の黄褐色土ブロック少量含む。  
 2 黒色シルト (10YR2/1) しまりやや弱い、粘性ややあり。径3cm以内の黄褐色土ブロック少量含む。  
 3 黒褐色シルト (10YR2/2) しまり・粘性ややあり。径3cm以内の黄褐色土ブロック含む。  
 4 黒褐色シルト (10YR3/1) しまりやや弱い、粘性あり。  
 5 黒褐色シルト (10YR3/1) しまりやや弱い、粘性あり。  
**Pit76**  
 1 褐灰色シルト (10YR5/1) しまり・粘性ややあり。  
 2 黒褐色シルト (10YR3/1) しまり・粘性ややあり。径1cm以内の炭化物を微量含む。  
 3 にぶい黄褐色シルト (10YR5/3) しまり・粘性ややあり。径3cm以内の暗褐色土ブロック含む。



- SD309**  
 1 褐灰色シルト (10YR4/1) しまりややあり、粘性やや弱い。径1cm以内の灰白色土ブロック少量含む。  
 2 黒褐色シルト (10YR3/1) しまり・粘性やや弱い。径3cm以内の灰白色土ブロック少量含む。  
 3 褐灰色シルト (10YR4/1) しまり・粘性やや弱い。

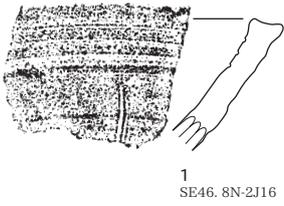
- Pit310**  
 1 褐灰色シルト (10YR6/1) しまり・粘性ややあり。径3cm以内の黄褐色土ブロック含む。



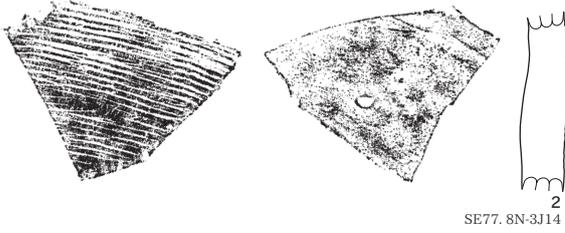
- SD316**  
 1 褐灰色シルト (10YR5/1) しまりややあり、粘性弱い。径1cm以内の黄褐色土ブロック微量含む。  
 2 灰黄褐色シルト (10YR5/2) しまり・粘性やや弱い。径3cm以内の暗褐色土ブロック含む。  
 3 褐灰色シルト (10YR4/1) しまり・粘性ややあり。径1cm以内の黄褐色土ブロック微量含む。  
 4 褐灰色シルト (10YR4/1) しまりややあり・粘性やや弱い。径1cm以内の黄褐色土ブロック微量含む。

- Pit100**  
 1 黒褐色シルト (10YR2/2) しまり弱い・粘性ややあり。径1cm以内の黄褐色土ブロック少量含む。  
 2 黒褐色シルト (10YR3/1) しまり・粘性ややあり。径1cm以内の黄褐色土ブロック多量含む。  
 3 褐灰色シルト (10YR4/1) しまり・粘性ややあり。径3cm以内の灰褐色土ブロック少量含む。

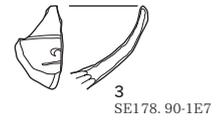
SE46 (1)



SE77 (2)



SE178 (3)



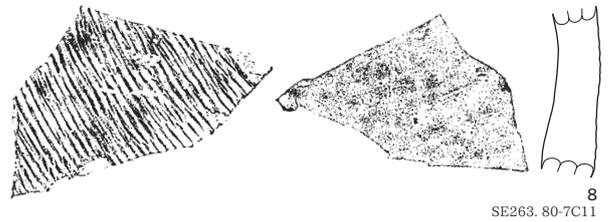
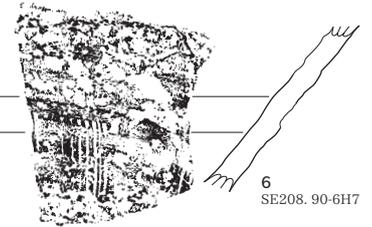
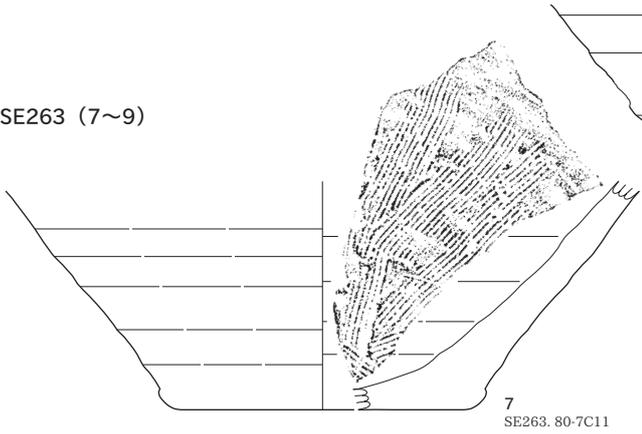
SE189 (4)



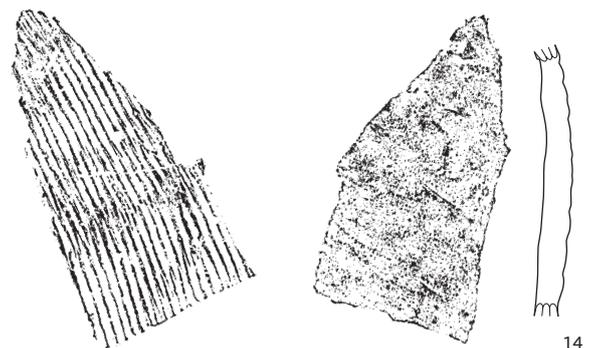
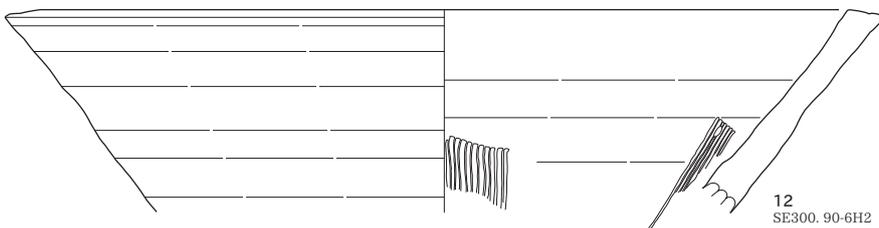
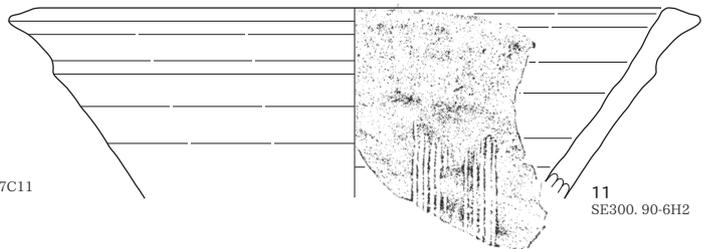
SE208 (5・6)



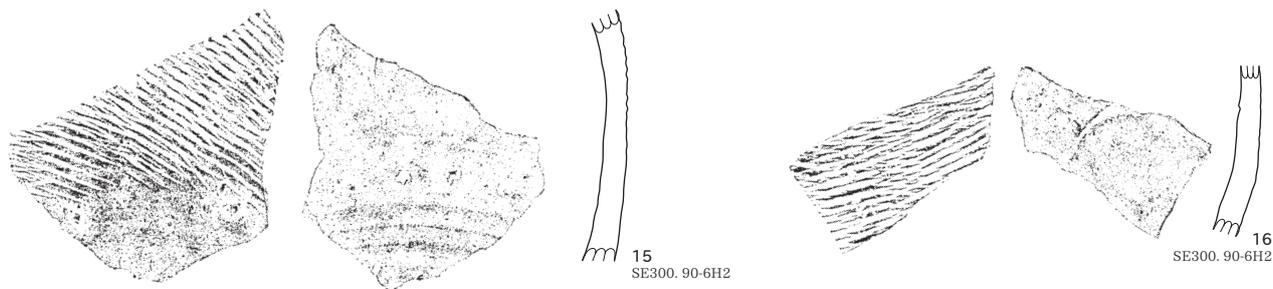
SE263 (7~9)



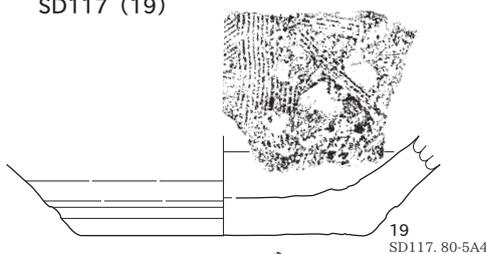
SE300 (10~14)



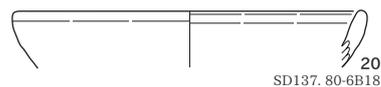
SE300 (15~17)



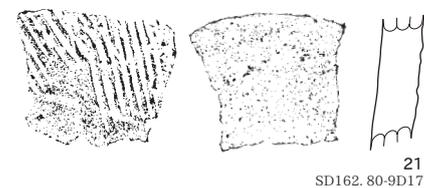
SD117 (19)



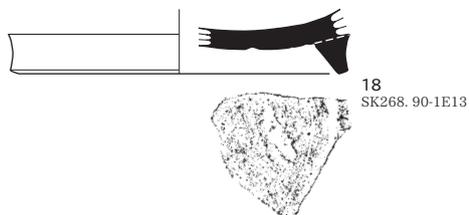
SD137 (20)



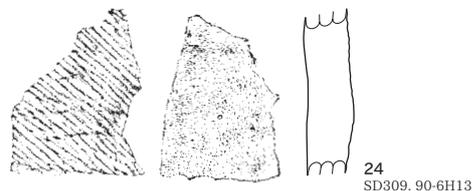
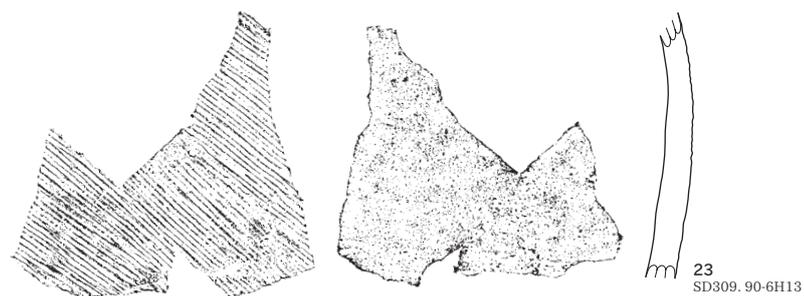
SD162 (21)



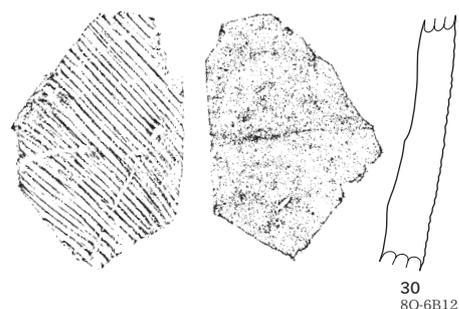
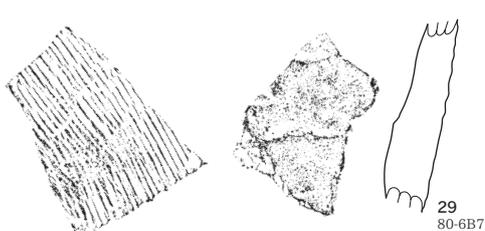
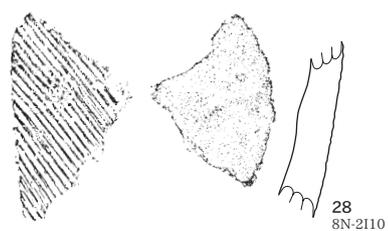
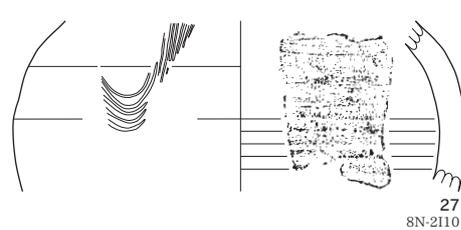
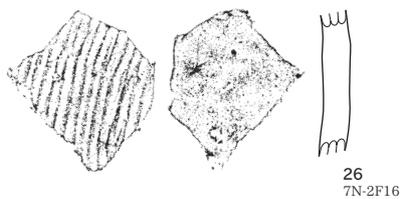
SK268 (18)



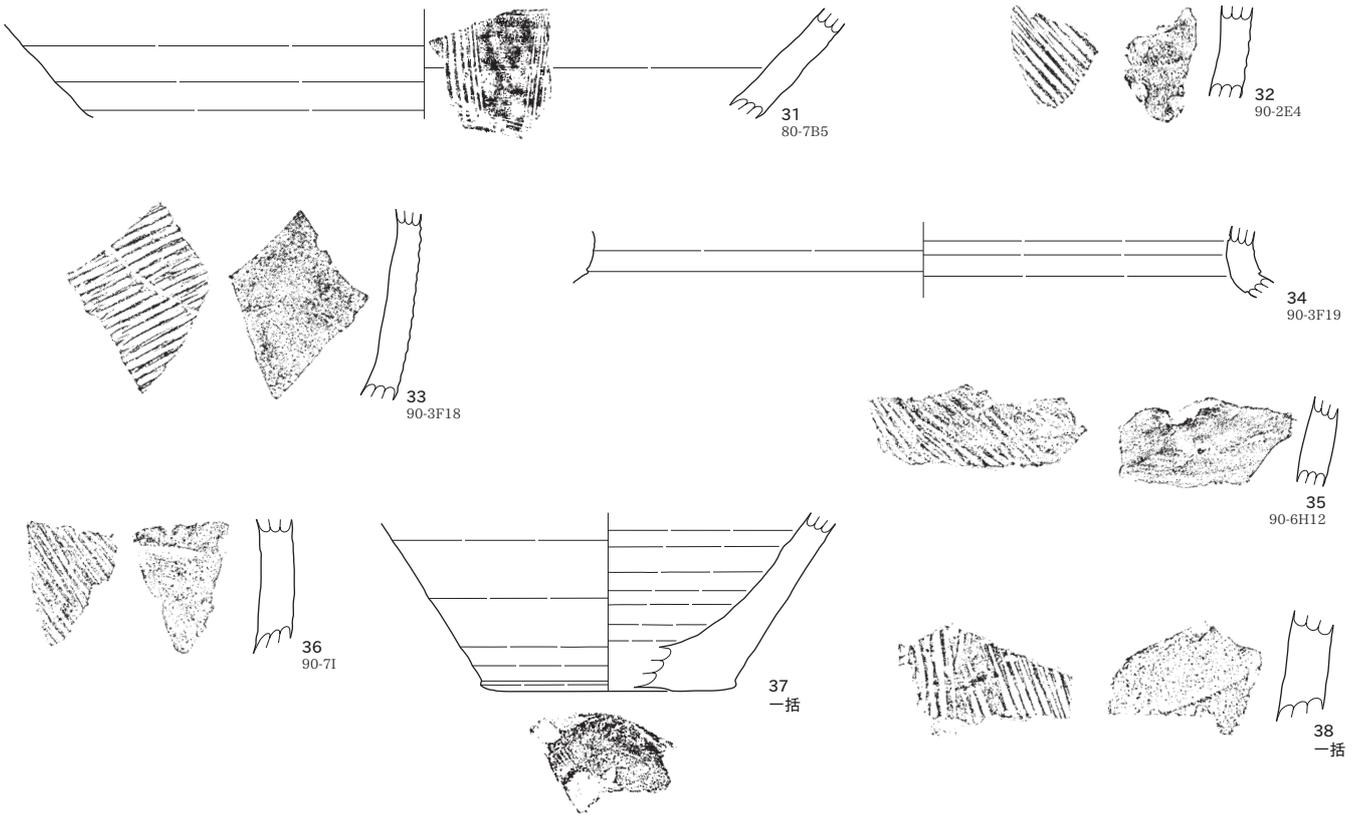
SD309 (22~24)



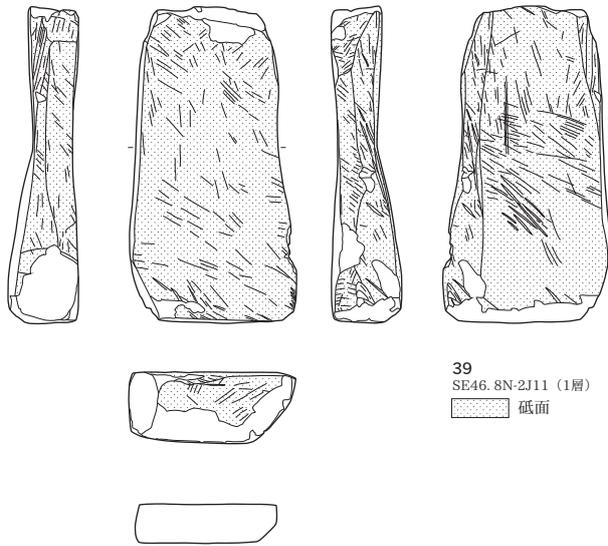
包含層 (25~30)



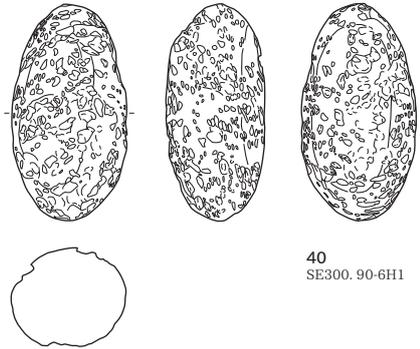
包含層 (31~38)



SE46 (39)



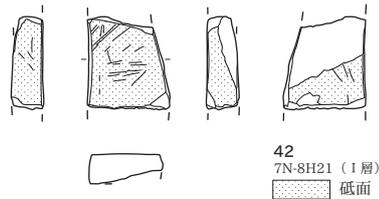
SE300 (40)



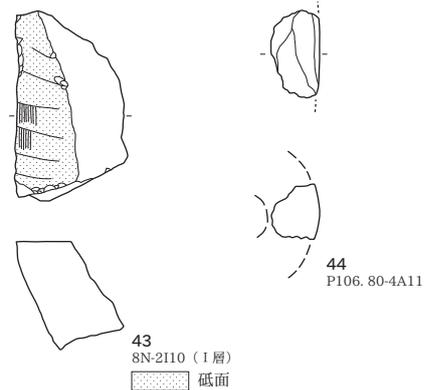
Pit180 (41)

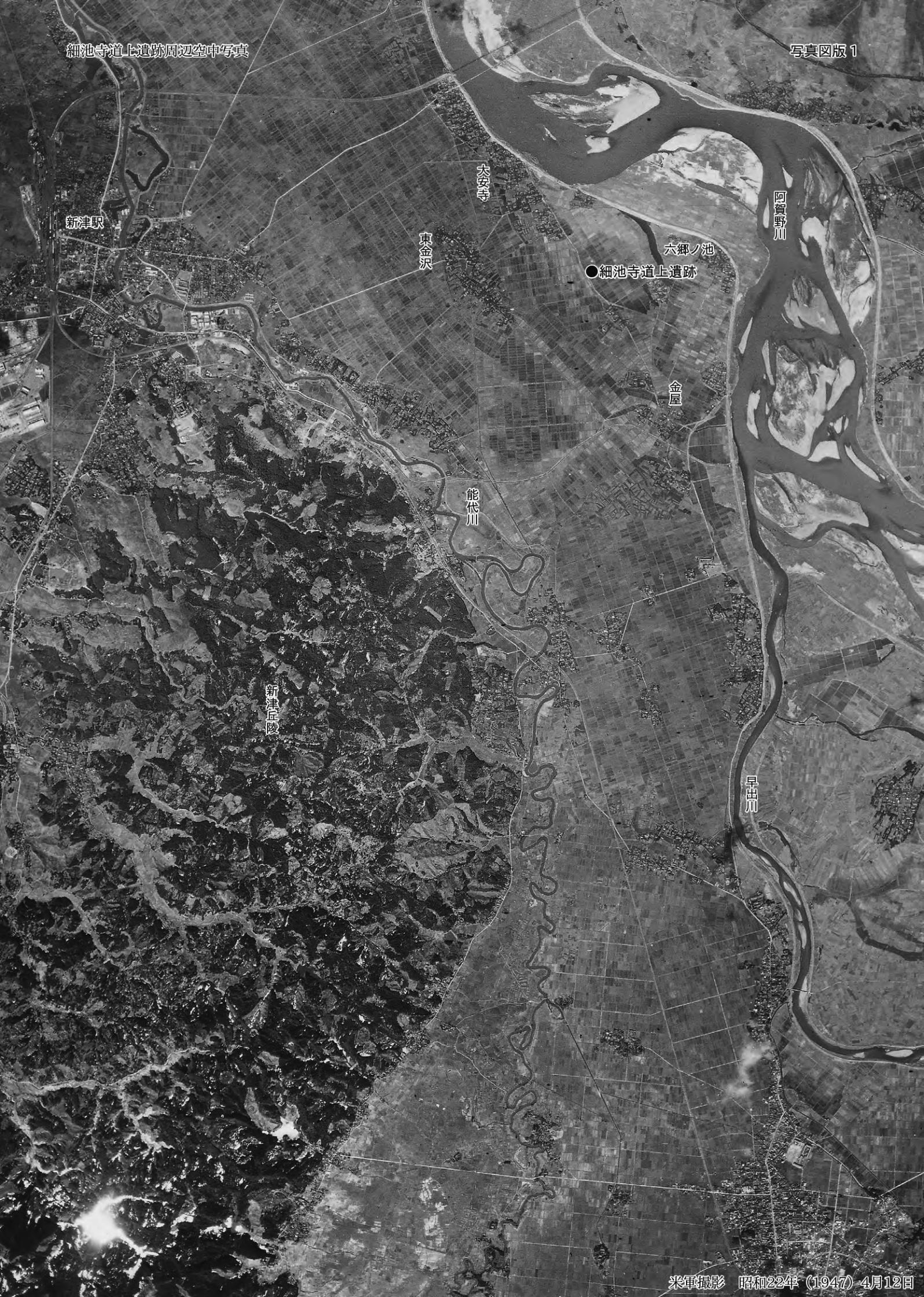


包含層 (42・43)



Pit106 (44)





新津駅

大生寺

東金沢

金郷ノ池

●細池寺道上遺跡

阿賀野川

金屋

能代川

新津塚

早川



調査区周辺空中写真(北→南)



調査区遠景空中写真(南東→北西)



調査区遠景空中写真(北東→南西)



調査区遠景空中写真(北西→南東)



調査区中央 (北→南)



調査区全景 (南東→北西)



調査区南端 (北東→南西)



調査区全景 (北西→南東)



調査区全景 (南東→北西)



調査区中央 (北西→南東)



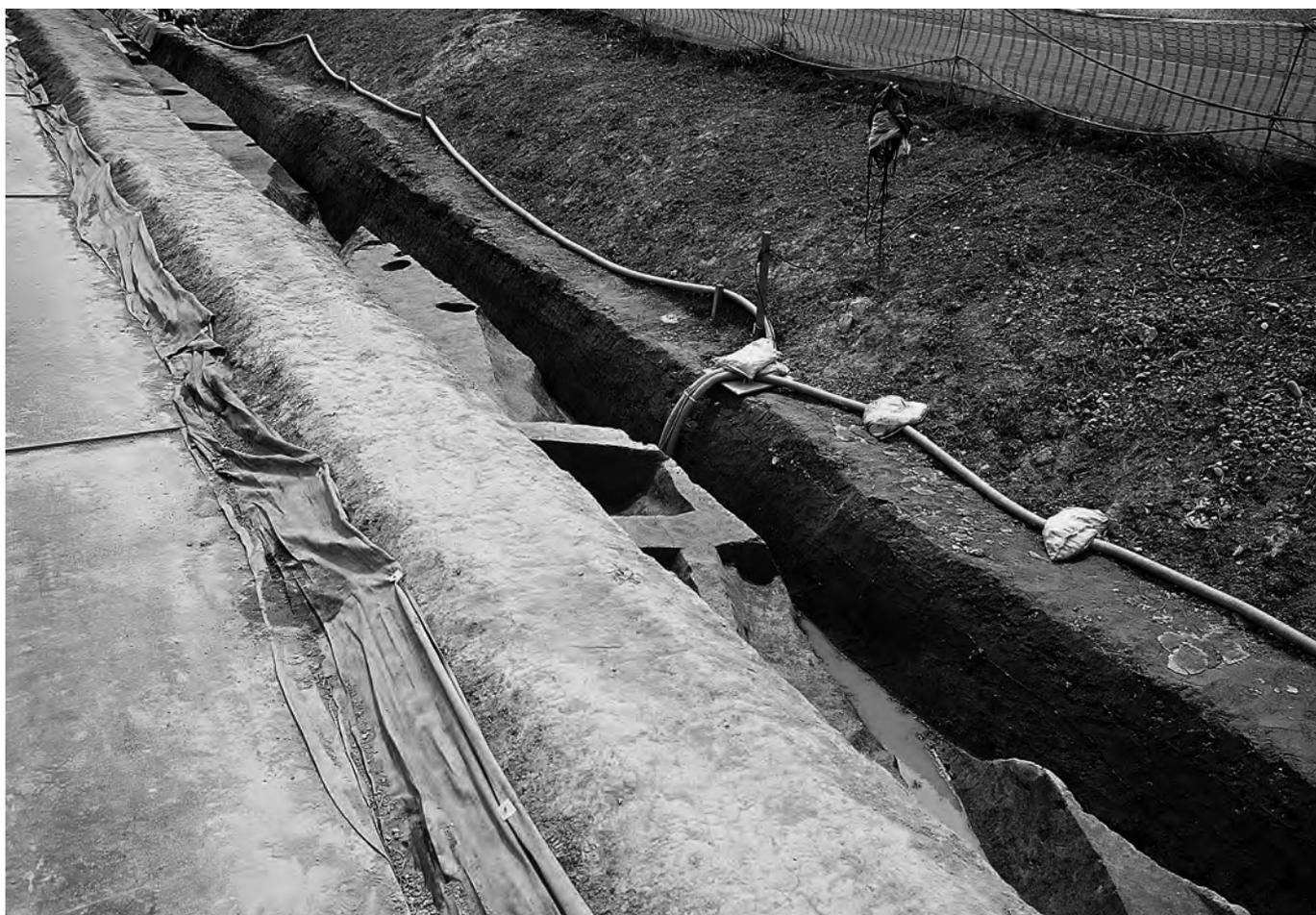
第 26 次調査 2 区・第 43 次調査合成写真 (北→南)



第 26 次調査 2 区・第 43 次調査合成写真 (俯瞰)



道路状遺構 1 (SD137 · SD142) 全景 (南西から)



道路状遺構 1 (SD137 · SD142) 土層断面 (北東から)



着手前 (南東→北西)



着手前 (北西→南東)



基本層序 A (南→北)



基本層序 B (西→東)



基本層序 C (西→東)



基本層序 D (西→東)



基本層序 E (西→東)



基本層序 F (西→東)



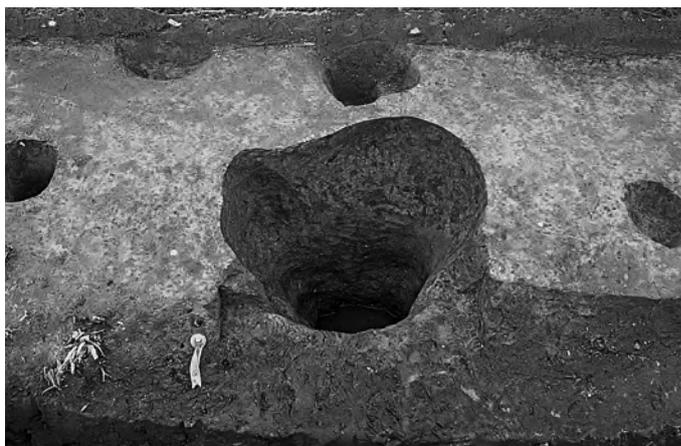
基本層序 G (北→南)



SE12 土層断面・完掘状況 (西→東)



SE46 土層断面 (西→東)



SE46 完掘状況 (西→東)



SE77・Pit76 土層断面・完掘状況 (西→東)



SE77 土層断面・完掘状況 (西→東)



SE169 土層断面・完掘状況 (東→西)



SE178 土層断面・完掘状況 (西→東)



SE189 完掘状況 (西→東)



SE208 土層断面・完掘状況 (西→東)



SE262 土層断面 (南→北)



SE262 完掘状況 (南→北)



SE263 土層断面・完掘状況 (東→西)



SE300 土層断面・完掘状況 (西→東)



SK20 土層断面 (西→東)



SK20 完掘状況 (西→東)



SK49 土層断面・完掘状況(西→東)



SK127・SK128 土層断面・完掘状況(西→東)



SK130 土層断面・完掘状況(西→東)



SK174・SK265 土層断面(西→東)



SK174・SK265 完掘状況(西→東)



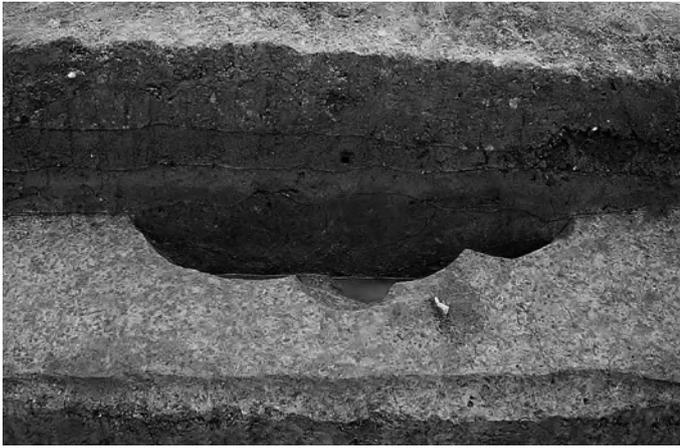
SK186・SK270 土層断面(西→東)



SK186・SK270 完掘状況(西→東)



SK200・SK201 完掘状況(西→東)



SK268 土層断面・完掘状況(西→東)



SD170・SK286 土層断面・完掘状況(西→東)



SK294 土層断面・完掘状況(西→東)



SK334 土層断面・完掘状況(北→南)



SD3 土層断面(南→北)



SD3 完掘状況(南→北)



SD40 土層断面・完掘状況(西→東)



SD117・Pit118・Pit119 土層断面・完掘状況(西→東)



SD122・SD123 土層断面・完掘状況(西→東)



SD137 土層断面①(東→西)



SD137 土層断面②(東→西)



SD137 土層断面③(南→北)



SD137 土層断面④(北→南)



SD137 土層断面⑤(南→北)



SD142 土層断面①(東→西)



SD142 土層断面②(東→西)



SD144 土層断面・完掘状況(西→東)



SD148 土層断面・完掘状況(西→東)



SD150・SD151 土層断面・完掘状況(西→東)



SD153 土層断面・完掘状況(西→東)



SD154 土層断面・完掘状況(西→東)



SD158 土層断面・完掘状況(西→東)



SD162 土層断面・完掘状況(西→東)



SD170・SK286 土層断面・完掘状況(西→東)



SD173 土層断面・完掘状況(西→東)



SD199 土層断面・完掘状況(西→東)



SD199 土層断面・完掘状況(東→西)



SD219 土層断面・完掘状況(西→東)



SD237 土層断面・完掘状況(西→東)



SD239・SD240 土層断面・完掘状況(西→東)



SD256 土層断面(南→北)



SD256 完掘状況(南→北)



SD272・SD273 土層断面・完掘状況(西→東)



SD309 土層断面・完掘状況(西→東)



SD316 土層断面(西→東)



SD316 土層断面・完掘状況(西→東)



Pit106 完掘状況(南→北)



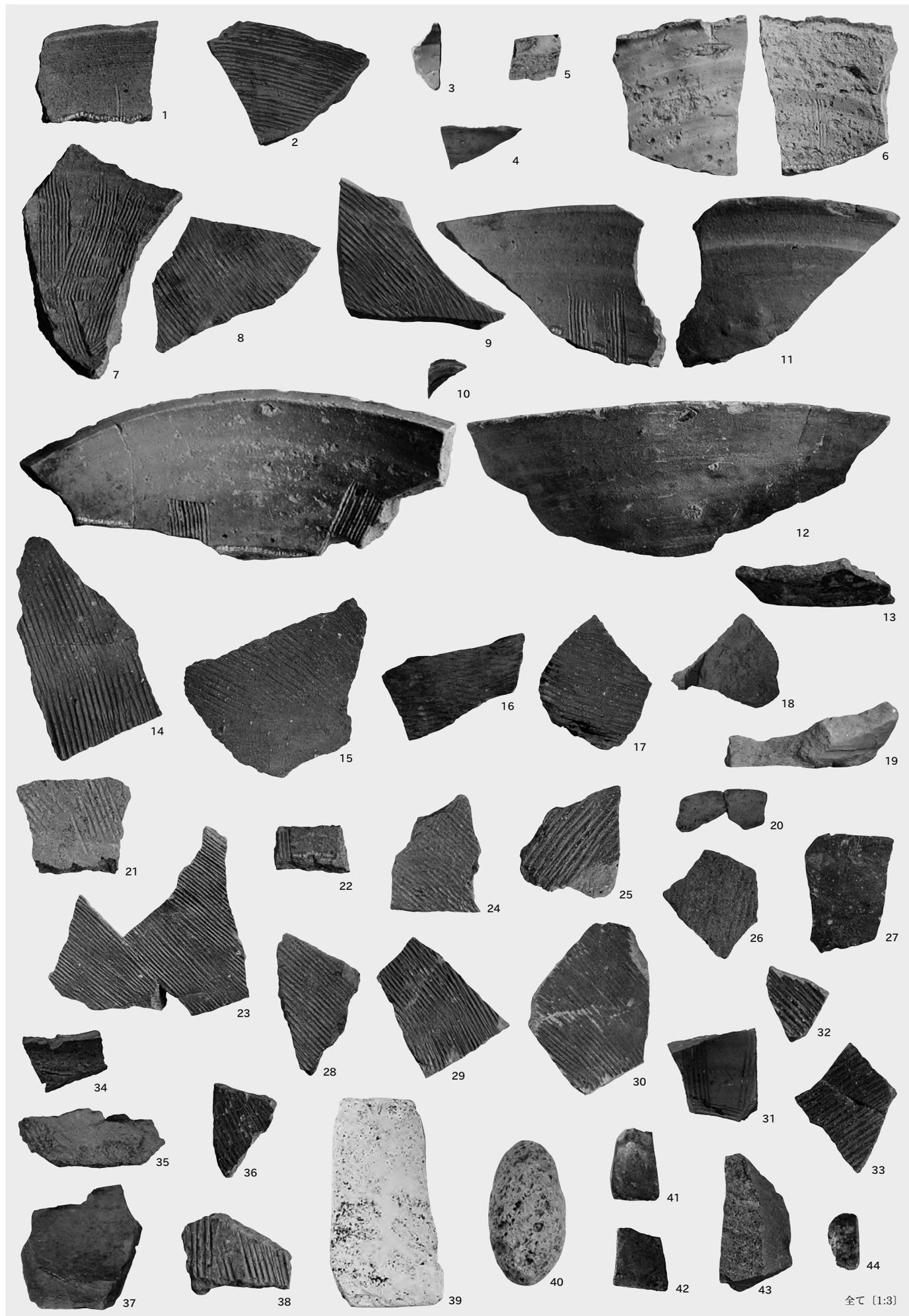
Pit315 完掘状況(西→東)



調査区南端完掘状況(東→西)



調査区南端完掘状況(西→東)



# 報告書抄録

ふりがな	ほそいけてらみちうえいせき よん だいよんじゅうさんじちようさ							
書名	細池寺道上遺跡Ⅳ 第43次調査							
副書名	市道大安寺第5号大関線改良工事に伴う細池寺道上遺跡第3次発掘調査報告書							
シリーズ名	新潟市埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ番号								
編著者名	遠藤恭雄・青木 誠・株式会社火山灰考古学研究所・株式会社加速器分析研究所							
編集機関	新潟市文化スポーツ部 文化財センター							
所在地	〒950-1122 新潟市西区木場 2748 番地 1 TEL 025-378-0480							
発行年月日	2015年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積 ㎡	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
ほそいけてらみちうえ 細池寺道上遺跡	にいがたけんにいがたし 新潟県新潟市 あきはくだいあんし 秋葉区大安寺 693-3 ほか	15105	151	37° 47' 51"	139° 09' 43"	20140709 ~ 20140930	557.28 ㎡	市道大安寺第5号 大関線改良工事
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
細池寺道上遺跡	集落遺跡	平安時代・鎌倉時代・ 室町時代 (13世紀～14世紀)		井戸・土坑・溝・ 道路状遺構		須恵器・土師器・白磁・青磁・ 珠洲焼・珠洲系陶器・鍛冶 関連遺物・石製品		
要約	<p>細池寺道上遺跡は阿賀野川左岸の微高地上に立地し、早出川合流地点の北1.5kmに位置する。調査地は遺跡北寄りにあり、2008年度(第26次)調査2区に隣接する。現地標高は8.1～8.5mである。調査の結果、第26次調査2区隣接地点を中心に、調査区南寄りおよび南端部の3か所の集落域を検出した。第26次調査2区隣接地点では道路状遺構と掘立柱建物の延長部を確認した。遺構内を中心に珠洲焼を主体とする中世遺物が出土している。出土遺物の年代は13世紀～14世紀が主体であり、今回検出した遺構も同時期のものと考えられる。狭小な道路用地内の調査であるため様相は不明な点が多いが、種実同定や植物珪酸体分析の結果、調査地周辺では稲作を主体とする多様な栽培植物を栽培したことがうかがえ、道路状遺構の存在から、13世紀～14世紀に阿賀野川と沿岸の集落を結ぶ交通の一端を担った小規模な農村集落と考えられる。</p>							

## 細池寺道上遺跡Ⅳ 第43次調査

— 市道大安寺第5号大関線改良工事に伴う細池寺道上遺跡第3次発掘調査報告書 —

2015年3月30日印刷  
2015年3月31日発行

編集 新潟市文化財センター  
〒950-1122 新潟市西区木場 2748 番地 1  
TEL 025 (378) 0480

発行 新潟市教育委員会  
〒951-8550 新潟市中央区学校町通一番町 602 番地 1  
TEL 025 (228) 1000

印刷・製本 株式会社ハイグラフィック  
〒950-2022 新潟市西区小針 1 丁目 11 番 8 号  
TEL 025 (233) 0321